＜文部科学省委託事業＞

平成21年度

子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実

第４年次事業報告書

社団法人　全国高等学校ＰＴＡ連合会

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ　子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業について …… 2

Ⅱ「子どもたちの心とその背景」
～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～
全国高校生　生活・意識調査 …… 4

Ⅲ　調査結果分析 …… 7

Ⅳ　資　　料
1　アンケート調査表 …… 19
2　集計結果 …… 23

Ⅴ「子どもたちの心とその背景」
～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～
に関するシンポジウム開催地区報告
1　北海道地区（北海道）…… 63
2　東京地区（東京）…… 87
3　東海地区（静岡）…… 105
4　近畿地区（兵庫）…… 122
5　中国・四国地区（鳥取）…… 137
6　全国５地区開催
子育てシンポジウム参加者アンケート集計結果 …… 154

あとがき …… 156

はじめに

㈳全国高等学校ＰＴＡ連合会
会長　髙間　専逸

青少年の問題行動によって、メディアが一色になるような面はなくなりましたし、データを見ますと問題行動は年々微減しています。表だった現象では、健全育成の成果があるように見えますが、日常生活の深いところで、子どもたちを理解しなくてはならないことがあるようです。

全国高等学校ＰＴＡ連合会では、平成18年度から３カ年計画で「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」に取り組んできました。平成18年度には、「見えない暴力」―言葉、態度が人間関係に与える影響―としていじめ問題に取り組みました。19年度は「デジタルメディア社会における子どもの健全育成」として調査し、バーチャル世界によって人間関係が希薄になっていくことへの懸念、問題を明らかにしました。20年度は人間関係に迫って「親は子どもに何を伝えているか。どう伝えているか。」をテーマに、家族関係・友人関係を調査研究しました。この事業をさらに１年継続し、本年度は「子どもたちの心とその背景」として、子どもたちの心情理解に迫って、大人がどうあるべきかを探究すべく調査をして、その結果を踏まえて保護者たち・関係者に提言できるようにしました。調査内容、分析は、19年度は内山雅人氏が中心でしたが、ほか３年は専ら京都大学大学院木原雅子准教授が中心でした。

今年度は子どもたちの声が、心の叫びが伝わってくるようなデータとなっていると思います。そのことを理解するばかりではなく、今後は子どもたちをどう支援していくかを探究しようというところまできています。さらに一層深めて、子どもたちが健やかに活き活きと生活していけるように、今後は「子どものメンタルヘルス向上支援事業」に取り組みたいと考えています。

昨年度、今年度とこの研究を文部科学省は「保護者を中心とした学校・家庭・地域連携強化及び活性化推進事業」として認め、本会に委託事業してくださいました。前述の木原雅子医学博士が熱い情熱をもって、この調査研究・アンケート結果分析をしてくださいました。感謝申し上げます。また、調査に協力してくださった高等学校をはじめ関係者の方々に御礼申し上げますとともに、ＰＴＡの皆さまに、本報告書を活用して青少年の健全育成に一層取り組んでくださいますよう心からお願い申し上げます。

Ⅰ　子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業について

１　目　　的

便利で物があふれ、一見豊かな社会の中で、日本の子どもたちはさまざまな問題を内在し、将来への夢、現在の意欲、周囲の人や自分を大切にする気持ち等、人間として重要なものを失いつつあるように見える。子どもたちの置かれている現状とその現状の背景にある要因を科学的に分析し、私たち大人が家庭や学校や地域でできることは何かの探索に資する情報を得ることを目的とする。

２　事業推進組織

子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業については、平成18年度から３カ年計画で進め、昨年度事業を始めるに当たり、文部科学省の「保護者を中心とした学校・家庭・地域連携強化及び活性化推進事業」委託の公募に応じて認められ、今年度も継続して客観的・科学的に研究調査が進められるように、学識経験者及び本連合会健全育成委員会委員長、委員、及び担当副会長による協力者委員会を設け、本事業の全体計画の策定、アンケート調査内容、調査結果の検討を行うこととした。

事業報告書を作成するとともに、本年度はもとより今後一層の啓発活動を行う。

本連合会健全育成委員会は、協力者委員会の指導、助言を受け、各都道府県市高等学校ＰＴＡ連合会の協力を得て、本事業を実施する。

３　全国高校生の生活・意識調査

（１）対　　象　　全国高等学校生徒　7,200人
（２）調査内容　　協力者委員会で作成
（３）調査方法　　アンケート用紙の送付　本部　→　各学校
（４）調査期間　　平成21年８月25日～９月10日

４　子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実に関わるシンポジウム

（１）対　　象　　高等学校ＰＴＡ会員及び関係者　１会場　約500名
（２）開 催 地　　５都道県　北海道　東京都　静岡県　兵庫県・神戸市　鳥取県
（３）実施機関　　主催　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
　　主管　開催地区高等学校ＰＴＡ連合会
　　担当　開催都道県市高等学校ＰＴＡ連合会
（４）開催日、開催場所
　　北海道：平成21年11月14日　マリエール函館
　　東京都：平成21年12月12日　府中グリーンプラザけやきホール
　　静　岡：平成21年11月６日　しずぎんホール
　　兵庫・神戸市：平成21年11月20日　神戸市総合教育センター
　　鳥　取：平成21年12月５日　米子全日空ホテル

（5）内　　容　共通テーマ
「子どもたちの心とその背景」
基調講演及びパネルディスカッション

5　報 告 書

アンケート調査結果及びシンポジウムのまとめを中心に報告書を作成し、各都道府県市高等学校ＰＴＡ連合会を通して全国約4300校の高等学校ＰＴＡ、及び関係機関、教育団体へ配布、啓発活動を行う。

6　子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業協力者委員会委員

委員長	木原雅子	京都大学大学院医学研究科准教授　医学博士
委員	三辻　訓	神奈川県立釜利谷高等学校長
委員	加藤秀子	京都大学大学院医学研究科研究員
委員	深澤資弘	全国高等学校ＰＴＡ連合会健全育成委員長
委員	孫竹昌幸	全国高等学校ＰＴＡ連合会健全育成副委員長
委員	岸　千明	全国高等学校ＰＴＡ連合会担当副会長
委員	田村二葉	全国高等学校ＰＴＡ連合会事務局長

7　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会　健全育成委員会委員

委員長	深澤資弘	長野県高等学校ＰＴＡ連合会
副委員長	孫竹昌幸	北海道高等学校ＰＴＡ連合会
担当役員	岸　千明	神奈川県立高等学校ＰＴＡ連合会
委員	菅原広二	秋田県高等学校ＰＴＡ連合会
委員	清水藤雄	千葉県高等学校ＰＴＡ連合会
委員	本間正樹	東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会
委員	川上賢正	福井県高等学校ＰＴＡ連合会
委員	篠田正男	岐阜県高等学校ＰＴＡ連合会
委員	長田圭市	兵庫県立高等学校ＰＴＡ連合会
委員	尾田安広	高知県高等学校ＰＴＡ連合会
委員	岡薗正浩	宮崎県高等学校ＰＴＡ連合会

Ⅱ　「子どもたちの心とその背景」

～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～

全国高校生 生活・意識調査

当連合会では､｢子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業｣を実施してきた。18年度は、その第１年次事業として、「見えない暴力―言葉・態度が人間関係に与える影響―」について全国高校生の生活・意識調査を実施、19年度は、「デジタルメディア社会における子どもの健全育成―高校生及び保護者のデジタルメディアに対する意識と実態―」に関する調査を実施した。20年度は、文部科学省委託事業として、バーチャル社会における親子関係・人間関係を調査した。それらを踏まえて本年度は子どもたちの置かれている現状とその背景を探究して、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」をまとめることとした。

１　調査目的

現代の若い人たちの間に様々な問題が急速に広がっているため、今の高校生たちの現状がどうなっているかを把握・理解し、それに対してどのような環境をつくる必要があるかを考えたい。そうして、保護者をはじめとする大人たちがどうすればよいか、どのような役割を果たすべきか、大人たち・社会のあり方を探究して、広く社会へ提言をしていくことを目的とする。

２　調査対象　全国９地区（北海道・東北・関東・東京・北信越・東海・近畿・中四国・九州）45校

内　訳　各地区（５校）

①　普通科高校　３校

②　専門学科高校または総合学科高校　２校

３　対象学年　　第２学年生徒　４クラス分（約160人）

４　調査実施方法　　アンケート形式

生　　徒：ホームルーム等学校で記入

５　個人情報保護

（１）無記名

（２）シールによる回答用紙の密封

（３）意に沿わない問への不記入の是認

（４）学校名及び学校単位の集計の不公表

６　調査期間　平成21年８月25日（火）～平成21年９月10日（木）

7　回 答 数　２学年　　男　　女　　合計　（性別不明、解釈不能を除く）

	男	女	合計
生　徒	3,075	3,044	6,119

8　調査内容

全国高校生生活・意識調査

問１　あなたの性別を教えてください。

問２　小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいテレビを見ていましたか？

問３　小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいゲームをしていましたか？

問４　学校は楽しいですか？

問５　授業がむずかしくて、ついていけないことがありますか？

付問５　いつごろから、ついていけなくなりましたか？

問６　一週間に、だいたいどれくらい部活動（生徒会活動を含む）をしますか？

問７　学校から帰宅後、普通どれくらい勉強をしますか？（塾の勉強時間も含めて）

問８　部活や勉強以外に、何か続けてやっていることがありますか？

問９　一日にどれくらいケータイを使っていますか？（見ている時間も含めて）

問10　一日にケータイを手に持っている、もしくはそばに置いている時間はどれくらいですか？

問11　あなたが保護者に話しかけているとき、保護者がケータイでメール等をしていることがありますか？

問12　あなたは次のような経験がありますか？

１．喫煙　２．飲酒　３．アルバイト　４．睡眠薬、精神安定剤

５．大麻（マリファナ）などの薬物　６．ネットショッピング

７．ｍｉｘｉ、モバゲー、ＧＲＥＥなどのコミュニティサイト、ＳＮＳの利用

８．性関係　９．暴力（ふるった）　10．暴力（ふるわれた）

11．万引き　12．いじめ（した）　13．いじめ（された）

14．ネットいじめ（した）　15．ネットいじめ（された）

16．自傷行為　17．どれも経験がない

問13　何かとても打ちこんでいることがありますか？

問14　何か目標がありますか？

問15　カップ麺や電子レンジで温めるだけの料理でなく、最初から一人ですべて作れる料理がありますか？

問16　あなたの家の洗濯機の使い方、洗剤の置き場所を知っていますか？

問17　普通の日の朝、自分で起きますか？下記のうち一番多いのはどれですか？

１．自分で起きている（目覚まし時計、ケータイアラームなどを使うことを含みます）

２．保護者が起こしてくれる

３．他の家族が起こしてくれる　４．その他（　　）

問18　昨夜は何時に寝ましたか？

あなたの気持ちをお聞きします

問19　今日の気分にあてはまる番号にレ印をつけてください。

問20　全体としてみたら、自分のことが好きですか？

問21　自分にはいいところがあると思いますか？

問22　自分はつまらない人間だと思うことがありますか？
問23　自分のことをけっこうすごいと思うことがありますか？
問24　最近、何に対してもやる気がでないことがありますか
問25　最近、何に対してもめんどうだと思うことがありますか？
問26　最近、何かを一生懸命やろうという気がしますか？
問27　次の文章を読んであなたの気持ちとあてはまる番号に〇印をつけてください。
１．自分は、ドラマや映画を見るとき、つい熱中してしまう
２．歌を歌ったり、聞いたりすると、とても楽しくなる
３．動物が苦しんでいるのを見ると、とてもかわいそうになる
４．ひとりぼっちのお年寄りをみると、何か手伝いたい気がする
５．冷たくされている人を見ると、冷たくしている人に対して非常に腹が立つ
６．みんなの中で、ひとりぼっちでいる人を見ると、かわいそうになる
７．小さい子どもはよく泣くが、かわいい
問28　次にあげる行動について、あなたは自分がすると思いますか？
あてはまる番号に〇印をつけてください
１．列に並んでいて、急いでいる人のために順番をゆずる
２．ころんだ子どもをおこしてあげる
３．気分の悪くなった友だちを保健室につれていく
４．乗り物でお年寄りが網棚に荷物をあげるのを手伝う
５．落ち込んでいる友だちにメールしたり、声をかけたりする
６．優先席に座っているとき、立っているお年寄りがいたら席をゆずる
７．何か探しものをしている人には、こちらから声をかける
問29　あなたが今、「一番強くストレスを感じていること」は何ですか？
付問29　このようなストレスに対して、あなたはどうしていますか？
問30　あなたは自分の人生に満足していますか？
付問30-1　人生をやり直せるとしたら、いつに戻りたいですか？
付問30-2　どのようにやり直したいですか？
問31　本当に信頼できると思える友だちがいますか？
問32　信頼できる先生がいますか？
問33　あなたのことを本気で心配してくれる先生がいますか？
問34　これまで先生から言われたことで心に残っていることは何ですか？
問35　これまで先生からしてもらったことで、一番感謝していることは何ですか？
問36　本当に困ったとき、あなたのことを守ってくれる大人がいますか？
問37　保護者と一緒に行動しますか？
問38　保護者と口げんかすることがありますか？
問39　保護者を信頼していますか？
問40　これまで保護者から言われたことで心に残っていることは何ですか？
問41　これまで保護者からしてもらったことで、一番感謝していることは何ですか？
問42　もし、３つだけ願いがかなうとしたら、あなたはどのようなことを願いますか？
どんなことでも、好きなことを書いてください。

Ⅲ　調査結果分析

社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
2009年度子育て事業アンケートの調査結果概要

対象者数（分析対象者数）：高校２年生6,164人（男子3,075人、女子3,044人）
（但し、性別不明17件、矛盾回答５件、途中放棄23件は分析対象外）

＊　高校生の現状の概要
＊　全設問に対する結果の詳細は、Ⅳ 資料　２ 集計結果（Ｐ.23～60）を参照のこと。
＊　ここでは、特徴的な結果のみを紹介。

■　高校２年生の生活の現状

１．学校は楽しいか？（問４）

・男女とも「まあまあ楽しい」が半数を超えて最多：（男子54.８％、女子53.３％）
・「まったく楽しくない」は男女とも数％：（男子3.６％、女子2.２％）であった。

２．授業についていけるか？（問５）

・「毎回ついていけない」「ついていけないことがよくある」という“落ちこぼれ群”は男女とも25％を超える高率であった。（男子26.３％、女子28.３％）
・“授業についていけなくなる”開始時期の最多は高校１年生（男子30.３％、女子34.３％）で30％を超え、次が中学２年生（男子14.４％、女子16.３％）、小学校からが男子6.１％、女子7.５％であり、かなり早期から授業についていけない状況が始まっていることが明らかとなった。

３．部活動（生徒会活動も含む）の状況（問６）

・部活に参加していない生徒は男女とも約25％（男子25.０％、女子24.７％）。
・部活参加者のうち一日の平均部活動時間は男女とも４時間程度（男子4.４時間、女子4.０時間）であった。

４．家庭学習時間（塾の勉強時間を含む）（問７）

・帰宅後の学習時間は、「まったく勉強しない」が半数前後（男子53.０％、女子43.９％）にも達し、男子がやや高い傾向であった。
・一方、勉強している群の一日の帰宅後の平均学習時間（塾での勉強時間を含む）は男子1.６時間、女子1.７時間と男女とも２時間にも達していなかった。

5．ケータイ使用状況（問９）（問10）

・高校２年生のケータイ所有率は男子93.0％、女子96.4％とほとんどの生徒が所有していた。

・所有している生徒の一日の平均ケータイ使用時間（見ている時間も含めて）は、男子2.8時間、女子4.2時間で、前述の学習時間に比べると極めて長時間であり、女子の方が長時間であった。

・一日のケータイ所持時間（そばに置いている時間を含む）は、男女とも24時間が最も多く、男子の24.7％、女子の26.5％で平均所持時間は13時間であった。

6．保護者のケータイ使用状況（問11）

・高校生が保護者に話しかけているときに、保護者がケータイを使用している頻度を尋ねた。「よくある」「時々ある」保護者が、男子の保護者で24.7％、女子の保護者で26.3％と約４分の一の保護者が子どもとの会話中にケータイでメール交換をしていた。

7．各種リスク行動と学外行動（問12）

・高校２年生の喫煙、飲酒、薬物使用、向精神薬使用、性関係、万引き、暴力（加害・被害）、いじめ（加害・被害）、ネットいじめ（加害・被害）、自傷行為、アルバイト、ネットショッピング、コミュニティーサイト利用について尋ねた。睡眠薬・精神安定剤等の向精神薬の使用は男子2.0％、女子3.４％と少なからず存在した。大麻等違法薬物は、１％未満で少数であったが、使用者が存在していた。性経験率は男子10.9％、女子13.3％で低下傾向が観察された。いじめ被害は男子14.3％、女子23.2％で女子の方が高率であった。自傷行為は男子3.3％、女子7.5％と女子が高い傾向は変わらなかった。今年度実施された同じ項目に対する他の全国調査結果よりもリスク行動が低率であった。

8．打ち込んでいること、目標の有無（問13、問14）

・「何かとても打ち込んでいることがありますか？」「何か目標がありますか？」という質問をした。現在「打ち込んでいることがある」と答えたのは男子66.0％、女子56.1％で男子の方が高率であった。また、現在「目標がある」と回答した生徒は男子74.9％、女子74.0％と男女ともほぼ同程度の４分の３の生徒が何らかの目標をもっていた。

9．生活自立度（問15、問16、問17）

・「料理」「洗濯」「起床」等が自立しているかを尋ねた。「インスタント料理以外で、自分１人で全て作れる料理がある」と回答したのは男子62.8％、女子83.7％で、「洗濯機を使え、洗剤の場所も知っている」と回答した生徒は男子65.8％、女子75.6％で、どちらも女子の自立度が高率であった。一方、「朝、自分で起きている」生徒は男子69.6％、女子70.4％と男女差はなく、７割近くは自分で起きていた。

■　高校生の自己肯定感、他者共感、社会性、問題処理力

1．自分に対する意識（問20、問21、問22、問23）

・「全体としてみたら自分が好きか？」を尋ねた。「好きでも嫌いでもない」が男子46.7％と半数近くで、女子34.0％で、「あまり好きではない」は男子22.2％、女子33.4％で、「とても嫌い」は男

子6.4%、女子12.2%と女子の方が自分に対して否定的な意識をもっている傾向が示された。

・「自分にはいいところがあると思いますか？」という質問をした。「どちらともいえない」が男子42.1%で、女子36.2%であった。「少ししかない」は男子32.4%、女子43.3%、「まったくない」男子9.0%、女子11.4%で、前述の質問同様女子の方が自分の長所を認めていない傾向が示された。

・「自分はつまらない人間だと思うことがあるか？」という質問をした。「時々思う」生徒は男子33.5%、女子40.5%、「よく思う」は男子13.0%、女子16.2%と、この質問でも女子の方が自分のことを否定的に捉えている傾向が見られた。

・「自分のことをけっこうすごいと思うことがありますか？」という質問では、「まったく思わない」が男子16.2%、女子17.0%、「あまり思わない」が男子31.3%、女子37.1%で、わずかではあるが、女子の方が自己評価が低い結果となった。

（＊ただし、謙虚さをよしとする日本の文化的背景を考えると、これらの自己評価が即自己肯定感を意味するかどうかの解釈は慎重に考慮する必要がある。）

2．高校生の意欲の状況（問24、問25、問26）

・「最近、何に対してもやる気の出ないことがあるか」を尋ねた。最も多いのは、男女とも「時々ある」で男子44.6%、女子49.4%で、「まったくない」「だいたいない」と意欲的な生徒は男子29.3%、女子19.7%と男子の方が高率であった。

・「最近、何かに対してめんどうだと思うことがあるか」を尋ねた。最も多かったのは男女とも「時々ある」、男子41.4%、女子44.0%で、「だいたいない」「まったくない」という意欲的な生徒は男子24.3%、女子15.7%と男子の方がやや意欲的であった。

・「最近、何かを一生懸命やろうと思うか」を尋ねた。最も多かったのは「まあまあ思う」で男子39.5%、女子43.2%で、「かなり思う」「とても思う」という意欲的な生徒は男子39.6%、32.9%でわずかではあるが男子の方が意欲的な傾向が示された。

・上記３つをまとめると、女子に比べ男子の方が意欲的な傾向が示された。

3．他者や周囲への共感程度（問27）

・「動物が苦しんでいるのを見ると、とてもかわいそうになる」「ひとりぼっちのお年寄りを見ると手伝いたい気がする」など、類似７項目（他の項目は添付集計表を参照のこと）の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの５段階で点数化し、最低５点から最高点35点で、生徒の点数の分布を調べた。

・30点を超える群を他者共感グループ、25点以上30点以下を中間グループ、25点未満群をあまり共感しないグループと定義した。

・共感グループは男子20.0%、女子40.4%と女子の方が他者への共感意識が高いことが示された。

4．社会性尺度（問28）

・「優先席に座っているとき、立っているお年寄りがいたら席をゆずる」「ころんだ子どもをおこしてあげる」など、類似７項目（他の項目は添付集計表を参照のこと）の質問をした。各項目を「必ずする」から「ぜったいしない」までの５段階で点数化し、最低５点から最高点35点で、生徒の点

数の分布を調べた。

・30点を超える群を仮に社会性の高い群、25点以上30点以下を中間グループ、25点未満群を社会性の低い群と定義した。

・社会性の高い群は男子8.7％、女子18.8％で、中間群も男子36.7％、女子53.5％と女子の方が社会性が高いことが示された。

5．高校生のストレス（問29）

・「今、一番強くストレスを感じていることは何か」を尋ねた。ストレスがない生徒は男子21. 3％、女子11.8％で８－９割の生徒は何らかのストレスを感じていた。

・ストレスの内訳は「勉強のこと」が最も高く、男子29.6％、女子29.2％と３割近い生徒が勉強に対し、強いストレスを感じていた。次に多かったのは、男子では「部活のこと」で、女子では「友人のこと」という順序であった。

6．高校時代の人生満足感（問30）

・「あなたは自分の人生に満足しているか」を質問した。

・「できればやり直したい」が男女とも最も多く、男子41.5％、女子47.4％と４－５割のかなりの生徒が満足していないことが示された。

やり直したいと回答した生徒に「やり直せるとしたらいつに戻りたいか」を尋ねた。そのうち、中学校時代に戻りたい生徒が男女とも半数近くで最多であった（男子48.2％、女子47.7％）。

■高校生の人間関係

1．友人関係（問31）

・「本当に信頼できる友だちがいるか？」を尋ねた。最も多かったのは「以前も現在もいる」で男子71.8％、女子74.8％で、男女とも70％を越す生徒が信頼できる友人をもっていた。一方、「これまでそのように思える友だちに出会わなかった」生徒が男子3.9％、女子2.7％と、少数ではあるが存在した。

2．先生との関係（問32）（問33）

・「信頼できる先生がいますか？」を尋ねた。最も多かったのは「以前も現在もいる」であったが、男子32.8％、女子31.1％で、男女とも30％程度にとどまっていた。一方、「これまでそのように思える先生に出会わなかった」生徒が男子15.3％、女子13.5％と、15％前後の生徒がこれまで一度も信頼できる先生に出会っていなかった。

・「以前はいたが現在はいない」と回答した生徒は20－25％程度存在したが、そのうち信頼できる先生がいたのは、中学校と答えた生徒が男女とも半数を超えていた。

・「あなたのことを本気で心配してくれる先生がいますか」を尋ねた。「以前も現在もいる」生徒は、男子24.0％、女子23.0％で、男女とも25％未満にとどまっていた。一方、「これまでそのように思える先生に出会わなかった」生徒が男子10.8％、女子10.2％と、 10％程度の生徒がこれまで一度も本気で心配してくれると思える先生に出会っていなかった。

3．守ってくれる大人の存在（問36）

・「本当に困ったとき、あなたを守ってくれる大人がいるか？」を尋ねた。最も多かったのは「以前も現在もいる」で男子55.5％、女子65.9％で、60％前後の生徒は困ったときに守ってくれる大人が存在すると感じていた。言い換えると、残り４割弱は、そのようなときに守ってくれる大人がいないことになる。

4．保護者との信頼関係（問39）

「保護者を信頼していますか？」を尋ねた。最も多かったのは、男子では「まあまあ信頼している」で38.1％、次が「とても信頼している」で26.9％であった。一方、女子では「とても信頼している」が最も多く39.1％で、次が「まあまあ信頼している」で30.9％であり、女子の方が男子よりも保護者に対する信頼感を強く感じていた。

■「家庭学習時間が短い／しない」高校生に見られる特徴

＊　本分析では、一日の家庭学習時間（塾の勉強時間を含む）を３つのカテゴリー、①まったく勉強しない、②１時間以下、③１時間を超えるに分類した。
＊　学習時間が短いことに関連する要因を検討した。
＊　太字は特に顕著な差が見られるもの

1．学童期（ここでは小学校低学年を意味する）

●生活環境

・小学校低学年の時期にテレビを見ていた時間が長い（女子）。
・小学校低学年の時期にゲームをしていた時間が長い（男女）。

2．高校時代

●学校環境

・現在、高校が楽しくない（男女）。
・授業が難しくてほとんどついていけない（男女）。
・部活に入っていない（男女）
・部活や勉強以外にずっと続けていることがない（男女）

●生活環境

・ケータイの使用時間が長い（男女）。
・何か打ち込んでいるものがない（女子）
・目標がない（男女）
・自己肯定感が低い（一部項目のみ）（男女）
・活動意欲（やる気）が低い（男女）
・他者への共感意識が低い（男子）

●人間関係

・信頼できる先生がいない（女子）

・本当に困ったとき、守ってくれる大人がいない（男女）
・保護者を信頼していない（男女）

■「勉強についていけない」高校生に見られる特徴

＊本分析では、高校の授業に「毎回ついていけない」「ついていけないことがよくある」という回答をした生徒に関連する要因を検討した。
＊太字は特に顕著な差が見られるもの

1．学童期（ここでは小学校低学年を意味する）

●生活環境

・小学校低学年の時期にゲームをしていた時間が長い（男女）。

2．高校時代

●学校環境

・現在、高校が楽しくない（男女）。

●生活環境

・家庭学習時間が短い／していない（男女）
・ケータイの使用時間が長い（男女）。
・目標がない（男女）
・生活自立度が低い（男女）
・自己肯定感が低い（男女）
・活動意欲（やる気）がない（男女）
・人生に満足していない（男女）

●人間関係

・信頼できる先生がいない（男女）
・本当に困ったとき、守ってくれる大人がいない（男女）
・保護者を信頼していない（男女）

■「早期から勉強についていけなくなった」生徒に見られる特徴

＊本分析では、高校の授業についていけなくなった生徒のうち、ついていけなくなった時期が小学校から、中学校から、高校からの中で、特に小学校からついていけなくなった生徒に関連する要因を検討した。
＊太字は特に顕著な差が見られるもの

1．学童期（ここでは小学校低学年を意味する）

●生活環境

・小学校低学年の時期にゲームをしていた時間が長い（男女）。

2．高校時代

●学校環境

・現在、高校が楽しくない（男女）。
・部活動に入っていない（男女）

●生活環境

・家庭学習をしていない（男女）
・ケータイの使用時間が長い（男女）。
・子どもが話しかけているとき保護者がケータイを使用している頻度が高い（男女）
・各種リスク行動（喫煙・飲酒・万引き・暴力・薬物使用・自傷行為等）をとっている（男女）
・目標がない（男女）
・自己肯定感が低い（男女）
・活動意欲（やる気）がない（男女）
・人生に満足していない（男女）

●人間関係

・本当に信頼できる友だちがいない（男女）
・本当に困ったとき、守ってくれる大人がいない（男女）
・保護者を信頼していない（男女）

■「目標を持っていない」生徒に見られる特徴

＊本分析では、「何も目標を持っていない」生徒に関連する要因を検討した。
＊太字は特に顕著な差が見られるもの

高校生活

●学校環境

・現在、高校が楽しくない（男女）。
・授業についていけないことが多い（男女）
・部活動に入っていない（男女）

●生活環境

・部活や勉強以外でずっと続けていることがない（男女）

・家庭学習をしていない（男女）

・ケータイの使用時間が長い（男女）

・生活が自立していない（男女）

・自己肯定感が低い（男女）

・活動意欲（やる気）が低い／ない（男女）

・他者への共感意識が低い（男女）

・社会性が低い（男女）

・人生に満足していない（男女）

●人間関係

・本当に信頼できる友だちがいない（男女）

・信頼できる先生がいない（男女）

・本当に困ったとき、守ってくれる大人がいない（男女）

・保護者を信頼していない（男女）

■「社会性の低い」生徒に見られる特徴

＊本分析では、「社会性の低い」生徒に関連する要因を検討した。

＊太字は特に顕著な差が見られるもの

1．学童期（ここでは小学校低学年を意味する）

●生活環境

・小学校低学年の時期にゲームをしていた時間が長い（男女）。

2．高校時代

●学校環境

・現在、高校が楽しくない（男女）

・部活動に入っていない（男女）

●生活環境

・部活や勉強以外にずっと続けていることがない（男女）

・目標がない（男女）

・自己肯定感が低い（男女）

・生活が自立していない（男女）

・活動意欲（やる気）がない（男女）

・他者への共感意識が低い（男女）

・人生に満足していない（男女）

●人間関係

・本当に信頼できる友だちがいない（男女）

・本当に困ったとき、守ってくれる大人がいない（男女）
・保護者を信頼していない（男女）

■高校生の言葉（問40）（自由記載）

「これまで保護者から言われたことで心に残っていることは何ですか？」への自由記載について、回答のあった男子387人、女子688名について帰納的内容分析を行った。但し時間的な制約から、今回は初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。特徴的であった点は、「心に残った言葉」の中に、否定的な言葉が男子46人（12％）、女子60人（９％）も存在し、その内容も極めて辛い内容だったことである。（高校生の書いたとおりの字で表した。誤字脱字のみ訂正した。）

●心に残っている言葉（肯定的な言葉）（男子278人：72％）

①容認／受容　（40名）

代表例：自分の好きなようにしたらいい／好きなようにしろ／おまえの道を行け　俺はなにも言わない／やりたいようにやればいい／あなたが好きなようにがんばりなさい／あんたの人生なんだから、やりたいように進路を進みなさい／自分がやりたいならやりな／自分のやりたい事をしかりやりんさい／お金のことは心配するな　自分の好きな高校に行け／行きたくないなら、学校なんか行かなくていい／自分の好きなようにやれ

②激励１（34名）

代表例：ベストをつくす／がんばれ／自分のペースでがんばりなさい／体に気をつけて頑張ればよい／頑張れ出来る／つらい時に、できる!!頑張れ!!と言われた時／勉強できないでもいい　野球だけはがんばりなさい／お前はもっとがんばれ／努力

③激励２　（32名）

代表例：夢の形は違ってもいつでも輝けるハズだ／勝てないでも、自分に勝て／あんたにしかできないことがある／にげちゃ駄目だ！／自分のやれることを精一杯やればいい／人は人　お前はお前／お前の青春はまだこれからだ！／人生はやり直せる／テストが悪くても努力すればいい／優しい奴が強い／夢を持て!!／とにかくどんな事でも一生懸命にしてみろ／大丈夫だから／自分は自分やから他の人と比較する必要はない

④激励３　（26名）

代表例：やればできる／お前ならできる／お前はやったらできるからもっとがんばれ／やればできる子！／あんたは、努力家／お前は　何だってできるんだぞ／あんたならできる／やればできるんじゃん！　など

⑤１人じゃない、味方　（25名）

代表例：あなただけの体じゃない／何かあったらすぐ言え／仲間になれるのは親しかいない／おまえと兄ちゃんだけは命をかけてでも幸せになってほしい／親が生きてる間に子供を守らなきゃいけない／一人で悩むな／何があってもおまえの味方／いつでも味方やで／人は一人ひとりちがうんだから／いつも自分の味方

⑥教訓　（22名）

代表例：正義は必ず勝つ　なぜなら、勝った方が正義だから／想いつづければ夢はかなう／自分に厳しく、他人に優しく／もも、くり三年、かき八年／努力は人をうらぎらない／けいぞくは力

なり／少年よ、大志を抱け／自分以外皆、師なり／七転び八起き／人にされていやなことは人にするな／「皆24時間で時間は平等…」とか

⑦たくさんある　(20名)・・・５％

代表例:いろいろ／たくさんあるからね～、なんだろ？／多数／たくさんあってわからない／色々ありすぎてかけない／いろいろあって書けない／いっぱいある／色々ある

⑧自己決定／責任　(19名)

代表例：後悔しないようにしないといけない／自分の人生だから悔いのないように／自分を信じなさい／あんたの人生だから自分でなんとかしろ／自分でやりたいことを決めろ　後悔だけはするな／責任は必ずはたせ／しっかりしなさい　自分の責任は自分で負いなさい／自分の事は自分で決めなさい／自分が決めた事なら最後までやりきりなさい!!

⑨存在への感謝　(12名)

代表例：お前の笑顔が何よりの喜び／産まれてきてくれてありがとう／あなたが私の息子でよかった／産んでよかった！／元気でいてくれたらそれでいいよ／（手術成功して）良かったと泣いたとこ／生まれ来てくれて本間によかった

⑩勉強奨励　(12名)

代表例：勉強をしなさい／勉強しろ／勉強しなくていいの？／勉強がんばれ／勉強に終わりはない

⑪誇り　(11名)

代表例：さすが／お前は俺の子だ。優しいから、きっと素晴らしい人になる／さすがうちの子／自分の子がいちばん／さすがオレの息子／自慢の子供やで／お前が一番大切だ／宝物

⑫その他10名以下の記載は省略

●心に残っている言葉（肯定的な言葉）（女子583名：85％）

①教訓　(94名)

代表例:努力は身のため／やるかやらないか、迷ってるならやってみろ！／毅然としなさい／（いい事も悪いことも）自分がしたことは必ず後で帰ってくる／人生なるようになる／人の心の痛みをわかってあげられる人になれ／辛い今は人生の中の一瞬やで気にすんな／下を見るな、上を見なさい／今というこの瞬間は、もう二度とは戻ってこないんだよ／ネバーギブアップ／勉強は結果よりもその過程が大事!!／泣くならうれしい時に泣け！

②一人じゃない、味方　(82名)

代表例:お父さんもお母さんも味方だよ／いつでも味方だからね／どんなかたちになろうと、ずっとお前の味方だから／絶対にずっとあんたの味方だから／辛い時、悲しい事があったらいつでもお前を守る／おまえは一人じゃない／自分の子供を見捨てる親はいない／自分の子をほっとけるわけがない／子供にどんなことがあっても守るのが親だからね／友達の縁とかいつか切れるけど、家族は一生！

③容認／受容　(52名)

代表例：自分の好きな道に進みなさい／好きなようにしなさい／自分のやりたいことをしなさい／自分の好きな事を後悔しないようにやりなさい／やりたいこと我慢せずやればいいだえ／自分のなりたい者になれ／好きなようにえらびな／自分のやりたい事をやりなさい　サポートするから

④誇り　(50名)

代表例：一番の宝物だよ／宝物だよ／どんな子でも、自分の娘は大事!!／あなたは私たちの宝物なんだけん／子供は宝／自分は親の光だと言われた／子供が一番大切／家族の中の明るい太陽だよ／私はあなたが心の支えだ家のひまわりだ／じまんの娘だ！／さすが私の子供だねと言われたこと／誇りだよ／あなたがいるから頑張れる／あんだがいなくなったらどうすればいいと？って言われたこと／お前が死んだら生きていけない／子どもがかわいくない親なんていない

⑤たくさんある　(40名)

代表例：ありすぎてわかんない／たくさんの事が心に残っている／たんさんあって書ききれません／たくさんあるよ…／すべて／心に残る言葉は日頃から言われる／いろいろある

⑥やればできる　(38名)

代表例：やればできる／やれば出来るのさアンタは／あんたはやればできるのにやらないだけなんだよ／「やればできるやん」(←誉め言葉)／○○やったら絶対できる／やらないから結果がでないのはあたりまえなんだから、あんたはやればできるんだからがんばんなさい！／できないことは何もないよ

⑦頑張れ　(37名)

代表例：ガンバレッ!!／頑張ってね／根性出して頑張りな!!／面と向かって頑張れ／自分らしく頑張れ／さいごまでがんばり／応援しています

⑧存在に感謝　(35名)

代表例：貴女が生まれてきてくれて本当によかった／「お父さんもお母さんもあんたが産まれてきてくれてうれしいよ」／あなたがいて良かった／生まれてきてくれてありがとう／あなたが子供で、生きてくれてそれが一番うれしい／あんたがおってよかった／自分の家族に生まれてくれてありがとう

⑨頑張ったね　(29名)

代表例：頑張ってるから何も言わない／頑張ったね／よく頑張ったな　えらい!!／もうじゅうぶん頑張ったやん／(模試の成績を見て)「よく頑張ってるね」と言われたこと／硬筆検定の字を見て、「きれいじゃん。」／がんばったら、「がんばったね、お母さんもあなたがいるからがんばるわよと」／よくがんばったねって言われたとき(受験)

⑩励ましの言葉　(25名)

代表例：テストの点が悪くても死ぬわけじゃないじゃん／大丈夫よ、とか、優しくほほえんでくれた／次がんばればいい！／大夫夫やって／自分に自信をつけさせてくれる言葉をよくゆってくれる／遠征のときにけがしたときのはげましの言葉／あんたは強いんやから　おちこんでいたときですごく励まされた

⑪自分らしく生きなさい　(24名)

代表例：他人と違っていても気にしなくていい／あなたはあなたやっちゃから！／あんたはあんた／自分らしく生きなさい／人に流されないで！自分らしく／人に言わせないで、何事も自分のペースでやればいい

⑫無理しなくていいよ(23名)

代表例：むりしなくていいよ／本当は弱いのに無理すんな／頑張りすぎるな／一生懸命頑張ってるから、あまり無理しんときや／頑張りすぎ／無理しすぎず頑張れ

⑬ありがとう　(16名)

代表例：ありがとう／いっつもありがとう／いつもありがとう／いつもありがとう　助かっているよ

⑭心に残っている言葉は秘密　(12名)

代表例：ひみつ／内緒／黙秘／教えません

⑮その他10名以下のものは省略

●心に残っている言葉（否定的な言葉）（男子43人：12%）

①暴言　(21名)

代表例：育て方を間違えた。／くそがき／お前らは寄生虫だ！／お前は人間のくずだ！／本当に私の子供？／えんをきりたい／お前に良いとこなんて一つもない／恥さらし／最近名前じゃなくてクソッていわれる／あんたブサイクでよ／おまえはダメだ／お前がふんばる時なんてトイレん時だけだろ

②死ね（９名）

代表例：死ね／しね／そんなにめんどくさいなら死んでしまえ／ガキのくせにピーピーうるせえ！死ねよ！

③出てけ　（６名）・・・２％

代表例：お前なんか出ていけ／出てけ!!／目障りだから、ちがう部屋にいけ！／うちの子じゃないから出てって

④産まなきゃ良かった　（５名）・・・１％

代表例：あなたがいるから不幸になった／生まなきゃよかったと言われた／おまえなんか生まなきゃよかったよ／子どもなんて産むんじゃなかった

⑤諦めの発言　　（５名）・・・１％

代表例：どうしてこんな風になっちゃったんだろう／お前には失望した／“絶望”なんて言葉はそんなに軽く使っていい言葉じゃない“望みが絶たれる”なんて悲しすぎるから

●心に残っている言葉（否定的な言葉）（女子60名：９％）

①暴言めいた言葉　(43名)

代表例：あんたなんか期待されてない／「あのときは、殺してやろうと思った」／そんなだからいじめられるんだよ／兄弟で１番できが悪い／誕生日いつだっけ？／お前はもう必要ない／あんた人間じゃないね／死んでもお前の馬鹿はなおらない／あんたを選んで産んだわけじゃない／死んでしまえばいいのに／お前が苦しむのが楽しい／生きる価値がない／お前は悪魔の子だから／あんたなんか自分の子供じゃない／お前はいらん子／死ね・うざい・どっかいけ

②産まなきゃ良かった　(17名)

代表例：あんたなんか生まれて来なきゃよかったんだ／お前のせいでおかあさん病気なってんぞ！ｂｙ父／別の子供がほしい／お前なんかうちの子じゃない／あんたはこの世に生まれんかったて思うわ／こんな子産まなければよかった

文責：木原雅子

Ⅳ　資　　料

1　アンケート調査表

ここにシールをはってください

平成21年度

全国高校生 生活・意識調査

ここにシールをはってください

最近、日本の若い人たちの間で、様々な問題が急速に広がっているため、今の高校生のみなさんの現状がどうなっているのか、それに対し、どのような環境を作る必要があるかを考えるために、この調査を行っています。

このアンケート結果は、「○○○という意見の人が何人いた」「○○○を行っている人が何人いた」など人数や割合(%)としてまとめます。質問の中には立ち入った内容の質問もありますが、このアンケートは名前を書く必要はありませんし、どうしても答えたくない部分は何も書かなくてもけっこうです。

また学校の先生や保護者が生徒個人の回答内容を見ることは絶対にありません。大切な調査ですので、友人と相談したりせずに、一問ずつ質問を読んで、ていねいに正直に答えてください。よろしくお願いします。

【調査実施】

社団法人全国高等学校 PTA 連合会健全育成委員会

【調査協力】

京都大学大学院医学研究科社会疫学分野

●アンケート用紙は、お渡ししたシールで封をし、名前を書かずに提出してください。

●この調査についての質問は、裏面の「お問い合わせ先」まで、ご連絡ください。

ここにシールをはってください

ここにシールをはってください

【調査事務局】

社団法人全国高等学校 PTA 連合会　健全育成委員会
「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」事務局
〒101-0025　東京都千代田区神田佐久間町 2-1　奥田ビル 301 号
電話：03-5835-5711　FAX：03-5835-5757

【調査内容に関するお問い合わせ先】

「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」協力委員会委員長　木原 雅子
(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 准教授)
〒606-8501　京都府京都市左京区吉田近衛町
電話：075-753-4354　FAX：075-753-4359

あなたの生活についてお聞きします

問１）　あなたの性別を教えてください。　(どちらかに○印)

1. □ 男子　　2. □ 女子

小学校低学年のときのことについての質問です

問２）　小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいテレビを見ていましたか？　　(ひとつだけ○印)

1. □ (　　)時間くらい
2. □ 覚えていない
3. □ テレビは見ていなかった

問３）　小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいゲームをしていましたか？　　(ひとつだけ○印)

1. □ (　　)時間くらい
2. □ 覚えていない
3. □ ゲームはしていなかった

ここから先は高校2年生の現在についての質問です

問４）　学校は楽しいですか？　　(ひとつだけ○印)

1. □ とても楽しい
2. □ まあまあ楽しい
3. □ どちらとも言えない
4. □ あまり楽しくない
5. □ まったく楽しくない

問５）　授業がむずかしくて、ついていけないことがありますか？　(ひとつだけ○印)

1. □ 毎回、ついていけない
2. □ ついていけないことが、よくある
3. □ ついていけないことが、ときどきある
4. □ ついていけないことが、たまにある
5. □ ついていけないことは、まったくない
6. □ わからない

→ ※ 5，6に○印をつけた人は、3ページの問6へ

※ 1～4に○印をつけた人だけ下の問題に答えてください

付問５）　いつごろから、ついていけなくなりましたか？　(ひとつだけ○印)

1. □ 小学校１-２年生ころから
2. □ 小学校３-４年生ころから
3. □ 小学校５-６年生ころから
4. □ 中学１年生ころから
5. □ 中学２年生ころから
6. □ 中学３年生ころから
7. □ 高校１年生ころから
8. □ 高校２年生ころから

問６）　一週間に、だいたいどれくらい部活動（生徒会活動を含む）をしますか？　（どちらかに○印）

1. □ 平日（　　）時間くらい、土日合計（　　）時間くらい
2. □ 部活には入っていない

問７）　学校から帰宅後、普通どれくらい勉強をしますか？（塾の勉強時間も含めて）　（どちらかに○印）

1. □ 一日（　　）時間くらい
2. □ 勉強はしない

問８）　部活や勉強以外に、何か続けてやっていることがありますか？　（ひとつだけ○印）

1. □ ある
2. □ 以前はあったが今はない
3. □ ない

問９）　一日にどれくらいケータイを使っていますか？（見ている時間も含めて）　（どちらかに○印）

1. □ （　　）時間くらい
2. □ ケータイは持っていない

問10）　一日にケータイを手に持っている、もしくはそばに置いている時間はどれくらいですか？　（どちらかに○印）

1. □ （　　）時間くらい
2. □ ケータイは持っていない

問11）　あなたが保護者に話しかけているとき、保護者がケータイでメール等をしていることがありますか？
（ひとつだけ○印）

1. □ よくある
2. □ ときどきある
3. □ ほとんどない
4. □ まったくない
5. □ 保護者はケータイでメール等をしない

問12）　あなたは次のような経験がありますか？　（あてはまるものすべてに○印）

1. □ 喫煙
2. □ 飲酒
3. □ アルバイト
4. □ 睡眠薬、精神安定剤
5. □ 大麻（マリファナ）などの薬物
6. □ ネットショッピング
7. □ ｍｉｘｉ、モバゲー、ＧＲＥＥなどのコミュニティサイト、ＳＮＳの利用
8. □ 性関係
9. □ 暴力（ふるった）
10. □ 暴力（ふるわれた）
11. □ 万引き
12. □ いじめ（した）
13. □ いじめ（された）
14. □ ネットいじめ（した）
15. □ ネットいじめ（された）
16. □ 自傷行為
17. □ どれも経験がない

問13）　何かとても打ちこんでいることがありますか？　（ひとつだけ○印）

1. □ ある
2. □ 以前はあったが今はない
3. □ ない

問14）　何か目標がありますか？　（ひとつだけ○印）

1. □ ある
2. □ 以前はあったが今はない
3. □ ない

問15）　カップ麺や電子レンジで温めるだけの料理でなく、最初から一人ですべて作れる料理がありますか？
（どちらかに○印）

1. □ ある → 何ですか？（　　）
2. □ ない

まﾀまﾀﾎﾟｸです！
ﾎﾟｸの得意料理ｶﾅ・・・・？？何ﾀﾞﾛｳ・・・

問16）　あなたの家の洗濯機の使い方、洗剤の置き場所を知っていますか？　（ひとつだけ○印）

1. □ どちらも知っている
2. □ 洗濯機の使い方は知っているが、洗剤の置き場所は知らない
3. □ 洗剤の置き場所は知っているが、洗濯機の使い方は知らない
4. □ どちらも知らない

問17）　普通の日の朝、自分で起きますか？ 下記のうち、一番多いのはどれですか？　（ひとつだけ○印）

1. □ 自分で起きている（目覚まし時計、ケータイアラームなどを使うことも含みます）
2. □ 保護者が起こしてくれる
3. □ 他の家族が起こしてくれる
4. □ その他（　　）

問18）　昨夜は何時に寝ましたか？　（数字を記入）

（　　）時くらい

あなたの気持ちをお聞きします

問19）　今日の気分に一番あてはまる番号に ✓ 印をつけてください。（当てはまるところに ✓ 印）

1	2	3	4	5	どれもあてはまらない 6
✓	✓	✓	✓	✓	✓

問20）　全体としてみたら、自分のことが好きですか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

1	✓	とても嫌い
2	✓	あまり好きではない
3	✓	好きでも嫌いでもない
4	✓	まあまあ好き
5	✓	とても好き

問21）　自分にはいいところがあると思いますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

1	✓	まったくない
2	✓	少しある
3	✓	あるかないかどちらともいえない
4	✓	かなりある
5	✓	とてもある

問22）　自分はつまらない人間だと思うことがありますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

①まったく思わない	②あまり思わない	③どちらともいえない	④時々思う	⑤よく思う
1	2	3	4	5

問23）　自分のことをけっこうすごいと思うことがありますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

1	2	3	4	5

問24）　最近、何に対してもやる気が出ないことがありますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

①まったくない	②だいたいない	③時々ある	④かなりある	⑤よくある
1	2	3	4	5

問25）　最近、何に対してもめんどうだと思うことがありますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

1	2	3	4	5

問26）　最近、何かを一生懸命やろうという気がしますか？
（当てはまる番号に ✓ 印）

①まったく思わない	②あまり思わない	③まあまあ思う	④かなり思う	⑤とても思う
1	2	3	4	5

問27） 次の文章を読んであなたの気持ちとあてはまる番号に○印をつけてください。

それぞれあてはまる番号の□に○印

	①自分にはよくあてはまる	②自分にはまあまああてはまる	③あてはまるかどうかよくわからない	④自分とはかなりちがう	⑤自分とはまったくちがう
1. 自分は、ドラマや映画を見るとき、つい熱中してしまう	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
2. 歌を歌ったり、聞いたりすると、とても楽しくなる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
3. 動物が苦しんでいるのを見ると、とてもかわいそうになる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
4. ひとりぼっちのお年寄りをみると、何か手伝いたい気がする	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
5. 冷たくされている人を見ると、冷たくしている人に対して非常に腹が立つ	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
6. みんなの中で、ひとりぼっちでいる人を見ると、かわいそうになる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
7. 小さい子どもはよく泣くが、かわいい	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□

問28） 次にあげる行動について、あなたは自分がすると思いますか？
あてはまる番号に○印をつけてください。

それぞれあてはまる番号の□に○印

	①必ずする	②たぶんする	③できるかどうかわからない	④おそらくしない	⑤ぜったいしない
1. 列に並んでいて、急いでいる人のために順番をゆずる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
2. ころんだ子どもをおこしてあげる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
3. 気分の悪くなった友だちを保健室につれていく	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
4. 乗り物でお年寄りが網棚に荷物をあげるのを手伝う	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
5. 落ち込んでいる友だちにメールしたり、声をかけたりする	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
6. 優先席に座っているとき、立っているお年寄りがいたら席をゆずる	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□
7. 何か探しものをしている人には、こちらから声をかける	1.□	2.□	3.□	4.□	5.□

問29） あなたが今、「一番強くストレスを感じていること」は何ですか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 友人のこと
2. □ 先生のこと
3. □ 親のこと
4. □ 勉強のこと
5. □ 部活のこと
6. □ その他（　　）
7. □ ストレスはない ⟶ ※ ストレスがない人は９ページの問30 ぬ へ

※ ストレスがあると答えた人だけ下の問題に答えてください

付問29） このようなストレスに対して、あなたはどうしていますか？
あてはまる番号に○印をつけてください。

それぞれあてはまる番号の□に○印

	①いつもそうする	②ときどきそうする	③たまにする	④まったくしない
1. 今の状況を変えるように努力する	1.□	2.□	3.□	4.□
2. 何もしないでじっと待つ	1.□	2.□	3.□	4.□
3. 自分で自分をはげます	1.□	2.□	3.□	4.□
4. まわりの人にやつあたりする	1.□	2.□	3.□	4.□
5. 他にいいことがあると考えるようにする	1.□	2.□	3.□	4.□
6. あきらめる	1.□	2.□	3.□	4.□
7. ものをこわす	1.□	2.□	3.□	4.□
8. 他の人に話を聞いてもらう	1.□	2.□	3.□	4.□

ぬ 問30） あなたは自分の人生に満足していますか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 満足している
2. □ できればやり直したい
3. □ わからない

付問30-2)-1　人生をやり直せるとしたら、いつに戻りたいですか？
（①小学校に入る前　②小学校1-2年　③小学校3-4年　④小学校5-6年　⑤中学校）
↑ のころに戻りたい

付問30-2)-2　どのようにやり直したいですか？
（　　）

あなたの人間関係についておたずねします

問31） 本当に信頼できると思える友だちがいますか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 以前も現在もいる
2. □ 以前はいなかったが、現在はいる
3. □ 以前はいたが、現在はいない
   ⟶ 付問31-3）いたのはいつでしたか？
   （①小学校　②中学校　③小学校と中学校　④高校1年　⑤それ以外）
4. □ これまで、そのように思える友だちに出会わなかった
5. □ わからない

問32） 信頼できる先生がいますか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 以前も現在もいる
2. □ 以前はいなかったが、現在はいる
3. □ 以前はいたが、現在はいない
   ⟶ 付問32-3）いたのはいつでしたか？
   （①小学校　②中学校　③小学校と中学校　④高校1年　⑤それ以外）
4. □ これまで、そのように思える先生に出会わなかった
5. □ わからない

問33） あなたのことを本気で心配してくれる先生がいますか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 以前も現在もいる
2. □ 以前はいなかったが、現在はいる
3. □ 以前はいたが、現在はいない
   ⟶ 付問33-3）いたのはいつでしたか？
   （①小学校　②中学校　③小学校と中学校　④高校1年　⑤それ以外）
4. □ これまで、そのように思える先生に出会わなかった
5. □ わからない

問34） これまで先生から言われたことで心に残っていることは何ですか？ （どちらかに○印）

1. □ →どんな言葉でしたか？ ［　　］
2. □ 覚えていない

問35） これまで先生からしてもらったことで、一番感謝していることは何ですか？ （どちらかに○印）

1. □ →どんなことでしたか？ ［　　］
2. □ 覚えていない

問36） 本当に困ったとき、あなたのことを守ってくれる大人がいますか？ （ひとつだけ○印）

1. □ 以前も現在もいる
2. □ 以前はいなかったが、現在はいる
3. □ 以前はいたが、現在はいない
   ⟶ 付問36-3）いたのはいつでしたか？
   （①小学校　②中学校　③小学校と中学校　④高校1年　⑤それ以外）
4. □ これまで、そのように思える大人がいなかった
5. □ わからない

問37） 保護者と一緒に行動しますか？ （ひとつだけ○印）

1. ☐ よく一緒に行動する
2. ☐ かなり一緒に行動する
3. ☐ ときどき一緒に行動する
4. ☐ あまり一緒に行動しない
5. ☐ まったく一緒に行動しない

毎日一緒に、笹の葉っぱを
食べてるよ～☆☆☆

問38） 保護者と口げんかをすることがありますか？ （ひとつだけ○印）

1. ☐ よくある
2. ☐ かなりある
3. ☐ ときどきある
4. ☐ あまりない
5. ☐ まったくない

問39） 保護者を信頼していますか？ （ひとつだけ○印）

1. ☐ とても信頼している
2. ☐ かなり信頼している
3. ☐ まあまあ信頼している
4. ☐ あまり信頼していない
5. ☐ まったく信頼していない

問40） これまで保護者から言われたことで心に残っていることは何ですか？ （どちらかに○印）

1. ☐ →どんな言葉でしたか？ ＿＿＿＿＿＿＿＿
2. ☐ 覚えていない

問41） これまで保護者からしてもらったことで、一番感謝していることは何ですか？ （どちらかに○印）

1. ☐ →どんなことでしたか？ ＿＿＿＿＿＿＿＿
2. ☐ 覚えていない

最後に将来への質問です

問42） もし、３つだけ願いがかなうとしたら、あなたはどのようなことを願いますか？
どんなことでも、好きなことを書いてください。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

② ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

長いアンケートに答えていただき、本当にありがとうございました。
この調査結果は、みなさんの環境改善のための参考資料として必ず役立てます。

2　集計結果

2009年度
PTAアンケート　調査結果
女子・男子
高校2年生

入力件数6164件
*性別不明のため17件
*矛盾回答多数のため5件
*途中放棄のため23件削除

問1. あなたの性別を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	3075	50.3	50.3	50.3
	女	3044	49.7	49.7	100.0
	合計	6119	100.0	100.0	

問2.小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいテレビを見ていましたか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	(　)時間くらい見ていた	1426	46.4	46.4	46.4
		覚えていない	1584	51.5	51.6	98.0
		テレビは見ていなかった	62	2.0	2.0	100.0
		合計	3072	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	3	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	(　)時間くらい見ていた	1381	45.4	45.4	45.4
		覚えていない	1615	53.1	53.1	98.5
		テレビは見ていなかった	47	1.5	1.5	100.0
		合計	3043	100.0	100.0	
	欠損	不明	1	.0		
	合計		3044	100.0		

問2-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	.5	12	.4	.8	.8
		1.0	129	4.2	9.1	9.9
		1.1	1	.0	.1	10.0
		1.5	23	.7	1.6	11.6
		1.9	1	.0	.1	11.7
		2.0	362	11.8	25.5	37.2
		2.5	45	1.5	3.2	40.4
		3.0	343	11.2	24.2	64.6
		3.4	1	.0	.1	64.6
		3.5	25	.8	1.8	66.4
		4.0	214	7.0	15.1	81.5
		4.5	19	.6	1.3	82.8
		5.0	127	4.1	8.9	91.8
		5.5	9	.3	.6	92.4
		6.0	49	1.6	3.5	95.8
		6.5	1	.0	.1	95.9
		7.0	22	.7	1.6	97.5
		8.0	18	.6	1.3	98.7
		9.0	4	.1	.3	99.0
		10.0	9	.3	.6	99.6
		12.0	3	.1	.2	99.9
		14.0	1	.0	.1	99.9
		18.0	1	.0	.1	100.0
		合計	1419	46.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1656	53.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	.5	13	.4	.9	.9
		.8	1	.0	.1	1.0
		1.0	118	3.9	8.6	9.6
		1.2	1	.0	.1	9.7
		1.5	18	.6	1.3	11.0
		2.0	291	9.6	21.1	32.1
		2.3	3	.1	.2	32.3
		2.5	36	1.2	2.6	34.9
		3.0	330	10.8	23.9	58.9
		3.4	3	.1	.2	59.1
		3.5	39	1.3	2.8	61.9
		4.0	194	6.4	14.1	76.0
		4.5	17	.6	1.2	77.2
		5.0	179	5.9	13.0	90.2
		5.5	9	.3	.7	90.9
		6.0	77	2.5	5.6	96.4
		6.5	3	.1	.2	96.7
		7.0	23	.8	1.7	98.3
		8.0	16	.5	1.2	99.5
		10.0	4	.1	.3	99.8
		12.0	1	.0	.1	99.9
		24.0	2	.1	.1	100.0
		合計	1378	45.3	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1666	54.7		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問2-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	3.205	1419	1.7247	3.000
女	3.365	1378	1.7859	3.000
合計	3.284	2797	1.7566	3.000

問3. 小学校低学年のとき、学校から帰宅後、一日にどれくらいゲームをしていましたか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	(　)時間くらいしていた	1455	47.3	47.3	47.3
		覚えていない	1219	39.6	39.7	87.0
		ゲームはしていなかった	399	13.0	13.0	100.0
		合計	3073	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	2	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	(　)時間くらいしていた	674	22.1	22.1	22.1
		覚えていない	990	32.5	32.5	54.7
		ゲームはしていなかった	1379	45.3	45.3	100.0
		合計	3043	100.0	100.0	
	欠損	不明	1	.0		
	合計		3044	100.0		

問3-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	.0	1	.0	.1	.1
		.2	1	.0	.1	.1
		.3	1	.0	.1	.2
		.5	58	1.9	4.0	4.2
		.8	4	.1	.3	4.5
		.8	1	.0	.1	4.6
		1.0	438	14.2	30.2	34.8
		1.3	1	.0	.1	34.9
		1.5	63	2.0	4.3	39.2
		2.0	494	16.1	34.1	73.3
		2.3	1	.0	.1	73.4
		2.5	40	1.3	2.8	76.1
		3.0	183	6.0	12.6	88.8
		3.5	10	.3	.7	89.4
		4.0	70	2.3	4.8	94.3
		4.5	2	.1	.1	94.4
		5.0	35	1.1	2.4	96.8
		5.5	1	.0	.1	96.9
		6.0	21	.7	1.4	98.3
		7.0	5	.2	.3	98.7
		8.0	11	.4	.8	99.4
		9.0	2	.1	.1	99.6
		10.0	4	.1	.3	99.9
		12.0	1	.0	.1	99.9
		20.0	1	.0	.1	100.0
		合計	1449	47.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1626	52.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	.0	5	.2	.7	.7
		.2	1	.0	.1	.9
		.5	46	1.5	6.8	7.7
		.8	6	.2	.9	8.6
		1.0	253	8.3	37.6	46.3
		1.3	1	.0	.1	46.4
		1.5	25	.8	3.7	50.1
		2.0	194	6.4	28.9	79.0
		2.3	1	.0	.1	79.2
		2.5	19	.6	2.8	82.0
		3.0	87	2.9	12.9	94.9
		3.5	3	.1	.4	95.4
		4.0	13	.4	1.9	97.3
		4.5	3	.1	.4	97.8
		5.0	10	.3	1.5	99.3
		6.0	2	.1	.3	99.6
		7.0	2	.1	.3	99.9
		8.0	1	.0	.1	100.0
		合計	672	22.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2372	77.9		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問3-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	2.105	1449	1.4530	2.000
女	1.753	672	1.0447	1.500
合計	1.993	2121	1.3469	2.000

問4. 学校はたのしいですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	とても楽しい	615	20.0	20.0	20.0
		まあまあ楽しい	1684	54.8	54.8	74.9
		どちらとも言えない	472	15.3	15.4	90.2
		あまり楽しくない	189	6.1	6.2	96.4
		まったく楽しくない	111	3.6	3.6	100.0
		合計	3071	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	とても楽しい	740	24.3	24.3	24.3
		まあまあ楽しい	1621	53.3	53.3	77.6
		どちらとも言えない	376	12.4	12.4	90.0
		あまり楽しくない	237	7.8	7.8	97.8
		まったく楽しくない	67	2.2	2.2	100.0
		合計	3041	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計		3044	100.0		

問5. 授業がむずかしくて、ついていけないことがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	毎回、ついていけない	155	5.0	5.1	5.1
		ついていけないことが、よくある	656	21.3	21.4	26.4
		ついていけないことが、ときどきある	903	29.4	29.4	55.9
		ついていけないことが、たまにある	866	28.2	28.2	84.1
		ついていけないことは、まったくない	326	10.6	10.6	94.7
		わからない	162	5.3	5.3	100.0
		合計	3068	99.8	100.0	
	欠損値	不明	6	.2		
		システム欠損値	1	.0		
		合計	7	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	毎回、ついていけない	126	4.1	4.2	4.2
		ついていけないことが、よくある	737	24.2	24.3	28.4
		ついていけないことが、ときどきある	1046	34.4	34.5	62.9
		ついていけないことが、たまにある	857	28.2	28.2	91.1
		ついていけないことは、まったくない	176	5.8	5.8	96.9
		わからない	94	3.1	3.1	100.0
		合計	3036	99.7	100.0	
	欠損値	不明	5	.2		
		システム欠損値	3	.1		
		合計	8	.3		
	合計		3044	100.0		

付問5). いつごろから、ついていけなくなりましたか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	小学校1-2年生ころから	57	1.9	2.3	2.3
		小学校3-4年生ころから	40	1.3	1.6	3.8
		小学校5-6年生ころから	88	2.9	3.5	7.3
		中学1年生ころから	268	8.7	10.6	17.9
		中学2年生ころから	443	14.4	17.5	35.5
		中学3年生ころから	230	7.5	9.1	44.6
		高校1年生ころから	931	30.3	36.8	81.4
		高校2年生ころから	470	15.3	18.6	100.0
		合計	2527	82.2	100.0	
	欠損値	不明	4	.1		
		システム欠損値	544	17.7		
		合計	548	17.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	小学校1-2年生ころから	33	1.1	1.2	1.2
		小学校3-4年生ころから	61	2.0	2.3	3.5
		小学校5-6年生ころから	135	4.4	5.0	8.5
		中学1年生ころから	279	9.2	10.3	18.8
		中学2年生ころから	496	16.3	18.3	37.1
		中学3年生ころから	240	7.9	8.9	46.0
		高校1年生ころから	1043	34.3	38.5	84.5
		高校2年生ころから	420	13.8	15.5	100.0
		合計	2707	88.9	100.0	
	欠損値	不明	7	.2		
		システム欠損値	330	10.8		
		合計	337	11.1		
	合計		3044	100.0		

問6. 一週間に、だいたいどれくらい部活動(生徒会活動を含む)をしますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	(　)時間くらいしている	2277	74.0	74.8	74.8
		部活には入っていない	769	25.0	25.2	100.0
		合計	3046	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	29	.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	(　)時間くらいしている	2273	74.7	75.2	75.2
		部活には入っていない	751	24.7	24.8	100.0
		合計	3024	99.3	100.0	
	欠損値	システム欠損値	20	.7		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問6-1. 平日(　)時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	4.432	2238	4.2840	3.000
女	4.035	2217	4.1190	2.500
合計	4.234	4455	4.2069	3.000

平均値

報告書

問6-1. 土日合計(　)時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	7.760	2107	6.0341	6.000
女	6.552	1959	5.4924	6.000
合計	7.178	4066	5.8102	6.000

問7. 学校から帰宅後、普通どれくらい勉強をしますか？(塾の勉強時間も含めて)(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	一日(　)時間くらいする	1435	46.7	46.8	46.8
		勉強はしない	1629	53.0	53.2	100.0
		合計	3064	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	一日(　)時間くらいする	1700	55.8	56.0	56.0
		勉強はしない	1337	43.9	44.0	100.0
		合計	3037	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計		3044	100.0		

問7-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	.0	5	.2	.4	.4
		.2	4	.1	.3	.6
		.3	7	.2	.5	1.1
		.4	1	.0	.1	1.2
		.5	148	4.8	10.5	11.7
		.7	1	.0	.1	11.8
		.8	10	.3	.7	12.5
		1.0	530	17.2	37.7	50.2
		1.2	1	.0	.1	50.2
		1.2	2	.1	.1	50.4
		1.5	101	3.3	7.2	57.6
		1.8	3	.1	.2	57.8
		2.0	355	11.5	25.2	83.0
		2.5	49	1.6	3.5	86.5
		3.0	141	4.6	10.0	96.5
		3.5	9	.3	.6	97.2
		4.0	26	.8	1.8	99.0
		5.0	6	.2	.4	99.4
		6.0	2	.1	.1	99.6
		7.0	2	.1	.1	99.7
		8.0	1	.0	.1	99.8
		9.0	1	.0	.1	99.9
		13.0	1	.0	.1	99.9
		20.0	1	.0	.1	100.0
		合計	1407	45.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1668	54.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	.0	2	.1	.1	.1
		.1	2	.1	.1	.2
		.5	164	5.4	9.9	10.1
		.7	1	.0	.1	10.2
		.8	8	.3	.5	10.7
		1.0	589	19.3	35.5	46.2
		1.2	3	.1	.2	46.4
		1.5	97	3.2	5.9	52.3
		1.8	3	.1	.2	52.4
		2.0	462	15.2	27.9	80.3
		2.5	55	1.8	3.3	83.6
		3.0	209	6.9	12.6	96.3
		3.5	14	.5	.8	97.1
		4.0	35	1.1	2.1	99.2
		5.0	7	.2	.4	99.6
		5.5	1	.0	.1	99.7
		6.0	1	.0	.1	99.8
		7.0	1	.0	.1	99.8
		10.0	1	.0	.1	99.9
		20.0	2	.1	.1	100.0
		合計	1657	54.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1387	45.6		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問7-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	1.615	1407	1.0992	1.000
女	1.698	1657	1.1221	1.500
合計	1.660	3064	1.1122	1.500

問8. 部活や勉強以外に、何か続けてやっていることがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	ある	1007	32.7	32.8	32.8
		以前はあったが今はない	750	24.4	24.4	57.2
		ない	1312	42.7	42.8	100.0
		合計	3069	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	ある	1026	33.7	33.8	33.8
		以前はあったが今はない	960	31.5	31.6	65.4
		ない	1049	34.5	34.6	100.0
		合計	3035	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計		3044	100.0		

問9. 一日にどれくらいケータイを使っていますか？(見ている時間も含めて)(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	( )時間くらい使っている	2865	93.2	93.7	93.7
		ケータイは持っていない	192	6.2	6.3	100.0
		合計	3057	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	18	.6		
	合計		3075	100.0		
女	有効	( )時間くらい使っている	2941	96.6	96.9	96.9
		ケータイは持っていない	94	3.1	3.1	100.0
		合計	3035	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計		3044	100.0		

問9-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	.0	15	.5	.5	.5
		.1	39	1.3	1.4	2.0
		.2	22	.7	.8	2.8
		.3	2	.1	.1	2.8
		.3	13	.4	.5	3.3
		.4	1	.0	.0	3.4
		.5	278	9.0	10.1	13.5
		.6	1	.0	.0	13.5
		.7	2	.1	.1	13.6
		.8	4	.1	.1	13.8
		.8	1	.0	.0	13.8
		1.0	928	30.2	33.9	47.6
		1.3	1	.0	.0	47.7
		1.5	59	1.9	2.2	49.8
		1.8	2	.1	.1	49.9
		2.0	488	15.9	17.8	67.7
		2.4	2	.1	.1	67.8
		2.5	34	1.1	1.2	69.0
		3.0	298	9.7	10.9	79.9
		3.5	18	.6	.7	80.6
		4.0	95	3.1	3.5	84.0
		4.5	7	.2	.3	84.3
		5.0	135	4.4	4.9	89.2
		5.5	9	.3	.3	89.5
		6.0	58	1.9	2.1	91.6
		7.0	22	.7	.8	92.4
		7.5	2	.1	.1	92.5
		8.0	28	.9	1.0	93.5
		9.0	6	.2	.2	93.8

問9-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	10.0	49	1.6	1.8	95.5
		11.0	1	.0	.0	95.6
		12.0	39	1.3	1.4	97.0
		13.0	4	.1	.1	97.2
		14.0	7	.2	.3	97.4
		15.0	11	.4	.4	97.8
		16.0	6	.2	.2	98.0
		17.0	1	.0	.0	98.1
		18.0	6	.2	.2	98.3
		20.0	12	.4	.4	98.7
		22.0	3	.1	.1	98.8
		23.0	1	.0	.0	98.9
		24.0	31	1.0	1.1	100.0
		合計	2741	89.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	334	10.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	.0	5	.2	.2	.2
		.1	16	.5	.6	.8
		.2	7	.2	.3	1.0
		.3	14	.5	.5	1.5
		.4	1	.0	.0	1.6
		.4	1	.0	.0	1.6
		.5	151	5.0	5.5	7.1
		.8	3	.1	.1	7.2
		1.0	537	17.6	19.6	26.8
		1.2	2	.1	.1	26.8
		1.3	1	.0	.0	26.9
		1.5	46	1.5	1.7	28.6
		2.0	508	16.7	18.5	47.1
		2.3	1	.0	.0	47.1
		2.5	38	1.2	1.4	48.5
		3.0	409	13.4	14.9	63.4
		3.5	20	.7	.7	64.1
		4.0	190	6.2	6.9	71.0
		4.5	14	.5	.5	71.5
		5.0	203	6.7	7.4	78.9
		5.5	13	.4	.5	79.4
		6.0	109	3.6	4.0	83.4
		6.5	6	.2	.2	83.6
		7.0	37	1.2	1.3	85.0
		7.5	7	.2	.3	85.2
		8.0	61	2.0	2.2	87.4
		9.0	9	.3	.3	87.8
		10.0	92	3.0	3.4	91.1
		10.5	1	.0	.0	91.1
		11.0	1	.0	.0	91.2
		12.0	76	2.5	2.8	94.0
		13.0	2	.1	.1	94.0
		14.0	11	.4	.4	94.4
		15.0	36	1.2	1.3	95.7
		16.0	3	.1	.1	95.8
		17.0	13	.4	.5	96.3
		18.0	20	.7	.7	97.0
		19.0	5	.2	.2	97.2
		20.0	26	.9	.9	98.2
		22.0	4	.1	.1	98.3
		23.0	2	.1	.1	98.4
		24.0	44	1.4	1.6	100.0
		合計	2745	90.2	100.0	

問9-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
女	欠損値	システム欠損値	299	9.8		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問9-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	2.813	2741	3.7709	2.000
女	4.224	2745	4.6849	3.000
合計	3.519	5486	4.3106	2.000

問10. 一日にケータイを手に持っている、もしくはそばに置いている時間はどれくらいですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	( )時間くらいそばに置いている	2860	93.0	93.7	93.7
		ケータイは持っていない	191	6.2	6.3	100.0
		合計	3051	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	24	.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	( )時間くらいそばに置いている	2935	96.4	96.9	96.9
		ケータイは持っていない	94	3.1	3.1	100.0
		合計	3029	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	15	.5		
	合計		3044	100.0		

問10-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	.0	11	.4	.4	.4
		.1	8	.3	.3	.7
		.2	4	.1	.1	.8
		.3	8	.3	.3	1.1
		.4	1	.0	.0	1.2
		.5	40	1.3	1.5	2.7
		.6	1	.0	.0	2.7
		.8	1	.0	.0	2.7
		1.0	193	6.3	7.1	9.9
		1.5	13	.4	.5	10.3
		2.0	137	4.5	5.1	15.4
		2.3	1	.0	.0	15.4
		2.5	7	.2	.3	15.7
		3.0	150	4.9	5.5	21.2
		3.3	1	.0	.0	21.3
		3.5	8	.3	.3	21.6
		4.0	100	3.3	3.7	25.3
		4.5	4	.1	.1	25.4
		5.0	117	3.8	4.3	29.7
		5.5	1	.0	.0	29.8
		6.0	90	2.9	3.3	33.1
		6.5	1	.0	.0	33.1
		7.0	40	1.3	1.5	34.6
		7.5	2	.1	.1	34.7
		8.0	69	2.2	2.5	37.2
		9.0	22	.7	.8	38.0

問10-1. (　)時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	10.0	220	7.2	8.1	46.2
		11.0	9	.3	.3	46.5
		12.0	200	6.5	7.4	53.9
		12.5	1	.0	.0	53.9
		13.0	14	.5	.5	54.5
		14.0	25	.8	.9	55.4
		15.0	78	2.5	2.9	58.3
		16.0	42	1.4	1.6	59.8
		17.0	15	.5	.6	60.4
		17.5	1	.0	.0	60.4
		18.0	59	1.9	2.2	62.6
		19.0	4	.1	.1	62.7
		20.0	163	5.3	6.0	68.7
		21.0	7	.2	.3	69.0
		22.0	25	.8	.9	69.9
		23.0	51	1.7	1.9	71.8
		23.5	2	.1	.1	71.9
		24.0	761	24.7	28.1	100.0
		合計	2707	88.0	100.0	
	欠損値	システム欠損値	368	12.0		
	合計		3075	100.0		

問10-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
女	有効	.0	2	.1	.1	.1
		.1	6	.2	.2	.3
		.2	2	.1	.1	.4
		.3	3	.1	.1	.5
		.4	1	.0	.0	.5
		.5	31	1.0	1.2	1.7
		.6	1	.0	.0	1.7
		1.0	110	3.6	4.1	5.8
		1.5	9	.3	.3	6.2
		2.0	126	4.1	4.7	10.9
		2.3	1	.0	.0	10.9
		2.5	11	.4	.4	11.3
		3.0	166	5.5	6.2	17.5
		3.5	7	.2	.3	17.8
		4.0	127	4.2	4.7	22.5
		4.5	4	.1	.1	22.7
		5.0	163	5.4	6.1	28.8
		5.5	6	.2	.2	29.0
		5.6	1	.0	.0	29.0
		6.0	118	3.9	4.4	33.4
		6.5	2	.1	.1	33.5
		7.0	41	1.3	1.5	35.1
		7.5	1	.0	.0	35.1
		8.0	65	2.1	2.4	37.5
		9.0	18	.6	.7	38.2
		10.0	206	6.8	7.7	45.9
		11.0	7	.2	.3	46.2
		12.0	181	5.9	6.8	52.9
		13.0	10	.3	.4	53.3
		14.0	16	.5	.6	53.9
		15.0	81	2.7	3.0	56.9
		16.0	29	1.0	1.1	58.0
		17.0	26	.9	1.0	59.0
		18.0	36	1.2	1.3	60.3
		19.0	5	.2	.2	60.5
		20.0	164	5.4	6.1	66.6
		21.0	5	.2	.2	66.8
		22.0	35	1.1	1.3	68.1
		22.5	1	.0	.0	68.2
		23.0	46	1.5	1.7	69.9
		24.0	806	26.5	30.1	100.0
		合計	2676	87.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	368	12.1		
	合計		3044	100.0		

平均値

報告書

問10-1. ( )時間くらい

問1. あなたの性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男	13.133	2707	8.8351	12.000
女	13.501	2676	8.7695	12.000
合計	13.316	5383	8.8037	12.000

問11. あなたが保護者にはなしかけているとき、保護者がケータイでメール等をしていることがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	よくある	148	4.8	4.8	4.8
		ときどきある	611	19.9	19.9	24.8
		ほとんどない	1077	35.0	35.2	59.9
		まったくない	1062	34.5	34.7	94.6
		保護者はケータイでメール等をしない	165	5.4	5.4	100.0
		合計	3063	99.6	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	10	.3		
		合計	12	.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	よくある	134	4.4	4.4	4.4
		ときどきある	668	21.9	22.0	26.4
		ほとんどない	1129	37.1	37.2	63.5
		まったくない	962	31.6	31.7	95.2
		保護者はケータイでメール等をしない	146	4.8	4.8	100.0
		合計	3039	99.8	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	4	.1		
		合計	5	.2		
	合計		3044	100.0		

問12） あなたは次のような経験がありますか？（MA）

			度数	列 %
男		問12-1. 喫煙	356	11.9%
		問12-2. 飲酒	898	30.0%
		問12-3. アルバイト	701	23.4%
		問12-4. 睡眠薬、精神安定剤	61	2.0%
		問12-5. 大麻（マリファナ）などの薬物	18	.6%
		問12-6. ネットショッピング	1082	36.1%
		問12-7. mixi、モバゲー、GREEなどのコミュニティサイト、SNSの利用	1713	57.2%
		問12-8. 性関係	327	10.9%
		問12-9. 暴力（ふるった）	606	20.2%
		問12-10. 暴力（ふるわれた）	540	18.0%
		問12-11. 万引き	319	10.6%
		問12-12. いじめ（した）	453	15.1%
		問12-13. いじめ（された）	427	14.3%
		問12-14. ネットいじめ（した）	66	2.2%
		問12-15. ネットいじめ（された）	50	1.7%
		問12-16. 自傷行為	98	3.3%
		問12-17. どれも経験がない	567	18.9%
		合計	2996	100.0%
女		問12-1. 喫煙	213	7.2%
		問12-2. 飲酒	927	31.2%
		問12-3. アルバイト	928	31.2%
		問12-4. 睡眠薬、精神安定剤	100	3.4%
		問12-5. 大麻（マリファナ）などの薬物	5	.2%
		問12-6. ネットショッピング	1028	34.6%
		問12-7. mixi、モバゲー、GREEなどのコミュニティサイト、SNSの利用	1720	57.8%
		問12-8. 性関係	395	13.3%
		問12-9. 暴力（ふるった）	228	7.7%
		問12-10. 暴力（ふるわれた）	293	9.9%
		問12-11. 万引き	180	6.1%
		問12-12. いじめ（した）	491	16.5%
		問12-13. いじめ（された）	689	23.2%
		問12-14. ネットいじめ（した）	68	2.3%
		問12-15. ネットいじめ（された）	129	4.3%
		問12-16. 自傷行為	222	7.5%
		問12-17. どれも経験がない	522	17.6%
		合計	2974	100.0%

問13. 何かとても打ち込んでいることがありますか？（SA）

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	ある	2028	66.0	66.1	66.1
		以前はあったが今はない	422	13.7	13.8	79.9
		ない	618	20.1	20.1	100.0
		合計	3068	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	ある	1709	56.1	56.3	56.3
		以前はあったが今はない	505	16.6	16.6	72.9
		ない	821	27.0	27.1	100.0
		合計	3035	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計		3044	100.0		

問14. 何か目標がありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	ある	2302	74.9	74.9	74.9
		以前はあったが今はない	213	6.9	6.9	81.9
		ない	557	18.1	18.1	100.0
		合計	3072	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	ある	2253	74.0	74.2	74.2
		以前はあったが今はない	219	7.2	7.2	81.4
		ない	563	18.5	18.6	100.0
		合計	3035	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計		3044	100.0		

問15. カップ麺や電子レンジで温めるだけの料理でなく、最初から1人ですべて作れる料理がありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	ある	1930	62.8	63.0	63.0
		ない	1133	36.8	37.0	100.0
		合計	3063	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	ある	2548	83.7	84.0	84.0
		ない	484	15.9	16.0	100.0
		合計	3032	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.4		
	合計		3044	100.0		

問16. あなたの家の洗濯機の使い方、洗剤の置き場所を知っていますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	どちらも知っている	2023	65.8	65.8	65.8
		洗濯機の使い方は知っているが、洗剤の置き場所は知らない	78	2.5	2.5	68.4
		洗剤の置き場所は知っているが、洗濯機の使い方は知らない	730	23.7	23.8	92.1
		どちらも知らない	242	7.9	7.9	100.0
		合計	3073	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	どちらも知っている	2301	75.6	75.7	75.7
		洗濯機の使い方は知っているが、洗剤の置き場所は知らない	23	.8	.8	76.4
		洗剤の置き場所は知っているが、洗濯機の使い方は知らない	637	20.9	20.9	97.4
		どちらも知らない	80	2.6	2.6	100.0
		合計	3041	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計		3044	100.0		

問17. 普通の日の朝、自分で起きますか？下記のうち、一番多いのはどれですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分で起きている(目ざまし時計、ケータイアラームなども)	2141	69.6	69.9	69.9
		保護者が起こしてくれる	812	26.4	26.5	96.3
		他の家族が起こしてくれる	50	1.6	1.6	98.0
		その他	62	2.0	2.0	100.0
		合計	3065	99.7	100.0	
	欠損値	不明	6	.2		
		システム欠損値	4	.1		
		合計	10	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分で起きている(目ざまし時計、ケータイアラームなども)	2142	70.4	70.6	70.6
		保護者が起こしてくれる	821	27.0	27.1	97.7
		他の家族が起こしてくれる	24	.8	.8	98.5
		その他	46	1.5	1.5	100.0
		合計	3033	99.6	100.0	
	欠損値	不明	8	.3		
		システム欠損値	3	.1		
		合計	11	.4		
	合計		3044	100.0		

問18. 昨夜は何時に寝ましたか？

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	1.0	448	14.6	14.7	14.7
		1.5	13	.4	.4	15.1
		2.0	293	9.5	9.6	24.7
		2.5	4	.1	.1	24.9
		3.0	139	4.5	4.6	29.4
		3.5	2	.1	.1	29.5
		4.0	63	2.0	2.1	31.6
		4.5	1	.0	.0	31.6
		5.0	41	1.3	1.3	32.9
		6.0	33	1.1	1.1	34.0
		6.5	4	.1	.1	34.1
		7.0	27	.9	.9	35.0
		19.0	1	.0	.0	35.1
		20.0	27	.9	.9	35.9
		20.5	2	.1	.1	36.0
		21.0	58	1.9	1.9	37.9
		21.5	8	.3	.3	38.2
		22.0	229	7.4	7.5	45.7
		22.5	18	.6	.6	46.3
		23.0	702	22.8	23.0	69.3
		23.5	24	.8	.8	70.1
		24.0	890	28.9	29.2	99.3
		24.5	22	.7	.7	100.0
		合計	3049	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	26	.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	1.0	540	17.7	17.8	17.8
		1.5	18	.6	.6	18.4
		2.0	275	9.0	9.1	27.5
		2.5	5	.2	.2	27.7
		3.0	112	3.7	3.7	31.4
		3.5	2	.1	.1	31.5
		4.0	44	1.4	1.5	32.9
		5.0	22	.7	.7	33.6
		5.5	1	.0	.0	33.7
		6.0	17	.6	.6	34.2
		6.5	1	.0	.0	34.3
		7.0	13	.4	.4	34.7
		17.0	1	.0	.0	34.7
		18.0	2	.1	.1	34.8
		19.0	2	.1	.1	34.9
		20.0	19	.6	.6	35.5
		20.5	4	.1	.1	35.6
		21.0	62	2.0	2.0	37.7
		21.5	7	.2	.2	37.9
		22.0	207	6.8	6.8	44.7
		22.5	16	.5	.5	45.3
		23.0	677	22.2	22.4	67.6
		23.5	48	1.6	1.6	69.2
		24.0	903	29.7	29.8	99.0
		24.5	29	1.0	1.0	100.0
		合計	3027	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	17	.6		
	合計		3044	100.0		

問19. 今日の気分に一番あてはまる番号に印をつけてください(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	超ご機嫌	242	7.9	8.7	8.7
		ご機嫌	841	27.3	30.4	39.1
		普通	1083	35.2	39.1	78.2
		ご機嫌ななめ	378	12.3	13.6	91.8
		超ご機嫌ななめ	85	2.8	3.1	94.9
		どれもあてはまらない	141	4.6	5.1	100.0
		合計	2770	90.1	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	303	9.9		
		合計	305	9.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	超ご機嫌	267	8.8	9.4	9.4
		ご機嫌	1008	33.1	35.4	44.7
		普通	978	32.1	34.3	79.1
		ご機嫌ななめ	422	13.9	14.8	93.9
		超ご機嫌ななめ	97	3.2	3.4	97.3
		どれもあてはまらない	78	2.6	2.7	100.0
		合計	2850	93.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	193	6.3		
		合計	194	6.4		
	合計		3044	100.0		

問20. 全体としてみたら、自分のことが好きですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	とても嫌い	196	6.4	6.6	6.6
		あまり好きではない	683	22.2	23.0	29.6
		好きでも嫌いでもない	1437	46.7	48.3	77.9
		まあまあ好き	516	16.8	17.4	95.3
		とても好き	141	4.6	4.7	100.0
		合計	2973	96.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	101	3.3		
		合計	102	3.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	とても嫌い	372	12.2	12.4	12.4
		あまり好きではない	1016	33.4	33.9	46.3
		好きでも嫌いでもない	1035	34.0	34.5	80.7
		まあまあ好き	513	16.9	17.1	97.8
		とても好き	65	2.1	2.2	100.0
		合計	3001	98.6	100.0	
	欠損	システム欠損値	43	1.4		
	合計		3044	100.0		

問21. 自分にはいいところがあると思いますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったくない	278	9.0	9.4	9.4
		少しある	997	32.4	33.6	42.9
		あるかないかどちらともいえない	1296	42.1	43.6	86.6
		かなりある	273	8.9	9.2	95.8
		とてもある	126	4.1	4.2	100.0
		合計	2970	96.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	105	3.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったくない	348	11.4	11.6	11.6
		少しある	1318	43.3	44.0	55.6
		あるかないかどちらともいえない	1101	36.2	36.7	92.4
		かなりある	183	6.0	6.1	98.5
		とてもある	46	1.5	1.5	100.0
		合計	2996	98.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	48	1.6		
	合計		3044	100.0		

問22. 自分はつまらない人間だと思うことがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったく思わない	210	6.8	6.9	6.9
		あまり思わない	478	15.5	15.6	22.5
		どちらともいえない	946	30.8	30.9	53.4
		時々思う	1029	33.5	33.6	87.0
		よく思う	399	13.0	13.0	100.0
		合計	3062	99.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	12	.4		
		合計	13	.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったく思わない	91	3.0	3.0	3.0
		あまり思わない	445	14.6	14.6	17.6
		どちらともいえない	779	25.6	25.6	43.3
		時々思う	1232	40.5	40.5	83.8
		よく思う	493	16.2	16.2	100.0
		合計	3040	99.9	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	3	.1		
		合計	4	.1		
	合計		3044	100.0		

問23. 自分のことをけっこうすごいと思うことがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったく思わない	497	16.2	16.2	16.2
		あまり思わない	964	31.3	31.5	47.7
		どちらともいえない	1001	32.6	32.7	80.3
		時々思う	452	14.7	14.7	95.1
		よく思う	151	4.9	4.9	100.0
		合計	3065	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったく思わない	518	17.0	17.1	17.1
		あまり思わない	1130	37.1	37.2	54.2
		どちらともいえない	797	26.2	26.2	80.5
		時々思う	535	17.6	17.6	98.1
		よく思う	58	1.9	1.9	100.0
		合計	3038	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計		3044	100.0		

問24. 最近、何に対してもやる気が出ないことがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったくない	225	7.3	7.3	7.3
		だいたいない	678	22.0	22.1	29.5
		時々ある	1371	44.6	44.7	74.2
		かなりある	419	13.6	13.7	87.8
		よくある	373	12.1	12.2	100.0
		合計	3066	99.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	8	.3		
		合計	9	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったくない	99	3.3	3.3	3.3
		だいたいない	499	16.4	16.4	19.7
		時々ある	1504	49.4	49.4	69.1
		かなりある	475	15.6	15.6	84.7
		よくある	465	15.3	15.3	100.0
		合計	3042	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	2	.1		
	合計		3044	100.0		

問25. 最近、何に対してもめんどうだと思うことがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったくない	189	6.1	6.2	6.2
		だいたいない	559	18.2	18.3	24.4
		時々ある	1272	41.4	41.6	66.0
		かなりある	523	17.0	17.1	83.1
		よくある	518	16.8	16.9	100.0
		合計	3061	99.5	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	13	.4		
		合計	14	.5		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったくない	94	3.1	3.1	3.1
		だいたいない	383	12.6	12.6	15.7
		時々ある	1340	44.0	44.1	59.8
		かなりある	611	20.1	20.1	80.0
		よくある	608	20.0	20.0	100.0
		合計	3036	99.7	100.0	
	欠損	システム欠損値	8	.3		
	合計		3044	100.0		

問26. 最近、何かを一生懸命やろうという気がしますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	まったく思わない	169	5.5	5.5	5.5
		あまり思わない	461	15.0	15.0	20.6
		まあまあ思う	1216	39.5	39.7	60.2
		かなり思う	581	18.9	19.0	79.2
		とても思う	638	20.7	20.8	100.0
		合計	3065	99.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	9	.3		
		合計	10	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	まったく思わない	138	4.5	4.5	4.5
		あまり思わない	585	19.2	19.2	23.8
		まあまあ思う	1316	43.2	43.3	67.1
		かなり思う	559	18.4	18.4	85.5
		とても思う	442	14.5	14.5	100.0
		合計	3040	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	4	.1		
	合計		3044	100.0		

問27-1. 自分は、ドラマや映画を見るとき、つい熱中してしまう(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	1159	37.7	37.7	37.7
		自分にまあまああてはまる	1074	34.9	35.0	72.7
		あてはまるかどうかわからない	502	16.3	16.3	89.1
		自分とはかなりちがう	207	6.7	6.7	95.8
		自分とはまったくちがう	129	4.2	4.2	100.0
		合計	3071	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	1594	52.4	52.4	52.4
		自分にまあまああてはまる	1020	33.5	33.5	86.0
		あてはまるかどうかわからない	255	8.4	8.4	94.3
		自分とはかなりちがう	121	4.0	4.0	98.3
		自分とはまったくちがう	51	1.7	1.7	100.0
		合計	3041	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計		3044	100.0		

問27-2. 歌を歌ったり、聞いたりすると、とても楽しくなる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	1545	50.2	50.3	50.3
		自分にまあまああてはまる	989	32.2	32.2	82.5
		あてはまるかどうかわからない	420	13.7	13.7	96.2
		自分とはかなりちがう	73	2.4	2.4	98.6
		自分とはまったくちがう	43	1.4	1.4	100.0
		合計	3070	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	2049	67.3	67.4	67.4
		自分にまあまああてはまる	802	26.3	26.4	93.8
		あてはまるかどうかわからない	147	4.8	4.8	98.6
		自分とはかなりちがう	31	1.0	1.0	99.6
		自分とはまったくちがう	12	.4	.4	100.0
		合計	3041	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計		3044	100.0		

問27-3. 動物が苦しんでいるのをみると、とてもかわいそうになる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	1319	42.9	43.0	43.0
		自分にまあまああてはまる	1019	33.1	33.2	76.2
		あてはまるかどうかわからない	527	17.1	17.2	93.4
		自分とはかなりちがう	116	3.8	3.8	97.2
		自分とはまったくちがう	86	2.8	2.8	100.0
		合計	3067	99.7	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	6	.2		
		合計	8	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	1905	62.6	62.7	62.7
		自分にまあまああてはまる	812	26.7	26.7	89.5
		あてはまるかどうかわからない	261	8.6	8.6	98.1
		自分とはかなりちがう	40	1.3	1.3	99.4
		自分とはまったくちがう	19	.6	.6	100.0
		合計	3037	99.8	100.0	
	欠損値	不明	3	.1		
		システム欠損値	4	.1		
		合計	7	.2		
	合計		3044	100.0		

問27-4. ひとりぼっちのお年寄りをみると、何か手伝いたい気がする(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	664	21.6	21.6	21.6
		自分にまあまああてはまる	1018	33.1	33.2	54.8
		あてはまるかどうかわからない	1027	33.4	33.5	88.3
		自分とはかなりちがう	212	6.9	6.9	95.2
		自分とはまったくちがう	147	4.8	4.8	100.0
		合計	3068	99.8	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	6	.2		
		合計	7	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	1079	35.4	35.5	35.5
		自分にまあまああてはまる	1122	36.9	36.9	72.4
		あてはまるかどうかわからない	699	23.0	23.0	95.4
		自分とはかなりちがう	99	3.3	3.3	98.6
		自分とはまったくちがう	42	1.4	1.4	100.0
		合計	3041	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	3	.1		
	合計		3044	100.0		

問27-5. 冷たくされている人を見ると、冷たくしている人に対して非常に腹が立つ(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	628	20.4	20.5	20.5
		自分にまあまああてはまる	913	29.7	29.7	50.2
		あてはまるかどうかわからない	1157	37.6	37.7	87.9
		自分とはかなりちがう	228	7.4	7.4	95.3
		自分とはまったくちがう	144	4.7	4.7	100.0
		合計	3070	99.8	100.0	
	欠損	システム欠損値	5	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	889	29.2	29.3	29.3
		自分にまあまああてはまる	1085	35.6	35.7	65.0
		あてはまるかどうかわからない	866	28.4	28.5	93.5
		自分とはかなりちがう	139	4.6	4.6	98.1
		自分とはまったくちがう	59	1.9	1.9	100.0
		合計	3038	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.2		
		不明	1	.0		
		合計	6	.2		
	合計		3044	100.0		

問27-6. みんなの中で、ひとりぼっちでいる人を見ると、かわいそうになる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	614	20.0	20.0	20.0
		自分にまあまああてはまる	1009	32.8	32.9	53.0
		あてはまるかどうかわからない	1029	33.5	33.6	86.5
		自分とはかなりちがう	223	7.3	7.3	93.8
		自分とはまったくちがう	190	6.2	6.2	100.0
		合計	3065	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	986	32.4	32.5	32.5
		自分にまあまああてはまる	1153	37.9	38.0	70.4
		あてはまるかどうかわからない	691	22.7	22.8	93.2
		自分とはかなりちがう	132	4.3	4.3	97.5
		自分とはまったくちがう	75	2.5	2.5	100.0
		合計	3037	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計		3044	100.0		

問27-7. 小さい子どもはよく泣くがかわいい(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	自分によくあてはまる	854	27.8	27.8	27.8
		自分にまあまああてはまる	743	24.2	24.2	52.1
		あてはまるかどうかわからない	844	27.4	27.5	79.6
		自分とはかなりちがう	300	9.8	9.8	89.3
		自分とはまったくちがう	327	10.6	10.7	100.0
		合計	3068	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	自分によくあてはまる	1371	45.0	45.1	45.1
		自分にまあまああてはまる	774	25.4	25.5	70.6
		あてはまるかどうかわからない	495	16.3	16.3	86.8
		自分とはかなりちがう	211	6.9	6.9	93.8
		自分とはまったくちがう	189	6.2	6.2	100.0
		合計	3040	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計		3044	100.0		

問28-1. 列に並んでいて、急いでいる人のために順番をゆずる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	220	7.2	7.2	7.2
		たぶんする	923	30.0	30.1	37.3
		できるかどうかわからない	910	29.6	29.7	66.9
		おそらくしない	672	21.9	21.9	88.8
		ぜったいしない	342	11.1	11.2	100.0
		合計	3067	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	8	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	252	8.3	8.3	8.3
		たぶんする	1198	39.4	39.4	47.7
		できるかどうかわからない	974	32.0	32.0	79.7
		おそらくしない	484	15.9	15.9	95.7
		ぜったいしない	132	4.3	4.3	100.0
		合計	3040	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計		3044	100.0		

問28-2. ころんだ子どもをおこしてあげる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	454	14.8	14.8	14.8
		たぶんする	1131	36.8	36.9	51.7
		できるかどうかわからない	868	28.2	28.3	80.0
		おそらくしない	437	14.2	14.2	94.2
		ぜったいしない	177	5.8	5.8	100.0
		合計	3067	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	8	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	793	26.1	26.1	26.1
		たぶんする	1306	42.9	43.0	69.1
		できるかどうかわからない	670	22.0	22.0	91.1
		おそらくしない	221	7.3	7.3	98.4
		ぜったいしない	49	1.6	1.6	100.0
		合計	3039	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計		3044	100.0		

問28-3. 気分の悪くなった友だちを保健室につれていく(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	544	17.7	17.7	17.7
		たぶんする	1462	47.5	47.7	65.4
		できるかどうかわからない	721	23.4	23.5	88.9
		おそらくしない	244	7.9	8.0	96.9
		ぜったいしない	95	3.1	3.1	100.0
		合計	3066	99.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	8	.3		
		合計	9	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	1439	47.3	47.4	47.4
		たぶんする	1310	43.0	43.2	90.6
		できるかどうかわからない	214	7.0	7.1	97.7
		おそらくしない	60	2.0	2.0	99.6
		ぜったいしない	11	.4	.4	100.0
		合計	3034	99.7	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	8	.3		
		合計	10	.3		
	合計		3044	100.0		

問28-4. 乗り物でお年寄りが網棚に荷物をあげるのを手伝う(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	414	13.5	13.5	13.5
		たぶんする	931	30.3	30.4	43.9
		できるかどうかわからない	1092	35.5	35.6	79.5
		おそらくしない	462	15.0	15.1	94.5
		ぜったいしない	168	5.5	5.5	100.0
		合計	3067	99.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	7	.2		
		合計	8	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	544	17.9	17.9	17.9
		たぶんする	1047	34.4	34.4	52.3
		できるかどうかわからない	1147	37.7	37.7	90.1
		おそらくしない	262	8.6	8.6	98.7
		ぜったいしない	40	1.3	1.3	100.0
		合計	3040	99.9	100.0	
	欠損	システム欠損値	4	.1		
	合計		3044	100.0		

問28-5. 落ち込んでいる友だちにメールしたり、声をかけたりする(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	714	23.2	23.3	23.3
		たぶんする	1252	40.7	40.8	64.1
		できるかどうかわからない	710	23.1	23.2	87.3
		おそらくしない	258	8.4	8.4	95.7
		ぜったいしない	132	4.3	4.3	100.0
		合計	3066	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	1468	48.2	48.3	48.3
		たぶんする	1179	38.7	38.8	87.1
		できるかどうかわからない	272	8.9	9.0	96.1
		おそらくしない	93	3.1	3.1	99.1
		ぜったいしない	26	.9	.9	100.0
		合計	3038	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計		3044	100.0		

問28-6. 優先席に座っているとき、立っているお年寄りがいたら席をゆずる (SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	980	31.9	31.9	31.9
		たぶんする	1111	36.1	36.2	68.2
		できるかどうかわからない	719	23.4	23.4	91.6
		おそらくしない	183	6.0	6.0	97.6
		ぜったいしない	75	2.4	2.4	100.0
		合計	3068	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	1255	41.2	41.3	41.3
		たぶんする	1072	35.2	35.3	76.6
		できるかどうかわからない	604	19.8	19.9	96.4
		おそらくしない	87	2.9	2.9	99.3
		ぜったいしない	21	.7	.7	100.0
		合計	3039	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計		3044	100.0		

問28-7. 何か探しものをしている人には、こちらから声をかける(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	必ずする	206	6.7	6.7	6.7
		たぶんする	580	18.9	18.9	25.6
		できるかどうかわからない	1250	40.7	40.7	66.3
		おそらくしない	701	22.8	22.8	89.2
		ぜったいしない	332	10.8	10.8	100.0
		合計	3069	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計		3075	100.0		
女	有効	必ずする	250	8.2	8.2	8.2
		たぶんする	797	26.2	26.2	34.5
		できるかどうかわからない	1304	42.8	42.9	77.4
		おそらくしない	554	18.2	18.2	95.6
		ぜったいしない	134	4.4	4.4	100.0
		合計	3039	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計		3044	100.0		

問29. あなたが今、「一番強くストレスを感じていること」は何ですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	友人のこと	252	8.2	8.6	8.6
		先生のこと	123	4.0	4.2	12.8
		親のこと	175	5.7	6.0	18.8
		勉強のこと	909	29.6	31.1	49.9
		部活のこと	514	16.7	17.6	67.5
		その他	294	9.6	10.1	77.6
		ストレスはない	656	21.3	22.4	100.0
		合計	2923	95.1	100.0	
	欠損値	不明	124	4.0		
		システム欠損値	28	.9		
		合計	152	4.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	友人のこと	506	16.6	17.5	17.5
		先生のこと	81	2.7	2.8	20.3
		親のこと	203	6.7	7.0	27.3
		勉強のこと	890	29.2	30.8	58.1
		部活のこと	431	14.2	14.9	73.0
		その他	422	13.9	14.6	87.6
		ストレスはない	358	11.8	12.4	100.0
		合計	2891	95.0	100.0	
	欠損値	不明	128	4.2		
		システム欠損値	25	.8		
		合計	153	5.0		
	合計		3044	100.0		

付問29)-1. 今の状況を変えるように努力する(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	479	15.6	20.2	20.2
		ときどきそうする	859	27.9	36.2	56.3
		たまにする	691	22.5	29.1	85.4
		まったくしない	346	11.3	14.6	100.0
		合計	2375	77.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	700	22.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	496	16.3	18.8	18.8
		ときどきそうする	1058	34.8	40.2	59.0
		たまにする	781	25.7	29.6	88.6
		まったくしない	300	9.9	11.4	100.0
		合計	2635	86.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	409	13.4		
	合計		3044	100.0		

付問29)-2. 何もしないでじっと待つ(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	332	10.8	14.1	14.1
		ときどきそうする	583	19.0	24.8	38.9
		たまにする	853	27.7	36.3	75.1
		まったくしない	585	19.0	24.9	100.0
		合計	2353	76.5	100.0	
	欠損	システム欠損値	722	23.5		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	321	10.5	12.3	12.3
		ときどきそうする	696	22.9	26.6	38.9
		たまにする	1055	34.7	40.3	79.2
		まったくしない	544	17.9	20.8	100.0
		合計	2616	85.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	426	14.0		
		不明	2	.1		
		合計	428	14.1		
	合計		3044	100.0		

付問29)-3. 自分で自分をはげます(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	240	7.8	10.2	10.2
		ときどきそうする	493	16.0	20.9	31.1
		たまにする	660	21.5	28.0	59.2
		まったくしない	962	31.3	40.8	100.0
		合計	2355	76.6	100.0	
	欠損	システム欠損値	720	23.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	376	12.4	14.3	14.3
		ときどきそうする	716	23.5	27.3	41.6
		たまにする	770	25.3	29.4	71.0
		まったくしない	761	25.0	29.0	100.0
		合計	2623	86.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	419	13.8		
		不明	2	.1		
		合計	421	13.8		
	合計		3044	100.0		

付問29)-4. まわりの人にやつあたりする(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	91	3.0	3.9	3.9
		ときどきそうする	281	9.1	11.9	15.8
		たまにする	771	25.1	32.8	48.6
		まったくしない	1211	39.4	51.4	100.0
		合計	2354	76.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	720	23.4		
		合計	721	23.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	91	3.0	3.5	3.5
		ときどきそうする	466	15.3	17.8	21.2
		たまにする	1067	35.1	40.7	61.9
		まったくしない	1000	32.9	38.1	100.0
		合計	2624	86.2	100.0	
	欠損	システム欠損値	420	13.8		
	合計		3044	100.0		

付問29)-5. 他にいいことがあると考えるようにする(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	500	16.3	21.2	21.2
		ときどきそうする	705	22.9	29.9	51.1
		たまにする	645	21.0	27.3	78.4
		まったくしない	510	16.6	21.6	100.0
		合計	2360	76.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	715	23.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	543	17.8	20.7	20.7
		ときどきそうする	853	28.0	32.5	53.3
		たまにする	763	25.1	29.1	82.4
		まったくしない	462	15.2	17.6	100.0
		合計	2621	86.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	423	13.9		
	合計		3044	100.0		

付問29)-6. あきらめる(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	346	11.3	14.7	14.7
		ときどきそうする	481	15.6	20.4	35.1
		たまにする	805	26.2	34.1	69.2
		まったくしない	727	23.6	30.8	100.0
		合計	2359	76.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	716	23.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	399	13.1	15.2	15.2
		ときどきそうする	598	19.6	22.8	38.0
		たまにする	1022	33.6	38.9	76.9
		まったくしない	605	19.9	23.1	100.0
		合計	2624	86.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	420	13.8		
	合計		3044	100.0		

付問29)-7. ものをこわす(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	101	3.3	4.3	4.3
		ときどきそうする	175	5.7	7.4	11.7
		たまにする	409	13.3	17.3	29.1
		まったくしない	1673	54.4	70.9	100.0
		合計	2358	76.7	100.0	
	欠損	システム欠損値	717	23.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	75	2.5	2.9	2.9
		ときどきそうする	178	5.8	6.8	9.7
		たまにする	372	12.2	14.2	23.9
		まったくしない	1995	65.5	76.1	100.0
		合計	2620	86.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	423	13.9		
		不明	1	.0		
		合計	424	13.9		
	合計		3044	100.0		

付問29)-8. 他の人に話を聞いてもらう(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	いつもそうする	361	11.7	15.3	15.3
		ときどきそうする	619	20.1	26.2	41.5
		たまにする	681	22.1	28.9	70.4
		まったくしない	698	22.7	29.6	100.0
		合計	2359	76.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	716	23.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	いつもそうする	919	30.2	35.0	35.0
		ときどきそうする	823	27.0	31.3	66.3
		たまにする	563	18.5	21.4	87.7
		まったくしない	324	10.6	12.3	100.0
		合計	2629	86.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	415	13.6		
	合計		3044	100.0		

問30. あなたは自分の人生に満足していますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	満足している	882	28.7	30.0	30.0
		できればやり直したい	1276	41.5	43.4	73.4
		わからない	783	25.5	26.6	100.0
		合計	2941	95.6	100.0	
	欠損値	不明	55	1.8		
		システム欠損値	79	2.6		
		合計	134	4.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	満足している	734	24.1	25.0	25.0
		できればやり直したい	1443	47.4	49.2	74.2
		わからない	757	24.9	25.8	100.0
		合計	2934	96.4	100.0	
	欠損値	不明	36	1.2		
		システム欠損値	74	2.4		
		合計	110	3.6		
	合計		3044	100.0		

付問30-2)-1. 人生をやり直せるとしたら、いつに戻りたいですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	小学校に入る前	224	7.3	17.7	17.7
		小学校1-2年	133	4.3	10.5	28.2
		小学校3-4年	149	4.8	11.8	39.9
		小学校5-6年	150	4.9	11.8	51.8
		中学校	611	19.9	48.2	100.0
		合計	1267	41.2	100.0	
	欠損	システム欠損値	1808	58.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	小学校に入る前	298	9.8	21.1	21.1
		小学校1-2年	120	3.9	8.5	29.5
		小学校3-4年	127	4.2	9.0	38.5
		小学校5-6年	195	6.4	13.8	52.3
		中学校	675	22.2	47.7	100.0
		合計	1415	46.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1627	53.4		
		不明	2	.1		
		合計	1629	53.5		
	合計		3044	100.0		

問31. 本当に信頼できると思える友達がいますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	以前も現在もいる	2207	71.8	73.6	73.6
		以前はいなかったが、現在はいる	148	4.8	4.9	78.5
		以前はいたが現在はいない	178	5.8	5.9	84.4
		これまで、そのように思える友だちに出会わなかった	119	3.9	4.0	88.4
		わからない	348	11.3	11.6	100.0
		合計	3000	97.6	100.0	
	欠損値	不明	56	1.8		
		システム欠損値	19	.6		
		合計	75	2.4		
	合計		3075	100.0		
女	有効	以前も現在もいる	2276	74.8	76.0	76.0
		以前はいなかったが、現在はいる	221	7.3	7.4	83.4
		以前はいたが現在はいない	133	4.4	4.4	87.8
		これまで、そのように思える友だちに出会わなかった	82	2.7	2.7	90.6
		わからない	283	9.3	9.4	100.0
		合計	2995	98.4	100.0	
	欠損値	不明	38	1.2		
		システム欠損値	11	.4		
		合計	49	1.6		
	合計		3044	100.0		

付問31-3） いたのはいつでしたか？(MA)

		度数	列 %
男	付問31-3).1. 小学校	31	19.3%
	付問31-3).2. 中学校	51	31.7%
	付問31-3).3. 小学校と中学校	73	45.3%
	付問31-3).4. 高校1年	7	4.3%
	付問31-3).5. それ以外	2	1.2%
	合計	161	100.0%
女	付問31-3).1. 小学校	17	13.5%
	付問31-3).2. 中学校	45	35.7%
	付問31-3).3. 小学校と中学校	51	40.5%
	付問31-3).4. 高校1年	11	8.7%
	付問31-3).5. それ以外	2	1.6%
	合計	126	100.0%

問32. 信頼できる先生がいますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	以前も現在もいる	1010	32.8	33.5	33.5
		以前はいなかったが、現在はいる	148	4.8	4.9	38.4
		以前はいたが現在はいない	626	20.4	20.7	59.1
		これまで、そのように思える先生に出会わなかった	472	15.3	15.6	74.8
		わからない	762	24.8	25.2	100.0
		合計	3018	98.1	100.0	
	欠損値	不明	39	1.3		
		システム欠損値	18	.6		
		合計	57	1.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	以前も現在もいる	946	31.1	31.4	31.4
		以前はいなかったが、現在はいる	177	5.8	5.9	37.3
		以前はいたが現在はいない	767	25.2	25.5	62.8
		これまで、そのように思える先生に出会わなかった	411	13.5	13.7	76.4
		わからない	709	23.3	23.6	100.0
		合計	3010	98.9	100.0	
	欠損値	不明	20	.7		
		システム欠損値	14	.5		
		合計	34	1.1		
	合計		3044	100.0		

付問32-3） いたのはいつでしたか？(MA)

		度数	列 %
男	付問32-3).1. 小学校	95	17.1%
	付問32-3).2. 中学校	303	54.5%
	付問32-3).3. 小学校と中学校	151	27.2%
	付問32-3).4. 高校1年	15	2.7%
	付問32-3).5. それ以外	9	1.6%
	合計	556	100.0%
女	付問32-3).1. 小学校	117	16.1%
	付問32-3).2. 中学校	391	53.9%
	付問32-3).3. 小学校と中学校	203	28.0%
	付問32-3).4. 高校1年	32	4.4%
	付問32-3).5. それ以外	1	.1%
	合計	726	100.0%

問33. あなたのことを本気で心配してくれる先生がいますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	以前も現在もいる	739	24.0	24.4	24.4
		以前はいなかったが、現在はいる	98	3.2	3.2	27.7
		以前はいたが現在はいない	382	12.4	12.6	40.3
		これまで、そのように思える先生に出会わなかった	333	10.8	11.0	51.3
		わからない	1474	47.9	48.7	100.0
		合計	3026	98.4	100.0	
	欠損値	不明	23	.7		
		システム欠損値	26	.8		
		合計	49	1.6		
	合計		3075	100.0		
女	有効	以前も現在もいる	699	23.0	23.3	23.3
		以前はいなかったが、現在はいる	101	3.3	3.4	26.6
		以前はいたが現在はいない	460	15.1	15.3	42.0
		これまで、そのように思える先生に出会わなかった	310	10.2	10.3	52.3
		わからない	1433	47.1	47.7	100.0
		合計	3003	98.7	100.0	
	欠損値	不明	27	.9		
		システム欠損値	14	.5		
		合計	41	1.3		
	合計		3044	100.0		

付問33-3） いたのはいつでしたか？（MA）

			度数	列 %
男		付問33-3).1. 小学校	48	14.7%
		付問33-3).2. 中学校	178	54.4%
		付問33-3).3. 小学校と中学校	101	30.9%
		付問33-3).4. 高校1年	10	3.1%
		付問33-3).5. それ以外	2	.6%
		合計	327	100.0%
女		付問33-3).1. 小学校	48	11.4%
		付問33-3).2. 中学校	237	56.4%
		付問33-3).3. 小学校と中学校	128	30.5%
		付問33-3).4. 高校1年	16	3.8%
		付問33-3).5. それ以外	1	.2%
		合計	420	100.0%

問34. これまで先生から言われたことで心に残っていることは何ですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	心に残っていることがある	602	19.6	19.9	19.9
		覚えていない	2418	78.6	80.1	100.0
		合計	3020	98.2	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	54	1.8		
		合計	55	1.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	心に残っていることがある	838	27.5	28.0	28.0
		覚えていない	2154	70.8	72.0	100.0
		合計	2992	98.3	100.0	
	欠損値	不明	3	.1		
		システム欠損値	49	1.6		
		合計	52	1.7		
	合計		3044	100.0		

問35. これまで先生からしてもらったことで一番感謝していることは何ですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	感謝していることがある	680	22.1	22.5	22.5
		覚えていない	2345	76.3	77.5	100.0
		合計	3025	98.4	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	48	1.6		
		合計	50	1.6		
	合計		3075	100.0		
女	有効	感謝していることがある	1092	35.9	36.5	36.5
		覚えていない	1903	62.5	63.5	100.0
		合計	2995	98.4	100.0	
	欠損値	不明	6	.2		
		システム欠損値	43	1.4		
		合計	49	1.6		
	合計		3044	100.0		

問36. 本当に困ったとき、あなたのことを守ってくれる大人がいますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	以前も現在もいる	1708	55.5	56.3	56.3
		以前はいなかったが、現在はいる	42	1.4	1.4	57.7
		以前はいたが現在はいない	34	1.1	1.1	58.8
		これまで、そのように思える大人がいなかった	189	6.1	6.2	65.0
		わからない	1061	34.5	35.0	100.0
		合計	3034	98.7	100.0	
	欠損値	不明	20	.7		
		システム欠損値	21	.7		
		合計	41	1.3		
	合計		3075	100.0		
女	有効	以前も現在もいる	2006	65.9	66.6	66.6
		以前はいなかったが、現在はいる	60	2.0	2.0	68.6
		以前はいたが現在はいない	42	1.4	1.4	70.0
		これまで、そのように思える大人がいなかった	131	4.3	4.3	74.3
		わからない	773	25.4	25.7	100.0
		合計	3012	98.9	100.0	
	欠損値	不明	13	.4		
		システム欠損値	19	.6		
		合計	32	1.1		
	合計		3044	100.0		

付問36-3) いたのはいつでしたか？(MA)

			度数	列 %
	男	付問36-3).1. 小学校	4	13.3%
		付問36-3).2. 中学校	10	33.3%
		付問36-3).3. 小学校と中学校	14	46.7%
		付問36-3).4. 高校1年	2	6.7%
		付問36-3).5. それ以外	0	.0%
		合計	30	100.0%
	女	付問36-3).1. 小学校	5	14.3%
		付問36-3).2. 中学校	17	48.6%
		付問36-3).3. 小学校と中学校	8	22.9%
		付問36-3).4. 高校1年	3	8.6%
		付問36-3).5. それ以外	2	5.7%
		合計	35	100.0%

問37. 保護者と一緒に行動しますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	よく一緒に行動する	220	7.2	7.2	7.2
		かなり一緒に行動する	260	8.5	8.5	15.7
		ときどき一緒に行動する	1527	49.7	49.9	65.6
		あまり一緒に行動しない	796	25.9	26.0	91.7
		まったく一緒に行動しない	255	8.3	8.3	100.0
		合計	3058	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	17	.6		
	合計		3075	100.0		
女	有効	よく一緒に行動する	891	29.3	29.4	29.4
		かなり一緒に行動する	474	15.6	15.6	45.0
		ときどき一緒に行動する	1313	43.1	43.3	88.3
		あまり一緒に行動しない	288	9.5	9.5	97.8
		まったく一緒に行動しない	67	2.2	2.2	100.0
		合計	3033	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.4		
	合計		3044	100.0		

問38. 保護者と口げんかをすることがありますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	よくある	437	14.2	14.3	14.3
		かなりある	326	10.6	10.7	25.0
		ときどきある	1199	39.0	39.2	64.2
		あまりない	765	24.9	25.0	89.2
		まったくない	330	10.7	10.8	100.0
		合計	3057	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	18	.6		
	合計		3075	100.0		
女	有効	よくある	792	26.0	26.1	26.1
		かなりある	329	10.8	10.8	36.9
		ときどきある	1153	37.9	38.0	75.0
		あまりない	581	19.1	19.1	94.1
		まったくない	179	5.9	5.9	100.0
		合計	3034	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.3		
	合計		3044	100.0		

問39. 保護者を信頼していますか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	とても信頼している	827	26.9	27.1	27.1
		かなり信頼している	702	22.8	23.0	50.1
		まあまあ信頼している	1172	38.1	38.4	88.4
		あまり信頼していない	231	7.5	7.6	96.0
		まったく信頼していない	122	4.0	4.0	100.0
		合計	3054	99.3	100.0	
	欠損値	不明	1	.0		
		システム欠損値	20	.7		
		合計	21	.7		
	合計		3075	100.0		
女	有効	とても信頼している	1190	39.1	39.3	39.3
		かなり信頼している	621	20.4	20.5	59.8
		まあまあ信頼している	940	30.9	31.0	90.8
		あまり信頼していない	219	7.2	7.2	98.0
		まったく信頼していない	60	2.0	2.0	100.0
		合計	3030	99.5	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	12	.4		
		合計	14	.5		
	合計		3044	100.0		

問40. これまで保護者から言われたことで心に残っていることは何ですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	心に残っていることがある	421	13.7	13.9	13.9
		覚えていない	2599	84.5	86.1	100.0
		合計	3020	98.2	100.0	
	欠損値	不明	4	.1		
		システム欠損値	51	1.7		
		合計	55	1.8		
	合計		3075	100.0		
女	有効	心に残っていることがある	859	28.2	28.9	28.9
		覚えていない	2110	69.3	71.1	100.0
		合計	2969	97.5	100.0	
	欠損値	不明	4	.1		
		システム欠損値	71	2.3		
		合計	75	2.5		
	合計		3044	100.0		

問41. これまで保護者からしてもらったことで一番感謝していることは何ですか？(SA)

問1. あなたの性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男	有効	感謝していることがある	914	29.7	30.3	30.3
		覚えていない	2102	68.4	69.7	100.0
		合計	3016	98.1	100.0	
	欠損値	不明	7	.2		
		システム欠損値	52	1.7		
		合計	59	1.9		
	合計		3075	100.0		
女	有効	感謝していることがある	1417	46.6	47.6	47.6
		覚えていない	1558	51.2	52.4	100.0
		合計	2975	97.7	100.0	
	欠損値	不明	5	.2		
		システム欠損値	64	2.1		
		合計	69	2.3		
	合計		3044	100.0		

Ⅴ　「子どもたちの心とその背景」
－高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方－
に関するシンポジウム開催地区報告

本年度の「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」事業は、「子どもたちの心とその背景」をテーマとして、京都大学大学院医学研究科准教授木原雅子医学博士を中心に調査・分析が行われた。また、５地区でこれに係るシンポジウムを開催したが、基調講演は全て木原雅子准教授であった。

そこで、北海道地区が「基調講演」の全容を報告し、他地区は、その要旨を報告するかもしくは「シンポジウム」「パネルディスカッション」のみを報告することを打ち合わせ、調整した。

ここに掲載する各地区の報告について、以上のようにご理解いただきたい。

1　北海道地区（函館）

～子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業～

北海道地区シンポジウム

「子どもたちの心とその背景」

－高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方－

日　　時　平成21年11月14日（土）13：30～
会　　場　マリエール函館　　函館市梁川町２－８
主　　催　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
主　　管　北海道高等学校ＰＴＡ連合会
　　北海道高等学校ＰＴＡ連合会道南支部
後　　援　北海道教育委員会
　　北海道高等学校長協会
　　函館市教育委員会
主管校　北海道函館稜北高等学校

次　　第

◇　開会・日程説明
◇　主催者挨拶
　（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長　　相川順子
　（青森県高等学校ＰＴＡ連合会会長）
◇　主管支部挨拶
　北海道高等学校ＰＴＡ連合会道南支部長　　岩島隆幸
　（北海道函館稜北高等学校ＰＴＡ会長）
◇　祝　　辞
　北海道高等学校長協会副会長　　辻　敏裕　様
　（北海道札幌南高等学校長）
◇　講　　演
・講師紹介
　全国高等学校ＰＴＡ連合会健全育成副委員長　　孫竹昌幸
　（北海道高等学校ＰＴＡ連合会副会長）
・講師
　京都大学大学院医学研究科准教授　　木原雅子　氏
・質疑応答
◇　謝辞・閉会挨拶
・主管校
　北海道函館稜北高等学校長　　竹内和男
◇　閉会・事務連絡

〈 主 催 者 挨 拶 〉

社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長　**相　川　順　子**

ただいま紹介をいただきました社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長の相川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本来であればそちらに座っております髙間会長が全国の会長として、このご当地でご挨拶をするところでありますが、今年度、このシンポジウム全国５ヶ所で開催されると聞き、三役でどこをどう挨拶で回らせていただくかというお話のときに、髙間会長から、自分のところよりも函館は青森に近いから、行って挨拶をするようにとお話をいただき、言葉の裏には髙間会長の役員を育てる温かい気持ちと激励が込められているというふうに勝手に解釈をしまして、喜んで函館の地に来させていただきました。ということで、私が代役を務めさせていただくことになりました。おとなり青森県高等学校ＰＴＡの会長をしております。そして今年度髙間会長を補佐するという立場になりました副会長の私の方からご挨拶をさせていただきたいと思います。

本日の北海道地区シンポジウム開催にあたりまして、北海道高等学校長協会の副会長であります、北海道札幌南高等学校の辻校長先生をはじめ、ご来賓の皆様に公務ご多用のところご臨席をいただきまして誠にありがとうございます。そしてまた、多数の会員の皆様にもこうしてご参加いただきましたことに改めて御礼を申し上げたいと思っております。

さて、本日のシンポジウムですけれど、皆さんご存知と思いますが、全高Ｐ連の健全育成委員会が中心となってこの事業を展開しております。

この子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業というのは、平成18年度から３ヵ年計画で独立行政法人の福祉医療機構の補助事業として実施されましたが、昨年（20年度）からは、文科省の委託事業として行われてきました。

18年度は『見えない暴力・ことば・態度が人間関係に与える影響』を主題として調査を実施して、また19年度は『デジタル社会における子どもの健全育成』の調査研究を行いました。

昨年20年度は３年間の締めくくりとして『親は子どもに何を伝えていくか、どう伝えていくか』ということに関してアンケート調査を実施しまして、親子関係や人間関係のあるべき姿という形で提言をさせていただいております。

今年度に関しましては、この事業を継続して、高校生の生活やその背景を探求して、保護者や子どもたちをどう支援すればよいかということで、そのあり方を研究して情報提供を行うということで調査研究と共に全国５ヶ所でシンポジウムを開催することになりました。

本日は、この事業に長年尽力をくださっております木原雅子先生に『子どもたちの心とその背景―高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方―』と題して、ご講演を賜ることになっております。

先生には大変ご多忙なスケジュール中にありましたけれども、快くお引き受けくださり本当に感謝申し上げたいと思います。先生どうぞよろしくお願いいたします。

いま、18年度からの事業をお話しましたけれども、この事業の報告書は毎年発行されておりますので、木原先生の調査報告をお読みくださっている方もたくさんいらっしゃるかと思います。

昨年の第２回の全国高Ｐ連の総会の場でも、20年度の全国高校生生活・意識調査を踏まえまして先生の方からご講演を頂戴いたしました。その中で木原

先生は、親を含む大人との信頼関係の欠如が、子どもたちのやる気のなさ、孤独感など不健康な精神状態につながっていって、それが最終的には、様々な問題行動として表れ、密接に関係しているのではないかということを報告されております。

また、子どもたちの未来は私たち大人に掛かっているとそのようなお話で最後締めくくっておられましたけれども、私もそれを聞いて全く同感でございます。

親子の姿を１本の大きな木に例えるとします。私は津軽だったら、１本の大きなリンゴの木に例えるとすれば、親は深く広くじっくりと根を張ることで、子どもたちは立派な若葉をつけて、立派な大きなリンゴを付けてくれると信じております。そして、その大きな木に水をやったり、栄養をやったり、見守り続ける役目がＰＴＡ活動ではないかなというふうに思って、私は活動してきております。

１本１本の大きな木をそれぞれの地区から活動を広げて増やしていくことで、私たちは子どもたちが自分たちの夢を叶えるために支援していくことができるのではないかなと思っております。

いろいろな会議で髙間会長は、自分たちの活動は子どもたちの応援団だという話を熱く語ってくれます。

私も同様にＰＴＡは、子どもたちの最高の応援だという風に思っております。そういうことを念頭にして活動してまいりました。私たちは何よりも子どもたちの夢を叶えるために、これからも最高の応援団として活動していかなければならないと思っております。

そして全高Ｐ連としましても、各ＰＴＡや保護者の皆様をこれからも支援していかなければならないというふうに思っておりますので、どうぞ今後とも全高Ｐ連に皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本日のシンポジウムの開催にあたりまして、大変お世話になりました主管高校であります函館稜北高校の竹内校長先生はじめ役員・事務局の皆様方また北海道高等学校ＰＴＡ連合会事務局や役員の皆様方そして道南支部の皆様、本日の準備大変ご苦労さまでございました。

皆様方に感謝を申し上げますとともに、本日ご出席いただきました皆様とともにシンポジウムを通しまして、私たち保護者としてのあり方について、多くのことを学び得ることをご祈念申し上げまして挨拶といたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〈　講　　演　〉

高　校　生　の　現　状

－平成21年高校生全国調査結果から－
～ＷＹＳＨプロジェクトの事例紹介～

京都大学大学院医学研究科社会疫学分野准教授　**木　原　雅　子**

皆さんこんにちは。

京都大学の木原雅子です。

今年は、高等学校ＰＴＡ連合会の全地区のシンポジウムでお話させていただくことになりまして、ここ北海道のシンポジウムにもお招きいただく機会をいただきました。ありがとうございます。

私、講演をする機会が最近多いのですが、先ほど孫竹副会長のご紹介にもありましたように、本来は、研究室の中で静かに試験管を振るのが私の本来の仕事でしたので、人前で話すことは未だに

あまり得意な方ではありません。ただ、調査結果を知っている人間として、それを自分の中だけに留めるということは、絶対にやってはいけないことだと思いますので、うまくお話できるかどうかわかりませんが、本日は、平成21年高校生全国調査の調査結果と、それに基づいてどんな取り組みの方向性があるのかということについてお話させていただきたいと思います。

本題に入る前に、ここで私の話を少しだけさせていただきます。もともとは、30年間くらい実験方面の研究者をしていましたので、まだ未熟なところだらけですが、研究者としては長い経験をさせていただきました。

なぜ私が研究者を選んだのかといいますと、それは、人との接触が苦手で、人前に出るのもあまり得意ではなかったからです。小学校の一年生のときは、１年間一言も口を利きませんでした。口を利かないのではなく利けなかったんですね。それで、通知表にはいつも、少しでも発言ができるように保護者の方からきちんと声かけをしてくださいという先生からのコメントをもらっていました。そういった人間ですから、こうやって皆さんとやり取りするのはとても苦手です。ですから、毎回原稿をいっぱい準備します。今回もこんなにたくさん原稿を準備してきました。そういうわけで、不得意ではありますが、自分の使命としてがんばってご説明しようと思います。

それでは、色々な話に入る前に、今日の講演のテーマについてお話させていただきます。

本日のテーマは、『子どもたちの心とその背景』となっていますが、内容としては、まず、今回の調査結果から見えてきたこと、つまり、やる気や目標を失った高校生の現状、「ヤル気ない、目標ない、授業分からない」という、いわば『３ない高校生』という感じの現状についてのお話をさせていただきます。

そして、その後で、今後どうしたらいいかということを皆様と一緒に考えてみたいと思います。私、大学でも講義をしますが、話を黙って受身に聞くというのは、お昼を食べた後では、絶対に眠たくなります。ですから、黙って聞いてもらうのではなく、皆様にも参加していただく、参加型でいきたいと思います。

先ずは、皆さんで話し合っていただきたいと思います。常日頃、高校生のお子さんと接していらっしゃるお立場、あるいはＰＴＡの役員として何か活動していらっしゃるお立場として、子どもさんたちのことで今一番気になっていることは何かということを話し合っていただきたいと思います。自分のお子さんのことでもかまいませんし、周囲の子どもさんのことでもかまいません。

それをお聴きした後に、調査結果をお話しますので、皆さんの身近な状況と調査結果が、どれだけ近いか、あるいはどれほど違うかを比較しながら、お聞きいただければと思います。それでは、後ろを向いて６人１組くらいに固まり、話し合いをしていただきたいと思います。話し合いに入るまえに、恐らく今日初めてお会いになられる方もいらっしゃると思うので、まず自己紹介を１分でしてください。１分を超えないようにしてくださいね。それから司会者と書記の方を決めていただいて、そして先ほど私が言ったように、それぞれの地域、あるいはそれぞれのご家庭において、あるいは皆様方が色々なところから聞いてらっしゃる、子どもたちに対して今気になっていることを話し合っていただきたいと思います。

それでは、グループを作ってください。よろしくお願いします。

《グループ討議・発表》

はい、それでは話し合いをストップしてください。

それでは、今話し合っていただいた内容を私にも教えていただきたいので、いくつかのグループから、今話し合ったことでグループで一番共通していたことを１つずつ、共通していたことがなければ、一番強かった意見というか、重みのあった意見を、１つずつくらい教えてください。

〇函館西高のＰＴＡですが、よろしくお願いします。我々のグループでは、ケータイ電話の高校生の使用についての話を少しいたしました。それで、国の方でも中学校・小学校では携帯電話の使用不可となっていますが、高校ではそういうことになっていない。そのことについて先生はいかがお考えですか。

木原：携帯電話の使用ですね。

小・中では学校によっての取決めがなされているけれど、高校ではまだそこまでなされていないということが話し合われたということですね。ありがとうございました。ご質問には、講演の中でお答えさせていただきます。

それでは、もう少しお聞きします。

〇私たちは、今の高校生ということで話をしました。偶然、職業高校・実業高校の保護者の方が固まって、目的があればその目的に向って職業高校の子ども達は伸びていく。小学校や中学校で褒められたことがなかったのに、今はそういった面で非常に伸びているという良いほうの話がされました。

木原：ありがとうございます。

実業高校であるということで、具体的な目的をもつことにより、小・中よりも良い方向に向いているのではないかとのご指摘でした。どうもありがとうございます。

それでは、今までのこととも重なっていたら、重なってもかまいません。何か気になっていることをお聞かせください。

〇私たちのグループは、今受験中の３年生のお母さん方が多かったので、その話が中心でした。受験でがんばって卒業して大学に行ったときに、今まで守られて一緒に生活していた生活から一人暮らしするのが心配だということ、中学校時代に学力差ができて、進学校に行く子、行かない子ができるが、勉強に対する親の考え方の差が学力に影響するのかなという話をちょっとしていました。

木原：ありがとうございます。

今のグループは受験を控えた高校生３年生の子どもさんをおもちの方たちで、大学に行って一人暮らしを始めてから、先のことを心配しているというところですね。それからあと、現実の学校生活の中で、親が受験勉強をどう応援していくかということで、いろいろ気になさっているということでした。

それでは、こちらの真ん中の薄茶のコートを着てらっしゃる女性の方。

〇私たちのグループは、たまたま受験生と１年生のお母さん５人というグループで話し合いました。皆さんのお子さんはどうですかという中で、学校の宿題とかに少しついていけない、ちょっとやるだけで大変。そして３年生にもかかわらず、やる気がないのか、勉強しないって感じで、先生のおっしゃるような、勉強しない、やる気がない、目標がないという、『３ない高校生』っていうんですか、それにぴったりということでした。初めからそんなやる気がない子どもだったわけでないと思うので、私たち親としてどういうふうにその子たちと接して、どう向き合ってやる気を起こさせたらいいだろうねというところで終わりました。まだ話し合いたかったと思います。

木原：お母様方５人のグループで高校１年生の入ったばかりの子どもさんもいらっしゃるし、高校３年生で本当に受験間際という方もいらっしゃるということで、今日たまたま私のつけたタイトルにぴったりというような感じで、とても心配されているというところですね。そして高校１年生の方に関しては宿題が出るけれどもそれになかなかついて行けない、あるいは勉強をあまりしないというようなことがある、ということですね。

私もどうしてこんなに勉強しないのかということが、今回の調査でとても気になったことでした。

では今度は、真ん中の前から２番目のグループの白いお洋服を着ていらっしゃる方よろしいですか。

〇私たちは中学校と高校の子どもをもつ親がグループになりました。それで、話題になったのは、最初のグループにありましたが、携帯電話のことですね。いつ頃持たせるかとか、持たせた後で気になることとか、そういったことを話し合いました。

木原：ありがとうございます。

中学校の保護者の方もおいでということで、ケータイをいつ頃持たせたらいいんだろうか、持たせたら後はどういうルールを作ったらいいんだろうか。色んなことが起こってきますので、それについて話し合い、気になっていることをお話いただきました。

私、今日は高等学校の保護者の方だけと理解していましたが、ちょっと違っていたようですね。教えていただきたいのですが。例えば高校の保護者の方であっても、中学校・小学校の保護者でもある方がいらしたら教えてください。中学校の保護者の方、どれくらいいらっしゃいますか？

（挙手を求める）

結構いらっしゃいますね。では、小学校の保護者の方、いらっしゃいますか？

（挙手を求める）

わかりました。高校だけだと頭から思っていたのですが、そうではないのですね。

それでは、あと１グループお聞きして、私の話に入っていきたいと思います。

〇**ケータイ**のことはやはり出ていました。あと何でも『ながら族』というか、音を聞きながらとか、テレビを見ながら勉強して、本当に集中できているのかどうか心配ですね。

あと携帯電話の使用がとても多いということで、ここに養護の先生がいらっしゃるんですが、生徒さんが一日に何回も使っているということで、とても気になるということでした。

木原：ありがとうございます。

やっぱりケータイは一杯出てきますね。今のグループでもケータイが出てきました。もう一つは『ながら族』という言葉が出てきました。本当に、『ながら族』ですよね。学校の行き帰りの高校生よくお会いします。お会いするというか、すれ違いですよね。みんな耳をふさいでいますので。それで自転車に乗っていますので、危なくないのかなと心配になります。後ろから他の自転車がリンリンと鳴らしても全然聞こえてなくて、もうわが道という感じ、全く自分の世界に入っているなと思います。なんか個室がそのまま外になったような感じで動いているように見えます。

本当は社会の中にいるはずなのに、なにか公の道路も全てが私の部屋。ですからどこに出てもお化粧もするし、なにかそういった全てが自分の部屋化しているのかなという感じがしていました。

では、いろいろ教えていただきましたので、回答はもちろんありませんが、なるべく皆様方が気にされていることにお答えできる形で、その現状を数値で表すとどうなるかを、調査結果に基づいてご報告していきたいと思います。

《調査結果の分析・報告》

まず、高校生の学習状況ですが、ここでもまず皆さんにお伺いしたいと思います。

ご自分の子どもさんが家に帰って、塾の時間も含めてですが、学校での授業以外にどれくらい勉強しているか、つまり家庭学習時間としてどれくらい時間を使っているか、皆さんはどう思っておられるのかお聞きしたいのですが。

まず、全然勉強していないと思われる保護者の方どれくらいいらっしゃいますか。

（挙手を求める）

少数ですね。14～15人でしょうか。これは少ないですね。

では１時間くらいはしているだろうという方。どれくらいいらっしゃいますか。

（挙手を求める）

20人くらいおられますかね。では、２時間くらいはしているだろうという方。

（挙手を求める）

これも少数ですね。では、３時間くらいはしているだろうという方。

（挙手を求める）

そこの方、絶対やっているぞと自信一杯に挙げていただきましたけど、勉強部屋にいる時間ではなく、勉強している時間をお聞きしています。大丈夫ですね？

３時間以上も20名以上いらっしゃいましたね。

では、最後に５時間とか６時間とか、ものすごく時間勉強しているぞという保護者の方。

（挙手を求める）

いらっしゃらないようですが、希望的観測でも構わないですよ。そう思うというだけでも構わないですけど。わかりました。

■高校生の学習状況

では、実際の子どもたちの学習状況をご報告することにいたします。

まず、学校から帰宅したあとに、どれくらい勉強をしているかを見てみましょう。

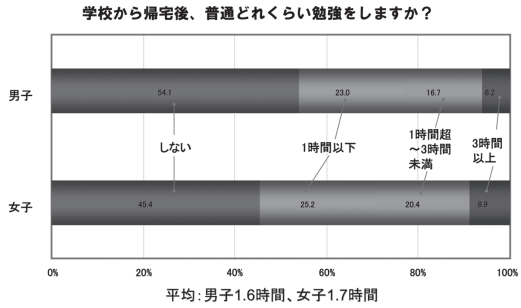
全くしない生徒（グラフの赤の部分）は、男子は半分を超す54％。女子も45％ですから、半分の高校生２年生たちは勉強を全くしていません。

ですから、部屋にこもっているイコール勉強ではないかもしれませんので、ちょっと気にしていただくのがいいのかも知れません。

次に、１時間以下、１時間から３時間、３時間と見ていくと、３時間を超える生徒なんて本当に少数ですね。

ですから、先ほど手を挙げていただきましたが、もしかしたらここに来ていらっしゃる保護者の子どもさんたちの勉強時間は、一般平均よりもだいぶ上の方か、もしくは過大評価されているのか、どっちかだと思います。

「帰宅後の学習時間」
「塾などでの勉強時間を含む」

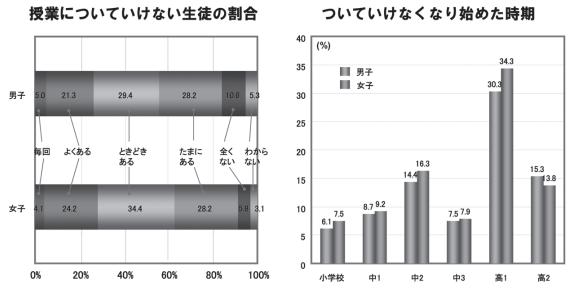


生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

平均しますと、男子は1.6時間、女子は1.7時間となります。これは、小学生ではなく、高校生の家庭学習時間ではないですよ。こういった状況でした。

■授業についていけない生徒の割合

「授業についていけない生徒の割合」



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

それでは、先ほど宿題もけっこう多くて、宿題についていけていないと話を伺いましたが、授業についていけない生徒さんたちがどれくらいいるか、を見てみましょう。

このグラフは、赤から薄いオレンジの部分までが危ないゾーンというか、少し気にした方がいい子どもたちの割合を示しています。

授業に全くついていけない生徒さんたちが真っ赤で、ついていけないことがよくあるという生徒さんが濃いオレンジの部分です。その方たちを合わせると25％ぐらいにもなります。要するに４人子どもさんがいらしたらそのうち１人は、毎回もしくは、ほとんどついていけてないわけですから、これはとても大変な状況になっているなと思います。

そして、「時々そういうことがある」という方まで入れると、もう60％近くにもなります。これはもう生やさしい数ではありません。

しかも、この「時々わからないことがある」という人が、ずっとこの状態に留まっているかどうかわからないですよね。この時々ある人は、もっとわからない方向にいってしまう可能性があります。今は時々かもしれませんけど、その状況が続いたらそのうち全然分からなくなってしまいますので、６割の方がそういった状況になってしまう可能性があるということです。

今日ここにいらっしゃる皆様方のお子さんも、今の話のどこかで関わっている可能性があるかも

しれません。うちの子は違うから、きちんと部屋に入っているからではなくて、「部屋に入っていること＝勉強」ではないかもしれませんので、皆さんにはご自分の子どもさんのこととして捉えていただければと思います。

それでは次に、勉強についていけなくなり始めた時期を見てみましょう。

小学校という生徒が10％弱あります。小学校のときからついていけなくなったら、あとはとても大変です。実は、私が今一番気にしているのが、小学校のことで、小学校で最初についていけなくなる時期というのが、４年生なんですね。いわば『４年生が曲がり角』なのです。ですから、４年生のときに波に乗れなくなってしまうと、ずーっと追いつけない状況が続いてしまうわけです。

小学校１・２年生は、まだ右も左も分からなくて、先生から一生懸命何から何までしつけていただく時期ですが、３・４年生頃になると少し楽になって来て、少し人間になったかなという感じになります。そして、５・６年生になると、中学校に行く前だからということで勉強をもう少しすることになると思います。

この中で、３・４年生の頃というのは、第２性徴が始まって自我が芽生えて来ますから、ちゃんと自立して動いていけるかどうか、あるいは、自立できずにだらだらとした生活になるかの境目になる時期かなと私は思っています。小学校というのは、その意味ですごく大切だと思っています。

中学生でついていけなくなった人も結構います。特に中学校２年生が多いですね。恐らく、中学校に入ってしばらくは気が緩む、そして高校受験が近くなるとワーっと勉強しますが、この時期というのは、多分本人もですけど、保護者の方も小学生みたいに手取り足取りしなくていい、手が離れたなという時なので、親も少し気が緩んでしまうのかもしれません。子どもたちもそういう時期に授業についていけなくなり始めるということです。

そして、一番多いのは、高校１年です。高校に入った、合格した、バンザイで、いつまでもその気分でいると、高校の授業と中学校の授業とはかなりレベルが違いますので、そこでつまずいてしまう、すると次もつまずき、どんどんついていけなくなっていきます。とにかく最初のつまずきのときに解決しないとどんどんつまずきが大きくなるということです。

もちろん、どこでつまずいたからといって、立ち直りが不可能ということは決してありません。しかし、ただ後になればなるほどそれが難しくなるということはあります。

先程中学校の保護者の方いらっしゃいましたよね。とにかく一番申し上げたいのは、中学２年生でついていけなくなる子どもさんが多いですので、中学２年のときに手を離さない、緩めないことです。学校の授業がちゃんと分かっているかというのを聞いてあげてください。そして、分かっていなければ、少し戻って勉強し直さなくてはいけません。

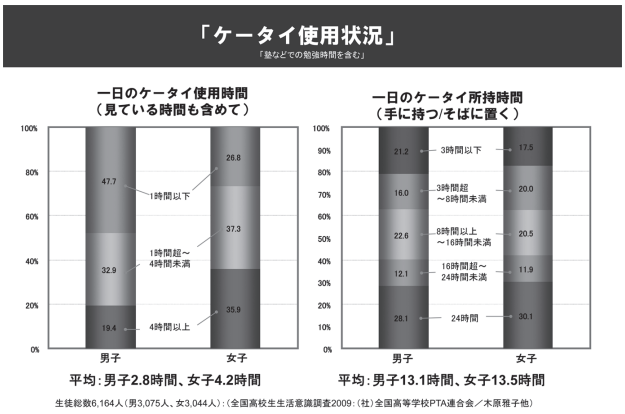
小学校の段階でついていけなくなって、足し算、引き算、割り算、掛け算の順序が分からなっているお子さんもいます。そういう基礎的なものができてなくて、高校で微分とか積分とかいわれても、それが分からないのはあたりまえですよね。ですから、分からないところをどこまで分からないかをきちんとさかのぼる必要があると思います。

■携帯電話の使用状況

さて、次に、先ほどから皆さんがとても気になさっていた、ケータイです。

いつでもどこでケータイ、自転車に乗りながらもケータイと、我こそはケータイみたいな感じですよね。

ケータイの使用状況ですけれど、実は、去年までは子どもたちにメールの『交換回数』を聞いていました。私は、毎年100人弱くらいの子どもたちに直接会ってインタビューするんですけれども、そうしたらあるとき、その中の１人から、「ケータイについてどれくらい使っているのを聞くんだったらば、回数聞くなんておかしいよ」って言われたんです。「ケータイを見ている時間も含めて聞かなきゃダメだよ。それがケータイを使っているということなんだから」と言うのですね。「なるほどそうか」と思いまして、今年からは、回数ではなく、使用時間を聞くことにしてみました。



これが、そのケータイの使用時間を示したグラフです。これは、ケータイを見ている時間も含めての時間です。赤い部分は４時間以上です。びっくりするでしょう？　４時間ですよ。そしてそれが少数ではないんですね。平均使用時間は、男子は2.8時間、女子は4.2時間です。先ほどの学習時間と比べてみてください。なんだか悲しくなりませんか。学習時間の平均時間は、1.6時間とか1.7時間程度なのに、ケータイにはこんなにたくさん時間を使っている、部屋の中で何をしているか想像がつくような気がします。

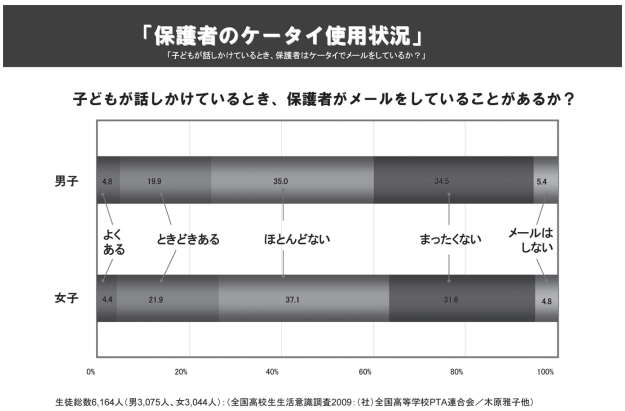
そしてこれもインタビューした子が言っていたのですが、「使っている時間と言われても、とにかくずっと離さないから」と言うんですね。皆さんの子どもさんはいかがですか？　ずーっと何かお守りみたいに持っていませんか？　そこで、今年は、どれくらいケータイを自分の手に持っているのか、あるいは側に置いておくのか、その時間を聞いてみることにしたわけです。

なんと24時間という人が一番多いんです。まるで、政府の重要人物みたいに、何か緊急の連絡でも入るのかしらというような状況です。まったく持っていない子も少しいますが、全員の平均を取ると男子が13.1時間、女子が13.5時間と、人生の半分以上はケータイと共に生きているという感じです。

一番多いのが24時間ということですから、とにかく子どもたちが言うのは、お風呂に入るときは、脱いだ服の上に置いて、鳴ったらすぐ返事をする、寝るときにも、ちゃんと握りながら寝て、ブルブルと鳴ったら何かするということですので、一体どうしてしまったんだろうという感じが、私にはします。

■保護者の携帯電話使用状況

次は、反対に、子どもたちに、保護者のケータイのことを聞いてみました。子どもたちが「ねぇねぇ今日こんなことがあったんだよ」と保護者に話をしようとしたときに、保護者の方がケータイでメールをしているときがありますか、という質問です。



すると、この赤とオレンジの部分、つまり「よくある・時々ある」というのが25％近くもあることが分かりました。つまり、４人に１人の保護者の方は、子どもさんたちが一生懸命しゃべっているのにご自分の世界に浸っているということのようです。

では、これが何に影響するのかということですが、私は、データに基づかずにしゃべるのは嫌な人間ですので、全部クロス集計してみました。スライドには示していませんが、実は、ケータイを使う保護者の方の子どもさんほど、ケータイ使用時間も長いのです。そして、残念なことに、こういう状況にある保護者の子どもさんは、保護者の方への信頼感は低いという結果になりました。保護者の方のあり方が子どもたちに影響しているのかもしれません。ですから、決して子どもたちだけのせいでもないのかなという気がいたします。

今、ふと思い出したのですが、今年私は、ケータイについての授業を中学校で行いました。ケータイについては、出会い系サイトの問題があります。最近は、フィルタリング機能というものがあって、出会い系サイトと見るからに分かるものは外せることができるようですが、実際にはそれとは分かりにくいものがたくさんあります。例えば、『ケータイ恋愛』というものがあります。「ケータイ恋愛始めましょう」という言葉が、子どもたちには、すごく魅力的に見えるようです。

そして、これも、子どもたちの授業で使いましたけど、『ハッピーメール』という言葉があって、「ハッピーメールしませんか」と書いてあると、何となくハッピーになるような感じがするじゃないですか。こういった落とし穴にはまってしまうわけです。

恋人コース、合コンコース、なんて言われると、なんだか分からないけど恋人欲しいなと思ったりするとうっかり入っていったりしますよね。でも、実はそれが出会い系、出会い系が変形したものなのです。

最近、婚活とかいう言葉がとっても流行っていますが、それをもじって、「恋活はじめましょう」という言葉もあります。何だかロマンチックにみえるじゃないですか。そこに安易に入ってしまって、相手と連絡をとってしまうということもあります。

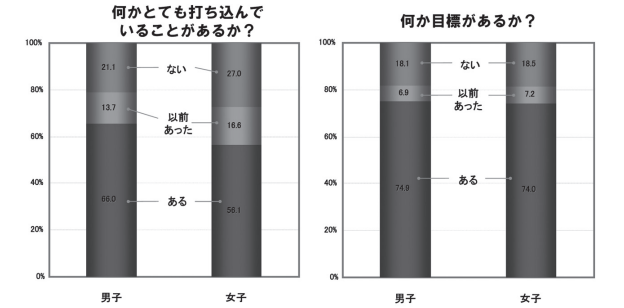
私が授業の中で子どもたちに伝えたのは、そうやって入っていくことの何がいけないのかということです。授業では、入っていって実際に被害にあった子どもさん（生徒さん）に接したので、それを事例としてお話しました。

■高校生の意識、精神状態に関する状況

次に、高校生の意識、精神状態に関する状況について見てみましょう。

生徒たちに、何か、とても打ち込んでいるものがありますか、何か目標がありますか、という質問をしてみました。その結果がこのスライドです。

「打ち込んでいるもの、目標の存在」

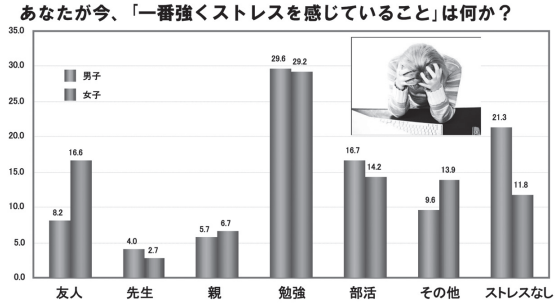


生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

「ある」と答えた生徒は、男子66％、女子56％で、男子の方が割合が大きいという結果でした。そして目標については、「ある」と答えた生徒が75％くらいで、ほとんど男女差はありませんでした。

次に、高校生が一番何にストレスを感じているのかを知るために、あなたが今一番ストレスを感じていることは何ですか？、という質問をしてみました。

「高校生のストレスの原因は？」



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

あまり勉強しないで言ってほしくないなぁと思いますが、一番多いのはそれでも勉強なんですね。勉強にはストレスを感じているということでした。

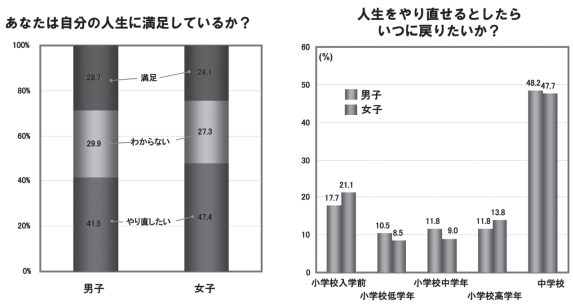
２番目は、男子は部活のことでしたが、女子では、お友達関係のことでした。仲間はずれにされちゃったけどどうしよう、急に無視されちゃったけどどうしたんだろう、そういったことが、とても気になる年頃のようです。スライドの頭を抱えた人みたいに、アーどうしようという感じになってしまうわけです。このように、子どもたちは、大人は気づかない不思議なストレスを抱えている、そのことを私たち大人は知っておく必要があると思います。

■高校生の人生への満足感

次に、人生に満足していますか、人生をやり直せるとしたらいつに戻りたいですか、という質問です。

なんか大げさですよね。これは高校生ですが、私は、小学生にも人生についてという質問をします。ちょっと脇にそれますが、私は子どもであっても敬意をもって接するべきだと思っていますので、小学生に対してもきちんとした質問をします。

「人生に満足してるか？」
「塾などでの勉強時間を含む」



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

さて、高校生の結果ですが、寂しいことに、自分の人生に満足していると答えた生徒（青い部分）がたったこれだけしかいないのです。

そして、まだ16才なのに、やり直したい、分からないという生徒が70％以上もいるのです。何だか早過ぎませんか？私は、55歳ですけどやり直したいなんて思っていません。何だか子どもたち暗いなと思いました。

やり直したいと答えた人が、男子で40％、女子が50％台で、女子の方がやり直したいと思っている子が多いことが分かりました。

そしてやり直してどこに戻りたいか、どの時点までやり直してみたいのかが気になりますが、それを聞いてみました。

すると、小学校入学前と言うのが20％くらいありますが、小学校の低学年・中学年・高学年は、10％前後ですが、中学校が約50％と飛びぬけています。では、そこまで戻って何をしたいのでしょう。それを、自由記載で書いてもらいました。

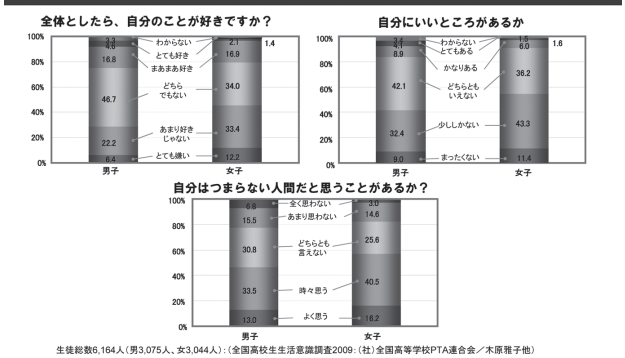
一番多かったのは、「勉強をやり直したい」ということでした。もう少し早く気がついてくれていればと思いますが、でもまだ遅くはありません。高校２年生であればまだ大丈夫ですし、高校３年生だって、がんばり次第でどうにかなります。人の気持ちというものは、変わることができます。そして、やる気が出たときの人の集中力というのは、すばらしいもので、受身で動いているときと比較にならないほどの力がでます。そういう状況になったときの子どもというのは、信じられないくらい進歩します。そういう状況にもっていければと思います。

■高校生の自分に対する評価

次に、自分に対する評価について質問してみました。自分のことが好きですか、自分にいいところがあると思いますか、自分はつまらない人間だと思うときがありますか、という質問です。

まず、全体としてみたら自分のことが好きかという質問に対する回答ですが、赤とオレンジの部分は、「とても嫌い」「あまり好きじゃない」という回答で、男子と女子を比べると女子の方がその割合が高いことが気になります。皆さんお気づきかもしれませんが、少なくとも表面上は、最近の女子は元気で、男子と女子を比べた場合、何となく女子の方が活発に見えます。しかし、実際には、自己評価という面では、女子の方が低いようです。

「自分に対する評価（自己肯定感）」



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

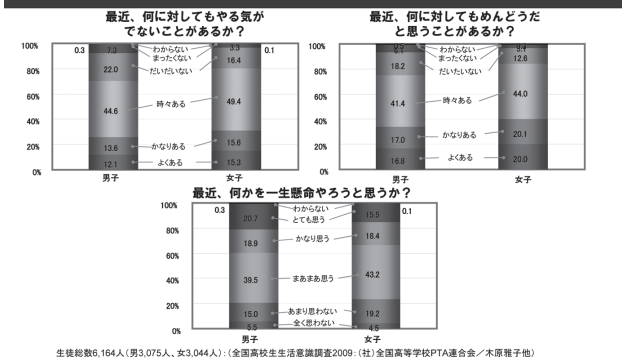
自分にいいところがあるかという質問に対しても、「全くない」、「少ししかない」と回答した生徒の割合は、男子よりも女子で高くなっています。また、自分はつまらない人間だと思うときがあるかという質問に対しても、女子の方がその割合が高くなっています。

これの理由はわかりません。これは自己評価ですから、単に男子が自信過剰なのかもしれませんね。ただいずれにしても、女子は自己肯定感が低くて何かサポートが必要なのかもしれないという点は注意しておく必要があると思います。

■高校の生活意欲

次に、生活意欲に対する質問をしてみました。何に対してもやる気が出ないことがあるか、何に対しても面倒だと思うことがあるか、何かを一生懸命やろうと思うかという質問です。

「高校生は意欲はあるのか」



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

やる気に対する質問に対しては、全然でないことが「よくある」「かなりある」という生徒（赤と濃いオレンジの部分）が２割から３割もいました。これも女子の方で高いという結果でした。

そして、何に対しても面倒だと思うかという質問に対しては、「よくある」「かなりある」と答えた生徒が、３割から４割もいました。保護者の方も心配していらっしゃいましたが、せっかく保護者の方もいろんな良い環境を整えてくださっているのに、なぜか子どもたちにやる気が乏しいのです。

何かを一生懸命やろうと思うか、という質問に対しても、「思わない」という子どもたちが２割ぐらいもいますので、これもまた苦しい状況にあるように思われます。

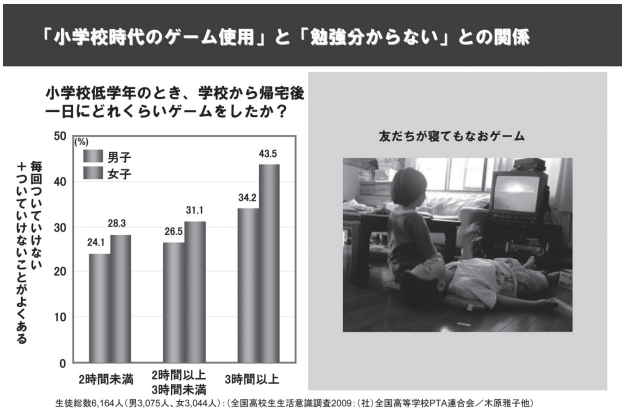
■授業についていけない生徒の特徴

では、授業についていけない生徒の特徴というのはどのようなものなのでしょうか？

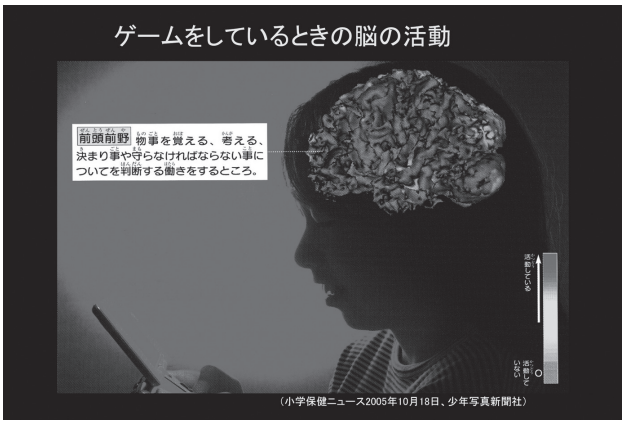
「授業に毎回ついていけない」、「授業についていけないことがよくある」と答えた生徒について、他の要因との関係を少し詳しく分析してみました。

＜ゲームとの関係＞

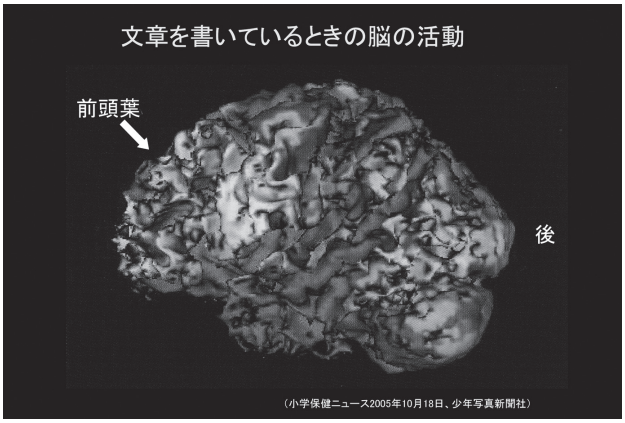
まず、小学校低学年のころのゲームとの関係です。この写真を見てください。友達が寝ていても真剣にゲームをしています。もうゲームに浸っているという感じですね。小学校低学年のころのゲーム時間との関係を見ると、小学校の低学年のときにゲームをする時間が少ないほど、ついていけているようです。３時間以上では、ついていけない人の割合が急に高くなっています。今の勉強の出来具合と小学生時代のゲーム時間とは何らかの関係があるように見えます。



私は脳科学者ではないですが、小児科医をしている私の親友からメールである図を貰いました。それがこの図で、ゲームをしているときの脳の活動状況を表しています。グレー部分が活動をしていないところで、色がついているところが活動しているところです。この図では脳が、ほとんど活動していませんが、これがゲームをしているときの脳の状況です。



これに対して、次の図は、文章を書いているときの脳の活動状況です。ゲームをしているときとは、全然違って、かなりの部分に色がついていますので、一生懸命に頭の中で考えていることがわかります。



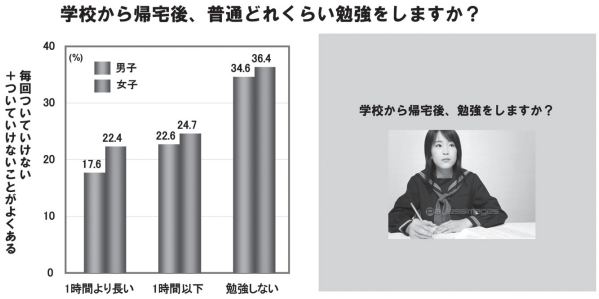
こうした脳を使わない状況、活動していない状況が長く続くとどうなるのでしょうか。私は脳科学者ではないので、ここは憶測になりますが、医学的には一般に、体の機関とか組織は、例えば筋肉がいい例ですが、使わないとどんどん退化していきます。筋肉だと萎縮していくわけです。使わないものはどんどん衰えるわけです。これを『廃用萎縮』といいますが、それと同じことが脳に起こっても不思議ではないのではないかなと思います。神経回路も使わなければ、発達が損なわれても不思議はありません。

＜勉強時間との関係＞

次に、勉強時間との関係です。これは当然のことですが、きれいな関係があって、勉強時間が短

いほど、ついていけない生徒の割合は大きくなっています。

「家庭学習時間」と「勉強分からない」との関係



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

ただ、これだけでは、勉強しないからついていけないのか、勉強についていけないから勉強しないのかはわかりません。両方が混じっている可能性もあります。

ただ、勉強しない子を勉強しろと、頭ごなしにガンガンと怒るのは、もしかしたら間違っているのではないかなと思います。その子がどこかでついていけなくなり、今となってはもうどうしようもない状況であれば、分からなくなった時点まで戻らなければいけません。そうでなく、ただ単に勉強をしろと言うだけではダメなのではないかというふうに思います。

去年、ある中学校の３年生の子どもさんたちに授業をしました。その子どもたちは授業のあとにすごくやる気が出たのですが、悲しいかな勉強についていけなくなったのが小学生だったので、勉強を小学校まで戻らなくてはいけなくて、もう間に合わなかったのです。それで、高校受験に失敗してしまいました。

もっと早い時期に、例えば、中学校２年生くらいで、気づいていたら、何とかなったのにと残念でした。とにかく半年でも１年でもあれば絶対子どもは伸びます。別人のように変りますので、早い段階で何か手立てをとるべきだと思います。

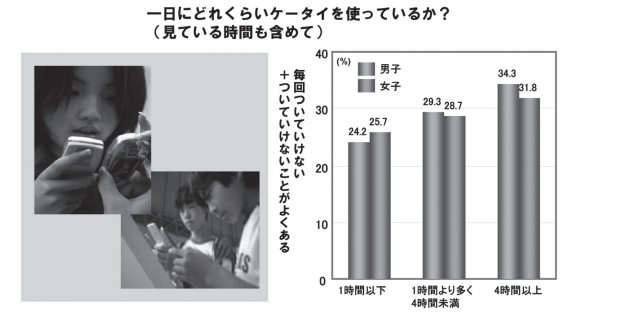
＜携帯電話との関係＞

次に、ケータイとの関係を見てみましょう。

これも、かなり明らかな関係があり、ケータイを使う時間が長いほど、授業についていけない生徒の割合が高くなっています。

ですから、始めの方のお話に出てきましたが、高校でもケータイ使用について何か対策が必要で

「ケータイ使用時間」と「勉強分からない」との関係



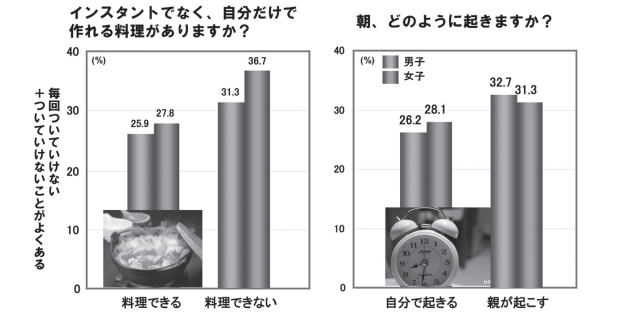
生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

はないか、家庭内でもいいので何かルールが必要なのではないかなということを、私も思います。ながら、ながらで、ずーっとながらというのは少しおかしいのではないかという感じがします。

＜生活上の自立度との関係＞

どういう意味があるのか、私には分かりませんが、生活上の自立度と勉強の間にも関係があります。

「生活自立度」と「勉強分からない」との関係



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

自立しているお子さん、例えば、自分でちゃんと料理作れるとか、朝自分で起きられるという具合に、自立しているお子さんほど授業にちゃんとついていけているようです。逆に言えば、何でもかんでも全部親にやってもらって受身になっている生徒はあまり授業についていけていないということです。ある程度自立はさせたほうがいいのではないのかなと思われます。

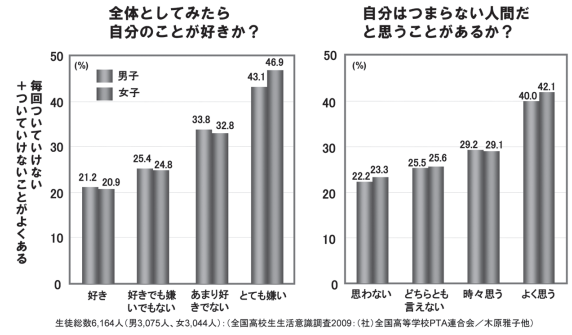
私が、小学校とか中学校に教えにいったときに、起きているのか寝ているのかよく分からない子によく会います。別に騒ぐわけでもなく、ホワーッとしていて、だいじょうぶかなこの子と心配になる生徒さんによく会うのです。きっと、家では、起こしてもらって、顔洗って、ボーッとして座っていると、ご飯が前に出てきて、それを何となく食べて、学校へ来て座っていたら、先生が

きて教えてくれたみたいな感じなのでしょうか。自分の意志で動いているように見えない、何かちょっと違ってないかなと思います

＜自己肯定感との関係＞

次は、自己肯定感との関係です。

「自己肯定感」と「勉強分からない」との関係



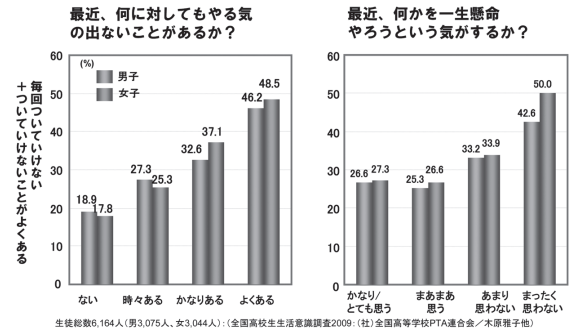
生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

自分のことが嫌いとか、自分がつまらないと思う人ほど、勉強についていけない割合が高くなっています。これも、勉強についていけないから、自己肯定感が低いのか、自己肯定感が低いから勉強についていけないのか、どちらなのかは分かりませんが、いずれにしても、両者が悪循環に陥っている可能性がありますから、色々な角度から自己肯定感を上げることは必要なことだと思います。まず、自己肯定感が低いとやる気が起きませんからね。

次に、生活意欲、つまり、やる気が出ないことがあるかどうか、何かを一生懸命やろうとしているかということとの関係です。

これもかなりきれいな関係があることがお分かりいただけると思います。やる気のない生徒ほど、授業についていけていない、何かを一生懸命やろうとしていない生徒ほど、勉強についていけていないということです。

「意欲の程度」と「勉強分からない」との関係



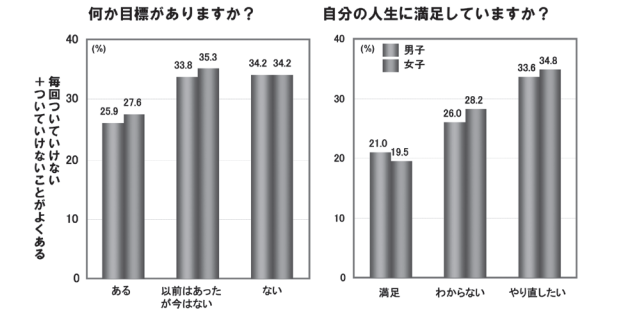
生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

これも、やる気と勉強のどちらが先かはわかりませんが、やはり悪循環に陥っている可能性がありますから、色々な角度からやる気を起こさせるような支援が必要であると思います。

＜人生の目標の有無との関係＞

次は、人生の目標との関係です。目標があるか、人生に満足しているかということとの関係です。

「人生の満足度・目標の有無」と「勉強分からない」との関係



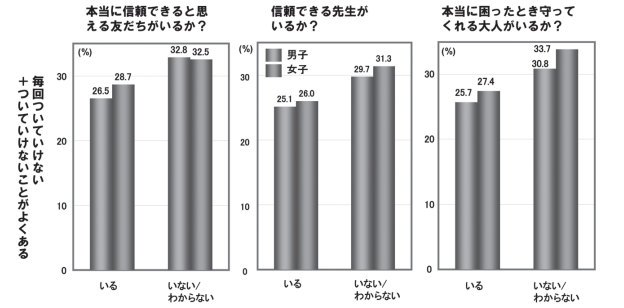
生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

やはり人生に満足している子ほど、勉強についていけている。そして目標がある人ほどついていけているという関係があります。これも、満足や目標と勉強の出来具合のどちらが先かという問題はありますが、目標をもてば、満足感も生まれ、また勉強をする動機が生まれるということは、よくあることです。受身ではなく、目標をもって、自分を引き上げていくような能動的な生き方をしてほしいとすごく思います。

＜周囲との人間関係との関係＞

最後に、周囲との人間関係と勉強との関係です。本当に信頼できる友達がいるか、信頼できる先生がいるか、守ってくれる大人がいるかということですね。

「周囲との人間関係」と「勉強分からない」との関係



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

グラフからお分かりのように、傾向としては、本当に信頼できる友達がいる人、信頼できる先生

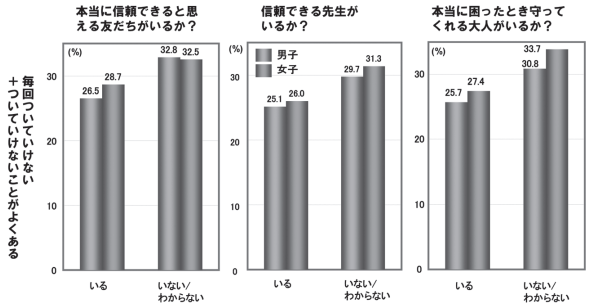
がいる人の方がいいです。ですから先生方のサポートはとっても大切だということでしょう。そして、本当に困ったとき、守ってくれる大人がいるかどうか、これも勉強と関係があるようです。「大人」という言葉では、保護者の方とか先生方とか何も区別していません。そういった中で出てきた答えですけれども、誰でもいい、きちんと支援してくれる、もしくは保護してくれる人がいれば、子どもたちは、勉強についていきやすくなるということだと思います。

＜保護者との人間関係との関係＞

そして、一番関係していたのは、思っていたとおり、保護者と生徒との関係でした。この写真いいと思いませんか。親子で海を眺めているという感じですね。

このグラフに示されているように、男子も女子も保護者の方との信頼関係が弱い子どもほど、勉強についていけていない、逆に言えば、保護者との関係が強いほどきちんと授業についていけているということです。

「周囲との人間関係」と「勉強分からない」との関係



生徒総数6,164人（男3,075人、女3,044人）：（全国高校生生活意識調査2009：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

■成績のいい子は大丈夫か？

さて、ここまで、勉強のことを中心にお話してきました。先ほど進学校の方もいらっしゃいました。すごく勉強している子どもさんもいらっしゃると思いますが、今日は、どちらかというと、子どもさんたちが、勉強してない状態とか、勉強についていけない子どもさんたちの背景に関する話に焦点をあててきました。

では、勉強している子どもさんたちは心配いらないのでしょうか。実は、残念ながら、手放しで安心できる状況にはなく、そういうお子さんたちも、決して気を緩められる状況ではないのです。

「リスク行動」と呼ばれる行動があります。いわゆる危ない行動ですね。リスク行動には、万引きや、喫煙、飲酒、そして、薬物や自傷行為といったいろんな行動がありますが、そうした危ない行動をとる生徒さんたちと成績との間には、意外な関係があることが、最近の私たちの調査でわかってきました。どういう関係にあると思われますか？　スライドには示していませんが、実は、そうしたリスク行動をとる子どもは、すごく成績のいい子と、真ん中より下の子のところで、リスク行動の割合が高いのです。もちろん、真ん中の人たちのところにもあって、ゼロというところはありません。

これまでは、何となく感覚的に、大人の一方的な考えで、成績の悪い子の方にそういう行動は多いのではないかと思われてきたように思いますが、実は成績の良い子でも同じくらいに危ないのです。

ただ、成績のいい子たちは要領がいいので、そういう行動をうまく隠してしまいます。インタビューしていると、色々なリスク行動の話になり、「えー、それお父さんお母さん知っているの？」と言うと、「知ってるわけないじゃん」という答えが返ってきます。すごい行動をとっているのに、ものすごく巧みに隠してしまうことができるのです。

そこで、すごく勉強をがんばっている子どもの中で、危ない行動をとっている子どもたちの特徴というものを少し詳しく分析してみました。どんな子が危ないか、進学校の先生とか進学校に行っている方もぜひ聞いてくださいね。

男子の場合、そういうお子さんは、特徴として、自尊感情がすごく高い、高すぎて自信過剰といった特徴があります。そして、自分はもうオールマイティと言う気分で、性行動が大変活発です。万引きもしますし、危ないことは何でもやって、勉強だけじゃなく、俺は何でもできるぞといった、少し舞い上がった世界に入っているように見えます。

では、成績がよくて危ない行動をとっている女子はどうかというと、今度は、男子とは逆で、自尊感情はすごく低いのです。何でこれだけ勉強しているのに自尊感情が低いのかと不思議に思われるくらいに、自分のことが全く嫌いとか、すごく自己否定的なのです。ですから勉強している子の

中の自尊感情について、周囲が気にしてあげる必要があるのかなと思います。そういう女子はどんどん内側にこもってしまい、性行動は活発ではないですが、自傷行為などの割合が高いので、絶対ケアが必要だと思います。

《保護者に言われて心に残った言葉》

以上、数値をみながら、最近の子どもたちの状況をご説明してきました。その中で、保護者と子どもたちの関係が、勉強の問題に強く関係していることをお話しました。ただ、保護者との関係が影響するのは、それだけではなく、今日は、お示ししていませんが、以前の多くの調査から、様々なリスク行動とも関係があることがわかっています。

そこで、今回の調査では、子どもたちに、保護者から言われて『心に残っている言葉』というものを書いてもらいました。『心に残っている言葉』というとき、私たちは、いい意味での言葉を想定して質問してみたのですが、たくさんの生徒さんが回答をした中には、いい言葉も傷つく言葉も混じっていて、その中には、私たちが大変驚くような言葉も少なくありませんでした。他山の石としていただくために、その一部をご紹介しておきたいと思います。

まず男子で悪い意味で残った言葉、心に刺さった保護者の言葉です。

「がきのくせにうるせー」
「あんたがいるから不幸になった」
「おまえにいいところなんて１つもない」
「お前は人間のクズだ」
「おまえなんか生まなきゃよかった」。

次に、女子が書いた保護者の言葉です。

「あんたを選んで生んだわけじゃない」
「あんたなんか期待されていない」
「こんな子産まなきゃよかった」
「あんたは生きる価値がない」
「死ね、うざい、どっかいけ」

こういう言葉を一度でも言われたら誰だって傷つきますよね。しかし、うれしいことに、これとは対照的に、保護者への感謝を表現した内容もたくさんありました。

男子が書いた言葉です。

「何もかも感謝です」
「自分を生んでくれてありがとう」
「16年間、一生懸命育ててくれたこと」
「迷惑かけても見捨てずに育ててくれたこと」
「働いて、自分たちを養ってもらっていること」

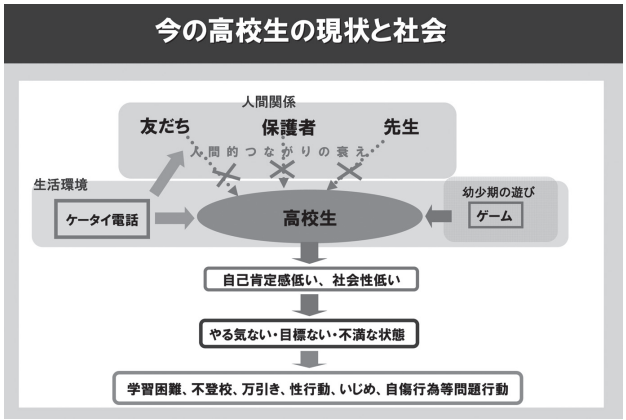
女子が書いた言葉です。

「弁当作り」
「毎日ごはんを作ってくれること」
「辛いとき、一緒に泣いてくれたこと」
「本気でしかってくれたこと」
「落ち込んだとき、励ましてくれたこと」
「自分を信じてくれたこと」

保護者の本気の言葉や生き方が、子どもたちの心に残っているということでしょうか。

《まとめ》

以上、子どもたちの状況をいろいろとお話してきましたが、それを、一枚の図にまとめてみました。



まず、子どもたちは、幼少期からゲーム漬け、そしてケータイ依存症のような状況にあります。こういった世界に子どもたちは埋没しています。とても異常な状態だと思います。

そして、特にケータイですが、いつも誰かとつながっていなければというふうに24時間それに縛られてしまっています。

自分の昔を思い出してみてください。思春期のころは、一人になってロマンチックな気分になる時期ですよね。もの悲しくて、切なくて、大人になったら絶対に書くことのないような詩を書いてみたりしますよね。あとで読み返すと赤面するようなものすごい詩を書いたりする時期が思春期ですよ。そういう時期に一人で自分に向き合う時間を過ごすことによって、大人になっていくわけです。

そういう大事な時期に、こんなに人とくっついてばかりいたら、大人になれないのではないか、精神的自立をもしかしたら阻害しているのではな

いか、そういう気がします。

また、ケータイは、有害サイトがどうこうという以上に、人間関係のあり方自体を壊しているように思われます。もちろんケータイで作られる人間関係というものもありますが、そのために、直接的な人間関係が変質し、衰えてしまっているように思われます。人間は、直接的人間関係、つまり、目に見える人との触れ合いの中で育まれて成長していきます。触れ合った人たちからほめられたり、いろいろ言われたりする中で、「自分にはこんな良いところがあったんだ」、「私ってこんなに役に立つんだ」という自信や役割感をもったり、居場所を見つけたりして、自分の足場を築いていくのだと思います。

最近は、それがすごく少なくなっているのではないかなと思います。そうすると自尊感情が芽生えませんよね。自尊感情が芽生えないと生きる意欲といったものも湧いてきません。こうした人間関係のつながりの衰えというところが子どもたちに大きく響いているのではないかという気がいたします。そして、その結果、自己肯定感が低く、人はどうでもいいという社会性も低い、いわゆるＫＹみたいな精神状態が生まれてきたのではないでしょうか。

そして、精神状態が、やる気ない、目標ない、なんでも不満、学習困難、不登校、万引き、性行動、いじめ、自傷行為などのさまざま等の問題の土壌となっているのではないのかなというふうに思われるのです。

《ＷＹＳＨ教育について》

以上、最近の子どもたちの現状をお話してきました。ではどうすればよいのか、ということで、ここからは、ＷＹＳＨ教育についてご紹介していきたいと思います。

『ウィッシュ』というと何だろう思われるかもしれませんが、これは、Well-being of Youth in Social Happiness の略で、ＷＹＳＨ教育とは、「子どもの社会的幸福を願う教育」という意味になります。平たく言えば、子どもたちを元気にする授業ということです。

授業をするとき、私たちは、子どもたちは絶対に元気になる、そして、いい気づきをしてくれるはずだ、と信じてやっていますが、後からお話するように、調査結果からも、実際にとても良い結果が出ています。

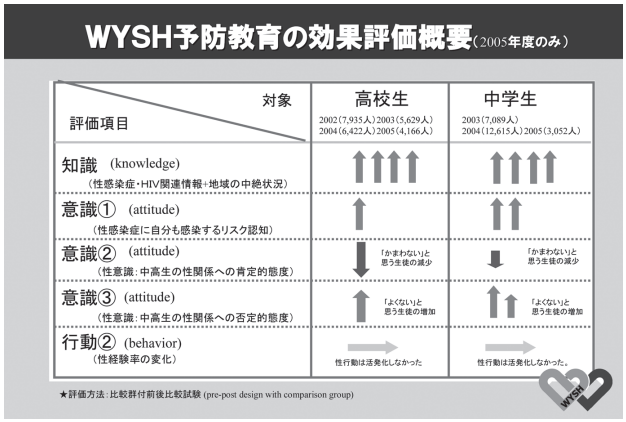
先ほど、子どもたちの「心に残った」言葉を紹介しました。いろいろなご家庭があり、その中で、子どもたちが結構もがいている様子が伺われたように思います。

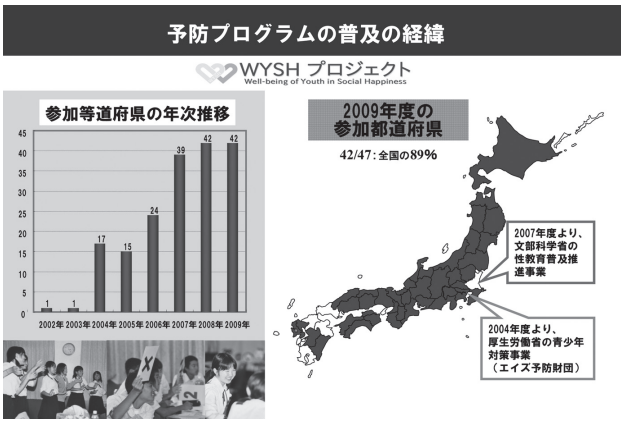
そうした家庭のあり方が変わってくれればと、心から思いますが、でも、私たちは、外部の人間ですので、そうした家庭を私たちが変えることはできません。それはむりなことです。しかし、外部の人間として、子どもたちを支援することができないわけではありません。地域や学校でできることがあるかもしれない、いやきっとあるはずです。今日はそう信じて、私たちが行っている学校での取り組みをご紹介したいと思います。

ご紹介するのは、私が行った取り組みです。学校での授業ですから、これを、家庭や地域のそのまま持ち込むことはできませんが、その中にある、エッセンスを感じていただいて、そのエッセンスを地域での取りくみ、あるいはご家庭でのふれあいに生かしていただければと思います。そのエッセンスを元に調理しなおして、地域、もしくは家庭にふさわしい活動を創造していただければと願っています。

■ＷＹＳＨ教育の効果と拡がり

ＷＹＳＨ教育は現在、全国で行われています。元々は性教育で始まったものですが、現在は、人間基礎教育を重視した、「生きるための教育」、その一部に性教育があるというふうに変わってきています。この教育では、評価を重視していますが、その結果から、知識が大きく上がり、性行動に対する意識も、性行動自体も変わること、そして、自己肯定感も高まり、生活意欲のスコアも上がる





ことが明らかになっています。

ＷＹＳＨ教育は、2007年に、文部科学省から公式の支援を受け、全国に広がりつつあり、今年は、小中高を含めて、42の都道府県で実施されています。

ＷＹＳＨ教育では、毎年、京都で研修会を行い、ＷＹＳＨ教育の実施を希望される先生は、学校や教育委員会のサポート、もしくは自費で出席されています。ただ、北海道は例外で、高等学校ＰＴＡ連合会が、研修会に参加される先生方の支援をしてくださっているので、北海道は全国で一番ＷＹＳＨ教育をサポートしているところといえると思います。

■ＷＹＳＨ教育の特徴

＜相手を知ること、科学的であること＞

さて、ＷＹＳＨ教育の特徴は何かというと、子どもの現状を正確に把握することをとても重視していることです。教育とか指導を考えるときに、一番大切なことは、学校教育でも、ご家庭での取りくみもそうですが、相手をきちんと知ることです。

相手を知らないとどう接すればいいか、適切な対処方法が分かりませんので、相手を徹底的に知ることが出発点となります。その上で、科学的に授業を組み立てていきます。ですから、私が今から授業の内容をご紹介していきますが、それは単に思いつきで作ったものではなく、米国でやっているからまねしたものでもなく、自分で集めたデータに基づき、それから、例えば、マーケティング理論、行動理論、コミュニケーション理論、教育理論などに基づいて開発したものなのです。

なぜここでマーケティングかということですが、ビスネスでは、相手の心をとらえないと商品は売れません。ですから、それこそ命がけで相手が満足するものを開発しようとします。それと一緒です。

相手の心を本当に本心の本心までつかんで初めて相手は動きます。教育は物ではありませんので、通常のマーケティングではなくて、教育などに向いたソーシャルマーケティングという別のものを使っています。それがベースになっています。

＜一生心に残る授業を＞

そして、この教育の特徴として、『一生心に残る授業』にしようという意気込みでおこなっています。それはなぜかというと、授業時間は限られているからです。学校が、こうした授業にさく時間は、一年間に、１コマ、もしくは３年間に１、２コマしかありません。ですから、子どもたちが将来何か苦しいことにぶつかったときに、「あ、あのとき、あんなこと言われたな」と思い出してもらうぐらいに心にしみこむ授業をするというのを目標としているわけです。

＜人間基礎教育：一人一人を大切に＞

授業の構成ですが、今回の講演は勉強というテーマに絞って、お話させていただきましたが、勉強に限らず、やる気を失った子どもは、何に対しても後ろ向きになってしまいますので、生きる上での基礎である自分に対する肯定感、何かをする意欲、そして将来への希望といった人間の基礎に当たる部分に働きかけ、その後で、今の危機管理に必要な情報を提供するといった形で進めていきます。

教育のゴールとしては、『子ども一人一人のいいところを引き出す』ことです。子どもは誰でも、絶対にいいところをもっています。ビックリするくらい危ない行動をとっても「どうしちゃったの、こんなに」ともう犯罪の一歩手前みたいなことをやっている子どもたちであっても、必ずいいところをもっています。それを引き出すのです。

そして、安心できる人間関係、穏やかな人間関係を持つことの大切さや心地よさを伝えます。心穏やかな人間関係の中で初めて自分のいいところが見つかって自分に自信をもつことができます。人間関係が薄く、隔離されたような状態では、人は自尊感情なんかもてません。誰かと触れ合って、誰かと一緒にいて初めて、自分の足場ができるわけですから、ここが教育の基礎、基盤となります。

＜トップダウンではなく自分で考えてもらう＞

その上で、身近な危険についての情報を伝えます。現代社会の中には、目に見えない色んな危険が潜んでいます。この危険を「それは危険ですよ」ときちんと知らせないと子どもたちは、身を守ることができません。

そして、大切なことは、「やってはいけない」とトップダウンに指示するのではなくて、それをどうするかというのを自分たちの行動には、こういう危険がある、あるいは、ある人はこう考えているし、他の人はこう考えている、では「自分はどうするのか」ということを自分で考えてもらうのです。

子どもはいずれ独り立ちしなければなりません。親が見られる間、あるいは先生方がかまえる間は、色々指示を出すこともできますが、でも、そればかりだと指示待ち人間になってしまいます。いずれは私たちの方が子どもより先に死ぬわけですから、そういう時に独り立ちできる子どもにするためには、自分で考えられる子どもたちを育てる必要があります。ですから、ＷＹＳＨ教育の中では結論は絶対言いません。どうしなさい、どうしたらダメといった指示的なことはまったく言わず、情報をできるだけ分かりやすく提供して、「後は自分で考えてください」という形で、ポンと子どもたちに振るのです。

子どもたちは、一瞬うろたえますが、でも自分で悩まないといけないんですね。そういった時間を提供するという形の授業をしています。ですから皆で話し合います。笑いこけている生徒もいますけど、真剣に話し合っている生徒もいます。そんな中で授業を進めていきます。

■小学校での「命の授業」の事例

それでは、実際の授業の様子を今からお見せしたいと思います。

まずお見せするのは、私が小学校４年生に『命の授業』をしたときのビデオです。高校生には関係ないと思われるかも知れませんが、今はすごく憎たらしくなった（？）子どもたちも、こんな時代があったことを、振り返ってもらう意味で、小学校に戻ってみたいと思います。過去には戻れませんが、皆さんの子どもさんにもこんな時期があったんだということを思い出していただければと思います。

【上映】

これが小学生におこなった授業です。マリーゴールドのことを、「マリーゴーランド」って言っていた男の子が出てきましたね。最後まで、マリーゴーランドと間違っていましたが、あの子本当は問題児といわれていた子だったんです。こだわりがすごく強くて、みんなと一緒の行動がとれない、こだわって、こだわってやるものですから、一緒の時間には終われないのですね。あのマリーゴールドにもすごくこだわって、時間内に終われなかったんです。野外授業のあとは、体育館で本の読み聞かせがあるから、お部屋の中に一緒に入ろうとくっついていましたが、全然入ろうとしません。マリーゴールドの前からそこから離れないんですよ。

そこで私は、その子に、「じゃ今から心の中で一緒に写真を撮ろうよ」と言いました。「できるの？」と言うので、「絶対できるからやってごらん。心の中に写真を撮って。お家に帰って描いたら絶対できるから」と言いました。そした、その子は、そうしてくれて翌日驚くほど丁寧にマリーゴールドの絵を完成させて見せてくれたんですね。それが、ビデオの最後に出てきたマリーゴールドの絵なんです。

あの子は問題児でもなんでもなくて、私は植物学者とか芸術家のような、なにかすごい人になる才能をもっているのではないかなって思いました。ですから、一見問題のありそうな子どもさんも、本当はとてもすばらしいものをもっているなと思うのです。集団生活に、とってもなじめない生徒さんで、先生方にはご苦労もあったのでしょうが、すばらしい力をもっている、それを発見してくれたらなと思いました。

■「将来の夢」についての授業の事例

では、次に私が、ある高校で行った授業のビデオをお見せしたいと思います。

今から紹介する学校は、先ほど、授業についていけない子どもたちの話をしましたが、そういう子どもさんがとても多い学校です。１学年５クラスありますが、その中の１クラス分の数の生徒

が、１年生で退学してしまうといった学校ですので、かなり大変な学校と思っていただければといいと思います。

私は、授業を考える前に、数ヶ月前に、必ずその学校の生徒さんに対して、インタビューをします。この学校でもそうしました。すると、わかったことは、自己肯定感が非常に低いということでした。

出てくる言葉の上に必ず「どうせ…」とつくんですね。「どうせなんとかだから」、「どうせおれらは…」、「どうせうちらは」という言葉しか出てこないのです。そういう状況で将来の夢はと聞いたら、「ない」、「どうせおれらだから、ない」と言われました。そんなことはないと思って、とにかくそれを文字で書くようにお願いしました。付箋に書いて、それを黒板に貼ってグループワークをしようとしたのです。

しかし、ちっとも書こうとしてくれません。漢字が書けないので漢字を間違ったら恥ずかしいからと付箋にちっとも書かないんですね。カタカナでもひらがなでもいいからと言ったらやっと書いてくれましたが、今度はカタカナが裏返し文字だったり、「シ」と「ツ」の区別がついてなかったりと、そんな生徒さんたちがいっぱいでした。

そこで、夢を表現するには、何がいいかなと考えました。それで思いついたのが、手で作業をしてペタペタと貼るグループワークでした。そうした作業を通して、自分の心の中にあるぐちゃぐちゃとしたものを整理することによって、もしかしたら自分の未来の形が少しでも見えてくるかもしれない、そしたら今日の自分をこうしようかな、少しだけ見えた未来に向って歩けるかもしれないと思い、授業を組み立ててみました。

『10年後の自分』という授業をやったときの様子です。見てください。

【上映】

この学校の生徒さんたちは、とってもいい生徒さんたちでした。

でも、インタビューのときには、どうしてそんなに元気がないのかなと、とっても気になりました。あまりにも元気がないので、思わず、「元気がある人はいないの」と聞いたんです。すると、「元気があるやつらは辞めちゃったよ（退学させられた）」と言うのです。「今残っている俺らは元気がないから、反攻する元気もないからここに残っているんだ」と言うので、それ少し違ってないかな、もっと自分に誇りをもってもらいたいなとすごく思いました。すごくいい子たちでした。ただ、そうした自分の良さに気づいていないんですね。

■「人と人とのつながり」の授業の事例

では、次の授業のビデオをお見せしたいと思います。今度のビデオは、人と人とのつながりの大切さを気づいてもらいたい、そういうメッセージを重点にして授業をしたときの様子です。

この学校は、表面的にはあまり問題のなさそうに見える学校でした。ただ実際にインタビューしてみると、親に対する敵意みたいなものをもっていたり、何か分からない心の澱（よどみ）みたいなすごいものを抱えている生徒さんがいるなと強く感じた学校でした。

有名な進学校で、県下２位くらいの学校ですので大変よく勉強する学校です。そんな生徒たちに、機械的な受験勉強の中でちょっと立ち止まって人生を考えてもらいたいなと思いました。大学に入るだけが人生ではありませんからね。その先にも人生は続いていきますから、その先のことも考えて欲しいなと思ったわけです。本当の意味でのゴールが見えれば、受身の受験勉強ではなく、本当の意味での自分のゴールを目指した受験勉強になりますので、そういう意味を含めて、「人と人とのつながり」という授業をしました。そのときのようすです。

【上映】

授業を創る前には、インタビューをすると言いましたが、この学校の生徒にインタビューをしたときには、実は「来なくていい」と言われたんです。自分らは必要な知識は何でももう知っているから、これ以上来なくていいと言うんですね。それでも行った学校です。知識を中心に授業をすることはできない、それではということで、人間関係の問題を正面のテーマに据えることにしたわけです。どう受け止めてもらえるか、終わるまで不安でしたが、授業をした後には、ビデオでお見せしたようなすばらしい感想文を書いてくれました。

この授業の経験から思うことは、子どもたちには色んな意味で、人生を考える時間というのが必要なのではないかということです。それはもしかしたら主要科目の１時間をとるかもしれませんが、それは決して無駄なものではなく、それどころか、とても貴重な１時間になるのではないかなと思います。後の何十時間にも匹敵するくらいの意味があると私は思います。

■「守る」をテーマとした授業の事例

それではもう一つの高校で行った授業のビデオをお見せしたいと思います。

この学校では高校１年生に授業をしました。

この学校は就職する生徒さんが多い学校なのですが、今の経済状況ですから求人がゼロになりました。毎年少しずつ減ってきていたようですが、ついにゼロになってしまったんですね。そこの校長先生からこの子たちが希望をもてるような授業をしてくださいと頼まれたのです。

これは、すごく悩みました。どうすれば希望が見えるのだろうか、だって求人ゼロですよ。例によって、インタビューをしました。そして、その子たちに将来何になりたい？と聞いてみたのです。すると、生徒さんたちが答えたのは、「バイトしかねえだろ」と。それはそうですよね。それが当然の答えで、私がきれいごと言ったってしょうがない、きれいごとではない本音でぶつからなきゃいけない。ではこの子たちに何を気づいてもらったらいいのか...。分からなくて、とてもとても考えました。

そして、思ったのは、人がすごく何かにぶつかって、落ち込んで、一番沈んだときに這い上がるときは何が支えになるのだろうかということでした。すると、自分が守る相手がいた場合には、意地でも這い上がろうとする、自分が強くなれる、ということが、自分の経験もあって、思い浮かびました。それで、「守る」という初めてのテーマで授業をすることにしたのです。

前半部分は、『体を守る』。これは危機管理教育としての性教育が、後半部分は『大切なものを守る』というテーマで、自分の大切なものって何だろう、自分の大切な人って誰だろう、それを考えてもらう授業をしました。

前後しますが、授業を準備する段階で行ったインタビューのときに、その子たちに、「もし戻れるとしたら、いつの頃に戻りたいですか」という質問をしました。すると、何人かの子どもが、「小学生に戻りたい」というのですね。そこで、「小学生に戻って何をしたいの」と聞きました。てっきり、その頃の遊びを懐かしんで、もっと遊びたいというのかなと思っていたのですが、そうではなく、「小学生に戻って勉強しなおしたい」と言うのです。これは、とても胸に沁みました。その子たちは始めから勉強が大嫌いだったわけではなくって、いつの間にかついていけなくなってしまったのですね。そういう人生を取り戻したいということなのですね。

インタビューに来てくれた生徒さんたちは、とてもいい子たちでしたが、学校では問題をたくさん起こしました。インタビューにいった時の生徒さんの半分が、私が授業にいったときはもういませんでした。集団万引きかなんかで捕まって、退学したり、学校行きたくないとか言って学校に来なくなったということでした。そういう学校で行った授業のようすをご覧ください。

【上映】

後の評価でわかったことですが、この授業の後に生徒さんたちの自己肯定感が大きく上がりました。そして性関係をもっても構わないという人が授業前には、すごく多かったのが、大きく減ったのです。

ビデオの中でご覧いただきましたように、子どもがいじめられたときどうしたらいいかというグループワークの中で、生徒さんたちがとても熱心に語ってくれていましたよね。実は、あのクラスには、都会（東京の方）ですごいイジメにあって学校に行けなくなり、山村留学であの学校に来ている子もいました。そして、アジア系の来日外国人のお子さんもいて、表面的にはわからないですけども、すごく厳しい差別を受けて、自殺未遂を何回も繰り返してあの学校に来ている子もいました。その子は教会の人に助けてもらって、人生をやり直したんですが、その子がこの授業のメッセージビデオを見たときに、バックミュージックがキリスト教の曲だったので、とても心に響くものがあったように見えました。そういったいろんなものを背負った生徒さんたちの心に、私が少し

でもできることがないのかと思い手伝わせていただいた授業でした。

私は、絶対に人は変われると信じています。もうここまで来たらだめだなんていうことは絶対にありません。この授業でも、子どもたちは、変われるなってすごく思いました。

■「育児シミュレーション」の授業の事例

では、次に、これも大変な状況にあった学校での授業をご紹介しようと思いますが、ここでは、自分が親になったと仮定して考えてもらうことにより、「育児シミュレーション」というグループワークを行ってみました。親への反抗期真っ只中にある子どもたちに、親の立場になってもらってみて、そのとき子どもたちは、どんなことを言うんだろうと思ったのです。この学校の授業は、後のビデオでお見せするように、最終的には、「命の大切さ」を伝えるための授業だったのですが、その前段階として行ったグループワークです。そのようすをごらん下さい。

【上映】

この育児シミュレーションを考えたとき、私は女子の方が活発に話すだろうなと思っていました。しかし、実際やってみると男子の方がすごく熱心で、意外でした。子どもの名前まで決めるのは男子で、すごい勢いで名前を決めて、漢字はこの漢字でなくちゃだめだとか言い張って、５人でケンカするんですね。すごく熱心に議論していました。

そこで私が興味深いなと思ったのは、例えば、思春期になって部屋から出てこない子どもに対してどうするかという課題を与えられたときに、それを見てある一人の男子がすかざず、「まさに今のオレやん」とか言っていたことでした。

私がその子に、「そのとき、あなたは親に何て言っているの？」と聞いたら、「うるせーくそばばぁ」と言っているっていうんですね。「じゃ、ほっといてほしいのね」と言ったら、おもしろいことに、「絶対にほっといたらダメ」と言うんですよ。「自分が『くそばばぁ』と言っているんだからほっとかれるでしょ」と言うと、「そこは耐えて、一生懸命関わってほしいんだ」って言うんですね。思わず笑ってしまいました。

それってものすごくわがままですよね。でも子どもたちは、「そこを察してほしい」と言うのです。育児シミュレーションというグループワークの中で、思いがけず、思春期の子どもたちの本音、つまり自分にどうしてほしいかが見えたように思いました。ウニみたいにトゲトゲに反抗していますが、本当は実はかまってほしい。「うるさい、うぜぇー」とか言いながらもかまってほしいんですね。聞いていておもしろかったです。

■高校での「命の授業」の事例

最後に、この授業のメインテーマである、命の大切さを伝える授業のことですが、先ほどは小学４年生で命の大切さの授業をしたときの様子をお話しましたが、これは高校生に対して行った命の大切さについての授業です。

最近は病院で生まれ、そして病院で亡くなるという時代ですので、なかなか家での出産や、家での看取りを経験することが少なくなってしまいました。そのため、「生きる」ことや「死ぬ」ということを、子どもたちが身近に感じる機会が非常に少ない世の中になってしまいました。

生まれる部分だけに焦点を当てた授業もあります。もちろん生まれてくることの尊さは私も子をもつ親として、言うまでもありませんが、私は、死という終わりがあるからこそ、生きることの意味や大切さがわかる、つまり、一日一日あるいは、私がこうやってしゃべっている瞬間瞬間が大切に思えるのではないかと思っているので、それをどうしても子どもたちに伝えたいと思ったのです。

それぞれの子どもたちは、かけがえのない一つの命を親からもらっているのですから、それをどうにか感じてもらえないかなと思ってメッセージビデオを作り、子どもたちに見てもらいました。メッセージビデオを作るときに困ったのは、産まれるときの写真というのは写真集もあって、子どもの写真や喜びの涙の中の親の写真を手に入れることができますが、死にいく人の写真というのは、手に入らないということです。その部分の写真は、このビデオを作る直前に亡くなった私の父の写真を使うことにしました。ですから、ビデオの中に出てくる大正生まれの男性というのは私の父のことです。

それでは授業のようすを見てください。

これが今日の最後のビデオとなります。

【上映】

お疲れさまでした。長い時間ビデオを見ていただきありがとうございました。

今日の講演とは関係ありませんが、今のビデオを見ておりましたら、父のことを思い出して胸が詰まってしまいました。娘って結構ファザコンなんでしょうね。私にとって父はものすごく大きな存在でした。殆んど口はききませんでしたが、何か父が喜ぶことを一生懸命報告することだけが私の生きがいでした。これができたよとか色んな物を持って行くとうれしそうに黙って頷いてくれました。そのときの満足そうな顔を見たくて、私は必死に色んなことをしました。研究もすごく頑張りましたし、論文もいっぱい書きました。だれも認めてくれなくても父が認めてくれれば、それでいいと思っていましたので、父が亡くなったあとは、仕事がしばらくできなくなってしまうくらい落ち込みました。

本当は変ですよね。55歳にもなって父のことばかり引きずっているんですが、こんなに大きな部分を父が占めてたんだなと今になって思います。そして父が生きていたときよりも、今の方がしょっちゅう夢の中に父が出てくるんです。ですから生きているときよりも近くなったような気がしています。名刺入れの中にいつも父の写真をいれているんですが、そんな感じでいつも私を見守っていてくれる人、私が走れる原動力、それが父なのかなと思いながら生きています。そういう人がそれぞれの人にも皆いるはずですので、そういうことを子どもたちに気づいてもらいたいな、自分が色々な子どもたちのそういう人になれればなというふうに思っています。

日本はとても便利で豊かな社会になりました。しかし、前半部分で言いましたが、表面上は豊かになっていますが、心は逆にすごく貧しくなってしまったように思います。それが、子どもたちが起こす問題の背景になっていると思います。

今日の講演の後半部分の最初にも申し上げましたが、私たちは全部の家庭を変えることはできません。でも私たちにできることは、絶対にあるのではないかと思います。

今日は、私一人がグチャグチャと色々お話させていただきましたが、でもそれを今回ご参加いただいた200人近くの皆様方が、それを持ち帰って、それぞれの地域で何らかの形で役立てていただければ、１が200に、そして200がそれぞれの地域の何百かになると100倍、1000倍、１万倍にもなると思えば、今日私ががんばって何時間も講演させていただいた甲斐もあるかと思います。

そういう意味で、最後に、私が皆様方にぜひお願いしたいのは、もし、今日の私がお話した中で、どこか心に響くところがありましたら、それをそれぞれのお家あるいは地域にお持ち帰りいただきたいということです。そして皆様方が住んでいらっしゃる全ての地域の子どもたちが、この最後のスライドにあるような、すてきな笑顔がで溢れるようになればいいなと思います。

以上で私の話を終わらせていただきます。どうもご静聴ありがとうございました。

《参加者からの感想》

○自分の子育ての間違いだらけに気づかされました。今後子どもに向き合い社会に出していけるよう、育てていきたいと思います。

○実際に人の心が動く活動をされている木原先生、本当にありがとうございます。親も逃げる姿勢ではなく、本気・本音で子どもとつきあいたいです。

○「引き込む」講師の先生のお話に感銘をうけました。自分の息子や生徒たちの「生」を大切にしていきたいと思いました。子どもが生まれたときの喜びを思い出しました。木原先生のお父様のビデオ、お話も心に残りました。

○先生の愛あふれる授業を我が校でもしていただきたいと強く思いました。私は保護者ですが、定時制の子どもたちはさまざまな悩みをかかえて学校に来ています。そういう子どもたちに、先生の命の大切さの授業に触れさせてあげたいです。

○木原先生の子どもたちに対するサーチの確かさに基づいたお話はとても説得力がありました。自己肯定感が低いのは日本の子どもの特徴ともいわれているのですが、本当に子どもたちの心からの笑顔を見ていたいと思います。

○実践を見せていただいたのがとてもよかったです。たいへん深かったし、人の中心軸は子どもも、親も社会も変わりなくしっかりとらえて大事にしていきたいし、伝えていきたいです。最後のＶＴＲの中の先生のお母さんお父さんの映像とその横に先生が立たれていて、それがとても美しかった。印象深く心のカメラにとりました。

○今日のような講義は心に残ります。講師の方の受講する人たちのことを受け入れ、考えていく道を作るということは、大切なことだと改めて思いました。全国各地に広めてほしいです。

○子どもたちにお手本になる大人に、夢を与える大人に、本気で大人ががんばらなければいけないなーと考えさせられました。木原先生、本日はありがとうございました。

○木原先生にお会いするといつも元気と勇気をもらえます。その優しい笑顔に、独特のお話の仕方と変わらぬ情熱に…科学的データに基づいてマーケティング、行動理論、問題解決、学習に取り入れて心にしみこむ授業をする!!という熱い思いに感謝いたします。ありがとうございました。とてもわかりやすく、資料も充実していました。木原先生の話し方に説得力があり、優しさもあり、いい時間を過ごすことができました。高校生の息子ときちんと向き合っていきたいです。

2　東京地区（東京）

～子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業～

「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」

日　時　　平成21年12月12日（土）13：30～16：40
会　場　　府中グリーンプラザ　けやきホール
主　催　　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
主　管　　東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会
後　援　　東京都教育委員会
　　東京都公立高等学校長協会
　　東京都公立幼少中高ＰＴＡ連絡協議会

＜式　　典＞

開会の言葉	東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会会長	高　橋　多佳子
主催者挨拶	社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長	相　川　順　子
来賓挨拶	東京都公立高等学校長協会副会長	浅　田　　博

＜基調講演＞
テーマ　「やる気ない、目標ない、授業分からない３ない高校生の現状」
　　～全国高等学校ＰＴＡ連合会調査結果の報告と今後の展望～
講　師　　京都大学大学院医学研究科社会疫学　准教授　　木　原　雅　子　氏

＜シンポジウム＞
テーマ　「子どもにやる気、意欲を引き出すには親は何をすればよいのか？」
コーディネーター
　　京都大学大学院医学研究科社会疫学　准教授　　木　原　雅　子　氏
シンポジスト

東京都北区就学前教育・保育推進アドバイザー	犬　塚　順　子
（社）東京都小学校ＰＴＡ協議会副会長	木　口　裕　介
東京都足立区立第十一中学校長	笹　　サヨ子
豊多摩おやじの会　副会長	坂　根　清　和
東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会副会長	本　間　正　樹

〈開会あいさつ〉

東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会会長　**高　橋　多佳子**

皆様、こんにちは。

本日は、ご多用中の中、それから師走の忙しい中、このようにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

主管として一言ごあいさつ申し上げさせていただきます。

「子どもたちを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」の一環としまして、本日、東京地区高等学校ＰＴＡ連合会としてシンポジウムを行います。

「親が変われば子どもが変わる」という視点で、本日学んだことを、また地元のそれぞれの地域におもち帰りいただきまして、本日より、また新たな気持ちで実践されることを、皆様方にお祈り申し上げまして、本日のごあいさつとさせていただきます。

本日は、東京都教育委員会の後援、東京都公立高等学校長協会からも後援をいただきまして、副会長の竹早高等学校長　浅田博先生にご来席いただいております。また、東京都公立幼小中高ＰＴＡ連絡協議会からも後援をいただいております。本日は、今まで利用したことはございませんでしたが、この府中グリーンプラザけやきホールにて開催させていただいております。

では、しっかり学んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〈主催者あいさつ〉

（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長　**相　川　順　子**

皆さん、こんにちは。ただいま紹介をいただきました、社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長をしております相川でございます。

本日の東京地区のシンポジウムの開催に当たりまして、東京都教育委員会、また東京都公立高等学校長協会、そして東京都公立幼小中高連絡協議会のご後援をいただきまして、今日、こうしてシンポジウムを開催することができましたこと、改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて、本日のシンポジウムですが、全国５カ所にて開催されております。ここ東京の開催が最後の開催になります。このシンポジウムは、全高Ｐ連の健全育成委員会の事業の一つとして、健全育成委員会が中心となって展開をしている事業の一つでございます。

この「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」は、18年度から３カ年計画で実施され、文部科学省の委託を受けて実施をされております。昨年は、３年間の締めくくりとして「親は子どもに何を伝えているのか、どう伝えているのか」ということに関しましてアンケート調査を行い、親子関係や人間関係のあるべき姿ということで、木原先生からご提言をいただいております。

今年度は、この事業をさらに継続をいたしまして、高校生の生活や、その背景を探究して、子どもに共感的な関係性や、自己肯定感を気づかせるために、保護者である私たちが、子どもたちをどう支援すればいいのかということで研究をすべく、調査を再度行っていただきました。

本日は、この事業に長年ご尽力くださっております京都大学の大学院医学研究科で准教授をされております木原雅子先生に、多忙なスケジュール

の中、本日のシンポジウムにかかわっていただいております。

また、シンポジストとして高校生の保護者の方、子どもたちがそれぞれの年代でご指導いただいた先生方にお願いしております。子育ての問題点などが、今回の調査結果と合わせて見えてくるものがあるのかなあと思っております。

また、全高Ｐ連では、進路対策委員会が中心となってリクルートとの共同事業であります高校生と保護者の進路に関する意識調査ということもされております。そこでは、高校生と保護者の進路に関する、親子のコミュニケーションのよりよいあり方を研究していくということで事業を進めております。

今、皆さんもご存じのとおり、社会情勢は非常に厳しいものがございます。このような状況を克服していくためにも、しっかりと親子でのコミュニケーションということをとっていくことが求められているのではないかと思います。

木原先生の、これまでの調査報告の中で、親を含む大人との信頼関係の欠如が、子どもたちのやる気のなさにつながっていて、さまざまな問題に関連しているということが報告されております。

そして、子どもたちの未来というのは、私たち大人にかかっていると言っても過言ではないということで締めくくられております。私も全く同感でございます。

私たち保護者は、ＰＴＡ活動を通して、子どもたちが自分の夢をかなえるために支援していくということが、私は最大の目的であると思っておりますし、私たちは子どもたちの最高の応援団であるというふうに思って活動をしてまいりました。

今日ご出席の皆様方にも、このシンポジウムを通しまして、保護者のあり方について多くのことを学び得ることをご祈念申し上げまして、簡単ではございますが、ごあいさつといたします。

〈 来 賓 あ い さ つ 〉

東京都公立高等学校長協会副会長　東京都立竹早高等学校長　**浅　田　　博**

東京都公立高等学校長協会を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げますが、勤務は竹早高校に勤めておりますので、進学校に勤務している者として、きょうのテーマに関連して一言ご報告もさせていただきたいと思います。

高等学校は、今、キャリア教育、どのような生き方、人生の目標をもつかということを、進めていますが、社会人講演会のように、本校の場合ですと、来年110周年の学校でございますので、大先輩をお呼びして、仕事のつらさ、そしてやりがい、大学時代、高校時代の過ごし方等、力を入れてやっております。しかしながら、質問というコーナーになりますと、あれだけ熱意のある講演をやってくださったので、校長から言わせてもらうと、いくらでも質問したいなと思うのですが、残念ながらあまり出ないというときもございます。そして、出る質問で比較的多いのが、「年収はいくらでしょうか」と。それは生徒が何か質問しなきゃいけないかなと思って言っているのかもしれないのですが、進学校の中で、昨日も模擬面接をやったのですが、看護師さんになりたいと言って、熱意をもってやっている子もいるんですが、全体として、やはり収入ということが結構大きく出てまいります。

したがって、きょうのテーマで申し上げますと、年収何千万円以上、いい生活をしてというような目標、目的はあります。したがって、その目標に対してやる気はあります。そして、そのやる気に対して、有名な大学へ行かなければいけないという意味で、勉強もやりますし、教科を理解します。これは、一見「３ない高校生」ではないかもしれないのですけれども、私たちは、それでいいのだろうかということを考えて、さらにキャリア教育を進めているつもりでございます。

今日のテーマでは、目標ない、やる気ない、授業が分らないという生徒さんをどうするかという

こと、一見「３ない高校生」ではないようだけれども、本当に「３ない高校生」でないのだろうかというところも、進学校としては責任をもってやっていかなきゃいけないことだと思っております。

この事業の社会環境の充実という点に関しますと、私はマスコミのあり方に非常に危惧を感じております。マスコミについては、有害情報ですと校長協会としても団体として、非常に批判しやすいのですが、有害情報とはいえない情報にあふれている場合、これをＰＴＡの方々と協力していいマスコミにしていくためには、非常に大きな力が要るし、協力が必要だと思っております。

典型的な例は、最近のゴルフの賞金王、賞金女王の大合唱でございます。マスコミが、スポーツに対して何をなしたかではなく、18歳の少年が幾ら稼いだかというような形で、どのチャンネルを回しても、どの新聞を見ても、そのようなことにあふれております。

先ほどの質問に戻りますと、生徒に年収の質問をするのは情けないねと言うのは簡単なんですが、それは、我々大人のマスコミを含めての責任ではないかなと思っております。

そういう意味で、皆様方と一緒に考えていきまして、校長協会のほうも生徒を全力で支援していきたいと思っております。

非常に簡単ではございますが、本日はお招きいただきまして、ありがとうございました。

〈 基　調　講　演 〉

やる気ない、目標ない、授業わからない３ない高校生の現状

京都大学大学院医学研究科社会免疫学　准教授　**木　原　雅　子**

皆さん、こんにちは。本日は、このような大きなシンポジウムにお招きいただきまして、ありがとうございます。それから、土曜日というお忙しい中、お集まりいただいた皆様方に、心から感謝申し上げたいと思います。

それでは、今、私の紹介を少ししていただきましたが、私からも少し自己紹介を加えまして、それからお話を始めたいと思います。

私は、きょう、３つの立場でお話をさせていただこうと思っています。

一つは､研究者としての立場から。もう一つは、教育者としての立場から。そしてもう一つ、３つ目の立場は、きょう、お集まりの皆様方と同じように、保護者ですから母親としての立場から。

そういった３つの立場でお話をさせていただこうと思います。

それでは、まず、子どもとのかかわり方、それから、子どもへのどういった指導をしたらいいのかということを考えるときは、まず、相手を知ることから始めなくてはならないかなというふうに思います。

私の専門というのは、予防教育学といいまして子どもさんたちや患者さんたちが自発的に、自発的に行動を変える、それをお手伝いする指導方法の開発というのが専門です。

それでは、まず「やる気ない、目標ない、授業分からない３ない高校生の現状」という形で、今年度行われました、全国高等学校ＰＴＡ連合会の調査結果のご報告と、では、これに対してどんなことができるのかというのを、今後の展望についてお話をさせていただきたいと思います。

それでは、「高校生の学習状況」ですけれども、

きょう、お集まりの保護者の方で、ご自分の子どもさんがどれくらい家庭学習をしているというふうに思ってらっしゃいますでしょうか。お部屋に入っている時間ではなくて、家庭学習をしている時間です。これは、塾での勉強の時間も含めています。それを含めますと、一番多いのが、この全くしないという子どもたちです。男子の54％、女子の45％ですから、かなりの割合になると思います。高校２年生ですよ、これ。大学受験までもうちょっとあると思っているのかわかりませんけれども、全くしないという子どもさんがこれだけいるということ。

平均しますと、男子の１日の家庭学習時間は、1.6時間、女子の１日の家庭学習時間は1.7時間。そして、先ほど言われた３時間以上という人は９％、６％ですから、ものすごくちょっとしかいません。これは、先ほど手を挙げていただいたとおりのような感じがします。

それでは、授業がわからない、授業についていってない生徒さんたちはどれぐらいいるのか。

まず、ここで見ていただきたいのは、この授業についていけない、わからないことが、毎回わかりませんという方と、それから、わからないことがよくあるということを合わせますと25％。４人に１人の子どもたちは、全然ついていっていません。

そんなにたくさんの子どもたちがついていけない。これは、高校２年生です。

では、いつごろからついていけなくなったのかを振り返ってみます。

まず、小学校でついていけなくなった子どもさん、どれくらいいるのか。10％弱います。ここからついていけなくなると、後、すごい大変です。私、面接で子どもたちとお話ししますけれども、まず、掛け算ができない、そして片仮名が書けない、そして足し算、引き算、掛け算、割り算の順序、どれを先にするかというのがわからない。それで、高校生ですからね。

ですから、そこの段階でやる気が出たとしても、一からやり直そうとするのは、すごい大変なんです。だから、この小学校でついていけなくなる子どもさんたちが、これがゼロになるような教育というのを、私はすごく望んでいます。

そして、中学校１年生でついていけなくなり始めた、中学校２年生、これ多いんですね。15％ぐらいいます。中学校３年生。そして、高校１年生、高校２年生になりますので、多いのは、ピークは中学校２年生と高校１年生です。

中学校に入りました、小学校と違う環境で緊張しています。ここまでまだ緊張しています。そして、２年生になりました、中学校生活に大分なれてきました。そして、高校入試までまだもうちょっとあるのでというところで、多分、この辺は親も安心するし、子どもたちも何となくゆったりしちゃう時期じゃないかなと思います。

そして、一生懸命高校受験の勉強をして高校の授業を受けてみて、やはり中学校の勉強と高校の勉強は全然違いますので、そこでついていけなくなる子どもさんたちが３割もいる。ですから、このつまずきが、この中２の山、高１のこのピーク、これを少しでも減らすようにしないと、あと受験勉強を始めましたといった時には、間に合わなくなります。

でも、何が一番大切かといっても、私が一番感じるのは小学校です。特に、私は小学校の中でどの学年が大切かというと、４年生が一番大切だというふうに思っています。９歳から10歳くらいだと思いますけれども、１けたの年齢から２けたの年齢になる変わり目です。思春期に徐々に入っていくときですので、自我の形成もあります。そのときに、うまいことそれを乗り越える子どもさんとちょっとつまずいちゃった子どもさんというのは、後の人生が大きく変わっているなというふうに思います。

次、携帯です。子どもたちは、携帯にしがみついております。

では、どれくらい携帯を使っているのか。見ている時間も含めて携帯使用時間を聞いてみました。そうすると、どうなったか。

４時間以上という子どもたち、こんなにいます。２割から４割ぐらいいますけれども、平均しますと男子の１日の携帯使用時間、2.8時間、女子の１日の携帯使用時間、4.2時間、これ先ほどの学習時間と比べて何かすごくショックではないですか。これで、学力低下するといっても当然でしょうという感じはします。

こういった形で、携帯に浸っています。とにかく携帯とともに生きる人々という感じになっていますので、そのともに生きる人々に聞いてみまし

た。携帯をどれぐらいそばに置いているか、手に持っているか。

一番多いのが24時間なんですね。とにかく離さない、トイレに行くときも持っている。そして、お風呂に入るときだけは脱いだ服の上に置いている。それ以外、寝るときもずっと一緒にともに寝ているという感じですので、一番大切なものみたいです。平均しますと、男子は１日に13時間、女子も13.5時間となります。ものすごい携帯依存みたいな状況です。

今度は、子どもたちに、あなたの保護者、お父さんとお母さんは、携帯をどんなふうに使ってますかというのを聞いてみました。

子どもが親に話しかけているとき、保護者がメールしていることがありますかと聞きました。

そしたら、何と25％ぐらいの子どもたちが、よくある、ときどきあるというふうに答えています。結構多いと思います。先ほどの４人に１人の割合になりますので、多いかなと思います。

そして、こういった回答をした子どもさんと親の側は、そういったメールをしてないとか、ほとんどない、全くないという子どもさんたちと、この分とこの分を比較してみました。そうすると、こちらの群のほうが、この子どもさんたちのほうの携帯を使う頻度が、使用時間がすごく長いです。そして、この子どもたちは、親に対する信頼感、すごく低いです。

そして、子どもたちの意識、精神状態、心理状態ですけれども、何かとても打ち込んでいるものがありますかという質問です。それに対して、「ある」と答えた人が、男子65％から70％ぐらいですかね。女子が55％ぐらいなので、女子のほうが大分少ないと思います。

目標があるか。これは、男女とも余り変わらなかったと思います。男女とも70％から75％ぐらいは何か目標があるというふうに答えています。

今度は子どもたちに、「あなたが今、一番ストレスを感じていることは何ですか」という質問をいたしました。それを聞きますと、一番ストレスを感じているのは、何と勉強だそうです。

そして、男子と女子は変わります。男子は、２番目がストレスなし、とっても大らかな世界に生きています。何かこれ、うれしいですね、ストレスなしというのはうれしいのですけれども。３番目が、男子は部活のこと、そして、その次はその他になって、そして、あと友人ぐらいになります。

女子の場合は、２番目は友人関係で悩んでいます。ですから、男子と女子では、ストレスの原因というのが違っているなというふうに思います。こうやって悩んでいるわけですけれども、こういうふうに男女が違っていました。

次、「あなたは自分の人生に満足していますか。」人生といっても16歳ですけれども、ものすごく大げさに聞いてみました。何と、やり直したいという子どもさんたちが４割から５割。そして、わからないも含めると７割近い子どもさんたちが、自分の人生に満足していません。

そして、「人生をやり直せるとしたら、いつに戻りたいか。」小学校入学前に20％ぐらい戻りたいと思っています。そして、あと小学校の低学年、小学校の中学年、小学校の高学年、そして、中学校。中学校に戻りたい子たちが半分くらいいます。そんなに早くやり直さなくたって、今からの人生を変えたらいいのにと私は思うんですけれども。

そして、子どもたちに「３つの願いは何ですか」という質問をしているんですね。ものすごい沢山の割合で人生をやり直したいというのが、３つの願いの中の一つに入っています。

その後、自分に対する評価、自己肯定感はどうなっているか。

全体としてみたら自分のことが好きか、自分にいいところがあるか、自分はつまらない人間だと思うことがあるか。これに対して、とても嫌い、あまり好きじゃない、あるいは全くない、少ししかない、そして、自分はつまらない人間と思うことがよくある、時々思うという人たちを見てみると、全部女子のほうが自己肯定感低くなっています。何か、女子、一見元気そうに見えるんですけれども、今回の結果は、女子が低いという結果になりました。

今度は、高校生にやる気はあるのか、意欲があるのか。

最近、何に対してもやる気が出ないことがありますか。かなりある、よくあるという、悲しくなるような子たち、いっぱいいます。25％、30％近くいます。２割から３割いて、そして、あと、これも女子のほうが多いです。

最近、何に対しても面倒だと思うことがありますか。これもよくある、かなりある、これで40％ぐらい。何かもう若年寄みたいになっちゃっていますけれども、そういった状況です。

それでは、ここから、授業がわからないといった子どもたち、授業についていけない生徒さんと、ついていってる生徒さんの比較という形でやってみたいと思います。

その子どもたちの幼少期、小学校低学年はどうなるか。友達と一緒に遊んでいます。友達は疲れはてて寝ています。でも、背筋をシャンと伸ばしてゲームに熱中しています。友達が寝ても、なおゲームという感じですね。このゲームをどれぐらいしているか、まず、２時間未満、２時間から３時間、３時間以上。ゲームをしている子のほうが授業についていけません。

ゲームをしているときの脳の状態というのをちょっとご紹介しようと思います。 これは、ゲームをしているときの、子どもたちの脳の状態です。このグレーのところは、脳は使われていません。活動してない状況です。色がついているところが活動しているところです。ほとんど活動していないということがわかると思います。どんどん赤に近い色になると活動していますけれども、赤い部分なんて全然ありません。ほとんど脳を使っていないという状況です。

そして、そうではなくて文章を書いているときはどうなるか。これは、びっくりしました。文章を書いているとこんなに変わるんです。

ですから、脳が、これはさっきと全然違いますね。こういった状況ですので、脳が活動をしてない状況というのは、小さいころからずうっと続くと、それはちょっとまずいのかなという気がします。例えば、使わない器官とか、使わない筋肉とか、使わない神経回路というのは衰えていく可能性があるんじゃないのかなというのは、ちょっと思います。

今回の調査結果から見る限りにおいては、ゲームをすると授業についていけない子たちが多いので、ゲームと脳の働きというのは、いい方向には動いているとは、あまり思われないかなというふうに思います。

現在、高校時代ですけれども、このようすです。

まず、勉強時間との関係です。これは当然のことですけれども、勉強している生徒さんのほうがついていけていますし、でも、これはもしかしたら、ついていけないから、もう授業がわからないから勉強してないという可能性もありますので、どっちがどっちかわからないというふうに思います。

そして、１日にどれくらい携帯を使っているか。これは、携帯を使っていないほどついていけています。そして、この携帯というのは、勉強だけに関係しているわけじゃなくて、そのほかの危ない性行動とか、それから万引きとか、いろいろなものと関係しています。携帯の使用時間の長い子ほど、いろいろなリスク行動をとっています。

これは、どうしてかは私にはわかりませんけれども、生活自立度なんですけれども、「インスタントでなくて、自分で作れるお料理がありますか」と聞いたら、お料理できるという子どもたちのほうが授業についていけます。

あと、朝、ちゃんと自分で起きている子どもさんたちのほうが、ついていけます。そういった、自立している子どもさんのほうが、授業についていけます。

次、精神状態。

全体としてみたら自分のことが好きか。これを見ていきますと、自己肯定感が高い生徒さんのほうが、ちゃんとついていけます。ついていけるから高いのか、どっちかわかりません。

そして、やる気ですけれども、これも当然の結果といえば当然の結果ですけれども、やる気のある生徒さんたちのほうが授業についていける。一生懸命やろうとする意欲がある人のほうがついていけます。

そして、人生の満足度。目標があるか。目標がある人のほうが、授業についていけます。そして、人生に満足している生徒さんたちのほうが、これのほうが差がありますね。人生に満足している生徒さんたちのほうが授業についていけます。

それでは、周囲の人との人間関係ですけれども、まず、友達との人間関係です。友達は、信頼できる友達がいる人のほうがついていけます。

そして、信頼できる先生。学校に信頼できる先生がいる子どもたちのほうがついていけます。

そして、あと、本当に困ったときに守ってくれる大人がいる人のほうが、授業についていけま

す。

そして、保護者への信頼感と授業についていけているかどうかの関係ですけれども。保護者との信頼関係が、信頼をしているほど、ちゃんと授業がわかっているという結果ですね。

そして、全くここからそれますけれども、では、勉強できている子、例えば進学校のように、１日の勉強時間がすごい長い、成績もかなりいい、そういった生徒さんたちは、じゃ、問題がないのかというと、実はそうではないんです。

私、とっても不思議だなと思ってたんですけれども、例えば、危ない性行動、相手が何人もいるとか、それから全然予防をしないで性行動をとるとか、そして、あと万引きをするとか、そういった調査をすると、それを成績に分けると２つ山があるんです。成績が真ん中より下目のほうに一つの山があります。そして、もう一つの山は、成績がすごくいい子のほうに山がもう一つあるんです。その山は、成績が下目のほうの子どもの山よりも時々高かったりするんです。ですから、決してその成績のいい子たちが何も問題を抱えてないんじゃなくて、ただ、問題を抱えているというか、いろいろなリスク行動をとっていることを、この成績が下目の子どもさんたちよりもうまいこと隠せます。隠すすべもたけているという感じはします。

知らないのは学校の先生と保護者であって、子どもたちは、遊んで、きちんとした時間に、ちゃんとして帰っていくんですよ。ですから、だれもわからないような遊び方ができます。

そういった２つの、二極化している層があります。そして、その成績がよくて、危ない行動をとっている生徒さんたちには特徴があります。男子と女子が全然違うんですね。

男子のほうは、自己肯定感がめちゃめちゃ高いです。ちょっと高過ぎるので、これは、全く周りの空気が読めてないなという感じの、自意識過剰というか、自信過剰みたいな方なんですけれども、そういう子たちが、ものすごくいろいろな危ない行動をとります。ものすごく活発な性行動もとりますし、しかも、進学校に行っているとモテるんですね。そういったので、相手がたくさん群がってきますので、意外とそういうのは活発です。あと、女子のほうは、成績がよくて、危ない行動をとっている女子の特徴としては、今度は男子と全く違っていて、自尊感情はすごい低いです。この子たちは、何か心にすごい大きな悩みを抱えていると思うんですけれども、割とこちらから見るとうつ状態の初期状態みたいな感じで、そして、自傷行為とか、そういった行為をしていたりします。

そして、ただこれだけ表面上は違う、成績がよくて問題行動をとっている子どもたちですけれども、その男女が共通している部分があるんです。共通している部分は、どちらの子どもたちも、親への信頼感がものすごく低いということです。インタビューをしたときに、どんな大人になりたいという質問をしたんですね。そうしたら、どんな大人になりたいというのはない。何かないと聞いたんです。なりたくないのだったらあると言われて、なりたくないのは何と言うと、うちの親みたいにはなりたくないと言われたんですね。

でも、それってすごく悲しいなと思ったんですよ。ですから、そこら辺から子どもたちの後ろ側にあるのは、保護者の大切さというのがあるかなというふうに思いました。

私はＷＹＳＨ教育というのをしていますけれども、一言で言うと、子どもたちが元気になる教育、そういった形です。

これは何かというと、Well-being of Youth in Social Happiness. 子どもたちが幸せになる教育という形ですけれども、もともとは危ない行動をとらないように、リスク行動を抑えるという目的から始まったんですけれども、そのためには、子どもたちが夢と希望をもたないとだめなので名前を変えました。

この教育は、調査に基づいて教育効果が確認されて、これまでに12万人の子どもたちに授業をして、そして、効果が科学的にエビデンスを得られている教育というふうに思ってください。

どういった特徴があるか。まず、知識大きく上がります、意識も変わります、行動も変わるんですけれども、自己肯定感も上がります。それから、不登校気味の生徒さんたちが、この教育を行ったら、去年から今年にかけて行いましたらば、不登校気味、あるいは別室登校の子どもさんたちが10分の１に減ったという学校もあります。

プロセスの間には保護者の方からもすごい批判

を受けましたし、新聞社からもこんな教育やっていいのかという批判を受けましたし、いろいろ批判を受けて、最後に残ったものです。とにかく、子どもたちに一番いい教育をと考えています。

今、その教育が広がっていて、全国の42の都道府県で行われています。

特徴は、子どもたちの現状をきっちり、今回みたいにちゃんととらえること。まず、現状を知らないとどうしようもありませんので、そして、教育をした後に、本当に効果があるかどうかをきちんと調べて、教育効果がないものはやらない。教育効果のあるものは継続するという形で、どんどん毎年、毎年改善を重ねているという教育です。ここの中で教えることは、一生心に残るもの。自分の人生について考えることというような教育をしています。

ですから、科学的に行いますし、実際、この授業を行う先生方には、科学だけでは絶対に人は動きませんということをお伝えしています。科学プラス、その先生方が心を込めてくださいというのを頼んでやっています。

例えば、きょう、やる気を起こすにはどうしたらいいかということですけれども、まず一番最初は、それぞれの子どもたちの自己肯定感を上げなくちゃいけないというところがあります。このＷＹＳＨ教育のゴールは何かですけれども、まず、１段階目、一番基礎になるのが、安心できる人間関係を子どもたちに築いてあげること。その安心できる人間関係の上に、子どもたちは自己肯定感を築き上げていきます。すべての子どもたちのいいところを見つけて、そして、自分に自信をもつこと。

そして、あとは社会で自立してちゃんと生きていかなくてはいけませんから、そこの土台ができた上には、今の社会には、こんなたくさん危ないことがあるのよというのを伝えてあげなくてはいけません。人ごとじゃないですよということを伝えてあげなくてはいけない。

そして、その後、どうしたらいいかというのが、子どもたち自身に考えてもらうという方法をとります。そうしないと、指示待ち人間になっちゃいますので、ちゃんとここまで言って、こんな世の中は危ないんだから、これしちゃいけない、あれしちゃいけないというのは一切言わない教育です。これが危ない、あれが危ないというのは言いますけれども、じゃ、どうしたらいいかは、自分たちで考えてみましょうという形の教育を行っています。

日本は、今とても便利な社会になりましたけれども、きょう、お話ししましたように、表面上の豊かさの中で、子どもたちの心の貧困というのが、子どもたちの周りの心の貧困というものが子どもたちのいろいろな問題を起こしているかなというふうに思います。

では、私たちにできることは何なのか、それは、その社会のひずみの中でおぼれそうになっている子どもたちの土台になること。そして子どもたちを守る人と人とのつながりをつくることではないかなと思います。

それがつくれるかどうか、子どもたちの未来が変わると思いますので、きょう、ご参加の皆様方が何かできることから始めていただければなと思います。

そして、東京都のすべての地域で、このような笑顔があふれることをお祈りしています。

〈シンポジウム〉

「子どもにやる気、意欲を引き出すには親は何をすればよいのか？」

コーディネーター　木原雅子　京都大学大学院准教授

シンポジスト　犬塚順子　東京都北区就学前教育・保育推進アドバイザー

木口裕介　(社)東京都小学校ＰＴＡ協議会副会長､文京区昭和小学校ＰＴＡ会長

笹　サヨ子　東京都足立区立第十一中学校学校長

坂根清和　豊多摩おやじの会副会長

本間正樹　東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会副会長

＜木原＞本日のシンポジウムは、先ほどのお話の続きみたいな感じなんですが、「子どものやる気、意欲を引き出すには」というテーマでお話を進めさせていただきます。

それでは、最初のご発表を、犬塚順子先生。元幼稚園の園長先生でいらっしゃいます。

では、犬塚先生、よろしくお願いいたします。

＜犬塚＞ご紹介いただきました、犬塚順子でございます。

私は、先ほどご紹介いただいたように、初めは私立幼稚園で10年間、その後、公立幼稚園で28年間仕事をしてまいりました。この３月に定年退職いたしまして、ただいま、区の就学前のアドバイザーということで、幼稚園や保育園にかかわる仕事をしております。

それこそ、私が仕事をした当時は、子どもが本当にたくさんいました。昭和40年代でございますから。今のような少子化を全く考えていなかったというのが、私のすごい想像もしなかったことでございます。

今、ゼロ歳と１歳の乳児の保育園への希望者が大変多うございます。都全体でも、待機児がおりますけれども、そんなふうに、女性の社会進出だけじゃなくて、今は経済的な面も含めて保護者が仕事に出るということが多い時代になったんだな、それも大きな変化だなと思っております。

保育園に行くということになりますと、やはりお父さん、お母さん、両親とかかわる時間が子どもが本当に少なくなっているんじゃないかと。

それで、私たちのほうは現場を抱えながらアドバイスはしておりますけれども、やはり子育ての最終責任者というのは保護者なんだということをちゃんと踏まえてお手伝いをしたり、それからともに考えたりしていきたいなというふうに日々思っているところでございます。

意欲をなくしてしまった経験をお話します。

それは４歳児の子でしたけれども、絵をかいていたときに、友達が、「変なの」って一言言ったんです。普通だったら、そのとき、そばにいる教師がそんなことないよねとか、ここはすてきだねとか、そんなこと言っちゃったらちょっと悲しいよねなんていうフォローがあるんですけれども、たまたまそこにいた担任が、新規採用ということもあったので、私たち側のフォローがなくて、そのときを過ごしてしまったんです。振り返ってみたら、そういう一言で傷ついちゃったんですね。まだまだ４歳児ですと園に来れば、先生との信頼関係が一番大きいですから、幼児の心というのは、本当に一言、そのことでもう長く後に引いてしまうということがあります。

ですから、過保護はいけませんけれども、やはり愛情たっぷりに育てていただきたいというふうに思っています。

あと一つ、私たち特に幼児教育者は、絵本は心の栄養というふうに思って、絵本の読み聞かせを大切にしています。やはり本を通して園でしたら先生とのつながり、それからご家庭でしたら、ご両親、読んでくださる方とのつながりの大きな媒体になっていると思うんですね。

子どもの心は柔軟ですから、そのときに聞いた生の声で、幾ら字が読めるからといっても絵を楽しんだりとか、行間だとか、間を楽しむには読み聞かせではなくてはいけないと思っているんです。特に日本語の美しさを伝えるにもそうだと思

うんですけれども、それをしていただくということが、とても大切ではないかなというふうに思っています。

＜木原＞私も、絵本の読み聞かせは小学生には昨年度行ったんですけれども、やはり大きくなってでも、自分で読めても読んでもらうときって、すごくうれしそうな顔をするんだなって思います。本当に先生のおっしゃっているとおりだなというふうに思ってます。

それでは、今度は小学校の保護者のお立場で、文京区立昭和小学校ＰＴＡ会長の木口裕介様、よろしくお願いいたします。

＜木口＞皆さん、初めまして、木口裕介と申します。

師走になりまして、きょう、私は午前中、地域のお餅つきに参加をしまして、たくさんの子どもたちと触れ合いながら、こちらの会場に来ました。

私には、高校１年生の息子と、現在小学校５年生の娘、２人の子どもがおります。私は、中小企業の社長をやっておりますので、なかなか子どもたちと向き合える時間が少ないということで、そんな中でいろいろな時間を利用しまして、子どもたちの気持ちを、うちの子どもだけではなくて、昨今、学校教育事情を照らし合わせながら、子どもたちが過ごしやすいと思う学校を１校でも多くふやしたいという思いから、今、昭和小学校、また文京区のＰ連の会長を経て、現在は社団法人東京都小学校ＰＴＡ協議会の副会長をしております。

そして、きょうのテーマであります、子どものやる気、意欲、またあるいはその逆であるやる気をそいでしまったというようなことで、私の子どもに置きかえて少しお話をさせていただきたいなと思います。

私は、子どものやる気というのは恒常的に続くものではないと思っております。何回も何回も同じことを繰り返し教え、角度を変えながらアプローチを投げかけてあげることが大事であり、また大切ではないかなと日々心がけているような次第です。

そして、またほめることによって意欲をもたせることは、とても大事ではないかなと思っております。

そんな中で、うちの子どもが友達に手紙を書くために机に座った、そのときの事例ですけれども、やはり友達に手紙を書くことはとてもいいことです。ですから、何を書いているのと声をかけてあげたりとか、ちなみに、それが終わった後、次はどんなことをやるのかなというような会話をもちます。また、共感をもたせためには、やはりお父さんは一生懸命仕事をしているよといったような思いをもたせながら、子どもに勉強を積極的にやらせるようなことを、期待をもたせながら伝えているようなことです。

子どものやっているプロセスについても、十分理解をし、評価をしてあげることが、私は重要だと考えておりますし、それを念頭に置き、日々心がけております。

また、どんな小さな目標であっても、達成することがとても意義のあるものだということを語りながら、ほめて自信をもたせているような状況でございます。

また、ほめてやる気の出る娘とは反対に、高校１年生の息子は、最近では勉強に対しても、生活態度にしても、全くやる気がなく、正直私からも、うちの家内からも注意され、怒られることばかりで、全くほめるところがないというような状況です。

先日は、私も、話しているにもかかわらず、勝手なことばかりしている子どもに、やっぱり手を上げるような次第でございました。何度も注意されて、怒られて、おもしろくないのかわからないけれども、どうして、自分の生活態度や勉強に対して、こうなってしまったんだというような問いかけもしてみます。

そうすると、やはり一番の反応は、友達が、例えばゲームセンターに行っているから一緒に行くんだよと。〇〇君が一緒だから、じゃ、何で一緒にやるんだというようなことで、いろいろ話をしましたけれども、やはり本人の思いと、私がもっている親の思いというのが、若干すれ違っている部分があるのかなと。そういうことで、１時間とか、１時間半ぐらいですかね、常に話をしたりとかしてます。

子どもはやっぱり親から離れて部屋にこもることが多いですね。そうすると、来なさいよと言っても、何で来て、何でこんな話をしなきゃいけないのかという、そういったようなすれ違いがあって、逆に、私は子どもの部屋に行くような時間を

たくさんつくってます。

そうすることによって、少しでもコミュニケーションや、今、子どもが何を考えているかという、そういったようなモチベーションを少しでも、やはりお互いの共感で、わかり合ったほうがいいのかなと、そういう思いでございます。

やる気を引き出すには、やはり子ども自身、親、先生といった周りの認識が共通のものにならなければ、現代の子どもたちには伝わらないのではないでしょうか。

＜木原＞保護者の方の率直なご意見で、しかも高校生の息子さん、そんなに何でもはい、はいという年齢では絶対ありませんので、私も中学校、高校のときは、本当に苦労しましたので、その真っただ中にいらっしゃるお立場を、そのまま等身大でお話ししてくださいましてありがとうございます。

それでは、続きまして、３番目のシンポジストの方ですけれども、足立区立第十一中学校の笹サヨ子校長先生にお話をお願いいたします。

＜笹＞皆さん、こんにちは。足立区立第十一中学校、校長職10年目で、38年の教師生活にこの３月で退職ということで、こういう機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。

実は、校長室に、保護者の皆さん、それから子ども、悩みを抱えた人、来ることがそういえば多くなったなという思いがいたしております。その中で、やはり一緒に保護者の皆さん、そして学校、そして地域の皆さんと一緒に子育てしていこうと、その原点がやはりとても大事だなというふうに、今、本当にしみじみと考えております。

やる気というのは、本当に自分に自信がないとやる気が出ません。

では、そのために学校では、まさに基本です。あいさつをしよう、思いやりをもとう、あるいは、学習をお互いに学び合おう、助け合おう、そのときに、一つとして学校は、まずよい環境をつくろうというのを、10年間やってきました。

このよい環境という中で、よい環境の中にいると、実は子どものそれぞれもっている欠点、これは大人にももちろんありますが、その欠点が見えなくなるんですね。悪い環境にいた場合、やはり子どものもっている悪さ、あるいはずる賢さ、あるいは正義感、そういうものを本当に一生懸命にやる、当り前にやることができなくなってしまいます。その中で、まして自分だけじゃないという中で、自分の悪さが増長される、そういう場面がありますので、私たちは本当にいい環境をつくろう、そのためには、先ほど言ったようなところに力を入れてやってまいりました。

その中で、やはり一番大事な環境というのは人です。学校の中では教職員です。先生が子どもと向き合うとき、もし、このお子さんが生徒たちが自分の子どもであったら。そこまでいかない、先生でも家庭とかありますから、そこまでやらないんじゃないか、でも、自分の子どもだったら夜遅くまでということもあり得るんじゃないでしょうかということで、本当に子どもの立場、あるいは保護者の悩み、そういうのを共感しながらやりましょうということで、今、やっております。

保護者と信頼をつくり、生徒と信頼をつくり、その土台を学校では培いましょうと。

今度は家庭です。家庭の保護者の皆様に呼びかけていることがございます。子どもの前で、あの担任の先生はこうだね、だめだね、それは絶対に言わないでください。その代わり、いつでも、校長室、あるいは職員室の扉は開いておりますので子どもの前じゃなくて、直接おっしゃってください。そしたら、お互いに子どもを真ん中にして話合いをしましょう。そんな形でお話しさせていただきます。

そうすると、担任の先生への相談、それから私への相談、結構あります。その中で、やはり子どもが成長していくという部分かなというふうに思っております。

具体的に、家庭で意欲を出すにはどうしたらいいか。３つあります。

一つは、人というのを家庭に置きかえてもいいと思います。一つ目は、人と温かい心の交流がある。２つ目、人に自分が役立っていると実感できる。家庭でも同じです。３つ目、人と共感し、協力できる。

その中で、実はその基本となるところがあります。我慢です。学校でも、１年生は、小学校から上がってきたばかりの生徒ですが、１年生では我慢をしよう。悔しいことあった、もちろんけんかがあって、それはそれでいいです。でも、暴力、その前にちょっと我慢しよう。それでもだめだったら、こういうストレスの解消があるよと。それ

から、２年生になったら優しさ。３年生になったら、もう一生懸命。本当に簡単な言葉ですが、そんな感じでやっております。

＜木原＞笹先生、長い先生のご経験からの貴重なお話、ありがとうございました。

それでは、次に、豊多摩おやじの会の坂根清和様、お願いいたします。

＜坂根＞本日は、地域で子どもを守り育てるという立場からお話しさせていただこうかと思いますので、私が所属しているもう一つのおやじの会、地元の世田谷区上北沢小学校おやじの会ＯＢとしての活動を中心にお話しさせていただきます。

上小のおやじの会というのは、1997年に発足しました。現在、会員数は30名で、もちろん上小の児童のお父さんを中心として、お父さんが子どもと一緒に遊び楽しむという時間を過ごすということを目的としたおやじの会です。

ですので、おやじの会ですけれども、この趣旨にご賛同いただいているということでは、お母さんの会員さんもいらっしゃいますし、地元の商店街とか、児童館の方などにも一緒にご協力をいただいて活動を進めております。

このおやじの会の、どういう活動をしているかと申しますと、いろいろなことやっているんですけれども、５月はバーベキュー大会をやったりとか、７月は子ども盆踊り大会と。今、12月ですけれども、これはもうすぐ火の用心ですね、子どもたちと一緒に火の用心の夜回りとかやるんですけれども、一番大きなメインのイベントというのが、10月に行います、学校の施設を使いました学校キャンプ、略して親キャンと呼んでいるんですけれども、親キャンが一番大きな行事です。ここを中心にお話しさせていただきます。

これは、学校の体育館とか、校庭にテントを張りまして、子どもたちと１晩寝泊まりして、一緒に遊ぶというところで、子どもたちが御飯をつくったり、食事をつくったりとか、あと、キャンプファイアーをやったりとか、あるいはミニ運動会をしたりとか、バターづくりをやったりとか、盛りだくさんのいろいろなことをやって、今、子どもの半分以上は参加しています。この親キャンを進めていく上におきまして、当然、ことしはどういうことをしようかというのを企画メンバー、おやじたちで考えるんですけれども、実は、細目はわざと余り決めないようにしているんですね。これはなぜかと申しますと、実際、当日来たおやじたちが、その現場で状況を見て、自分たちの判断で進めていこうというのを、やっぱり自主性をモットーにしたいということを思っておりまして、あまり細かいことは決めない。細かく決めれば決めるほど、なかなか枠にはまっちゃって親も楽しめませんので、できるだけ自由にやりたいというふうに考えています。

そういうような状況ですので、当然、子どもたちにも親はあまり何も指示しません。次、こうしなさいとか、ああしなさいとかあまり言わないようにしています。

なんですけれども、おもしろいことに、結構、子どもたちって自主的に動いてくれるんですね。例えば、廃材を集めとかは親がやっているんですけれども、当日、加工したりとか、木を運んだりとか、木組みしたりとか、いろいろなことをしないといけないんですけれども、子どもたちが率先して、自分たちでやっています。

下級生が困っていたら、一輪車とか持ってきて、これで運ぼうとか一緒にやったりとか、そういう意味で非常に子どもたちの自主性が発揮されている場じゃないかなというふうに思います。

大きなキャンプファイアーで、周りを囲んでフォークダンスをしたり、みんなで歌を歌ったりとか、子どもたちは楽しんでいますが、親は何もしてないんですけれども、子どもたちが先生と交渉して楽器を演奏してくださいとかいうようなことを頼んで、一緒に先生たちと楽しむというようなこともやっています。

親がサポートできるところは親が出るんだけれども、前面は子どもたちにやらせるというところで、子どもたち自身で、けっこう親キャンの伝統というものを築いていっているんじゃないかなということで、非常に私は喜ばしく思っています。

大人はすぐ子どもの自主性とか、やる気とかいうのを問題にするんですけれども、ちょっと振り返ってみて、自分はどうなのって。そう思うと、やはりなかなか今大人って企業でも管理、管理と、学校の先生も決してこの枠外じゃないんじゃないかと思います。そうすると、やはり子どもたちはそういう大人を見て、いろいろ枠にはまって

いるんだなと、自由にして、勝手に表に出ないほうがいいんじゃないかなんて、いろいろ敏感に感じているんじゃないかと思うんですね。

こう考えたとき、私、このおやじの会の活動で、２つ自分として得られるものがあると思っています。まず、一つ目は、やはり職場の枠を超えていろいろなお父さんたちとつき合えるという機会だと思うんですね。損得勘定もないというのもありますし、それから、いろいろな職場で働いている方のお話を聞けるということで、やはり自分の見方を非常に広くできる。いろいろな人の意見とかを素直に受け入れるということの、自分が成長する場であるというふうに思っています。

２つ目は、このおやじの会は、先ほど申しましたように、親と子どもが一緒に楽しむ場なんですけれども、これは自分の子どもだけでなくいろいろなよその子どもさんも一緒に来ますので、いろいろな子どもさんを同時に見ることができる。
ところが、よその子どもさんとか、いろいろ見ていると、よその子どもさんだから無責任だということもあるのかもわからないですけれども、ああ、きみ、なかなかいいことあるね、こうしたらもっととか、いろいろお互いに声をかけてあげられることがあって、そういう意味では、子どもたちを素直に、いいところを見てあげられるチャンスになるんじゃないかなというふうに思ってます。

こういうような形で、おやじの会の活動をやっているんですけれども、やはり子どもだけに自主性を求めるんでなくて、親とか、先生自身も、やはり自主性をもって活動をしていく。子どもたちに、その姿勢を見せるということが非常に重要じゃないかなというふうに思っております。

これからも、子どもたちのやる気とかを引き出せるようにということで、おやじの会の活動を続けていきたいなと思います。

＜木原＞どうも、ありがとうございます。

お話をお聞きしながら、子どもにだけではなくて、大人が考えて、振り返って自分はどうなのというところが、ああ、そうだなと思いながら話に聞き入ってました。

どうもありがとうございます。

それでは、最後のシンポジストの方のご発表に移らせていただきたいと思います。

東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会の本間正樹副会長様より、お話をお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

＜本間＞みなさん、こんにちは。

私がきょうのシンポジウムの主催者側を代表してということで、他の４人の方、非常に教育熱心な方で、私がここに座っているのは、どうかなという感じもするんですが、ちょっと自己紹介を兼ねまして、私なりの考えていることをお話ししたいなと思っております。

私は今、東京都の公立高等学校ＰＴＡ連合会の副会長をやらせていただいているんですが、昨年までは上野高校のＰＴＡの会長をしていました。と同時に、去年は最後だったんですけれども、地元の北区の中学校のＰＴＡの会長もあわせてやっていました。おまえ、ただＰＴＡ会長が好きなだけじゃないかと思われるかもしれませんが、小学校からやって、結局、小中高、なかなか今ＰＴＡの役員を引き受ける方もいらっしゃらないので、頼まれればやるよということで、お引き受けしたわけなんですが、今はあらたに、娘が１年生に今入ったところでございまして、もうちょっと続くかなという感じがしております。そんな経歴でございます。

実は私、もともと笹先生、中学校の校長先生をやってらっしゃるんですが、笹先生と実は私、一番最初に同僚というんでしょうかね、中学校の教員をやっていまして、本当に私が最初のころにお世話になった先生なんですね。きょうは、お忙しい中、ぜひごむりを申し上げて、ここに来ていただいたんですが。

私が最初に中学校の教員になったころは、びっくりしましたよね。まず、何を先輩方は教えてくれるのかと思ったら、「ちょっと本間来い」というんですね。まず、なぐり方を教えてあげるというんですよ。そのころは、校内暴力が全盛のとき

でしたから、なめられちゃいかんから、本間、びしびし行けと。厳しく行けと。

私もやっぱり最初ですからね、わけ分らないですし、中学生ごときになめられちゃいかんと思って、その気で行ってましたんで、まず、なぐり方を教えていただいたという。そういう意味じゃひどい時代だったんですが。

そうしたら、そこ７年間勤めて、３年間いたら、今後は急に学校長から呼ばれて、おまえ、絶対に子どもに手を出しちゃいかんって、180度変わったんです。そんなんで本当にとまどいました。

そういう意味では、その当時、私なんかは女の子でも男の子でも構わず、最初の一、二年ですかね、もうわけわかんなく、とにかく逆らうやつはなぐっていましたね。危なくないように、鼓膜を破らないようにということでね。そういう教え方だったんです。だから、かなり、私のおかげでやる気をなくした子は多いだろうなと思いました。

そのころはうるさかったじゃないですか、だから、制服チェックだとか、床から30センチとか、今から見ればどうでもいいようなことなんですが、髪の毛は肩にかかるななんて言って、私なんか担任だったものですから、女の子の髪の毛を実際に、今考えたらもう大変なことですよね、切ったりしてましたからね。

いや、ひどい教員だなと我ながら思って、いわゆる教育者失格してここに来ているわけなんです。

その後、私は今、会計事務所を経営していまして、全然違う仕事をやっているんですけれども、私、一つ、自分の経験から言うと、やはりやる気を失ったというのは、実は木原先生がアンケートの結果のところで、まさにそうだなと思ったのは、高校１年生のときなんですね。進学校に行ったものですから、みんな頭いいですね。大学を目指してみんな勉強する。私は、正直あんまり勉強できなかったんです。嫌いじゃなかったんですけれども、できなかったんです。

そこで、高校に入って、親は田舎ですから大学というと国立大学か、早稲田、慶應しか大学じゃないみたいな言い方をするんですね。それでもう一気に私の経験としては、やる気を失いましたね。

いざ、自分の子どもになると、やっぱり同じですね。そこがやっぱりよくわかりました。そんなもんなんだなと思って。そういう意味では、本当に親としてなかなか成長してないんですけれども。

あと、私が中学のときの授業の中で、一つ心がけていたのは、私、社会科だったんですけれども、子どもが勉強するのはやはり興味をもたなくはいけない、楽しくなきゃいけない、そうすれば自然にやってくれるんですよね。社会科なんて、極端な話、あまり皆さん方重要に思ってないと思うんですけれども、そのとおりですよね。覚えれば、テストはできますから。だれでも教えられるというと、ちょっと語弊ありますけれども、そういうような感じでしたから。とにかく、やる気を出したいということで、私はほとんど授業をしませんでしたね。

大体、世間話が30分、最後の20分で教科書をまとめるみたいな、本当にひどい授業、ひどい教師だった。何かその自慢をしてるわけでは、ないんですが、結果的にそうなっているということですね。

でも、私は私なりに、その授業に関していうと、とにかく子どもに興味をもたせたい、だから、いろいろな情報、いろいろなことをしてお話をしてあげて、こんなやつも、こんな人もいるというような話の中から、少しでも子どもたちが興味を持てば、そこから自分でいろいろなことを調べて、勉強してくれるんじゃないかなという形で、やっているときは心がけておりました。

それから、最近、気がついたんですけれども、今、会社を相手に仕事をしていますから、電話の応対とか、あいさつとか、そういうところはすごい厳しいんですけれども、我々、学校サイドでいたときには、あいさつとか、それから電話の応対とか、非常に学校というところはサービス業じゃないなというのがよくわかりますね。そこは、今、現役の校長先生がいらっしゃるから、そんなのわかっているよとおっしゃると思うんですけれども、そういうところをきちっとやっていただけると、親のほうとしても、非常に学校に対して好意的というんですかね、好感がもてるんじゃないかなというふうに考えてますので、ぜひ、お願いしたいなというふうに思っています。

＜木原＞それでは、今から会場の皆様のご質問、あるいはご意見をお聞きしたいと思いますが、どなたか、５人のシンポジストの方にご意見、あるいはご質問等ございましたら、どうぞ、手を挙げてください。

＜岩淵＞小平高校のＰＴＡの岩淵と申します。

木原先生の先ほどのビデオにもあった、ああいう授業をぜひうちでもやってほしいなと思うんですけれども、都内の高校で、あれは何校ぐらいやってらっしゃるんですか。

＜木原＞都内では、今までご依頼がないので、私、ご依頼があったところしか行かないんですけれども、ご依頼を、まだいただいてないので１校も行ったことありません。

＜岩淵＞お呼びしてやっていただくのは、結構難しい、ハードル高いんですか。そんなことはないんですか。

＜木原＞１年に３校しか行かないんですよ。小学校１校、中学校１校、高校１校なので、早い者勝ちというか、そういった形になるかなというふうに思います。

＜岩淵＞その先生の授業も含めて、テレビでやっているような「金八」であったりとか、子どもたちがああいう形でキラキラ顔を輝かせる楽しい授業っていっぱいあると思うんです。本来、その本間さんもおっしゃったみたいな、そういう楽しい授業をもっともっとするためには、どうしたらいいのかというのを、保護者として、どういうふうに働きかければそういう楽しい授業の枠をもっともっとふやせるのか、アドバイスをいただければと思います。

＜木原＞シンポジストの皆様、いかがでしょうか。

＜笹＞私の学校というのは18クラスありますので、なかなかそこができないんですが、実は前は小さい学校だったんですが、例えば本当にプロの大工さんを呼びまして、その学年が２クラスしかなかったので、専門の大工さんに、本当に技とか、かんなの使い方とか、そういうのを教えていただいたという経験もあります。あとは、今、経団連の方は、学校に行きますよというところもあります。あと、私のところでやっているのは、国際交流ということで、足立区にあります国際交流課というところで11人くらいそれぞれの国の方をお呼びして、子どもたちは自分の文化、日本の文化を伝える。皆さんからは、そちらのほうの文化を教えていただく。実際に中国の方だったら、一緒に餃子つくりをしたりとかという形で、おもしろい授業、これは総合学習なんですけれども、そんなふうにして、各学校、工夫している中学校は多いです。

＜木原＞私、先生方の研修会というのを毎年開いているんです。そこの中で、子どもたちが楽しくなる、子どもたちが元気になるための授業というのはマーケティングなんですね。子どもたちに、一番いい商品を売るという気持ちでするんですよ。ですから、そのためには、やはり先生方もそういう気持ちになっていただかなきゃいけないので、そういった授業をするための研修会を開いてます。そういった研修会に東京都の先生方も参加してくださったらうれしいなというふうに思っています。それでは、ほかの質問ございますか。

――武蔵村山高校のＰＴＡ会長のＯＢです。

木内さん、それから坂根さん、本間さん、お父さんとしての立場でお聞きしたいと思います。私の二男が中学生時代に本屋で友達と４人でいたときに、友達が万引きをしました。それで、警察が来て、その４人とも一網打尽で警察署へ行きました。パトカーに乗せられて。かみさんが警察署へ子どもを迎えに行って、子どもは盗んだのではなくて、その場にいたということだったのですけれども、戻ってきて、その日にはかみさんは話をしませんでした。それで、１週間ぐらいたったときに、こういうことがありましたということで、私に報告がありました。

まず言ったことは、この中で一番悪いのはだれだと子どもに言ったんです。そうしたら、それは盗んだ人と言ったんです。確かに、盗んだ人が一番悪いけれども、一番悪いのはおまえだと言ったんです。なぜなら、友達が悪いことをするのをとめなかった。次に言ったことが、その友達、次にもう一回会って、同じような場面になったとき、おまえがとめられるんだったら友達としてつき合いを続けていい。もし、とめられないんだとしたら、そこで友達を捨てろ。これが男のルールだ。とめられるんだったら、おまえは友達づき合いを続けろ。自分がとめられないとしたら、そこでその友達関係を終わらせなくちゃという言い方をして、最終結論は本人は、どう考えたかわかりませんけれども、そう伝えました。

最終的に、男親が何を訴えるかというのは、難しいですけれども、その後、子どもに勧めた本があります。一つが「坂の上の雲」、もう一つが「剣客商売」。この２つで、まだ早いかもしれないけ

れども、ここには人間の本心の部分が書かれている。それが感づくか、感づかないかは、おまえの自由だけれどもということで、その本を買ってきて、文庫本を置きました。あそこに出てくるのは、男と女の性の部分もあるし、人の裏切り、金、欲望、またお金の使い方、そういうものが書かれていて、僕はとてもためになるなと思ったんです。

ですから、男として、親として伝えられない部分はあったんですけれども、そういう伝え方というのでいいのかなって、僕は自分で思ってたんですけども、もし、男親としたら、どういう言葉をかけて、どうやって男の子に伝えるか、そこら辺をちょっと教えていただきたいと思います。

＜木原＞よろしくお願いします。

＜木口＞高校生の子どもということになると、段階的には大人に近いということですから、私としては、まず、父親が万引きをしたらどうするかということから入りたいなと思います。それから、子どもの思いを聞いて、先ほどもちょっとお話をしましたが、今の子どもたちというのはゲーム感覚ですね、一つは。万引きにしても、友達が万引きをするからゲーム感覚でやってしまう。それは、現代の生活の中で、それが子どもたちには許されるというような思いがあるのかわかりませんけれども、取ってはいけないものを取ってしまうということを、それを何度も何度も繰り返し、ときには私も手を上げてしまうのですが、手を上げる前に、子どもの意思をしっかり基本的なところに戻して、じゃ、逆に例えば父親が万引きをしたらというような話を繰り返していきたいなという思いでいる状況です。

＜坂根＞なかなか難しいご質問です。実は、万引きではないんですけれども、うちの息子、二男が今高校生ですが、中学校のときにいじめというわけではないんですけれども、何かあることを友達に言ったんですね。一番仲のいい友達だったんですけれども、その子が不登校になってしまったのです。それは、私から見ると、何でそんなになったんだろうと言いたくなるぐらいのことなんですけれども、とりあえずその子は、何か傷ついたんですね。

それで、私はうちの子どもに言ったのは、不登校になってて、おまえはどうするんだと。いや、おれが悪かったと。いや、悪かったとか、そういう問題じゃないでしょうと、彼は困っているんだろう、どうするのよと。そういっても、どこまで支えられるかって、なかなか現実には難しい話なんですけれども、とりあえず、学校で授業でやったノートとか、そういうのがあったら見せてあげるとか、宿題とか、こういうのをやっていると、学校の状況というのはとにかく伝えてあげなよと言ったんです。

要するに、あなたがもしも逆の立場だったらどう思うと。よく言われるんですけれども、被害者と加害者の立場でいって、そのときやはり立場をかえて考えてみるというのが、一つの人間の考え方じゃないかということは言いました。

＜本間＞私自身で言うと、自分の子どもが今そういう状況ではないし、割とおとなしい子なんで、そういうことはないんですが。

自分の経験で言うと、基本的には、ほとんど母親任せなところがありまして、ここというときに、おやじも駆けつけるんだ、おやじもいるぞという存在感、これを示すというのが非常に大事じゃないかなというふうに思っています。

どういうふうに指導するというのは、なかなかやはりその家庭の状況もあると思うので難しいと思うんですけれども、本気で困っているというか、ここは見逃しちゃいかんというときに出ていく。よっしゃ、おれ、行くよ、というふうなメリハリじゃないんですけれども、そういうのをつければ、子どもは後でわかってくれるんじゃないかなと思うんです。

おやじは、あのときにちゃんと来てくれた。ちゃんとおれを怒ってくれた、指導してくれたというのがわかれば、絶対それは後々子どもの心に残るんじゃないかなというふうに思ってます。

＜木原＞ここぞというときの、おやじの存在感という形で、お答えいただきました。

＜笹＞お父さんの出番、本当にそのとおりです。それで、お父さんが出たときに、おやじが謝った、その姿勢で子どもは変わりました。それから、もう一つ、いろいろな場面でお母様が中心になってやることが多いです。子どもが失敗したときに、お父さんが、おまえのしつけが悪いというのは、一切言わないでいただきたいなと。反対に、お父さんの出番のときに、お母さん、泣いてなくてもいいんです、お母さん、本当におまえを心配して

泣いてたよ、そのお父さんの一言で、特に息子さんであれば、本当にグッと来ます。そういうのもやはり夫婦の連携かなというふうに思います。

＜木原＞笹先生、ありがとうございます。とっても貴重なご意見ありがとうございました。

それでは、犬塚先生に長いこと幼稚園の先生をしてらっしゃっていて、その長い間に子どもたち、それから保護者の方の一番大きな変化って何だったというふうにとらえてらっしゃるのかなと、お聞きしたいんですが。

＜犬塚＞変わらないのは、楽しく遊んでいるときの子どもの笑顔は変わりません。昔も今も、本当に変わらないです。

それと、もう一つ、悪い乳幼児っていません。本当にいません。その後の環境や、いろいろなことでそういういった状況ができるんだなということだけは、感じています。

昔は教師に対する尊敬だと、そういうふうなのが普通にありましたね。ですから、幼稚園に来たときは、お母さんが、先生、ありがとうございますって、子どもを引き取って帰りました。

今はそれよりも、まず、けがはなかった、何して遊んだのとかという、そちらを先に子どもに聞いたりとか、そういう会話が多くなっているのは確かです。

子どものころって柔らかで、本当に柔軟だから、親や、周りの大人が本当に見本というんでしょうかね、そうしたらしっとりと中に入っていくと思います。だから、本当に変わらないところは、ぜひ変わらないでこのまま行ってほしいなと思っています。

＜木原＞犬塚先生、ありがとうございます。

それでは、もう一方、私から笹先生に長い先生のご経験の中で、この場で皆様にあと一言、これはぜひ伝えたいということがおありでしたら、つけ加えていただきたいなと思います。

＜笹＞思春期真っただ中で、悩み多い相談を受けていると言いましたが、思春期は、一番体が成長する時期ですので、ホルモンが作用していらつく、いらいらする、あるいはカッとする、あるいはむかつく。ですから、お母様方は、お父様も上から見て、おお、成長したなと、そんな肝っ玉お母さんであり、おやじであってほしいと思います。

＜木原＞どうもありがとうございました。

それでは、最後のまとめに移らせていただきたいと思います。

私、やはり子どもたちのやる気、意欲、それから子どもたちを守るのは、子どもたちの周りの大人たちの支えというのがすごく重要かなと思います。

今、子どもたちの人間的なつながりが切れかけた社会の中で、つまり大人の皆さんのセーフティネットが穴だらけの状況で、危なっかしく生きているような気がしています。

これはアフリカのことわざですけれども、“It takes a village to raise a chaild.”、「子どもを育てるには村が要る」という言葉です。そして、もう一つ、“A child does not grow up only in a single home”、「子どもは、たった１個の家庭からは育たない」というような、本当に本当だなって思います。

私たちは、豊かな社会になっちゃったので、お互い助け合う必要がなくなってきているのではないかな。だから、昔は必要性があったので、もうそのまま必要性に迫られて人と人とのつながりって密接であったと思うんですけれども、これからの世の中、社会というのは、私たち１人１人が意識していろいろな角度から子どもたちの周りに人と人とのつながりをつくって、見守っていく必要があるのではないかなというふうに感じました。

そして、本日のシンポジストの皆様のお話、そして私の話が、そのつながりの輪を広げるきっかけになれば、このシンポジストの皆様、それから私も含め、これ以上の幸せはないと思います。以上で、本日のシンポジウムを終了させていただきます。

3　東 海 地 区 （静 岡）

～子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業～

東海地区高等学校ＰＴＡ連合会シンポジウム

子育てシンポジウム　全高Ｐ連主催・文部科学省委託事業
親学シンポジウム　静岡県教育委員会主催

「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」

◆開催期日：平成21年11月６日（金）
◆開催会場：しずぎんホールユーフォニア（静岡市）
◆主　　催：（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会
　　静岡県教育委員会
◆主　　管：東海地区高等学校ＰＴＡ連合会
　　静岡県公立高等学校ＰＴＡ連絡協議会
◆次　　第
　開会行事
　　あいさつ
　　全国高等学校ＰＴＡ連合会会長　　髙　間　専　逸
　　東海地区高等学校ＰＴＡ連合会会長　豊　岡　武　士
　基調講演
　・講　　師　木原雅子　氏　京都大学大学院医学研究科准教授
　・演　　題　「子どもたちの心とその背景」
　　～高校生のメンタルヘルスと大人の関わりの方向性～
　パネルディスカッション
　・コーディネーター　今村恵理　氏（ＰＨＰ研究所公認ビジネスコーチ）
　・パ ネ リ ス ト　木原雅子　氏（基調講演講師）
　　安藤哲也　氏（ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン代表）
　　大石岳志　氏（ＳＢＳアナウンサー）
◆出 席 者：東海地区高等学校ＰＴＡ会員及び関係者、県内の子育てサポーターや人づくり推進員

東
海

共通テーマ

子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実

◇大会概要

子育てシンポジウム静岡大会は11月６日（金）静岡市のしずぎんホール（ユーフォニア）で開催された。当日は小春日和に恵まれ東海３県及び県内各地から、多くの高Ｐ連関係者が訪れた。今回は静岡県教育委員会の「親学シンポジウム」と共催となり、子育てサポーターや人作り推進員の参加も見られた。

「子育てシンポジウム」は高校２年生へのアンケート集計結果の分析・考察を通して、私たち大人が家庭や学校や地域でできることは何かを探索することを目的としているのに対し、「親学シンポジウム」は「親」自身が「親としてどうあるべきか、親に求められることは何か」について学ぶことである。基調講演は高校生を中心に話が展開されるが、パネルディスカッションでは幼児期から小中、そして高校生の子どもに対象を広げて、子育てについて考えていただいた。

開会行事は、全高Ｐ連の髙間専逸会長のごあいさつ、東海高Ｐ連会長でもある静岡県高Ｐ連豊岡武士会長から歓迎と大会趣旨説明の話があり、続いて木原雅子先生の基調講演に移った。木原先生はアンケート集計結果のポイントをパワーポイントで説明・考察をされた。また、先生のＷＹＳＨ教育がビデオで放映され、随所に木原先生の暖かい人柄と熱意が伺われ、会場は大きな感動に包まれた。

パネルディスカッションはビジネスコーチの今村恵理さんをコーディネーターに、木原先生、ファザーリングジャパン代表の安藤哲也氏、及びＳＢＳアナウンサーの大石岳志氏がパネリストとなり、日頃の経験に基づいた子育てについての議論を展開した。

〈 主 催 者 挨 拶 〉

（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会会長　**髙　間　専　逸**

皆さん、こんにちは。全国高等学校ＰＴＡ連合会会長の髙間です。全高Ｐ連主催の「子育てシンポジウム」が静岡県で開催されることになりました。

この事業は、私どもの健全育成委員会が、文科省の委託事業ということで開催をしている事業でございます。全国6,000人強の子どもたちにアンケート調査をし、それを京都大学の木原雅子准教授に分析していただき、今日１回目の報告書が出てくるということです。

この事業は、当初、福祉医療機構の補助を受けておりました。まずスタートの３年間は「子どもの心を育む家庭教育の充実、親子関係について」ということで、平成12年より14年まで開催し、続いて15年から「高校生の心身の健康を育む家庭教育の充実」を、平成17年まで開催いたしました。また、平成18年度より、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」ということで、平成18年には、「いじめ、見えない暴力、言葉、態度が人間関係に与える影響」をテーマに開

催し、19年度には、2年目として「デジタルメディア社会における子どもの健全育成」を開催いたしました。そして、20年度は同じく、「親は子どもに何を伝えているのか、どう伝えているのか」で開催させていただきました。

昨年は、子どもと親の両方にアンケート調査を行いましたが、いろいろなことがわかってまいりました。この子育ての事業を行って気付いたことは、いろんな問題が起こるのは、コミュニケーション不足、親子の会話不足がそこにはあるのではないかということです。そこで、私たちもいろいろな場面で、子どもたちとのコミュニケーションをしっかりとることが大事だということで、事業を繰り広げてまいりました。私自身も、家庭のことを考えてみると、子どもの話をしっかり聞いているのか、途中で腰を折って、子どもが本当に親に話を聞いてもらっているというように思えているのかどうかということを考えさせられ、子どもの話は最後まできっちり聞く、そして、聞いてから、それに対しての話をするというようなことを心がけてきました。こういうことが影響したのでしょうか、事業の継続によって、近年はアンケート調査をしても、かなり家庭内の会話というものが増えてきたように思います。

昨年の調査でも、多くの部分で家庭内会話が増えてきたと感じられましたが、１つだけ、ちょっと気になる点がありました。それは何かというと、会話、コミュニケーションは、かなりのパーセント増えてきました。しかし、その一方で、親子の信頼関係については全く数値が上がっていません。会話が増えて、コミュニケーションが増えて、なぜ信頼関係の数値が増えていないのかということも含めて、昨年度から文部科学省の委託事業となりましたので、今年もう１年間続けて「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」の中の「子どもたちの心とその背景」ということで、先ほどお話をさせていただきましたアンケート調査を行いました。

その結果につきましては、これから木原先生にご講演をいただくということになろうかと思いますが、いろいろなデータを見ますと、親のことを信頼していないという子どもも何％かいますし、また、アンケートの最後ですが、いろいろなことを書いてくださいという設問では、親側の回答として、自分の子どもを「産まなきゃよかった」とか、「死ね」だとか言っているような親御さんもいるのにはビックリします。

この社会というのは、私たち大人が形成しているものです。そうであるならば、それをしっかり支えていく、子どもたちの置かれている立場をしっかり把握して、その予防とか、いろんな施策を打っていくのも、私たち大人の責任だと考えております。また、もっと大事なことは、私たちは大人だという以上に保護者であるということです。それは、子どもたちにとっても、保護者というものは大切なものであり、お父さんやお母さん、そして家庭というものはそれぞれ重要な役割をもっているものだと、私は考えております。

そういった意味では、本事業は、全国でアンケート調査をして、今このような状態なのですよ、こういうふうになっていますということを、皆様方にお伝えをし、毎年３月には、報告書として各単Ｐにお送りしています。それをご覧になり、現状把握をお願いします。そして、子どもたちの将来が、明るい夢あるものになるようにしっかり応援していくようなテーブルを作っていかなければいけないと考えております。

今日は、これから木原先生のご講演があり、いろいろお話をいただけると思います。ぜひ心の片隅にとめていただき、各単Ｐに帰られたら、こういうことが今現実に起きているということを、会員の皆様にお伝えくだされば と思います。

これからも、本会として、いろいろな情報発信をしていきたい。今日の配付資料にありますが薬物乱用防止のパンフレットも私どもで作っております。これは、宝くじ協会から補助金をいただいているものです。薬物汚染が話題になっている今、皆様方も心にとめていただき、何かの機会にお子様方とお話いただければ、薬物乱用に歯止めがかかるのかなと思っております。薬物乱用のパンフレットには「うちの子に限って」と書いてあります。本当に、うちの子に限って乱用するはずはないとは思わないで、そういうことがあったら困るということでご理解ください。これからも、いろいろな形で私たちの事業を広めていただいて、子どもたちを応援していただければと思います。

今日のシンポジウムが素晴らしい会となり、皆様方に少しでもお力になれることをご期待いたしまして、簡単ではございますが、私のごあいさつとさせていただきます。

東海地区高等学校ＰＴＡ連合会会長　**豊　岡　武　士**

皆さんこんにちは。すばらしいお天気に恵まれた今日、県内各地の高校のＰＴＡの皆さん方、そしてまた東海地区のＰＴＡの皆さん方、さらには、子育てサポーターや人づくり推進員などでご活躍されております皆さん方にお集まりをいただきまして、このようなシンポジウムを開かせていただきました。

ご紹介いただきました東海地区の高Ｐ連の会長でございますが、静岡県の高Ｐ連の会長でもございます。豊岡武士と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

子育てシンポジウムと親学のシンポジウムを、今日は一緒にやらせていただきます。子育て、言いかえれば、親学ということになるわけですので、全国高Ｐ連と、静岡県教育委員会社会教育課との共催という形での開催ということです。

全国高Ｐ連の髙間会長は北海道在住ですけれども、今日は遠くからお越しいただきました。このシンポジウムは毎年全国５カ所で開催をしておりまして、東海地区は今年、静岡県が当番県ということで、静岡市での開催となりました。

今日は木原先生に講演をお願いしていますが、実は私は昨年度、全国高Ｐ連の健全育成委員会の委員長をさせていただきました。そして、今お話がございましたように、全国の高校生5,000人、それから保護者5,000人のアンケートを行いまして、その集計と分析を、協力者委員の木原先生が精力的に纏めてくださいました。そのことが、今年も引き続いてのアンケート調査となり、今日はその第一報をこの会場でお伝えくださるということですので、期待をしていただきたいと思います。

私、会長職を務めさせていただいて、昨今の高校生を取り巻く状況といいますか、環境といいますか、気になることが、大きく言えば２つございます。

１つは、今のお話にもございましたが、携帯電話とインターネットの世界ですね。これは皆さんもご心配されていますように、様々な問題があります。今朝の、地元の新聞の社説には、昨年末に出会い系サイトの規制の法律ができ、出会い系サイトへのアクセスは大分減っているが、別のサイトがいろいろあって、そこを通じてさまざまな問題が生じているとありました。

そしてまた、フィルタリングサービスということが法律で義務づけられて、18歳未満の子どもたちが持つ携帯電話は、基本的には親御さんの判断でフィルタリングサービスをするということになっているわけですね。静岡県では、今、お手元の資料の中にありますが、小学校高学年と中学生については、親子で携帯の契約書を作ろうということになっていますが、小中の生徒においても、フィルタリングサービスの実施率は、昨秋の段階ではあまり高いものではないし、また、高校生は３割を切っているような状況にあるということがいわれています。したがって、携帯電話についても親御さんの本当にしっかりとした考え方が必要です。携帯電話の使い方について、お子さんと真剣に話し合って使い方を決めていくべきだというような社説もございました。

この辺につきまして、今日の講演の中で、問題点や弊害のお話があるかと思いますが、ぜひとも携帯電話のこれからの使い方について、子どもたちへのしっかりした目をもっていただくように、お願いをしたいなと思っていることが第１点でございます。

それからもう１つは、昨今の経済環境が大変悪いということです。高校生の就職も現在の内定率が５割を切っているという状況ですし、また、親御さんがリストラにあった、あるいは倒産してしまったということで、学校生活を続けられないという子どもたちも出てきています。本当に心が痛みますが、幸か不幸か、政権が変わりまして、高校生の授業料を無償化するというような方向になりつつあります。今日は会長からお話があるかなと思ったのですが、ただ、これも少し前が見えないような状況でして、髙間会長も文科省といろいろとお話をされていると聞いております。しかし、本当に無償化することがいいことか悪いことか、よくわかりませんが、いずれにしても、安心

して学校生活が続けられるようになっていってほしいなと願うのは、皆さんも同じだと思います。

いずれにしましても、ＰＴＡ活動というのは、たくさん目的があると思いますが、その中の１つに、子どもたちが勉強していくのと同じように、保護者も一緒に学んでいきながら、そして、親子のきずなを深めて、将来、この日本を担っていただくお子さん方が、心身共にたくましく育っていってほしいと、願っているのではと思います。

そんな意味で、今日は、講演とシンポジウムを通しまして、心に残る何かを得ていただいて、そしてお帰りになってから、単Ｐの活動やその他の青少年健全育成活動に御活用いただけますと大変幸いでございます。

少し長くなりましたが、皆さん方が真剣に舞台と一緒になって、学んでいただけますことを心からお願い申し上げますとともに、青少年の本当に健やかな成長を心から願いまして、ごあいさつにさせていただきます。今日はありがとうございます。

〈 基 調 講 演 〉

子どもたちの心とその背景
～高校生のメンタルヘルスと大人の関わりの方向性～

京都大学大学院医学研究科　准教授　**木 原 雅 子**

これまでに、「研究者」として、27万人の子どもたちの調査を行いました。それには小学生・中学生・高校生・大学生が入っています。そして、実際に子どもたちにインタビューをして話も聞いています。この10年間で1,000人近い子どもさんたちから話しを伺い、家の人にも学校の先生にも言えない本音を聞いてきました。そして、私は「教育者」でもあります。大学に勤めていますので、大学・大学院生を教えますし高校生・中学生・小学生も教えています。それと同時に、今日お集まりの皆様方と同じように１人の「保護者」でもあります。そういった三つの立場からお話をさせていただきます。

まず、家庭、学校、地域での取り組みなどを考えるときに何が大切かというと、まずは「相手を知ること」です。ですから、今日は、まず「相手を知る」という意味で、今年の調査結果を前半にお話しさせていただき、その後にそういう現状に対してどうすればよいのかということで、私たちの教育の取り組みをご紹介させていただきます。

■今年の調査結果について

私の専門は、相手の現状を知り、それからその人たちが自分の意思で変わるにはどうしたらいいかという教育方法を考え開発することです。

それではまず、高校生の現状ということで今年度の調査結果をご報告します。全国高等学校ＰＴＡ連合会の調査に参加した生徒数は6,164人です。この調査で見えてきたことを、一言で言えば子どもたちは「やる気ない、目標ない、授業分からない」という「三ない状況」にあるということでした。

＜学習状況＞

まず、高校生の学習状況を見てみましょう。帰宅後の学習時間は、「全く勉強していない」生徒が半分ぐらいいます。女子は45％、男子は54％です。「１時間以下」が６割～８割います。「３時間以上」は少数派です。それほど高校生は勉強していません。平均すると、男子は1.6時間、女

子は1.7時間となります。調査結果を見たときは愕然としてちょっと悲しくなりました。小学校の勉強時間かと思いましたがこれが現実なのです。

次に、「授業についていけない生徒」の割合ですが、「毎回ついていけない」「ついていけないことがよくある」人たちの割合は、20％～25％で、女子の方がやや多いという結果でした。つまり４人に１人は学習についていけない状況にあるわけです。そして「いつ頃からついていけなくなったのか」では、「小学校から」が10％弱でした。これはとても大変な数字だと思いました。そして、中学２年生にピークがあって、約15％、最も多いのは高校１年生で30％以上もありました。この辺でつまずくと受験勉強を始めようかというときにはすごく大変になります。ついていけなくなっている状況から回復するのには、相当の努力が要ります。

＜携帯電話の使用状況＞

次に、子どもたちのケータイの使用状況です。実は、去年までは私は１日のメールの交換回数を聞いていましたが、インタビューの中で、高校生から「それは現状を表してない。時間を聞かなきゃ」と言われましたので、今年は時間を聞くことにしました。すると、「４時間以上」がものすごく多いことがわかりました。平均すると男子は１日に2.8時間、女子は4.2時間にもなります。先ほどの勉強時間の平均を、1.6時間、1.7時間と申し上げました。勉強時間よりもケータイを使う時間の方が長い、これでいいのだろうかと少し寂しくなりました。そして、もう一つ「ケータイを所持している時間」を聞きました。なんと「24時間」というのが一番多かったのです。持ってない子も含めて平均すると男子が13.1時間、女子が13.5時間です。まさに「ケータイとともに生きる人々」という感じですね。

＜保護者の携帯電話＞

では、その高校生の保護者の方の携帯電話の使い方はどういう状況なのか。調査では、４人に１人の保護者は、子どもが一生懸命しゃべりかけているのにケータイをしているということでした。先ほどの子どもたちのことを笑えない状況にあります。こういう保護者の携帯使用状況と子どもたちの状況との関係を分析してみると、子どもが話しかけているのにケータイを使っている保護者の子どもさんは、子どもさんもケータイ使用時間がすごく長い、そして、保護者対する信頼関係がすごく低いという結果でした。

＜打ち込むものと目標＞

次に高校生の意識・精神状態についてお話しします。「何か打ち込んでいるものがありますか」という質問に、「ある」と答えた人は約60％でした。女子が少し低い傾向にありました。「何か目標があるか」という質問に対しては、男子も女子も70％近くがあるという回答でした。

＜ストレスの原因＞

そして、「今、どんなストレスを抱えているか。一番強くストレスを感じていることは何か」と質問に対して、一番のストレスと答えたのは、あれだけ勉強していないのに、「勉強」でした。勉強してないということに対してストレスを感じているのかもしれませんね。それ以外に男子では部活、女子では友人という回答が多く、女子では友達関係に苦労している様子が伺われます。それが、メールの時間が長いことと関係があるかもしれません。

＜人生への満足感＞

次に、「人生に満足しているか」と大げさな質問をしてみました。すると、40％～50％もの生徒たちが、「やり直したい」と回答していました。16歳でやり直したいと言われたら何か悲しくないですか。「分からない」という子どもたちまで入れると70％～80％の子は人生に満足をしていないと回答したことになります。そして、「もし人生をやり直せるとしたら、いつに戻りたいか」という質問には、「小学校の入学前」が20％、小学校の低、中、高学年がそれぞれ10％程度、「中学校」が一番多くて50％ほどもありました。「戻って何をしたいのか」を自由記載で書いてもらいました。私は「もっと違う習い事をしたかった」とか「いろんなファッションをもっと楽しみたかった」などいろいろと書くのかなと思ったら、意外にも「勉強をやり直したい」というのが一番多かったのです。今からでも遅くはないと思いますが、中学校でつまづいた子どもたちが多いということでしょう。

＜自分に対する評価＞

次に、自分に対する評価、つまり自己肯定感を、いろんな角度から聞いてみました。すると、

自分のことを、「とても嫌い」「あまり好きじゃない」が30－45％、自分にいいところが「まったくない」「あまりない」が40－55％、自分のことをすごくつまらないと「よく思う」「ときどき思う」が46－60％もいることがわかりました。そして、どの項目も、女子の方が低く、大変意外な結果でした。

＜生活意欲＞

そして、高校生の意欲について質問をしました。やる気の問題です。「最近、何事に対してもやる気が出ないことがあるか」と聞くと、「よくある」「かなりある」が25－31％で、「最近、何かを一生懸命やろうと思うか」という質問には、「全く思わない」「あまり思わない」が、20－24％という結果でした。そして、自己評価の質問と同じように、男女を比べると女子のやる気が少ないのです。ですから、一部の女子はすごく活発ですが、平均すると女子の方が自己肯定感が低くてやる気も少ないということになります。この調査結果は私には意外でした。

＜授業についていけない生徒の背景＞

次に、授業についていけない生徒の問題の背景を分析してみました。「授業についていけない生徒」「全く授業についていけない生徒」「時々ついていけない生徒」を合わせると６～７割に達しますので、ほとんどの保護者の方には関係のある問題だと思います。

まずは、ゲームです。最近の子どもたちは、幼いときから、ゲーム漬けですが、調査では、小学校時代のゲーム時間が長いほど、授業についていけていない生徒の割合が大きいという結果になりました。

最近脳科学の発達で、いろいろな脳の活動状態を観察できるようになってきました。私は脳科学者ではありませんが、ゲームのとき脳は全然活動していません。そして、文章を書いているときには、脳の多くの部分が活発に活動します。言い換えれば、ゲームばかりしていると、脳が使われていない状態が続くということです。脳も筋肉と同じように、身体の組織ですから、使わないと衰えるのではないかと思います。

ケータイ使用時間と勉強の関係を見ると、ケータイ使用時間が長いほど勉強についていけていないという関係があります。また、よく意味はわかりませんが、勉強は、生活自立度にも関係があるようで、朝自分で起きられないとか、料理が作れないとか、生活が自立していない子ほど勉強についていけていないという結果でした。自立をする子を育てたほうがいいようです。

自己肯定感も関係しています。全体として見たら自分のことが好きではない子ほど、つまり自己肯定感が低い子ほど、勉強についていけていないという結果でした。これは、授業についていけないから自己肯定感が低いということかもしれませんが、悪循環が生じている可能性がありますから、自己評価が高まるような支援が必要であると思います。

人間関係も勉強と関係があります。本当に信頼できる友達がいる人や信頼できる先生がいないと答えた人、そして、本当に困ったときに守ってくれる大人がいないと答えた生徒さんは勉強についていけていないという結果でした。ただし、大きな差ではありませんでした。これに対して、保護者の方との信頼関係はもっと強い関係があることがわかりました。保護者を信頼していない子どもさんほど、授業についていけていないという結果でした。やはり、子どもたちにとって、保護者との人間関係が一番大きく影響しているのかなと思います。

＜勉強をしている子は大丈夫か＞

以上、勉強についていけていない子の問題に焦点を当ててきました。では勉強時間が少ない子だけが危ないのかというとそうではありません。実は勉強時間が３時間、４時間を超えるような子どもが、危ない行動、つまり性行動、万引き、薬物、自傷行為などいろんな行動をしていることが分かってきました。そういったものを経験した子の割合と成績との関係をグラフで見ると二つの山があります。１つは、トップクラスのところ、もう一つは成績が下目のところです。これは以前の調査でも観察されており、その山の高さは、同じか、むしろトップクラスが上だったりします。ですから、進学校とかトップクラスの子どもさんたちは問題ないと先生も保護者も思いがちですが、そうではないということです。トップクラスでそういうことをする子どもたちは、男子では自尊感情が高く自信過剰という子どもたちで、性行動も大変活発ですし万引きもします。何でもやれやれとい

う感じの子です。おもしろいことに、女子はその真逆で、自尊感情が非常に低いのです。性行動はあまり活発ではありませんが、うつ傾向になっていたり、自傷行為の割合が高くなっています。男子と女子の状況は、このようにかなり違いますが、１つ共通点があります。それは、残念なことに、保護者への信頼感がすごく低いということです。おそらく、ご家庭はきちんとしていると思いますが、なぜか保護者・子どもの関係がうまく結べていないことが背景にあるのかもしれません。

＜心に残った保護者の言葉＞

さて、この調査では、保護者から言われた言葉で心に残っている言葉を子どもたちに書いてもらいました。すごくつらい言葉がたくさん出てきました。例えば、「おまえにいいところなんて１つもない」といった言葉です。そんなつらい言葉を言われた経験が、回答者の10％もいました。もしかしたら、保護者の方は一時的な感情で言ったのかもしれませんが、子どもたちの心に刺さり、いつまでも消えないのでしょう。しかし、うれしいことに、全体としては男子の３分の１、女子の半分はすごく感謝している言葉を書いてきました。例えば、男子は、「何もかも感謝です」、「自分を産んでくれてありがとう」、「16年間一生懸命育ててくれたことに感謝している」、「迷惑をかけても、見捨てずに育ててくれたこと」という言葉を書いていました。こんなこと言われると保護者としてうれしいですね。子どもたちは、本気になって関わってくれることをすごく喜んでいるみたいです。

女子は、「仕事が忙しいのに話を聞いてくれる」という言葉を書いていました。子どもたちは保護者が忙しいのはちゃんと分かっていいて、それでも、ちゃんと聞いてくれることにとても感謝しています。「悪いことをしたときに、叱ってくれたこと」という言葉もありました。叱っている最中はむくれていますが、ちゃんと感謝しているみたいです。その他、「どんなに苦しい時も、そばで励ましてくれた」、「一生懸命、毎日体が疲れているのに働いてくれること」、「ご飯を食べて生活しているのは保護者のおかげだから、普段から感謝しています」、「自分のことを本気で心配してくれたこと」、「学校に行かせてくれること」、「お金に余裕がないのに、部費とか出してくれる」、「毎朝早起きしてお弁当を作ってくれること」、「16年間の毎日の世話」などなど。ちゃんと考えていますよね。こんなのを書かれるとすごく元気が湧いてきます。

＜まとめ＞

では、ここまでで子どもたちの現状をまとめてみます。高校生になればケータイ漬けの子の方がゲーム漬けよりも多いようです。ケータイ依存で誰かと常につながっていないと不安なのでしょう。一人になるのが怖い「一人不安症候群」ではないのかと思います。ケータイに依存して、生身の人間関係の少ない、浅い人間関係の中に生きているという感じがします。子どもたちのやる気の一番の源として大切なものは、自己肯定感や自尊感情ですが、そうした浅い人間関係の中に生きていると、そういう自尊感情を育むことができない、誰かと接するから、「私はすごいのだ」「僕はすごいのだ」と思え、だから「頑張ろうかな」と思えるわけです。初めに申し上げたように、今回の調査では、現代の高校生は、「やる気ない、目標ない、授業分からない」という三ない状況にある、その原因は、人間関係の衰えにある、そういうことが見えてきたのではないかと思います。

■ＷＹＳＨ教育について

以上、子どもたちの現状について紹介させていただきましたが、では、それに対して私たちは何ができるのかについて、私たちの教育上の取り組みを少しだけお話ししたいと思います。

私たちの行っている教育は、ＷＹＳＨ教育といいます。ＷＹＳＨとは、Well-being of Youth in Social Happiness の略で、ＷＹＳＨ教育とは、「子どもの真の幸せを願う教育」という意味になります。子どもたちを巡る、家庭の問題を色々指摘させていただきましたが、そうしたいと思っても、すべてのご家庭を外部の人間が変えることはできません。ですから、私たち外部の人間ができることは、地域や学校という場でのできるだけの取り組みをすることです。

＜ＷＹＳＨ教育の特徴＞

ＷＹＳＨ教育には他にはないいくつかの特徴があります。その第一は、子どもたちの現状を徹底的に把握するということです。今、子どもたちがどういう状況にあるのか、精神的にどういう状況

にあるのか、どうして勉強しないのか、いろんなことを知る必要があります。それも知らずに、どうしたらいいかということが言えるはずもありません。第二は、科学的であるということです。調べた子どもたちの現実に基づいて、様々な理論を用いて、授業を科学的にデザインします。用いる理論には、マーケティング理論、行動理論、コミュニケーション理論などがあります。そして、授業後は、本当に教育効果があったかどうかを調査で確認します。授業時間も予算もどこも限られていますから、それを最大限有効に使うためには、本当に効果のあるものでなければなりません。第三は、心をこめるということです。科学やスキル的技術だけでは、相手の心に響く授業をすることはできません。その限られた時間の中で子どもたちが一生心に残るような授業を提供することです。こちらがいかに本気で臨むかが、成功の鍵だということです。第四は、人間基礎教育をその土台としていることです。子どもたちの自己肯定感、自尊感情、子どもが自分の長所を発見して、自分に自信をもつこと、これを支援することを目指しています。第五は、丁寧な人間関係を築けるように支援することです。安心できる人間関係、心穏やかな人間関係を、友達や先生、そして保護者の方との間に築くことができるように支援することを目指しています。第六は、「すべきこと」をこちらから結論として押し付けるのではなく、分かりやすく情報を提供した後で、相手の考えてもらうことです。危機管理のための情報提供を行う際も、トップダウンの指示を行うことはしません。自分で出した結論こそ、持続的な行動変容とつながっていくと考えられるからです。

では、実際の授業の様子をビデオで見ていただきたいと思います。このビデオに出てくる学校は、１年生が１学年５クラスで、毎年、その中の１クラス分の数の生徒が退学していくという学校で、とても大変な状況の学校でした。その学校ではほとんどの生徒が就職するのですが、求人がこのご時世ですから徐々に減ってきています。私が伺ったときには求人ゼロになっていました。求人ゼロの中で、夢や希望を取り上げようとしても、空々しくなってしまいます。私は、大変悩みました。どうすれば、子どもたちの心に火をともすような授業ができるだろうかと、何日も寝られずに考え抜きました。そして、ふと自分のことを考えてみたのです。私は、ものすごく弱虫です。弱い人間ですが、自分の子どもが危機に面したときだけは別人のように強くなります。ですから、人はもしかしたら何か守るものがあるときに強くなれるのではないのかなと考えました。子どもたちにも、自分が何か守りたいものがあるはずです。そういう「守る」存在である自分に気が付いてもらおう、それを授業のテーマとすることにしました。その授業の様子をご覧ください。

〈ビデオ開始〉

授業の様子。初めは大騒ぎしていた生徒のまなざしが、授業の後半に向うにつれて、真剣になっていく。

（ビデオの最後の部分に出てきた、授業に対する生徒の意見の感想）

「相手のことを思いながら生きていきたいです。」

「大切な人を守っていきたい。」

「自分を見つめ直して性格を直していく。」

「まだ人生の半分も来ていないから、僕は僕が信じる道を信じていきたい。生きるってすばらしいことだし、神様がくれた最高のプレゼントだから。」

「人を、命を、自分を愛する人を守っていきたい。」

「自分の人生は一度きりなので、笑って人生を生きたい。」

「自分が守った人やものなどといつまでも一緒にいたい。人生は暗いことばかりではないと信じていきたい。」

〈ビデオ終了〉

それでは残された時間を使って、あと二つのビデオをお見せします。最初は、子どもたちには保護者になったつもりで育児シミュレーションをしてもらったときのビデオです。この学校も、色々と困難を抱えた学校で、授業の開発にはとても苦労しましたが、とても思い出深い授業となりました。その中に子どもたちの本音がいっぱい出てきます。そのようすをご覧ください。

〈ビデオ開始〉ナレーション

「事前に生徒の保護者からこれまでの子育て

エピソードを教えてもらい、そのエピソードをもとにシミュレーションを行いました。妊娠や出産の説明で終わらず子育ての大変さを明るく実体験しました。」

育児シミュレーションのようす。意外にも男子がとても熱心に育児に取り組んでいた。そして、自分が親になったとき、色々な場面に子どもにどう対応するかという話の中で、今の自分の親に対する希望が本音として出てくる。

〈ビデオ終了〉

最後のビデオは、「命の授業」のビデオです。この授業を行った学校も生徒たちがいろいろな困難を抱えているところでした。そんな子どもたちに、かけがえのない命を大切にしてほしい。一人ひとりがかけがえのない命だからということを伝える授業をしました。

今、日本では、ほとんどの人が、病院で生まれて病院で死ぬ時代になり、生まれる、死ぬということを体験することが少なくなりました。死があってはじめて、生きることの大切さが分かる、だから、誕生のシーンだけではなくて、命に限りがあるからこそ毎日を大切に生きなくてはいけない、丁寧に生きなくてはいけないということを感じてもらいたいなと思ってメッセージビデオを作り、生徒たちにみてもらいました。

〈ビデオ～命のつながり～開始〉

赤ちゃんの誕生から年老いて家族に見守られながら最期を安らかに迎えている写真が映し出されていく。

(ビデオの最後の部分に出てきた、授業に対する生徒の意見の感想)

「命を大切だなと改めて思ったので、これからも大切にしたいと思います。」

「産まれたことに感謝して１日１日を大切に生きたい。」

「私は私自身を大切にしてこれからの将来を大切にしながら生きたいと思いました。そして自分の大切な人や大切な命ができたら、それらを必死に守り愛していきたいと思います。」

「だからこそ、今の自分を大切にして生きていこうと思います。今、自分が命を大切に生きられているか分からないけどこれからは保護者にもらった命を大切に生きていきたいと思った。」

〈ビデオ終了〉

それでは、最後にまとめをさせていただきたいと思います。

日本はとても便利で豊かな社会になりました。しかし、前半部分で言いましたが、表面上は豊かになっていますが、心は逆にすごく貧しくなってしまったように思います。それが、子どもたちが起こす問題の背景になっていると思います。

では、私たちは何ができるのか。もちろん、世の中の全部を変えることはできません。しかし、できることはあります。それは、社会に潜んでいるいろいろな危険性をしっかり子どもたちに伝えること、そして、その社会のひずみの中で本当におぼれそうになっている子どもたちの心の土台になること、それから、人と人とがつながることによって、こんなに心が安らかになれるんだということを伝えることだと思います。それをしっかり伝えることで、子どもたちの未来もが変えることができる、私はそう信じています。

そして、今日お聞きになった方々がそれぞれのところにそれを持ち帰ってくださって何かをしていただくと、１が100倍にも300倍にも1,000倍にも広がって行き、大きな広がりになるのではないかなと思います。今日ご参加の皆様方ができるところから何か始めていただければ嬉しいです。そして、皆様方が住んでいらっしゃる全ての地域の子どもたちに、すばらしい笑顔がたくさん広がることを心からお祈りしたいと思います。

〈パネルディスカッション〉

コーディネーター	今　村　恵　理	ビジネスコーチ・チームコーチ
パ　ネ　リ　ス　ト	木　原　雅　子	基調講演講師
	安　藤　哲　也	ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン代表
	大　石　岳　志	静岡放送報道制作局情報センター副部長

○今村　皆様、こんにちは。木原先生の感動のお話、映像がこの会場に残っておりまして、私、気持ちがとっても温かな状態です。まずは、パネリストの皆さんの自己紹介を先にさせていただきます。木原先生、今終わられての感想といいますか、改めて何か皆様にお伝えいただけることがありましたら、お願いします。

○木原　もう言うことは何もありません。偉そうなこといっぱい言いましたけど、自分の子どもは全然、偉そうに育てられませんでしたので、このシンポジウムはむしろ聞く側に回ろうかなと思っています。

○今村　私たちと一緒に参加していただけるということですね。

○安藤　東京から参りましたＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン代表の安藤です。静岡はＮＰＯの事業で何回か来ました。テレビ静岡の「テレビ寺子屋」にも出させていただきました。ファザーリング・ジャパンは、３年前に私が立ち上げた日本で唯一の父親による父親のための子育て支援、あるいは父子家庭の支援等をやっているＮＰＯです。父親というと、昔なら、親父の背中とか、かみなり親父とか、威厳だけを見せる大黒柱的なイメージがありますが、現代の子育て環境では、そういった黙して語らず的な親ではなくて、もっと子どもとかかわって家族で共に成長していく、そういった父親を目指す。一言で言うと、笑ってる父親を増やすというような事業を今、展開しています。高校生や大学生に父親事業というのを展開していますが、次世代パパ育成といいますか、10年、15年後に父親になるであろう、特に男子、あるいはそのパートナーである女子たちに向けて、父親の役割というのは、昔と随分変わってきたんだということを伝えています。

○今村　まさに笑っている父親ということで、笑顔でお話されて、とても気持ちいいですね。そしてまずかかわっていくということで、キーワードいただきました。

○大石　ＳＢＳアナウンサーの大石です。私、この４月からＳＢＳラジオ「朝だす！」という番組で火曜日は子どものコーナーというのがあり、子どもを育てるということでいろんなことをやっていますが、その１つとして放送外活動で絵本の読み聞かせを始めました。幼稚園２カ所と学童保育１カ所で行いました。家でも絵本の読み聞かせを結構やってきましたので、その延長と思って始めたのですが、子どもたちのさまざまな反応があり、十人十色、子どもの育て方もいろいろだなと思いながらも、今日は木原先生のお話でいろいろと印象的に残ったことが多く、中でも立て直しはいくつからでも効くという話にはなるほどと感心しました。同時に、私の子ども５歳ですから、これからいろんなことが起きてくるのかなということを非常に感じました。

○今村　今村恵理と申します。チームコーチ・ビジネスコーチとは、木原先生のお話とも重なりますが、まずは相手のことをよく知って、こちらから押しつけるのではなくて、自らが目的に向かって進んでいく、そんなサポートをしております。今日は皆さんと一緒に、子育て、コミュニケーショ

ンについて考えていきたいと思っています。

さて、このパネルディスカッションでは高校生だけではなくて、小中学生や幼児期の子どもさんたちにも対象を広げて、子どもへの親としてのかかわり方を中心に進めていきたいと思います。まずは安藤さん、大石さんお２人からは、お子さんたちに読み聞かせをする際に、もっとも気をつけていることはどんなところか、そのあたりからお話をいただけますか。

〇安藤　僕が絵本にはまったのは、長女が生まれた12年前です。小さい女の子との接点がなかったので、どうやってコミュニケーションとろうかと真剣に悩んだときに、たまたま書店を経営してたので、絵本というのは身近にあった。直感的に、あ、これだと思って、この絵本で娘とコミュニケーションとって楽しく育児したいなって、そのときからです。それまでは絵本というのは母親が読むもの、あるいはその教育的なツールのように思ってたのですが、僕が実践して思ったのは、絵本はコミュニケーションツールだということですね。親子の愛着をつくったり、その絵本を通して成長を感じたりお父さんが育児のおもしろさを実感できる、そのコミュニケーションのツールだなと思いました。気をつけてることは、絵本は自分で選びます。図書館で借りたり書店で買うときに、直感的に絵のフィーリングが合うとか、ストーリーにすごくメッセージ性があって、これは父親という僕の媒介を通して自分の言葉で子どもにぶつけてみたいな本を選ぶように心がけます。あとは絵本そのものが大事ではなくて、絵本を通して過ごすその豊かな時間が大事だってことですね。子育ては期間限定ですが、絵本はもっと短いですね。延べ6,000冊ぐらいの絵本を読んだのですが、それもいつか終わります。だからお父さんたちに言いたいのは、後で後悔しないでほしい。あのとき読んどけばよかったと思っても、４年生や５年生になれば、膝の上にはもう座ってくれないってことですね。だから別に絵本じゃなきゃいけないということはないけども、何か豊かなコミュニケーションツール、ともに楽しい思い出、お父さんと子どもの心のハードディスクに思い出を刻むことができるような、ツールなり方法をもつといいのじゃないのかな。

お父さんの膝の上って、子どもにとって絶対安全地帯だと思います。さっきも居場所っていうキーワードがありましたけど、やはり安心で安全な場所、家庭がそのものなんだけど、お父さんの膝の上は、子どもにとって世界一セイフティな居場所なんですね。その中で絵本というツールを使って過ごした時間を決して子どもは忘れない。さらに子どもって絵本を五感で捉えるんですね。大人は絵本を目と耳で感じますが、子どもはあと、触覚とか、臭いですね。お父さんのたばこの臭いやお酒の臭い、そういうお父さんの臭いを覚えるんですね。大人になってから、読んでもらった絵本のストーリーは忘れても、お父さんの膝の感触、あの臭い、あの声は忘れないんじゃないかな。

〇今村　お母さんに言われてしょうがなく読ませるのではなく、自ら絵本を選ばれて、出張のときはテープ録音までするところも大事なのかなと感じました。そして何よりも安全地帯、安心できる場所がまずベースにあることが必要なんだということですね。

〇大石　私も、先日、清水区内の幼稚園で絵本を３冊読みました。最初は、集中してほしいと思いまして、まず表紙の絵を見せて、これからこんな絵本を読みますよと。そして中もぺらぺらっとめくって印象的な絵が描いてあるところをちょっと見せて、どんなお話なんでしょうか。楽しそうに女の子が笑ってるね、そんなお話なのかな。問いかけをして、子どもたちの注意を引きつけてから読み始めます。読み始めると、子どもたちは横を向いたり退屈そうにしたりいろんな行動をとりますが、どうしたらその子たちを絵の中に引き込むことができるかということを考えます。そうこうしているうちに、その子どもたちも、絵の中に、お話の中にまた戻ってきてくれます。

結果的に、最後まで聞いてくれたのですが、これもまだ３回です。この読み聞かせのベースが、実は自分の５歳になる子どもに５年間続けてきた読み聞かせです。そのとき、子どもの目線というか、反応も大事にしていました。また、子どもの間を考えたページのめくり方をしたり、子どもの反応を見ながら、双方向になるような、そんなことを意識しながらやってきました。

そして一番感じたのは、安藤さんのお話にもありましたが、絵本はコミュニケーションツールであると。そういう双方向のやりとりができたなと

思っています。

○今村　相手の反応を見ながら相手に合わせて、そして相手を尊重したコミュニケーションって実は本来の理想の姿なんですが、まさに実現されているんですね。まず表情を見て、そして反応を見ながら、時に立ちどまって、子どものペース、相手のペースに合わせるということですね。

そして安藤さんと大石さん、共通していたことは、臭いとか感触とかの感覚ですね。絵本というと視覚と捉えがちなんですが、そうではない五感。視覚だけでなくて耳、そして肌、臭いなどの五感すべてを生かしてコミュニケーションを図られているんですね。

○安藤　そうですね、視覚と聴覚しか訴えないテレビはそれができないですね。子どもはスキンシップも含めた五感を総動員してその絵本を受けとめます。だからすごく親子の愛着が深まります。今、おっしゃったように双方向の楽しみ。一緒に楽しむっていうことを基本的に考えてほしいと思います。

○今村　一緒に楽しむというキーワードをいただきました。それではどうでしょうか、木原先生、お二人のお話をお聞きして、どのような形でコミュニケーションを図っていくと効果的に伝わっていくのかというような観点でお話しいただけますか。

○木原　子育ては私一人でやりましたので、全然違うなと思いました。読み聞かせは、あまり細かく考えないでやりました。絵本はたくさんありました。私の場合は、読んでる途中からストーリーを自分で変えちゃう、つくっちゃうんですね。そうするとすごく子ども喜ぶんですよ。ですから、同じ絵本持ってくるんですけど、いろんなお話になって、ママこの前と話が違うよとか言ってました。そういった自分で勝手につくっちゃうお話もけっこうしました。

小学校の授業で絵本の読み聞かせをしたことがあります。そのときには、生徒さんたち36人みんなで話すと伝わらないので、５人位のグループに分けて、そしてお母さんとお父さんのボランティアを募っての形をとりました。そのときに子どもたちが安心するように、何かお家から１つだけ、気持ちのよくなる枕とか、ふわふわの毛布とか、そういったものを持ってきてくださいといって、それを持ちながら、おうちの中で膝枕をしてもらってるような感じでお話を聞きましょうの時間を取りました。小学４年生にしたんですが、ものすごく子どもたちくつろいで、寝っころがりながら聞いてくれました。お話の内容もですが、雰囲気とかその感触、５人だったらみんなに目を配れますので、その中でやれたらいいのかなって思いました。そういうところが、お二人のお話から感触とか感覚とか、目だけじゃないところがとってもすばらしいなと思いました。

○今村　雰囲気とか感触は、テレビとかケータイとかインターネット見てばっかりでは、なかなか得られない状態で、だからこそぬくもり感とか気持ちの良さという感覚を一緒にどうつくっていくのかということなんですね。

それではさらに深めていきたいと思いますが、安藤さん、大石さんはまさに現役のお父さんですので、日頃のお子さんとのコミュニケーションどんなふうに図ってらっしゃるか。もしくは悩みとか、そんなところを具体的に伺いたいと思います。

○安藤　そうですね。子どもの年齢によっていろいろ課題とか悩み、喜びなんかも違うなと実感しています。12歳、９歳、１歳なので。今は１歳は楽ですね。２人育てた経験もあるし、小６のお姉ちゃんがちいママのようにほとんどできるんですね。おむつを替えたり、遊んだり、着替えさせてくれたり。これって昔の大家族の兄弟にあった姿ですね。今、母親たちの育児ストレスや不安をなくすための父親の支援を僕らはやってますが、核家族化、都市化の中で母親が孤立して不安を募らせている。でも昔は違ったねって、うちのお姉ちゃん見ててすごく思います。母親が一人でやらなくてもいいサポートできるものがあった。あの子にとっても、母親のエクササイズ、練習を今、しているんですね。

ある助産院のデータでは、妊婦検診に来る２割の人が、一回も赤ちゃんを抱っこした経験がない。小さい子に全く接しないまま自分が母親になってしまうというケースが多くて、自分の子どもが抱っこできない母親、父親も増えてきている。

今、１歳児が上の子の２人の教育にもすごくいい。２番目は９歳の男の子ですけども、兄、姉としての責任感がものすごく芽生えてきていて、まさに１歳児に、僕ら家族はみんな感謝しています。

○今村　昔の大家族のように12歳、9歳、1歳と、その兄弟同士でまた愛情とかコミュニケーションが生まれ、とてもいい状態になっていくんだと感じました。12歳のお子さんには、何かご心配になることとかどうでしょう。

○安藤　先ほども4年生がポイントだというお話がありましたが、10歳って第2次性徴期で大人への階段を歩み始める。そのときに子どもにとって、親は一番身近なロールモデル、お手本になるんですね。そのときに気をつけたのは自分自身が笑ってる父親でいようということです。つまり自分の人生を肯定して、子どもの前に笑顔でいつも立てる。もちろん仕事とかで大変なこともあるし、生きていくってけっこうつらいけど、子どもにネガティブな感情をぶつけたりとか、あるいは夫婦の関係でも、お父さんが何かプライドとかを気にする余り人生に対してポジティブになれないっていう姿勢は見せたくないですね。

先生の話にもありましたけれど、子どもに今起きていることは大人の鏡だと思うので、大人が笑って生きていれば、子どもたちも未来に希望がもてると思うので、会社員の、会社でいやなことがあってもなるべくもち帰らないで、自分で玄関ノブあけるときに深呼吸して切り替えて、そこから先は笑顔の父親でいようと意識していました。

そうすると、夫婦のぎすぎすしたのもなくなるし、子どもたちも話しやすい雰囲気になるから。昔みたいな威厳とか、かみなり親父的な感じだと、今の子どもたちは入ってこないと思うので、そこは胸襟を開くというか、常に開いている父親、笑っている父親を、特にお姉ちゃんが10歳位になったときからは気をつけています。

○今村　なかなか父親が育児に参加するというのは、まだまだ理解が得られにくい状況にあると。

○安藤　日本は特に、男は仕事、女は家事と育児とずっと刷り込まれてきましたから。でもヨーロッパはもう父親が育児休業90％取る国がたくさんあります。日本は1.2％です。そこを変えたいと思って、笑ってる父親を一人でも多く増やしたいと思っています。

○今村　今も仕事ばかりになっているとか、余裕がないというお父さんに具体的にアドバイスをしていただけると、どうしたらお手本になるような状態になれるのか、このあたりの秘訣を教えていただけるといいんですが。

○安藤　我々の事業で父親向けの講演会やセミナーをやっていますが、笑う父親になるためのいろんな極意があって、まず大事なのは意識ですね。子育ては義務ではなくて楽しい権利なんだと思うことですね、男性でも育児をすることで成長もできるし、人生の喜びを味わえる。子どもの育っていく姿というのは生きる原動力、頑張ろうと思えることになるのでね。母親に丸投げして、自分はお金だけ入れとけばいいんだっていうのは、あまりにももったいない。

絵本の読み聞かせも、妻に独占させとく手はないでしょう。こんなに楽しいコミュニケーションを母親だけにやらせておく手はない。それでもできない人は、子どものころ父親と楽しい思い出がなかったとか、父親であることの意味を考えないで、ただ単に仕事だけしてればいいみたいな。それは気づきのスイッチが必要なので、我々は読み聞かせの講座とか、料理教室、キャンプなどの事業を通して、お父さんスイッチ、パパスイッチを入れる活動をしています。だから答えはないんです。一人一人が価値観を変えるには、何回かその喜び、子どもの笑顔に出会うとか、そういった経験を積まないと、子どもができたら父親ＯＳを入れ替えようって言います。ＯＳが古いと、子育てはいつも固まってフリーズしてしまいます。それをいつも新しく、アップデートしていきましょうと言っています。それは人それぞれなので、その人に合った子育ての楽しさというのを見出してほしい。

僕らは地域でパパ友（とも）をつくってます。パパ友が40人います。パパ友と楽しみながらやっていくことで地域自体もよくなっていく。子育ては町育てだって言いますが、男性が子育てにかかわると町がどんどん良くなって、子育てしやすい町というブランドを手に入れて社会資本が上がると僕は実感してます。自分の子を幸せにしたいなら、地域の子たちみんなハッピーになるようなことを一人一人が考えていけば、その地域はものすごく住みやすい、誰もが笑って暮らせる持続可能な共生社会になると思います。

○今村　先ほどの木原先生から本気度というのがポイントで、本気で伝えていくと伝わってくるものが大きいと感じました。そしてまずは自分自身

が楽しめること。一人で何とかするのではなくて周りを巻き込んでいくというお話が非常に印象に残りました。

○大石　うちの息子も、これからそういう状況が訪れるんだなって思ったのですが。今５歳ですので、ようやく子どものほうも理解が進んできて、親の姿を見て思わぬ弱点を指摘したりとか、そろそろこっちもしっかりしなくちゃいけないなと思ったりします。

コミュニケーションで気をつけてることは、１つは、朝起きたら必ず「おはよう」と声をかけます。そして寝るときには必ず「おやすみ」と。なるべく目線を下げて語りかけることに気をつけてます。普段の会話でも、子どもが言ってるときに、上から聞いてるんじゃなくて、やっぱり下げて、どうしたの、何、へえ、そうなんだと聞いてあげて、こちらも話すときにはその目線でしっかり目を見て言うようにしています。すると、真剣な会話といいますか、中身の濃い会話が続きます。これは子どもだけじゃなくて、人間としての基本にもなるのではと思います。

もう１つは、面と向かってただ会話をするって成り立たないので、何かをしながらその過程で、いろいろとコミュニケーションをとる。それともう１つは、１つ役割を与えてます。私、週３日は家で夕食をつくりますが、当初は、私がつくってる間、彼は一人で遊んでました。ある時、子どもはイカのお刺身好きだったので買ってきて、こっち来て料理手伝う？って言ったら、うんうん、やるやるって、ここについてるこの口を取って。へえ、これが口なんだ。そう、口がね、ここの足のつけ根についてるんだ、イカはねって教えてあげて、何回かやり方教えながら会話をしました。そのトンビといいますか、これを取るのは彼の役割になりました。また、私が缶ビールのプルタブをあけて注いでるのを見て、非常にうらやましそうな顔してたんですね。どうしたのって言ったら、それやりたい。その後、プルタブをプシュッとあけるのは、彼の役割になったんですね。ただ、硬いですから必ずスプーンとかフォークを持ってきて、てこの原理を応用して、ぱっと開けます。

子どもの達成感っていうんですかね、満足度。前はこの程度しかできなかったのに、すごく上手になったね。ビール注ぐのが上手になったねって言うと、非常に満足そうな顔します。コミュニケーションをとりながらも、子どもに対して、うまくいったことはきちっとそれを認めてあげるように声をかけるという作業は大事なのかなと思います。

一方では、叱ることも必要なので、いろんな場面で注意を与え、叱ります。ただ叱ることは非常に難しいなあと思っています。自分の感情的なもので叱ってるんじゃないかなと。この子がこういう悪いことをしたのでそれを諭す、注意してるんだけど、いつしか自分が感情的になっていたり、その行為が私自身の感情に触れて怒ってるんじゃないかなと思ったりします。子どもにわかってもらう叱り方って難しいと思いながらも叱っています。

それと、子どものスピードっていうのがあるので、それを感じてコミュニケーションをとるのが大事だと思います。例えば朝、子どもを保育園に連れて行くとき、もう行かないと間に合わない、遅刻しちゃうと。でも彼は彼のスピード感がありまして、急いでるときでも自分の興味が優先するんですね。例えば私に見てもらいたい、自分ができることとかやるんですよね。わかってるけど、それ見てると遅刻しちゃうから、結局むりやり引っ張っていきますが。そういう子どものスピード感とか子どもの好奇心、子どもの表情とか見ながら、子どもとのコミュニケーションを築いていけるんじゃないかなと思っています。

○今村　具体的なご提案もいただけたと思います。まずは挨拶、目線を下げて言ってあげる、役割を与えていく、親子関係に限らず全てのコミュニケーションとかチームをつくっていく中でも必要なんだなと思いました。

今後、抱える課題というのは多くの親が抱えてると思うんですが、叱り方がよくわからないとか、それから具体的に出ましたが、朝急いでる、急いで行かなきゃいけない、でも何か好奇心があるところにどこまで関心を示したらいいのか。このあたりについてどうでしょう。

○安藤　父親セミナーでも非常に大きな悩みで出ますね。子どもが反抗期に入ったときにどう叱っていいかわからない。叱ってるうちにだんだん自分の感情が出たり、会社でのいやなことがそこにストレス発散したり。

まず最初に膝を折るっていうのを僕は実践しています。やっぱり巨人に怒られている威圧感というのは、子どもは圧迫感をもつので、膝を折って、深呼吸を１回して。で、「いいか、お前な」って始めると、子どもは僕の視線にすっと吸い込まれてきます。言うときも、できるだけわかりやすい、わかる言葉でコンパクトに短い時間で言うっていうのがコツです。また、母親に叱られたときのフォローも必要で、うちは役割分担をしてます。つまり日常的な細々としたことで、母親がバーッと叱るんだけど、僕はそのときは黙って見てるんですね。でもお風呂に入った時にその解説をしてあげるんです。何でママは君を叱ったかって言って、そうすると、そうだねって子どもは納得するようです。最後に僕が子どものころ、お父さんもおばあちゃんにこんなことで叱られてたんだよって言うと、子どもはほっと安心するんです。何だパパもやってたのかみたいなね。そういうガス抜きというか、ただ怒られてる抑圧だけじゃなくて、それを発散してあげる機能というのを、何か役割分担、攻撃と守備じゃないけども、そういうものをきちんと夫婦でやっていくのがいいんじゃないかなという気がします。

そんなことで、早くパパたち帰ってこようよって僕ら言ってます。夜帰れないんだったら朝20分でも早く起きて、毎日かかわることが大事です。

それに、先生も言いましたけど、相手をよく知るってことですね。まず相手の状況、相手が今何を考えてるのか、何を言いたいのかというのを。

練習は嘘をつかないって、昨日も松井が言ってましたが、日々、基本的なことをやってれば大リーグで活躍できるって、育児も全く同じです。毎日基礎的なことをやっていく、子どもとかかわっていくことが、僕は今の父親たちに求められていると思います。

○今村　木原先生、いかがでしょうか。

○木原　私、調査結果を申し上げるのは自分の仕事なんですけど、自分たちの子育てから考えると、失敗例として、こういうことしたらだめですよです。

ひたすら仕事人間の夫と、私も仕事ありましたので、ものすごく忙しい両親のもとに子どもは育ったという感じですね。ただ、私だけで育てたという感じですが、父親とはほとんど会わないんですね。それこそ週末だけどころじゃなくて、３歳のころにうちの子が夫に言った言葉が、「パパまた来てね」っていう言葉でした。それくらい家に帰らない。研究者ですから大学にこもりっきりで研究するんですよ。それはもう彼の仕事ですから仕方がないですけど、親子関係はものすごく悪かったですね。

ほとんど触れ合わない、子どものこと全く知らないで、子どもが思春期になった頃、突然、怒り出したんですよ。態度が悪い、その格好は何だ、その口の利き方は何だって、猛烈に怒り出したんですね。そうしたら、子どもも反抗期ですからすごいですよね。パパだって何よ、ほとんど帰ってこないくせに、帰ってきたと思ったら、うるさく文句ばっかり言って、自分のこと何もしてないくせにって、ガーッとものすごいバトルになるわけですよ。間に入った私はもうどうしようという感じになって、結局、夫が、そんな生意気なこという奴は出て行けってなるんですね。それで娘出て行きました。私は夜の街を必死で探すわけですよ。これはだめな例ですが、ずっとだめでした。この先が修復したわけではありません。

ただ一度、子どもがどうしようもなく困った状況になって、学校をどうするかというときに、そのときにもう学校の先生も誰も助けてくれないっていうときに、そのときに初めて、父親である夫がものすごくがんばって助けてくれました。そのときだけ急に張り切って父親になったわけですよ。そのときから子どもがちょっとだけ見直すようになってきて、またしばらく空間はあったんですが、14歳から24歳位まで、ボーンと親子関係真っ暗みたいな感じで、24ぐらいになったら戻ってきますので、もし全然、役目果たせてないお父さんは、10年間ぐらい我慢されれば、本気で愛してれば、子ども10年経ったら戻ってきます。それまでは、触れ合わなかったツケはだいぶ残るなと思いました。ですから常日頃の関係というのは、すごく大切だなと思います。私たちは失ってしまったのですが、母親一人ではできないことっていっぱいあります。これが二人でできたら、どんなに違ってたかなというのをお聞きしながら、ああ、いいなと思って聞いていました。

○今村　先生もご苦労を。でも10年経ってすてきな親子関係がつくれて、これはすごいなあと思い

ます。私もいろいろな研修などで、失敗って失敗じゃないって。次に生かせるための成功のための良い情報が入ったということで、先生の今の活動を拝見させていただきますと、いろんな体験が生かされ次につながっていくんだというのを改めて学ばせていただきました。

では、だんだんと時間が限られてきましたが、ぜひ皆様からパネリストの皆さんにご質問などがありましたら、いかがでございましょうか。

〇会場発言　父親が子育てに係わってくると、父親と母親の育児へのバランスというか、分担というか。そういうことで、何か日ごろ感じてることがおありでしょうか。

〇今村　はい。今の質問少し共有させていただきますと、父親が子育てにかかわってくると、母親との関係とかそういったところに関して、何か支障とか、奥様がどう思ってるかとか、そういった主旨でしょうか。

〇会場発言　おっしゃるとおりで、つまり今、大石さんも安藤さんも自慢話が多かったと思うんですが。実はねっていう、何か裏話みたいの聞きたいなっていう質問なんです。

〇今村　奥様はどんなふうに捉えられてらっしゃるのかなということですね。

〇安藤　今は割とにこにこスマイルですが、１人目のときは妻にそれ違うんじゃないとよく言われました。特に、母親たちのアンケートで、夫に言われて一番いやな言葉って「手伝おうか」っていう言葉なんですね。父親が自分は育児をやってる、かかわってるつもりでも、手伝ってるとか、やってあげてるとかの感覚でやってると、妻は見抜くんですね。そこで喧嘩です。僕も最初のときそうでした。心のどこかでこれは母親がやるもんだろが出てしまうのです。自己嫌悪に陥って、そうじゃないって。強引に自分のギアチェンジをするしかなかったですね。おっしゃるように自慢話ばかりじゃなくて、第１子目のときには、自分のＯＳを入れ替えるのに３年ぐらいかかりました。だから「手伝おうか」ではなくて、役割を与えると話ありましたが。家族は一艘の船の乗組員だという意識をもつようにし、その役割をそれぞれが果たしていくということです。

男性たちがよくやるのが、男性は家事・育児やると、妻に対して自慢するんです。これやっといたからとか、皿洗っといたからとか、言った時点で半減ですよ。男性が家事、育児やってると自慢するのは、まだやっぱり手伝ってるっていう意識があるからなんですね。

〇大石　私も全くそのとおりだなと共感したんですが。やっぱりお互い地雷の部分がありまして、そこには入り込まないということで対応してます。

父母の役割ですが、二人とも働いていれば、両方が母親であり父親なんですね。いろいろと細かい愚痴はありますが、最近はお互いうまく使い分けていますね。私は私なりにできることをやっていますので、ぶつかり合いはありますが、10年目になってお互い何となくその辺の距離感といいますか呼吸といいますか、わかってきました。

〇安藤　父親支援の海外の事例で、門番としての母親っていうキーワードがあります。子どもの育児、家事、教育は母親がやるものだという意識が母親側に強いと、父親の私情介入を許さない傾向があるというのは、世界的にあって、日本も古い性別役割分業意識が強いので、父親が入っていこうとするのを目の前でパシャンとシャッターを閉めてしまうような母親が実は多い。これは課題として取り組まないといけない問題ですね。

男性も出産と授乳以外の子育てはやらせればできます。男が育児できないとか、３歳まで母親が見るべきだなんていうのは、全く科学的に何の根拠もない都市伝説みたいなものですから、あまり信用しないほうがいいと僕らは言っています。

〇今村　理想とか、こうすれば必ずいいってものではないということですね

夫婦間あるいは地域社会すべてにおいて、私たち一人一人、大切にされたいとか、自分自身は価値ある存在なんだ、重要な存在なんだという思いが必ずありますので、まずは相手を認める気持ちとか、相手を受け入れる気持ち、そんな気持ちを大切にしていきたいなと思いました。

これでパネルディスカッションを終了とさせていただきます。

4　近 畿 地 区 （兵 庫）

～子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業～

「子どもたちの心とその背景を探る」

日　時　　平成21年11月20日（金）13：00～16：30
会　場　　神戸市総合教育センター
主　催　　（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会
主　管　　近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会
　　兵庫県立高等学校ＰＴＡ連合会
　　神戸市立高等学校ＰＴＡ連合会
後　援　　兵庫県教育委員会　　神戸市教育委員会
　　兵庫県立高等学校長協会　　神戸市立高等学校長会

開会行事

開会のことば	近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会会長	矢谷　勝
主催者挨拶	（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会会長	髙間専逸
来賓挨拶	兵庫県教育委員会社会教育課長	三木忠一
	神戸市教育委員会生涯学習課長	上田剛弘

基調講演

演　題　「子どもたちの心とその背景」
　　－子どもを取り巻く大人の支援の方向性－
講　師　京都大学大学院医学研究科准教授　　木原雅子

パネルディスカッション

コーディネーター	兵庫教育大学教職大学院教授	廣岡　徹
パネリスト	兵庫県立小野高等学校ＰＴＡ会長	大西真一
	神戸市立兵庫商業高等学校ＰＴＡ会長	釣　邦子
	兵庫県立夢前高等学校主幹教諭	篠原　歩
	兵庫県立三木東高等学校２年	三原裕貴
	神戸市立葺合高等学校２年	加藤未帆
助言者	京都大学大学院医学研究科准教授	木原雅子

〈開会のことば〉

近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会会長　**矢　谷　　勝**

皆さん、こんにちは。これより文部科学省委託事業社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」平成21年度近畿地区シンポジウム兵庫大会を開会いたします。私は、近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会会長を務めます大阪府立高等学校ＰＴＡ協議会の矢谷勝と申します。

私は大学と就職は兵庫県で過ごしましたので、神戸はほとんど地元の感覚です。本日はこのシンポジウムにご出席いただきありがとうございます。

「子どもたちの心とその背景を探る―高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方―」というテーマですが、子どもたちは高校生という多感な成長期にあり大切な時期です。本日の機会を有効にご活用いただきたいと思います。

この時期、３年生の親御さんは進路を決める時期でもあり緊張感もひとしおかと存じます。２年生１年生の親御さんも進路を考えつつ学校でさまざまな課題をおもちかとお察しいたします。かくいううちも中学、高校、大学と３人子どもがおりまして、次女が高校２年生です。本人にとってもそうでしょうが、親にとってもあっという間に２年生になったという感じです。

しかし、まだ高校生ですので話すことなど幼いです。ただ、自分の意思決定についてはだんだん親の言うことを聞かなくなってきます。各家庭の状況によりいろいろと事情は違うとは思いますが、強制しようと思っても難しい年齢です。まだ子どもとは思っていても、本人の意向を尊重しながらお互い引っ込みがつかなくなるようなことは避けて、一つひとつのことについてゆっくりとしっかりと話し合うことが大切かと思います。彼女の人生ですので、彼女が思うようにやることがいいのかなと思っていますが、経済的な問題もあります。うちの場合あと１人息子がいると考えますと、もう少し働かなければいけないなと思いますが、無理せずに自然体でがんばろうかなと考えております。

ここにいる全員は誰一人として同じ家庭の状況ではありません。将来を担う子どもたち、そして私たちの今後のために、まずは本日この機会にともに学ぶことから始めましょう。では、本日のシンポジウム、どうぞよろしくお願いいたします。

〈主催者挨拶〉

（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会会長　**髙　間　専　逸**

どうも皆様、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました、社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会の髙間でございます。

今回の近畿地区のシンポジウムは神戸で開催され、このように多くの会員の皆様にお集まりいただきまして、盛会に開催できたことを心よりお慶び申し上げたいと思います。また、来賓として兵庫県の教育委員会様、神戸市の教育委員会様に出席を賜りましたことに対しましても厚く御礼を申し上げたいと思います。

最近は政権も変わりまして、高校の授業料の無償化ということが盛んに出ております。今回行われるシンポジウムも平成18年より子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業というこ

とで、スタートさせていただいております。この事業ももともとは、福祉医療機構というところの補助事業だったのですが、昨年度から文部科学省の委託事業に変更になっております。今、事業仕分けをやっており、その中には入ってないということでありますが、今後どうなるのかなという危惧を抱いております。

しかしながら、昨年の結果を踏まえても子どもたちの状況がどんどん変わってきています。その一つの要因としては、やはり私たち大人が作ってきた社会の中で、子どもがそれに対応できない状態になってきています。そうであれば、私たち大人が子どもたちに対してしっかりとした形の中で教育をしていかなければいけない、と考えています。

そういったことも踏まえまして、今年度は子どもたちの心とその背景ということで、高校生の生活意識と保護者のあり方のアンケートを取り、分析をしました。今日、基調講演をしていただきます京都大学の木原先生は、協力者委員会の委員長ですので、今回の分析結果をしっかりとした形で皆様にお伝えしていただけると思います。これはあくまでも分析結果ですので、そこを踏まえて皆様方がお持ち帰りをいただいて、少しでも多くの会員の皆様に情報を広めていただければ、また少しは子どもたちの環境も変わってくるのかなと思っております。よろしくお願いいたします。

また最後になりますが、今回のシンポジウムを開催いただきました兵庫県立高等学校ＰＴＡ連合会の長田会長ならびに神戸市立高等学校ＰＴＡ連合会の角田会長、そして事務局の皆様、今回のシンポジウム開催にご苦労いただきました兵庫県立高等学校ＰＴＡ連合会と神戸市立高等学校ＰＴＡ連合会の皆様に、心より感謝を申し上げ、全国高等学校ＰＴＡ連合会の会長としてのごあいさつとさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

〈パネルディスカッション〉

コーディネーター	廣岡　徹	兵庫教育大学教職大学院教授
パネリスト	大西真一	兵庫県立小野高等学校ＰＴＡ会長
	釣　邦子	神戸市立兵庫商業高等学校ＰＴＡ会長
	篠原　歩	兵庫県立夢前高等学校主幹教諭
	三原裕貴	兵庫県立三木東高等学校２年
	加藤未帆	神戸市立葺合高等学校２年
助言者	木原雅子	京都大学大学院医学研究科准教授

廣岡　皆さん、こんにちは。実は木原先生のご講演を伺いまして、話は尽きているな、と思いましたが、われわれはそれぞれの立場から今日の話をしようと思っておりますので、ぜひ、最後までお付き合いをお願いしたいと思います。

本来ですと、お一人ずつ紹介すべきところなのですが、時間の関係もあり、最初のコメントの中で、それぞれの自己紹介を含めてご意見を伺いたいと思います。とりあえず、私は、兵庫教育大学教職大学院で管理職に将来なる先生方を教えています。ただ、本来は高等学校の教員で子どもたちに接していて、校長としてＰＴＡや先生方と付き合って、県の教育委員会でＰＴＡの担当をしておりました。そういうことで、今日のコーディネートを仰せつかったと思っております。よろしくお願い申し上げます。

さて、今日のテーマですが、時間の関係もあり

ますので、私どものほうで相談して決めさせていただきました。それに従って、２部構成で進めさせていただこうと思っております。最初に５名が順にコメントしまして、その後、会場からご意見をいただきます。次いで、その発展形で５名にご発言をいただいて会場からご発言をいただく。その間、木原先生に、漏れがあればコメントをいただきたいと思っています。

木原先生のご講演で、「やる気ない、目的ない、授業分からない」三ない高校生、それに保護者への信頼がない四ない高校生ということが分かってきました。ここに並んでいる高校生が決して三ない高校生というわけではありません。一般的に、高校生が何を考えて、あるいは高校生が級友たちとどういう人間関係を作りながら目標に向かっているのか。そこを高校生からお聞きしたい。

保護者の方には、自分の子どもや子どもの友人を見ながら、親としていったい何ができるんだろう。教員の立場からは教員として学校でどう親と向かい合い、あるいは生徒と向かい合うのか、といったことで80分を務めてまいりたいと思います。

それでは、今言ったような観点で高校生のお二人からご自身の夢や目的あるいは努力や周囲の友達はどういう状態なのか。そんなことを踏まえてお話を伺いたいと思います。

では、最初に三原さんから。

三原　皆さん、こんにちは。兵庫県立三木東高等学校２年生の三原です。よろしくお願いします。早速ですが、高校生の立場からということでお話をさせていただきます。

まず自分自身の目標目的があるかということですが、僕の通っているのは総合学科で、自分の目標や夢をもつことを目的とした授業があります。その中で僕は現在、航空機のパイロットになるということを目標としてがんばっています。その中の取り組みがこの目標を実現するために役に立っていると思っています。

具体的な取り組みとしては、自分が就きたいと思っている仕事や目標を実現するために、その仕事の特徴や内容調べ、実際にインタビューを行ったりしてその結果を論文にまとめるという授業を行っています。そうして、目標は１年後の進路決定ということになります。その目標を実現することができるように、今、がんばっています。周囲の友人も、同じ総合学科で取り組んでいますので、ある程度の目標をもって生活していると思っています。ただ、全員がもっているというわけではなくて目標を持ってない生徒もいます。目標があるのとないのとでは日々の生活も変わってくるのかなと思います。そういう中では目標をもつことは、大切なことだと思います。ただ、今の状況で就職先が少ないので僕たち高校生にとってしっかりと目標をもつというのは、難しいことでもあると思います。

廣岡　ありがとうございました。インタビューで実際にパイロットの方に出会う機会があったのですか。

三原　実際はパイロットの方に出会ってはないのですが、学校のオープンキャンパスで教官の方とお話をしたことはあります。

廣岡　夢の実現に総合学科は非常に役に立っているのですね。

三原　そうです。

廣岡　分かりました。では、続いて加藤さん、お願いします。

加藤　皆さん、こんにちは。神戸市立葺合高等学校２年生の加藤未帆です。よろしくお願いいたします。まず、はじめに私の夢は、私には中学生のころから国連のような国際機関で働いて、途上国の人々の力になるという夢があります。もともと英語や国際交流にすごく興味があったのですが、中学校２年生のときに参加した国際交流キャンプでアフリカにボランティアに行った方から、食料問題や貧困についてのお話をお聞きして、それがすごく印象に残ってそれがいつしか私の夢になりました。その夢をかなえるために取り組んでいることは、英語の勉強はもちろんしていますが、具体的に何ができるか、というのを見つけるのは難しいと思ったので、昨年１年間アメリカに留学しました。そこで、違う先進国の状況を見たりして、新たに自分の目標などが見つかりすごくためになりました。

葺合高校の国際科は普通科とは少し違う特色のある学科です。ですから、私の周りの友人ももともと夢があってやってくる子も多いのですが、それでもやはり、とりあえず英語を学んでいるけど、具体的な方向性が見えないまま行ける大学に行きたい、という友達もたくさんいるように思い

ます。

廣岡　加藤さんは国連に関係したところに勤めたいということですが、実は、木原先生も国連の仕事をしておられるんですが、何かコメントはございますか。

木原　特に私からはないんですが、とにかくすばらしいなと思って聞いていました。私の教室は国際貢献を勉強しています。ですから、加藤さんのように国際貢献をしたいという人たちが、大学院生として入ってくるところです。面接のときに必ずそういったお話をされて、私はドキドキしながら、「こんな人が入ってきてくれたら嬉しいな」と思って聞いていました。ぜひ来てください。お待ちしています。

廣岡　お二人ともきちんと目標をもってがんばっておられるということです。では、一般的な傾向も含めて、篠原先生からは先生の立場からお話をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

篠原　皆さん、こんにちは。兵庫県立夢前高等学校の篠原歩と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、教員の立場からということで、まず入学時のモチベーションの高さがどうなのかというところが一つ大きな問題になります。

第１希望で入ってくる生徒については、ここでがんばろうという意識をもって入ってきます。ところが、志願変更して入学する生徒は、最初からモチベーションが低く、意識も非常に低いです。そして、第１志望で入った生徒と志願変更で入った生徒は二極分化をしています。第１希望で入った生徒の意欲はすごく高くて、何をしてもリーダーシップをもってやってくれる生徒が非常に多いです。ところが志願変更をして入った生徒はすごく意識も低い感じがします。

入学時に専門系の高校に入ってこられる生徒さんは、最初に入学するというところで目標がある方が多いのかなと思います。ただ、その専門系の高校にしか行けなかったという思いを持っている生徒は意欲も低いと感じています。そうすると、部活動にも参加しない。そんなことで何かどんどん悪い方のスパイラルにはまってしまう、と感じております。

普通科でもやはり二極分化はあります。高い能力をもって入ってきている生徒は、それなりの目標をもっております。上の学校にいった後にどういうふうに進んでいこうかというイメージをもちながら意欲的にやっています。ですから、進学校ほど部活動の加入率も高いのではないかなと思います。そのあたりは、自分でセルフコントロールができる生徒がいわゆる自己肯定感の高い生徒ではないかと思っております。一方、意欲の低い生徒は自己肯定感も低いですし、何となく日々を過ごしてしまう。リズムが乱れていく。学校がおもしろくないなあ、バイトしようか。バイトしたら朝起きるのがしんどくなって、欠席が増えてしまったりして、どんどん悪い深みにはまっていってしまう。最終的に進路変更せざるを得ない、ということがあるのではないかと思います。そんな対策として本校ではみんな部活動をしなさい、と指導しています。

社会の情勢などを考えますと、本年の高校生の求人は昨年から比べまして48.8％求人が減っております。求人の倍率も去年から比べて0.6ポイント減って0.71倍しかない。１人に対して0.71社ですからあぶれる生徒がいます。そんな中で目標をもつということもなかなか難しいものがあります。また、大学を出たらどうなるのか。大学生の就職内定率はきのう新聞に出ておりましたが、62.5％しかありません。10人のうち４人は就職できない状況があります。そんな社会の情勢の中で、どういう目標をもてるのか、というところが非常に難しい部分ではないかなと思っております。

大学の方も、少子化の影響で全入に近い状況になっています。そのあたりも二極分化しておりまして、難化する大学はどんどん難化します。ところが定員割れする大学もたくさんある。極端に言えば名前を書いたら合格するのではないかなという大学もあるようなないような……はっきり言え

ません。そんなところで、本当に目標をもってがんばる生徒はどんどんいくし、目標がない生徒はどんどん悪循環になっていく。また、目標がもてないのは、社会にも一因があるのでしょう。われわれが安いものを求めて、ユニクロさんにヒートテックのシャツを買いに行く。そうすると中国製やバングラデシュ製になっていて、日本で物を作らなくなってきています。社会の情勢も生徒にとってのプラス要因はないのではないか。そんなふうにいろんなことを思いながら、日々を過ごしております。

廣岡　入学時のモチベーションの話が出てきましたが、生徒のモチベーションは迎える先生方のモチベーションに非常に大きく関係していると思います。そのあたりは同僚の先生方の様子を見られてどう思われますか。

篠原　われわれはプロなので、生徒に対してどんなことができるかということをすごく考えます。本校の取り組みは、どんな生徒さんにも目標を持って頑張ってほしいということで、ウェルカムオリエンテーションというのをやっております。うちは３クラスしかないんですが、約２週間、一つの教室に入れまして、生徒同士で一緒に自学実習の勉強をします。勉強の仕方が分からない生徒もたくさんいますので、そんな中でどうやったら自学実習ができるのか、あるいは自分にあった勉強の仕方、また、仲間づくりを狙いとして取り組んでいます。

廣岡　一方で木原先生が、比較的しんどい学校で授業をしておられる風景が講演の中にあったのですが、ああいう手法は、先生の学校でも導入できそうですか。

篠原　ぜひ来てやっていただきたいなと思っております。今日ここに来ている校長も同じ意見だと思います。

廣岡　実は、せっかくの機会ですので校長先生には後半で出番をお作りして、学校改革に非常にがんばっておられる学校ということでご紹介したいと思います。

生徒の２人の方にお尋ねします。それぞれの学校の全体的な先生方は、皆さんの夢の実現に対してどのようにかかわっておられますか。先生の様子やモチベーションの高さはいかがでしょうか。

加藤　葺合高校の先生方はいつも気さくに声をかけてくださったり相談に乗ってくださったりするので、すごく相談しやすい環境にあると思います。

三原　総合学科ということで、将来のことは相談しやすい先生方は多くいらっしゃいます。悩んだり分からないことがあれば、聞いたらすぐに答えてくださいます。

廣岡　お二人とも恵まれた環境で勉強しているということですね。それでは、保護者のお二人からは、ご自身の子どものことや子どもの友達など、高校生たちはどういう夢や目的をもって過ごしているのか。あるいはそれに対するご自身の感想をご発言いただければと思います。

大西　兵庫県立小野高等学校ＰＴＡ会長をしております大西と申します。仕事は三木市役所の子育て支援課の子育て政策グループというところに勤めておりまして、今日はそういったところもあって、パネラーとして呼ばれたのかなと思っております。親子のことですが、息子が通っている高校には理数系の科学総合というコースがあります。そちらに志望しまして入学試験を受けました。面接試験で、「将来どんな道に進みたいのですか」という質問にうちの息子は、「将来、医学部に行って小児科医になりたいです」と答えたそうです。それは初めて聞いたものですから、家に帰ってから、その辺を聞きましたら、小さい時に小児科にかかることが多くて病気で苦労した。そういう自分なりの思いがあって、そういう研究がしたかったということを言っていました。その辺のところを見込まれまして、今の高校に入れていただきました。

私は息子が高等学校に入って１年生のときからＰＴＡの役員をしております。昼間は高校に行って、いろいろな高校生の姿を見る機会も比較的多い方のですが、ここの高校生は、今どきの高校生には珍しく何でも一生懸命やっているなという印象はもっています。例えば、朝早く来る高校生が

います。朝６時半ぐらいから、冬場では真っ暗なうちから登校しています。田舎の高校ですから電車の本数が少ない。１時間に１本しかないとかＪＲの接続が悪くて、その電車に遅れたら次は学校に間に合わないという状況の子どももいるようです。それで朝早く来る高校生が多いようです。そして、朝早く来て、実習室でめいめいの目標に向かって努力しています。

うちの息子も元来のんきな方ですが、そういう周りの雰囲気に乗せられてそれなりに努力をしているのかなあと見ています。３年生ですから、現在はセンター試験まで60日を切った状況ですが、帰ってきてみますとよく寝ています。夢は大きいですが、その姿を見ていますと、夢といっても夜に布団の中で見る夢になってきたのかな、と思ったりもしています。その辺で期待半分、不安半分で子どもの姿を見ています。

廣岡　全然別の話ですが、その子育て支援課では、将来の子どもたちが中学生、高校生になったときに、親御さんたちがどういうふうにかかわっていけばいいのか、といったような研修だとかそういう機会はあるのでしょうか。

大西　まず、今の若いお母さん方は、結婚して子どもができてもまだ親になりきれない人がいます。親教育が必要です。しかし、親となる教育を経験する機会が少ない。核家族も多いですし、祖父母と一緒ではなくて初めて親になって子育てをするということで、いろいろな体験をして困ったなあというお母さん方が多いと思います。ですから、今日の先生の講演を聞きますと、高校生ぐらいからそういった教育、体験が非常に大事かなと思っています。自分に子どもができて、その子どもが高校生ぐらいなっていろいろな問題を引き起こすことがありますが、小さいときに要因があるのかなと思ってずっと見ていました。その辺の部分の教育に取り組んでいかないといけないなと思っています。

廣岡　親になってからでは遅くて、親になる前の高校、中学校あたりからそういったことを身につけていく。その基盤は、やはり家庭にある。そうなると家庭の影響が大きいというところに戻っていってしまって、堂々巡りみたいなところがあります。

では、お母さんの立場からということで釣さん、よろしくお願いいたします。

釣　こんにちは。神戸市立兵庫商業高等学校育友会長の釣と申します。よろしくお願いいたします。私は大学生の娘、それから高校生の息子、中学生の息子の３人の母です。地域では、主任児童委員や小学校中学校の学校評議員をしています関係で、行事のたびに保育所から始まって高校までお呼びがかかってきます。そのときは時間があれば行かせてもらっていますので、子どもたちのようすを先生方から聞いたり自分の目で見る機会は、比較的に皆様に比べたら多いのではないかと思っています。

また家の近くの小学生のときからずっと知っている高校３年生の３人の男の子が、勉強や話をしに私の家に来ていますので、子どもたちの本音をけっこう聞けます。自分の子どもは、なかなか本音までは言わないんですが、いろいろな友達のことを言ったり、たまにはお母さんの不満を言ったり、いろいろと言っています。ですから、私の日々の生活の中で今の高校生について考えていることは、先ほど三原さん、加藤さんにしても非常に立派な目標をもたれていたんですが、どちらかというと、しっかりした目標をもっている子ももちろんいますが、何となくぼんやりしたもので、はっきりとは決まっていない子が多いのではないかと思います。これは私たち保護者が高校生のときをよく考えてみると、しっかりした目標をもっていたか、皆さん一度胸に手を当てて考えてみてください。私は漠然としたものはもっていたのですが、そこまでしっかりしたものだったかどうかは、もう二十何年か前のことですから忘れましたが、なかったように思います。

ただ、私たちの時と今の高校生は違うと思うのは、高校３年生は進路決定をしなければいけない。ちょうど我が家に来ている子はみんな進学することになりましたので、大学を選ばなければいけない。しかし、その選び方は、自分の今の成績ならここだと合格するだろうからここでいいわとか、一般入試だったら１月、２月、３月まで待たなければいけない。ずっとそんな長いこと勉強はできないから、早く決まる推薦で決めてしまう、という子が多いのです。たまたま、私の周りでそういう子が多いのかどうかは分かりません。しかし、今の社会は非常に豊かになって子どもたちは

大した大きな努力をしなくても、ある程度のものは手に入ってくる。そこらへんが関係しているのか、夢が小さいなと感じます。

廣岡　釣さんは、女のお子さんと男の子のお子さんをお持ちですが、女の子に接するときと男の子の接するときとは何か身構えのようなものが違いますか。

釣　基本的に違うことはないですね。やはり自分で目標をもって将来に向かってしっかりやってほしいなというのは女の子であれ男の子であれ同じです。ただ、家庭内でのお手伝いの要求は、女の子と男の子に対しては違っています。

廣岡　私自身は小学校４年生のときから教員になりたくて教員になりました。でも、振り返ると他の選択肢もあったな、と今は思っていますが、やはり教育というのはすばらしい仕事です。ところが、子ども３人は誰一人教員になろうとしていない。上の２人は就職していますので、頼みの綱は最後の大学生の娘です。一応教職を取らせていますが、木原先生のお話にありましたように、本当に目的をもって邁進している子どもはたぶん限られているのかもしれない。たまたま総合学科だとか国際科だとか理数とか行かれて、そういう明らかに明確な目標をもっておられる場合も多いと思いますが、一般的に目標をもてないでいる子どもたちについていろいろと考えていきたいと思います。

今までの皆さんのお話をもとに会場のご意見を伺いたいと思います。パネラーへの質問でもけっこうです。どうぞ。

質問者（会場）　県立尼崎小田高等学校育友会の嵯峨山と申します。先ほどの子どもの目標については、三原さんと加藤さんはものすごくすばらしい目標をもたれてブレがない学生生活を送っていると思います。先ほど言われたように僕らのときは目標がなくて、私は団塊のちょっと後ぐらいで木原先生と同じ年です。私は、ちょっといいところに入れて、少しでもお金がたくさんもらえて生活ができる、というのが目標だったかなと思います。でも、今はものすごく選択肢が多くなって豊かになって、生活をするためという目標はないと思います。では、子どもの目標とは職業の選択のことなのか。それを目標として親子で話していけばいいのだろうか。そこを疑問に思って少し夢がないなと感じています。子どもと将来の目標の話をしたときに、職業の選択を目標とした話をしてうまくいくものはどうか、ということを木原先生に教えていただきたいです。

廣岡　具体的な職業選択だけが目標ではないだろう。もっと大きなばくっとしたものも目標としてありうるだろう、ということですね。

質問者（会場）　いや、分からないのです。ただ、それが何かということが子どもに今話せないので、何かヒントをいただけたらと思います。

木原　私は学校の中で、生徒さんに接するときに「夢は何ですか」「目標は何ですか」といろんなグループワークをします。そのときに、仕事も一つに入りますが、「10年後の私」を考えてもらったりします。そのときに、どこに住んでいるか、誰と住んでいるか、何をしているか、というのを考えてもらいます。そこでもしかしたら一人暮らしをしてがんばっているかもしれない。あるいは誰か好きな人と一緒にそこに住んでいるかもしれない。そして、何をしているというところに職業が出てきます。いくつもいろんな角度から自分の将来を見てもらったらいいのかな、という取り組みを授業の中ではやっています。そうすると、職業だけに絞られてしまわないので、こういう温かい家庭を築きたい。あるいは、子どもと自分の家庭を守りたいと思ったら、そのときには職業が出てきます。そうすると、そこから必然的に出てくる職業という形もありますし、職業の方からこちらが出てくる場合もありますし、そういういろんな多面的に出てくるような形の「10年後の私」という授業をやったりしています。

廣岡　篠原先生、その辺りは高等学校では具体的にはどのような取り組みをされているのでしょう。

篠原　こういう職業に就くにはこういう進路でないといけない、というのは当然あると思います。例えば美容師になるには美容専門学校に行かないといけないですし、看護師になるには看護の専門学校、あるいは４年生の大学に行かないといけない。そういうところをにらみながら話をします。ただ、今おっしゃったところでは、自分の人生をどう充実させるかとか、社会にどう貢献するか、というのは、職業とすごく関連してくるのかなとは思いました。

廣岡　もうお一方、いかがでしょうか。

質問者（会場）　兵庫県立明石城西高校の会長しております富田と申します。よろしくお願いいたします。私の息子もちょうど高校３年生で受験生です。小さいときから、「相手の立場を考えなさい」「自分より弱い立場の者に対しては助けてあげるのは人間として当たり前だ」とずっと言ってきたように思います。今は受験生となって自分の行きたい大学や夢の話をしています。息子も夢がすごく大きくて、「今の日本はおかしい。日本を変えたい」と言っています。「じゃあ、頑張って変えて」と応援はしています。息子は、自分の夢を実現するために行く大学を決めて、そこに向かって勉強をしています。

この間私が「そこに転んでいる人がいたら、助けるか」という話をしました。「昔の俺やったらたぶん助けて俺は学校に行く。でも、今の俺は人を助ける余裕がない。なくなってしまった。お母さんにこれだけのことを教えてもらってきたけど、どうしたらいいんだろう」とすごく悩んでいます。自分が行く大学のための勉強に追われてしまって、こういう状態になってしまって人としてどうなのか。

また、うちの高校も、どこの国立に何名入ったとか言われるのですが、それは、子どもたちが学校のために受験している、と思ってしまうのではないか。親も宣伝を求めてしまうというところもあります。今､息子にアドバイスをするとしたら、どういうアドバイスがいいのでしょうか。私はいつかは私が教えたとおりの息子に戻ってくれるとは思いますが、よろしくお願いいたします。

廣岡　私も高等学校の校長をしておりましたが、大学へどれだけ行くかというのは大きな一つの目標であり課題でもあります。ただ、一方で、子どもたちに単純に大学を選んでほしくない。自分の生き方や総合的なトータルな考え方の中で大学を選んでいく。要するに偏差値が高いからいいわけでもないし、行きたい学部、学科、さまざまなことを考慮して大学を選んでいく中で、基本的に子どもたちはそこで今の自分の力といったものと向かいあうことになります。本当は理想を考えた時の力と今自分がもっている力を考えたときに、高校３年という短い期間であれば、どうしても点数的なもので妥協せざるをえない。これをどう乗り越えるか。確かに高校３年間だけでは自分の大きな目標に向かう力を付けられなかったのでこの大学になったけれども、では、今度はその４年間をどう過ごすか。そういう立ち向かうモチベーションとか意欲をこの高校３年間で育てられれば、例え大学受験が目指すところではなくても、その大学でさらに乗り越える力を付けられると思っています。３年間ですので、そういった悩みになかなか答えられないという状況ありますが、決して校長や進路指導の先生方が、今年は大学に何人行って、国公立に何人行ったというだけを目標にしているわけではありません。子どもの担任は性格を見ながら、いろいろアドバイスをしていると思いますし、教員もそういうアドバイスができるような能力を身に付けていくべきだろうとは思っています。

先生方もそういう指導はされていると思います。そのためにキャリア教育が中学校、高校で導入されて、少しでも子どもたちの心に響く進路指導をしたい、ということで何とか答えにならないでしょうか。

廣岡　では、後半の方に移らせていただきたいと思います。前半のお話の中で､目的があるにしろ、ないにしろ高校生たちは、親や教員に何を求めているのか。あるいは教員や保護者はどうそれに応えて支援していくのか。あるいは、家庭ではどうあるべきか、といったことについて、それぞれの立場からお話を伺いたいと思います。三原さんからお願いします。

三原　目標や夢を実現するためにということで、支援は必要だと思うんですが、一番大切なのは自分自身がやりたいことに自信をもって、努力していくことだと思います。その目標を実現するために、周囲の影響や環境が大事なのかなと思います。特に、自分の進路を実現するためにどのよう

な方法があるのか、どういう形で進めていけばスムーズに進むのか、ということについては学校の先生からのアドバイスが必要だと思います。

また、目標を実現するためには金銭的なものもあって、そういうところとか自分の悩んでいることを相談できる環境が必要かなと思います。支援という形は、悩んでいることを一番相談できるのは親や家族かなと思いますので、相談したときに、うまく教えてもらえるという環境があると、いっそう目的や目標を実現するということには近づくのかなと思います。

廣岡　それでは続いて加藤さん、お願いします。

加藤　夢や目的の実現に当たって誰からどのような支援がほしいか、ということですが、私は中学校のころから具体的な目標があったので、それについて親とよく話す機会も多かったんですが、中学校に上がる前はいろいろ将来の夢がコロコロ変わったりしていて、でもそれを親に話したり相談することによって、「じゃあ、こういうこともやってみれば」とか「こんなのがあるわよ」とか、例えばそれが国際交流のキャンプの申込書だったり、親がいろんな挑戦する機会を与えてくれたことによって、私は自分の目標が見つかったので、やはり、そうやって両親とよく話して、自分に何があっているのかというアドバイスをもらうのがすごく大事だと思います。

あと、やはり夢や目的によって選択する進路とか大学の学部とかも変わってくると思うので、私は常に少しでも何かやりたいことの方向性が変わってきたらまずはよく親に相談するようにしています。

廣岡　お二人とも基本的には、親に一番先に相談する。例えば、先生と親と二つ並べたときに、具体的な進路について先に保護者の方に聞く。でも、必ずしも保護者の方がその進路について詳しい知識があるとは限らないですよね。保護者がお二人にきちんと教えてくれていますか。

加藤　やはり、学校の進路相談だと、あなたの偏差値だとここの大学がいいですよ、というのがどうしてもあるので、まずは親と相談してちゃんと自分の方向が見えてから先生に相談するようにしています。

三原　相談する内容とかにもよると思うんですが、これをやりたいということを訴えるには親かと思います。ただ、進路を実現するために入試のことを聞くということになると、先生の存在は大事になると思います。

廣岡　分かりました。ありがとうございます。それでは、保護者としてどのような子どもたちの要望に応えていくかですが、大西さん、お願いします。

大西　まず言えることは、子どものやる気をくじかないことだと思います。やる気をくじく言葉が家庭の中では出てしまうと思いますが、そういう言葉をどれだけ家庭の中で使っているのかを反省したいと思います。

例えば、やみ雲に「がんばれ」とか、「勉強していい学校に行きなさい」という方もいらっしゃると思うんです。私は、マラソンを普段していまして、週末に大会に出ることがあります。走っていますと沿道から「がんばれ、がんばれ」という声援があります。走っている本人にしてみればがんばれという応援は苦痛です。遅いかもしれないけど精一杯がんばっているのに、まだこれ以上がんばれというのか、という思いになってしまいます。ですから、がんばっている人たちにとっては、「ドリンクコーナーがもう少し行ったらあるよ」「１キロ行ったら折り返し地点があるよ」「ゴールに行ったら豚汁が食べられる」という具体的な励まし、アドバイスをしていくほうがよっぽど力になると思います。それが子どもにもいえることだと思います。

あとは、高校生へのアドバイスは、夢といっても小さい夢から大きい夢まであると思います。できたら小さい夢も大きい夢も両方もっていくべきだと思います。小さい夢に挑戦して成功することがあれば、特に受験勉強の場合に小さい夢に挑戦して成功すれば、例えあとに大きな夢に挑戦して失敗して、夢がかなわないということがあっても、また、もう一回挑戦しようという気持ちになると思います。ですから、できるだけ夢は二つ、三つと大きな夢も小さな夢ももって挑戦していただきたいなと思います。そういう意味で失敗を恐れないでほしいなと思います。一生懸命やっていても失敗するということがありますので、失敗を恐れずに小さい夢から挑戦をしてほしいなと思っています。

廣岡　具体的にお子さんがこういうふうなところに行きたいということを明確に伝えたら、あとは

精神的支援とか経済的支援ですか。

大西　私も経済的支援はいろいろと覚悟をしています。息子に「医学部に行きたい」と言われまして、現役で受かっても６年かかる。今の状態だと半分以上は浪人かなと思っていますので、最低７年ぐらいかかると思っています。そうすると、いろいろと計算して、仕事もがんばって辞められない。最近の公務員の職場もきついですから、クビにならないようにがんばらなければいけないと思っているところです。

廣岡　ご家庭ではたぶん経済的な部分をふまえて、子どもの進路を考えておられると思います。もう一つは、社会状況の厳しさというのが子どもたちに大きく影響しています。篠原先生のお話にありましたが、大学を出ても就職が限られているという状況です。それは全部子どもたちについてまわってしまう。それは学校や保護者の方がどうしようもない部分です。そういう状況の中で、なおかつ親として何をがんばるのか、というのは辛いところでありますが、釣さん、いかがでしょうか。

釣　つい先日の新聞ですが、「人のきずなが成績左右」という見出しが出ていました。これは意外でした。親の収入というような経済的な要因よりも人間関係のきずな格差が学力を左右するという分析結果を、阪大のグループが出されていまして、そうだとすると、学力だけではなくて、今問題になっている目的のもち方もこれに関係があるのではないかと思います。

では、私たちは家庭で親として何ができるのか、と言いますと、やはり人のきずなですから、親子の人間関係を落ち着いたものにする。家に帰っても家庭がギクシャクしていて落ち着かないというのではなくて、ゆっくりと精神的にも肉体的にも休めるような場にしていくことが私たちにできることではないかなと思います。家庭の団欒の中で、子どもたちがいろんな新しいことに挑戦するようにアドバイスを加えたり、子どもたちの今の力よりもちょっと上のことをがんばってみるように目標を立てさせて、それを達成する。自分もやったらできるのではないか、という自信と達成感を持つことによって、さらに大きな目標に向かっていくようなアドバイスができればいいのではないかなと思っております。

ただ、先ほど、三原さんとか加藤さんは親に何でも話ができると言われていましたが、高校生になりますと正直にこれは親にだけは言いたくない、というような子も出てくると思います。こういうときにこの子たちは誰と話をするのか、と言いますと、学校の先生や、子どもたちの周りにいる信頼できる地域の近所のおじさんおばさんです。その方たちに相談をするとまた親と違った意見が出てくると思います。

先ほど我が家に高校生が来ていると言いましたが、２人は定期的に勉強や話をしに来ていますが、もう一人は不定期にきます。この子は、勉強方法にちょっと悩んだときや進学はどうしようというときに来ます。つい先日も、「推薦を受けるけれども、これまではＡという道に進もうと思っていたけど、今ちょっとＢという道に進もうかどうしようかと悩んでいる。毎日悩んでいたら、髪の毛も薄くなってきた。だから、話を聞いてほしい」と言ってきたんです。ずっと小さいときから知っている子でしたので、その子の性格やとりとめのない話から始まって、「大学に行った場合はこうだし、専門学校に行った場合はこうだね」とメリットデメリットの話をして「ゆっくり一回自分で考えてみて」と言ってその日は帰っていきました。私に話をすることによって、その子は精神的にも非常に落ち着いたようですし、それから人に話をすることで、もう一回じっくり自分の考えを頭の中で整理することができたようで、最終的には方向性を決めて先日推薦入試を受けて合格したと言っていました。こういうふうに、家族ないしは地域あるいは学校の先生方に気さくに相談できるような場をもうけるのがいいのではないかと思います。ただし、そのときに注意しなければいけないのは、あくまで家族にしても先生にしても、地域のおじさんおばさんにしても、選択肢を出すだけです。自分で最終決定をして、それに自分できっちり責任を取るべきです。自分の道は自分で責任をもって切り開いていくべきだよと、子どもたちに何気なく伝えられるようにアドバイスができればいいと思っております。

廣岡　今のお話にありましたように、一つの人間関係ですね。実は今日の木原先生のお話の中でやる気がない目標がない授業が分からない、という高校生が一番保護者との関係も含めて人間関係を

築くのが非常に不得手、苦手です。だから、相談がしにくいとか、そういった状況もあります。ですから、釣さんのような友達のお母さんがいて、そういうふうに相談できるというのは大きな人間関係の一つであり、きずなだと思います。

では、学校の中でそういう人間関係を教師と生徒でつくるということで、篠原先生にお話をお伺いしたいと思います。

篠原　それでは、われわれ教員がどういうかかわりをするのか。それから、保護者の方にはこうしていただけたらなあ、ということ、それから生徒さんにはこうしてほしいなあという三つのことをお話しさせいただきたいと思います。

この春、ある生徒が本校に合格しまして、本当に喜ばしい話ですが、何かちょっとようすがおかしい。聞いてみると、「入学を辞退したい」と言ってきました。それは制服が買えないからです。そういう家庭の状況がありました。その件については、分割でゆっくり払っていきましょう、という話で落ち着いて無事入学をしてきました。そういう家庭が非常に多いです。

そこで、われわれがすることの一つ目は、ちゃんとした就学支援ができる。例えば、授業料の免除であったり、奨学金のことなどをちゃんと説明をしてやる必要があるのではないか。それが１点目です。

それから二つ目です。高度経済成長が終わって、時代がちょっと変わってきているというのは、皆さんご存知だと思います。第二次産業が主であったころから、第三次産業が主の時代に変わってきています。もう情報知識社会ということになっています。ということは、ものをつくる第二次産業の仕事が日本になくなってきています。ということは、ある程度高いレベルのことを教育にしてやる必要があるのではないか。それは、家の人が高卒だからお前も高卒でええわ、ではなくて、そういう意味での格差の再生産を防ぐ。就職の枠が減っている中で進学も含めてそういう高いレベルの教育をするカリキュラムを作る必要があるのではないか。

三つ目は、学校が居場所になるようにしてやることが必要なのではないか。教師が授業でかかわり、部活でかかわり、クラス担任でかかわる。そんなことで、本当にかかわってやる。そんな中で学校の生活リズムを作ってやることが、彼らにとってプラスになるのではないかと考えております。

授業が分からないからしんどいわ、にならないように工夫することはたくさんあります。私が実践しておりますのは、４人１組のグループを使って授業をやっています。そうするとなかなか教員に聞けないことを友達になら聞けます。それから、よくできる子があんまりできない子に教えてやることによって、できない子はできるようになるし、できる子は教えることによってまた自分で進化していく。そんなことで、うちの校長はそれを授業の人間化だと言っています。まさにそういうことだと思います。そういう実践をやって学校が居場所になるようにしています。

もう一つは正しい判断ができるような材料をたくさんもってもらうために、多様な体験活動ができるようなカリキュラムを組む。それがわれわれにとってするべきことではないかな、と考えております。

その次に、保護者の方にこうあってほしいなあと思うことは一つです。よく「かわいい子には旅をさせろ」と言います。ぜひ、そうしてください。先ほど釣さんがおっしゃいましたが、安易な妥協をして「ここでええわ」ということで決めることが多い。ぜひ、それにノーと言える強い意志を皆様方にもっていただきたい。努力をして報われるのは稀なことです。努力をしても報われない挫折感も彼らにとってはすごく大事なことだと思います。努力もせずに大学を決めた。それはやっぱり、あまり良くないのではないかと思います。ぜひ、努力をさせて、安易な進路選択をさせないような強い心を保護者の方にぜひもっていただきたいと思います。ですから、高卒時点で旅立つ準備をさせていいただきたい。例えばご飯を作れるようにするとか、いろんなことを子どもたちにさしていただいたらと思っております。

それから生徒諸君に対して思うことは、２万8,000という数字は何の数字がお分りでしょうか。日本には２万8,000種類の職業があります。この中から自分に合う職業はなかなか見つけられない。イチロー選手などはプロ野球選手になって非常にあっているのではないかと思いますが、普通の人はなかなか見つからない。そうすると、社会が求める職業を考えていく必要があります。

その中で私が最近思うのは、出会いは人も人生も変えていきます。最近、私はこれを強く感じます。私は19年から兵庫教育大学教職大学院に行かせていただきまして、廣岡先生に２年間お世話になりました。廣岡先生に学んで変わった部分もあります。それから、校長からも今いろいろと学んでおります。校長との出会いが私の人生を変えたと言っても過言ではありません。そんなふうに、生徒諸君もいろんな出会いを求めてほしい。それには、大学に進学するとか、第二の故郷というのか、遠くに行って一人暮らしをするとか、そんなこともすごく大事ではないと思います。

それから二つ目は、今やっている学校生活の充実です。今しかできないこと、例えば部活動をしっかりやる。友達としっかり遊ぶとか、そんなことをしっかりやってほしい。アルバイトで小銭を稼ぐよりも、大学の特待生で行くとか奨学金をもらう方がお金も助かります。そのあたりをしっかりと考えて、今の高校生活をしっかり充実させてほしいと思います。

最後に、安易な妥協の話も含めて、ぜひ高校生諸君に送りたい言葉は、「艱難汝を玉にす」困難を避けて安易に生きるよりも自ら困難に飛び込んでいく。失敗も大きな肥やしになるんだ、ということで何とかがんばってやってほしいなと思います。

廣岡　保護者にこうあってほしい、生徒にこうあってほしい、というお話が出たところで、会場の保護者の方のご意見があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

この会場にはたくさん校長先生もお見えになっておられますが、たまたまパネリストで篠原さんが出ていて、夢前高校の「授業の人間化」という言葉が出てきました。保護者の皆さんはあまりご存じない言葉だと思います。それを推進されている校長先生がお見えですので、突然のご指名で申しわけございませんが、ちょっとそのあたりを補足していただければと思います。

発言者（兵庫県立夢前高等学校長・原）　急に指名されまして驚いています。

篠原が言いました授業の人間化について、少し補足をしたいと思います。私の担当教科は英語です。英語や数学の授業は生徒も構えています。どの教科も大切ですが、特に保護者の方は「英語、数学はやっておけよ」と言います。そうしますと、英語の授業は嫌いだ、数学の授業は怖い、という生徒がたくさんいます。授業中に当てられるのが嫌だとおどおどしている生徒も多いです。そういう中で、子どもたちは内にこもる者と、外に出る者がありまして、外に出るものは先生に逆らいます。ちょっと反抗的な態度をとったり、当てられないように居眠りをする。すべて「分りません」で終わっていく子もいます。それから、こもって内に入る生徒は、その授業になると保健室に行ったり、いろいろな作戦を子どもたちは考えています。

そこで、英語の授業は安心して受けられますよ、数学も安心して受けられますよ、ということで、先生が教えるのではなくてコーディネーターとしてのかかわり方をする。つまり、一斉授業ばかりではなく、授業を先生の代わりに教えてくれる生徒たちもたくさんいます。先生は、そういう生徒同士で教え合う授業をコーディネートしていく。そういうような形を授業の人間化と呼んでいます。特に本校の篠原はそれを実践してグループ学習ということでやっています。これが、いろいろなところに波及しておりまして、非常にいい効果が出てきていると思っております。

廣岡　ありがとうございました。学校の方もこういうふうにさまざまな方法で子どもたちに迫っているということもご理解いただければと思います。ほかに保護者の方でご意見がありませんか。

質問者（会場）　兵庫県立明石清水高等学校の中野と申します。今日はパネラーの皆さまに大変貴重ないいお話をたくさんしていただき、ありがとうございました。親として思うことは、パネラーの高校生のお二人は高校に入る前からすでに夢をしっかりともって入学されました。ただ、先ほど篠原先生が言われましたように、入るときに目的がなく特に二極分化をしていたり、自己肯定感がないという生徒、私の子どももおそらくそうだったと思います。そんな中で２万8,000もある職種を選択するときに、非常に大きな役割を果たすのは日々会話している親ではないかと思います。

昨今人気のある職業はほとんど連続ドラマで取り上げられた職業が出ています。最近、良かったなと思ったのは、ヘルパーさんの番組があり人気を取り戻したらいいのではないか。そんな中問題を起こした芸能人が介護士になるという話も出てきています。

親としてどんな職業の選択があるのか。こればかりは学校の先生も将来一教師であってほかの職業をご存じない方ばかりではないかと思います。私どもにしても、第二次産業の製造業だけをやってきたサラリーマンなので、他の仕事もできないです。しかし、これからの時代は情報は子どもの方がよく知っているのではないか。例えばネットで調べて、そこからいろんな仕事を見つけて、こんな仕事もあるんだよ、という情報を手に入れるための学校教育もあっていいのではないか。情報をもつ必要ではなくて、手に入れる手段を教え込むのが一番大事ではないかと思っております。また、親としてのＩＴとのかかわりをお二人のＰＴＡの会長さんと先生にもお聞きしたいと思います。

大西　うちの場合は、最近高３の秋になって子ども用のパソコンを買いました。というのは、今まで塾には行ってなかったのですが、最近は映像による教材の配信という技術もあり、それを活用するためです。私はパソコンを持っていますから、子どものパソコンとは分けるべきだと思っています。どっちみち大学に入るといると思いまして、安いのを買いました。そして、フィルタリングをかけようとしたら、子どものほうが先にパスワードを設定して、パスワードを教えないですね。それを説得したのですが、「そんなのは自分で判断できる。だから、自分で全部管理する」と言っていましたので了解しました。最終的に全部自分に責任がかかってきますので、結果は自己責任ということで任せています。

釣　親とＩＴということですが、正直子どものほうが詳しいです。子どもたちは学校から「これをインターネットで調べてきなさい」という課題も出るようですので、パソコンは必需品です。我が家も少し前までは、パソコンを買ったら、まず子どもたちがパスワードを入れる前に私がフィルタリングソフトをちゃんと入れていたのですが、だんだん文句を言うようになってきました。一番下の子も中３になりましたので、「ある程度、自分で考えてやりなさい。そのかわり全部自分に返ってくるよ。自己責任のもとでやりなさい」と指導しております。

廣岡　では、木原先生にお話を伺って最後は締めたいと思います。

木原　私は先ほどは教える立場、学校で教師の立場でお話をしました。でも、親の立場ではどうなんだ、と考えたときに、保護者の方が子どもにいろんなことを要求します。こうなってほしい、ああなってほしいと。そして、何となく本人が決めたようにして、本当は親が決めたとおりの方向に動かしてないかな、と少しだけ感じたりします。

ただ、そういうときにどうしたらいいか、と聞かれたことがあります。私自身どうだったかというと、極限になったときは、親も全部を捨てるなと思います。というのは、私は、自分の子どもが命にかかわる状況だったので、私はとにかく生きてほしいと思いました。そして、そのときは中学生でしたので、せめて中学校を出てほしいと思いました。その後に大学はどこに行くとか将来どんな職業とかはまったく考えなかったです。とにかく生きてほしい。そしてもし可能であれば、もう一つ欲が言えるのであれば、にっこり笑ってほしい。それだけの欲に減りました。そしたら、その後の子どもに対する期待は、大きく減りましたし何も出てこなくなりました。

ですから、自分の心が揺らいだときには原点に戻る、ということにしています。人はどんどん欲張りになっていきますので、そうではない原点に戻って、例えば、子どもが生まれた瞬間、この子に何を望んだか、というと、健康であってほしい。おそらく全員の親がそれを望んだと思うんですよ。それ以上のことはたぶん望んでないと思うんです。何になってほしいとは思わなかったはずです。そこに戻ったならば、たぶんいろんな大きすぎる期待とかそういうものはなく、子どもといい関係をもてるのかなと思います。ぎりぎりの関係がもてるのかなと思います。

とにかく、私は枝葉をそぎ落としてしまって、一番大切なところ、究極にしていくやり方をとっているので、子どもが困ったときにはひたすら話を聞く側に回っています。というのは、初めは親ですから、「こうしたら、ああしたら」とたくさんアドバイスをしました。そうするとそのうち、子どもが全部自分で立っている足を中に入れてしまいました。自分で立たなくなって全部親に聞くようになりました。それだったら、その子の人生ではなくなりますので、もうひたすら聞いて、そしてどうしたらいいか、というのは本人が決めるべきです。その時のアドバイスも、自分が探して

きて「これはいいと思う」「あれはいいと思う」というのを、「そうね、そうね」と聞いてやはり本人が決めるべきだと私自身は思っています。

それは私がすごい失敗をしたからです。あまりにも一時期に手取り足取りをやりました。これだけつまずいた子なので、あとはみんなに早く追いつかせようという焦りがありましたので、何でもかんでもやりましたが、それは間違っていたと思いました。それからは１日に３時間や４時間は話を聞きました。ひたすら聞きました。仕事終わって、３時間４時間ですからめちゃくちゃ苦しいです。けれども、その中で、子どもが精神的に自立するのを待ちました。もしかしたら、子どもさんたちの将来は、そういった聞く側の親が一つの核なのかなと思います。ほかのことはたぶん小さいことかなと思います。私はざっくり見るタイプなのでそういった感想を抱きながら聞いていました。

子どもたちは、今、選択肢が多くて苦しんでいると思いました。それは、昔から見ると恵まれた状況ではありますが、苦しいのにかわりはありませんので、そこでたくさん回り道をしてほしいなと思います。短い期間で見たら回り道ですが、人生の長い期間で見たらそれはすごく豊かな深い人生になりますので、すごくいいことになります。だから、たくさんの回り道をしていただけたら嬉しいかなと思っています。親も一緒に回り道をしたらいいかなと私自身は思っています。

廣岡　どうもありがとうございました。これで終わりにしたいと思います。木原先生には講演からパネルディスカッションまでお付き合いくださいまして、ありがとうございます。また、パネリストの方にも感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

～子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業～

「子どもたちの心とその背景」

～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～

日　　時　平成21年12月５日（金）12：30～16：15
会　　場　米子全日空ホテル
主　　催　（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会
　　鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会　鳥取県私立中学高等学校ＰＴＡ連合会
主　　管　中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会
共　　催　財団法人鳥取県高等学校教育振興会　財団法人鳥取県教育弘済会
後　　援　鳥取県教育委員会　鳥取県高等学校長協会
参 加 者　中国・四国地区各高等学校ＰＴＡ会員及び関係者　350名

日　　程　　受付　12：00～12：30
○開会挨拶　12：30～
　　鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会副会長　　砂　口　浩　二
○開会行事　挨拶　（社）全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長　荻　荘　　誠
　　鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会会長　　池　内　勝　彦
　　祝辞　鳥取県教育委員会西部教育局長　　松　本　敏　浩
○基調講演　13：00～
　　演題　「やる気ない、目標ない、授業分からない３ない高校生の現状」
　　－全国高等学校ＰＴＡ連合会調査結果の報告と今後の展望－
　　―ＷＹＳＨプロジェクトの事例紹介―
　　講師　京都大学大学院医学研究科准教授　　木　原　雅　子　氏
○シンポジウム　14：40～
　・テーマ　「子どもたちの心とその背景」
　　－高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方－
　・コーディネーター
　　京都大学大学院医学研究科准教授　　木　原　雅　子　氏
　・シンポジスト
　　鳥取県教育委員会西部教育局教育相談員　　足　立　圭　美　氏
　　鳥取県立米子工業高等学校ＰＴＡ会長　　遠　藤　泰　子　氏
　　鳥取県立米子東高等学校ＰＴＡ副会長　　辻　谷　由　美　氏
　　鳥取県立境港総合技術高等学校教頭　　小　澤　敏　正　氏

○閉会挨拶　16：10～
　　鳥取県立倉吉農業高等学校ＰＴＡ会長　　福　田　政　巳

〈 主 催 者 挨 拶 〉

全国高等学校ＰＴＡ連合会副会長　**荻　荘　　誠**

本日は、平成21年度中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会シンポジウムが豊かな自然に恵まれた米子の地で開催され、ご来賓として鳥取県教育委員会、松本敏浩局長様を初め多くのご来賓の皆様に出席を賜り、またこのように多くの中四国地区の会員の皆様の参加をいただき、盛大にシンポジウムが開催されますこと心よりお喜び申し上げます。

また、日ごろより社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会の運営、事業、活動に対しまして多大なるご支援、ご協力をいただいていることに対しても御礼申し上げます。

本連合会は、皆さんご存じのとおり、高等学校のＰＴＡ活動を通して家庭教育の充実を図り、家庭、学校、地域社会との連携を深める中で子どもたちの健全育成を大きな目標とし、数々の教育課題に取り組み、活動しているところであります。

本日は、京都大学の木原准教授の講演も予定されております。木原准教授におかれましては、常日ごろから高校生を取り巻く環境を調査分析していただき、常に適切なご助言を高Ｐ連にいただいているところです。

ＰＴＡ活動の基本は、皆様方の単位ＰＴＡの活動が基本となっております。薬物の問題やいじめの問題、また就職の問題など現在の高校教育、また高校生を取り巻く環境にはさまざまな課題が山積みとなっております。真に子どもたちのことを考え、価値観の多様化した時代に合ったＰＴＡの姿を示しながら一貫性をもった活動をしていくことを皆さんにお願いし、これからも中国・四国地区が一つとなり子どもたちの応援と全国高等学校ＰＴＡ連合会に対しても絶大なるご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

〈 主 幹 県 挨 拶 〉

鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会会　**池　内　勝　彦**

中四国の各地よりお越しの皆様への歓迎の言葉をもって、開催県のあいさつとさせていただきます。中四国の皆様と、前回ご一緒したのは、７月の松山大会でした。ＮＨＫでドラマ「坂の上の雲」が始まりましたが、坂を登れば初夏の青空にうかぶ雲の松山から、冬の山陰の曇り空の、鳥取県米子市にようこそいらっしゃいました。

また、本日の基調講演をしていただく木原先生の演題は、「やる気ない、目標ない、授業分から

ない３ない高校生の現状」というちょっと悲しくなるような、気のめいるような演題ではあります。もしかしたら将来の大人の世界に魅力を感じないから、高校生の子どもたちがやる気ない、目標ない、そのようになってしまっているのでないかと感じています。

この山陰の地でも異常な事件が続発し、なかなか明るい気持ちになれない昨今ではありますが、私たち保護者が漠然と感じております不安につきまして、全国の高Ｐ連の調査に基づいた科学的な分析のご講演を聞かせていただくことにより、親として何ができるのかを、客観的に理解できるのではないかと期待しております。

講演とシンポジウムを合わせて約３時間です。しっかり勉強していただき、中四国の各地と、また鳥取県内各地に明るい気持ちで皆さんが帰っていただければと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

〈 来　賓　祝　辞 〉

鳥取県教育委員会西部教育局長　**松　本　敏　浩**

日ごろより各高等学校におきまして子どもたちの健全育成に御尽力をいただいております。また、学校の応援団としてＰＴＡの活動に非常に力を入れていただいております。感謝を申し上げます。

最近の我が国の状況は非常に厳しい状況でございまして、この山陰両県でもいろいろな事件が起こっております。子どもをもつ親御さんとしては非常に心配な状況と思います。

鳥取県の子どもたちもいろいろな調査の中で課題が見えてきております。特に小学校、中学校の子どもたちは、思いやりの心、感動する心に課題がございます。それから全国的にもそうなのですが、高校生の規範意識、マナーの問題がよく話題になります。また、子どもたちの生活の中でも自分の思いをなかなか友達に素直に語れない、人間関係がうまくつくれない等で悩んでいる生徒もたくさんおります。

こういった状況を踏まえて鳥取県では、「心とからだ　いきいきキャンペーン」というキャンペーンを県民を挙げて、多くの県民のご協力を得ながら展開をしております。この活動は、子どもたちの生活の中で朝食はしっかりとろう、学校に行くときには服装を整えて出よう、本をたくさん読もう、外でしっかり遊ぼう、テレビは長い間見ないようにしよう、睡眠はしっかりとろうという６つの柱を持った運動で、徐々に県民の方に浸透していっているのかなという感触をもっております。

また、鳥取県では、特にＪＲ等を利用して通学する生徒のマナーの問題が数年前大変問題となっておりました。そこで「高校生　さわやか　マナーアップ運動」というものを、これも多くの県民の方にご協力いただいて展開をしております。あいさつ運動を中心にこの運動を展開いたしました。今は駅構内がかつての状況と全く変わって非常にいい状況になっております。大人が真剣に動けば

子どもが変わるという一つの例かなと考えております。

最近の子どもたちはいろいろ心の問題があるわけですが、そういった中で家庭と地域と学校が一体になってというお話はよくされます。子どもたちは自己実現をするために頑張っているわけですが、子どもたちのモチベーションというのは、まずは安心・安全でいたいという願いをもっております。病気ではなく健康で、しかも虐待等を受けない、そういった生き方を望んでおります。それから友達と仲よくしたい親和的なモチベーションを持っております。こういったものがかなったときに初めて自己実現、勉強しようという気持ちが起こってくるのだろうと思います。そういった意味でやはり家庭と学校と地域が一体になる、これが子どもたちの健全育成には非常に重要ではないかなと考えております。

最近高校生が地域で貢献をしている姿をたくさん見受けます。何点かの例を挙げますと、公民館の事業と一体となり路地のストップマークづくり、地域の方々と共に通学路等にコスモスの栽培、駅前広場にイルミネーション点灯など。このように、高校生の皆さんが非常に質の高い技術で地域活動を展開してくれています。学校の中で規範意識、マナーの指導をしてもなかなか子どもたちの心に響かないが、こういった地域活動を展開することによって子どもたちの正義感であるとか規範意識が育っていくのではないかなと思っております。もっともっとこういう活動が広がっていけばいいなと期待をしているところでございます。

そういった意味で学校と地域のかけ橋になっていただいておりますＰＴＡの皆様方、これからも個々の会員のコミュニケーションをしっかりしていただきまして学校を応援していただきたいと思います。

〈シンポジウム〉

「子どもたちの心とその背景」

－高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方－

コーディネーター	木原雅子	京都大学大学院医学研究科准教授
シンポジスト	足立圭美	鳥取県教育委員会西部教育局教育相談員
	遠藤泰子	鳥取県立米子工業高等学校ＰＴＡ会長
	辻谷由美	鳥取県立米子東高等学校ＰＴＡ副会長
	小澤敏正	鳥取県立境港総合技術高等学校教頭

【木原】皆さん、よろしくお願いいたします。これから90分間シンポジウムを行いたいと思います。

それでは、ただいまよりシンポジウムを始めさせていただきますが、本日のシンポジウムの流れについて私の方から簡単にご説明させていただきまして、それからそれぞれのシンポジストのご発表に移らせていただきたいと思います。

本日のシンポジウムの流れは、まず４人のシンポジストの皆様に大体15分くらいずつお話を伺って、その後、会場の皆様を交えて意見の交流をしたいと考えています。あまりたくさん時間はとれないと思いますが、これから90分間よろしくお願いいたします。

最初のシンポジストの方は、米子工業高校のＰＴＡ会長をなさっている遠藤泰子会長、よろしくお願いいたします。

【遠藤】皆さん、こんにちは。米子工業高等学校のＰＴＡ会長をさせていただいています遠藤泰子と申します。きょうは、「子どもたちの心とその背景」ということで、シンポジストとして今から15分間ぐらいお話しさせていただきます。

この会場に来るときに、今日は久しぶりにバスに乗ってきました。ある停留所から２歳ぐらいの男の子と小学校２年生ぐらいの女の子を連れた若いお母さんがバスに乗ってこられました。その親子が乗ってきたときには座る座席が２つしかありませんでした。窓際の座席が一つだけあって、その男の子はどうしてもその窓側に座りたかったようです。乗ったとたんそこにお姉ちゃんが先に座ってしまったものですから、弟は乗ったとたんから泣き叫ぶわけです。後ろの方にもう一つ席があいていまして、お母さんはそこに座って、男の子を一生懸命ひざに乗せようとするのですが、男の子はとにかくお姉ちゃんが座ったところに僕が座ると言ってかなりの勢いで泣き叫びました。お母さんはどうされるのかなと思ってずっと見ていたのですが、結局お姉ちゃんをどかせて男の子を座らせました。その間５分間ぐらいで、他のお客さんたちもずっと見ていますし、お母さん非常に困っておられましたが、結局男の子の言うとおりに席を譲らせました。子どもが小さいときにはこのような闘いがいっぱいあって、うちの長男にもこういうときがあったなと思い出しながらバスに乗ってこの会場までやってきました。

それでは、私の場合の親子のかかわりの話ですが、少しお話しさせていただきたいと思います。

長男は、今年で20歳の社会人です。次男は、現在米子工業高校に通う３年生です。男の子２人で、長男はやんちゃでしたので、幼稚園からは脱走する、買い物に行けば欲しいおもちゃとか欲しいお菓子のところでもう買うまでひっくり返ってだだをこねるような子どもでした。

パワーあふれるこの子どもと接していくうちに私はあることに気づきました。買い物に行くときって大体おなかがすいているときに行くことが多いですよね。大人の場合でもそうだと思うのですが、おなかがすいているとき、買い物行くと必要ないものまでついつい買ってしまうことがよくあります。しかし、おなかがいっぱいになればとりあえず心の平常心は保てるのかなということに気がついて、おなかを満たすことから始めようという私の子育て術が始まりました。しかし、おなかだけ満たせれば心が安定するのかというと、そうではありませんで、男の子は、体も使って体力を消耗しないと食欲も出ませんので、運動させて体力を使っておなかをすかせた後、話をしたり躾をするよう幼児期から気をつけてきました。

言葉で言うのは簡単なのですが、ではそれをどうやっていったらいいのかと考え、まず親子で参加できるものにはとにかくどんどん参加しました。自転車リレーとか親子のたこづくりとか、とにかく体を使うと書いてあると飛びついて、どこまででも行ってやりました。一番長く続けていることは、鳥取県の大栄町で「すいかマラソン」というのが夏あるのですが、これには2000年から子どもたちと出場を続けています。大栄町は青山剛昌先生という「名探偵コナン」でおなじみの作家の生誕地でありますので、最初はコナンで興味を引いて参加させ始めました。そういったところに出て、とにかく疲れさせる。おなかをすかせる。そこでおなかを満たして、いろんな話をしていければいいかなということでやってみました。

もちろんどんどん出ていくのはいいのですが、当然知らない人ばかりのところに毎回毎回飛び込んでいくわけで、その中で知らない人たちとかかわりの第一歩は、挨拶だと思いました。あいさつを元気よくすると、その後会話がついてくるのですね。我が家では今でもずっと続けているのですが、とにかく「おはよう」、「お帰り」、「いただきます」はもちろん、必ずあいさつをするというのを子どもたちと約束しています。

ＰＴＡの会などでお母さん方から話が出るので

すが、「おはよう」と「お帰り」は言うが、その後コミュニケーションが続かないと聞きます。それは子どもたちにも問題があるかもしれませんが、まずは親に問題があって、おはようの後に、テスト期間だったとすると「おはよう」、「テスト勉強した？」、「ゆうべ何時に寝た？」という感じでいろいろ言いたいのですよね。成績も気になりますので本当は言いたいのですが、そこで言ってしまうと、もう子どもの方がお母さんの言う言葉は常に何々しなさいという言葉が多いから会話はしないということになるのではないかなと思うのです。そこで私も極力、思ってはいるのですが、口には出さないで、「おはよう」、「テスト中だね」ぐらいでおさめておくようにしています。それで成績が上がっているかどうかは分かりませんが、それはそれとして朝からどんぶり飯におみそ汁にお肉とサラダをガツガツ食べて行くような子どもにおかげさまで育ちました。

次に体力をつけることについてお話させていただきます。体を使うのにマラソンや野外の行事に参加してきました。男の子２人ですから、当然のことながら小学校高学年ぐらいからはもう力ではかなわなくなります。力では親よりも自分の方が上だということがわかる瞬間が子どもにやってくると思うのですよね。例えばマラソンなどですとすぐ追い抜かれてしまいお母さんよりも２分も速く走ったとか、そういうはっきりした結果が出てくるのですよね。その結果を私は、家事の手伝いに使おうと思いました。今では多分共働きの家庭が多いと思うのですが、女性だけが家事をして、掃除をして、洗濯をして、料理もする等々とても大変です。この力を家事にも上手に使っていこうと思いまして、例えば、今ストーブが出る時期になったと思うのですが、灯油などかなり重たいですよね。灯油をタンクに入れないといけなかったり、またタイヤ交換でタイヤを運んだりという重い物を持つ作業がたくさん出てくるのですが、わざと子どもがいるときにそれをしようとするわけです。それで、「あっ、これ重たい」とか言ったり、「手伝ってほしいな」とかと言うと、「もうしようがないな」と言って手伝ってくれる。そういう何か小さい一つ一つの場面での会話をしているうち、今度は自分の方から気持ちよく冬になったらタイヤ交換するのを僕がやってあげようかとか、家具を移動して掃除するときに、僕が移動してあげようかというふうに自然に出てくるようになるのですね。幼児期とか中学生のころまでは、スポーツとか野外活動で体力を消費させていたことを、今度は家の中で自分も家事の役に立っているというところで体力を使わせるというふうにもっていきました。

先ほどもあいさつの後で小言は言わないようにしているという話をしましたが、ではいつ話したらいいのかということになると思います。出かけるときと帰ってきたときは当然のことながらおなかがすいていますので、なるべく朝と夕方はやめようと。ですから大体うちの会話の時間は夕食後が多いのですが、帰ってきて、食事も終わって、おなかを満たしたところでいろんな話を始めるのです。いきなりいろんな話を始めるわけにはいきませんので、やっぱり子どもの興味があることにこちらも理解を示そうと入っていかないといけないといつも思っていまして、先ほども携帯の話とか出ましたが、携帯で今できることがすごくたくさんあるのですよね。多分私たち親世代の使用の仕方だと、せいぜいメールをして、電話をかけて、予定をカレンダーに入れるぐらいの機能で終わっていると思うのですが、子どもたちはもっといろんな機能を使っていまして、私にはわからないことがいっぱいあるのですよね。そんなことも携帯をかまっている子どもに何でそんなに携帯をかまうのと言うのではなくて、何ができるのと聞く。携帯にしてもそうですし、パソコンにしてもそうですし、子どもが今興味を示していることに私の方も一緒に、完全に理解はできないのですけれども、理解を求めてわかろうとする。それを話のきっかけにどこで、どうやって、どういう人たちと触れ合っているのかというような話を交えながら、いろんな会話をするようにしてきました。

とりとめのないことをいろいろ話してきたのですが、心を開かせるには、やっぱり子どもの目線で同じ体験をして子どもが今興味のあることに親自身も理解を示してやることから始まって、そして親が思っていることを子どもにゆっくり話をして、こういうことだからということを話ができる関係が築けると一番いいのではないかなと思いました。

きょうの木原先生のお話の中で最後に出産の

シーンがあったのですが、私も２人の子どもを出産したときに指を数えました。目が見えるか先生に聞きました。やっぱりその思いを何歳になっても思い続けて思いやりをもっていればきっと子どもにもそれが伝わって、子どももまた親になったときに同じ気持ちになるのではないかなと思いました。

そしてビデオの中でも守るという話があったと思うのですが、守るということもとても大事な言葉で、今現在私は仕事で食の安全を守る仕事をしています。そして長男は、会社の安全を守る仕事をしています。そして次男は、来春から車の安全を守る仕事に就くことになりました。今日のお話の中で私がずっと思ってきたことと今日の先生のお話ととてもうちの家族の状態とマッチしていて、木原先生の貴重な話をお聞きすることができて大変よかったと思います。本日はありがとうございました。

【木原】遠藤会長、ありがとうございました。

大切なことをいくつも今お話しいただきました。１点目がおなかを満たすこと。２点目が体力を使うこと。３点目があいさつをすること。４点目は、言い過ぎないこと。５点目は、親の力を超したときにそれを役立ち感の方にもっていくこと。そして６点目は、言うタイミングをちゃんとはかること。そして子どもの目線に近づいて理解を示すこと。そして生まれた瞬間の気持ちを大切にすることというお話をしていただきました。

私、自分の子育てのときに遠藤さんとお知り合いだったらよかったなと思って、お話をお聞きしました。とても参考になりました。ありがとうございました。

それでは、次のシンポジストの方のご発表に移らせていただきたいと思います。米子東高等学校の辻谷由美副会長さん、よろしくお願いいたします。

【辻谷】皆さん、こんにちは。米子東高校でＰＴＡの副会長しております辻谷と申します。早速ですが、私には３人の子どもがいます。長女は21歳で、高校の１年生のときにはもう将来なりたい仕事を決めていて、それに向けて２浪して、この春大学に入りました。２浪目が決まったときは、涙で滲んだマスカラで目元を真っ黒にしながら悔しがったのですが、それからさらに１年猛勉強して夢をかなえるべく今年大学に入りました。

長男も１浪しまして、学校の理科の先生になりたいといって資格の取れる学部に行ったのですが、単位の関係で既に学校の先生はあきらめたようです。今はアカペラサークルに入って、この子は音楽大学に入ったのではないかと思うぐらい発生練習をするなど、すごく楽しげに学校生活を送っています。

そして次男がこの春高校に入りました。今テニス部に入っていまして、朝８時前に家を出て、帰ってくるのは部活や塾を終えて10時ごろです。もう帰ったらかなりくたくたなのでウイークデーにはゆっくりと話す時間がとれません。彼はジャニーズの嵐が大好きで、テレビで嵐の番組があると長時間でも見ていて、親としてはちょっと心配をしているところですが、今年は紅白歌合戦に出るので一緒に見ようと楽しみにしています。

さて、鳥取は共働きの家庭が多いのですが、私は珍しく専業主婦でして、その分暇でしょうということで、米子市の教育委員であるとか地域の人権のことであるとか、ごみの分別の推進員など、いろんな肩書をもっています。

その中で一つ、主任児童委員という子どもを主にケアする民生委員の仕事をしています。その関係で今朝、地域の保育園の生活発表会に行かせていただきました。１歳児からステージでやるのですがすごくかわいかったです。ああ、我が子にもこんなときがあったなと思いながら見ました。また、おじいちゃんもおばあちゃんも含め会場に入り切れないほどの保護者の方が見えていて、そういう愛情に育まれた子どもはちゃんと育っていくのだろうな、このまま愛情いっぱい受けて育って

よという思いで参観いたしました。

また、ボランティア活動で警察の方とパトロールもするのですが、その縁で少年サポートセンターに行ったときに、問題ある子どもたちが過ごす部屋を見せていただきました。そこには「たのしい幼稚園」とか「小学一年生」などの付録や幼児が遊ぶようなおもちゃがたくさんあって、そこで子どもたちは子ども時代を生き直すのだそうです。子どもは子どもらしく、子どもとして成長してこなければどっかで歯車が狂ってしまうのだと感じました。いろいろな方のお話を聞き、乳幼児期の子育てがとても大切で、たとえ親子関係や子育てがうまくいかなくても中学生までなら修復ができるのではないかと思っています。

今日は高校生の保護者の皆さんとともに高校生となった今からでも子育てをやり直すことができるのか、これからの支援はどうしたらいいのかを一緒に考えさせていただければという思いで参加させていただいております。

私の体験談を２つお話しさせていただきます。一つは、長女が中学校のときです。私の人生をすごく否定するのですね。お母さんみたいな生き方はつまらないと。数年後、ある先生が「女の子の思春期は母親を否定するところから始まる」とおっしゃっていたので、ああ、これだったかと思いました。もろに否定されまして、もう絶対お母さんみたいな生き方はしないと。やっぱり私が家にいるから口うるさくて息詰まり感があったのでしょう。たばこを吸いました。娘がたばこを吸っているということを私の友達が電話で教えてくれました。私はすごく鼻がきくのですが、全然わからなかったし、信じられませんでしたが、一応学校の方にはどうもそういうことがあるらしいので、もし何か様子がわかったら教えてくださいと電話をしました。そしたら次の日、「たばこを吸われました」と電話があって、校長室に呼ばれて、保護者がそのとき五、六人集まっていて、これからどうしましょうかみたいな話をしたことがあります。家でも、主人と私と子どもと向き合って話し合いましたが、不満が何だったかということをはっきり言いませんでした。いまだにちょっと怖くて聞けないでいます。今日このシンポジウムに出るよと言うと、「私のたばこの話だね」と娘が言いました。

もう一つは、長男です。長男が高３のとき、これは受験のストレスだと思います。やはり私が口うるさかったのだと思うのですが、食卓で話をしていて、ダイニングからバーンとドアを閉めて出て、階段の壁をパンチして上がりました。私は、「家を壊すな」と叫びました。息子は２階に上がって、中学校の修学旅行で買った木刀で自分の部屋や机をガンガンたたいて、傷だらけにしてしまいました。子どもが使わなくなったらリサイクルに出そうと思っていたのですが、ちょっと売り物にならないほどの傷がついています。そのことをこの夏に息子に聞いたときには、やっぱり家がいやだったと。あのころのことはあんまり話したくないと。キレた僕に対してお母さんがキレたこともまたキレる要因であったと言いました。私は、なるべく冷静に子どもを理解しようと日ごろ思っているつもりなのですが、私もやっぱりカッとなって叫んでいたのです。そういうことではいけないなと思って、次男のときにはそういうふうにはしないようにしようと今は思っています。

長男が自分の進路とか将来について考えるときに、父親の存在とかおじいちゃん、おばあちゃんからの期待というのがすごくプレッシャーになっていたと思います。その中にはもちろん私からの期待もあったのでしょうが、主人やおじいちゃん、おばあちゃんからのプレッシャーというのは実は私自身も長男と同じようにすごく感じていて、専業主婦で子育てを私が中心でしてきたので、とにかくこの子を第１志望のいい大学に入れることで結果をみせなくてはと感じていました。

すごく機嫌の悪い息子にどう接したらいいかと考えましたが、普段どおりでいきましょうと思って、あいさつも、御飯も、普通に接するようにしました。すごく悩んだようですが、私自身何とかなるさの性格ですし、息子もよく話す子なので、話すうちにだんだん気分がほぐれてきて、どうにか受験期を乗り越えてきたような気がします。

そこにはやはり家族だけではなくて、長男も次男もですが、部活を通じて得た友達の存在がすごく大きくて、そういう仲間が相談に乗ってくれたり支え合ってくれたのだということを後から子どもに聞いてとても感謝をしています。

その息子が夏に帰省してきたときに出来合いのものではなく、私が多少手をかけたような料理を

リクエストしてくれました。私すごくレパートリー少ないので、同じものを繰り返し食べさせた、学習させた効果だったのかもしれませんが、それを食べたいと言ってくれたときには愛情かけて、時間かけてつくったものというのは心とか体に残っていくのかなと思ってうれしく思いました。

親として心がけているのは、遠藤さんも言われたように気持ちのいいあいさつから始まる１日です。どんなことがあっても、子どもにはちゃんと行ってらっしゃいと言って優しく送り出します。主人を送り出すことはあまりありませんが。そこはちょっと反省しているところでもあります。

もう一つは、木原先生のお話の中にもありましたが、自尊感情ということです。ちょうど昨年中学校区で人権の研究会があって、ＰＴＡで自尊感情をテーマにした取り組みを行いました。そこで、校区にある保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校共通の取り組みとして、ありがとうのメッセージを家族で伝え合い、お互いの自尊感情を育むということをしました。皆さん御存じと思いますが、自尊感情というのはお年寄りにも子どもにもだれにもあるもので、それは高いときもあれば低いときもあります。実は学んだことで今、一番役にたっているのは年をとった両親とのつき合い方で、耳が聞こえなくなったとかあれこれができなくなったということで自尊感情がすごく落ちている両親に対して私がどうしてあげればいいかなというところでとても役に立っています。これは皆さんとともに高齢者を考える会みたいなことがあればまた一緒に考えていきたいと思いますが、子どもの自尊感情を育むためには、子どもを育てる親自身の自尊感情も高くなければならないということや優しい声かけ、プラスの言葉かけ、人と共感することであるとか、そういうことがすごく大切だということがよくわかりましたので、これからの生活の中で学んだときだけではなくて、いつも心に持ちながら子どもや家族に接していきたいなと思っています。

【木原】辻谷副会長、どうもありがとうございました。

とても貴重なお話を聞かせていただきまして、私も娘をもっていまして激しく母親否定されまして、私と同じ職業には絶対つきたくないと全面否定されたこともありましたが、大分遠回りして、今は一緒の仕事をしています。女性同士ライバルですから、大きく否定されるときが、あるかもしれないというのは本当におっしゃられたとおりだと思いました。どうもありがとうございます。

それでは、３人目のシンポジストの方の西部教育局で教育相談員をなさっている足立圭美先生にお話をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【足立】足立でございます。よろしくお願いします。パワーポイントを使わせていただきたいと思います。私は、鳥取県のスクールカウンセラーをしております。きょうは、スクールカウンセラーの立場でお話をさせていただきたいなと思っています。

鳥取県は、今、高校にも全校スクールカウンセラーを配置しておりまして、小・中・高と全校配置です。私は西部の高校５校を曜日別に回らせて頂いています。西部のその他の高校は非常勤のＳＣがやらせてもらっています。

スクールカウンセラーの仕事は、皆さんもうご存じだと思いますが、主に生徒さん保護者さんとの相談面接、それからそれを受けてコンサルテーションという言い方をしていますが、先生方と今後どうしていくかといった方針決定、それから必要があれば他機関との連携です。他機関というのは病院や児童相談所、保健所です。

きょうは、スクールカウンセラーとしてのお話をさせていただきますので、一般的な高校生というよりはむしろ相談に来ている限られたお子さんの話になるとは思いますが、ご了承いただきたいと思います。

相談に来る高校生の主な悩みのトップスリーは

これです。自分自身のこと、学校生活のこと、家庭のこと、大体この３つに分かれます。

自分自身のことというのは、自分の性格「今までそんなことを考えたこともなかったが、実は自分はすごく気が弱い」といった、コンプレックスみたいなものが出てきます。「自分には何ができるのだろう、どんな能力があるのだろう」と自分自身のことに目を向けてきます。それから「自分は何のために生きているのだろうか、自分が死んだら世界はどうなるのだろうか」といった、生きている意味を聞く子もふえています。

他には将来に対する不安です。「今までは漠然と親に勧められるまま、周りに勧められるまま進路などを決めてきたけれども、これからは自分の意思で､大学や仕事を決めなければいけない」と。自分はこうしたい、ああしたいという漠然としたものがあったとしても、それが周りの期待と違う、それをどうしたらいいだろうか。周りの期待が強ければ強いほど「自分にはできないのではないか」と不安になります。

学校生活のことでは「友達とうまくいかない」「どのグループにも入れない」「自分にとって親友と呼べる人間がいない、作りたいけど作れない」というところが１つあります。

勉強についても「これは何のために勉強しているのだろうか」とか「自分が勉強についていけないとクラスの皆から自分がばかに見られているのではないか」とか「この勉強をして自分にとって将来どう役立つのだろうか」みたいなことを言い出しますし、部活動だったり先生方に対しての不満とか批判なども出てきます。自分で「自分はどんな人間だろう」と思えば思うほど、人に、友達に、大人にどう見られているのだろうかをすごく言い出します。

家庭のことでは、私は以前小・中のスクールカウンセラーもしていたのですが、小・中のときにはそんなに出てこなかった、例えば「実はすごくお母さんが自分に対して過保護で」とか「過干渉で」といったことを高校生ぐらいになると言い出すのが特徴かなと思っています。何か今まではそれが普通だと思っていたけれども、どうも自分の家は普通ではないみたいだ、ということに気がついて、「そのせいで自分は恋愛ができないのではないか」とか、「男の人が怖いのではないか」と言い出す子がふえてきます。

そこら辺の悩みについて言っている子たちでも、学校でうまくやっていれば私のところには来ないのですね。学校でうまくいかないとか体の調子が何かおかしい、気分がおかしい、それから不適応感がある、問題行動を起こしてしまうということで私のところに来ます。

体の調子が悪くなるというのは、おなかが痛くなるとか、今でいう過敏性腸症候群というものですね。静かな授業になるとおなかが張っておなかが鳴るとか、学校に行こうと思うと下痢をしてしまうといったようなことです。過呼吸といって緊張すると息がはあはあと苦しくなって息をし過ぎてしまってパニックみたいになってしまうとか、あとは学校のことを考えると頭が痛くなる、眠れなくなる、逆に眠り過ぎる、といったことです。

気分がおかしいというのも高校生になると多い。最近の子は特に多いなと思っているのですが、やる気が出ない、元気になれない、いらいらして、なぜか授業中涙が出てしまう、一人でいると落ち込んで、夜に誰かに助けを求めなければいられないといった子がいます。逆にハイテンションの子もいます。なんでかわからないけれども、なんだか気分がおかしいといって来る子もいます。

それから不適応感としては、多いのはやはり不登校ですね。学校がつまらないとか学校になじめない、それから子どもたちが言うのですが、「友達はつらくなると近寄るなオーラを出している」と。だから近寄るなオーラが出ているときは近づかないようにしているらしいですが、辛い本人たちは辛い顔をして｢誰も寄ってきてくれない｡やっぱり嫌われているんだ」と思ってしまう。

問題行動というのは、食べ過ぎて吐くとか、食べないといった摂食障害だったり、リストカットですね、それから深夜徘回などもあります。リストカットもかみそりで切るというスタンダードなものから、かきむしるとか、あるいはシャープペンで自分の太ももを刺すとか、授業中我慢できなくなるといろいろなことをやっているという子が来ます。

これらは保護者に相談できるものとできないものがあるらしく、例えば涙が出てしまうということは割合親御さんに言えたり、おなかの調子が、といったことはご家庭でお話ができるけれども、

「リストカットだけは絶対に親には言わないで」という子が多いというのがおもしろいところというか、特徴かなと思っています。

今、私の接している高校生ですごく少ない例なのですが、その子たちがすごく大切にしている、信じている考え方がちょっと見えてきているので、今回出してみました。

１つには、自己実現をしなければいけないと思っていることで、自分には何か能力があるので、それを開花させて幸せにならなくてはいけない、ささいな喜びではいけない、と言う子が多いです。そしてそれは人に評価してもらって初めて自分で認められる。だから自分が満足するということではなくて、人の評価が大切だと言う子が多いです。してはいけないと信じていることは周りの人と違うこと。人と違うことをすることで目立ってしまうことはいけないとよく言います。

そこから来る悩みとして「よい子でがんばってきたけれど、もう無理です。もう何をしていいかわかりません。もうがんばれません」「今この高校に通っているのは自分のすべき仕事ではない気がする」と子どもたちはよく言います。そしてすぐにあきらめたくなる。あきらめる。でも何をしていいかわからない。自分では決められない。「学校をやめたいけれども、やめてもやることないからバイトをします」みたいなことを言ってきます。でも結局自分の満足度では決められないので自分の決定に対して「自信は全然ない」という子と、逆に「根拠はないけれども絶対大丈夫」という子がいて「自分はこの学校では絶対むりだが、やめたら絶対大丈夫」とか「転校して県外に出たら絶対大丈夫」と言う。どこからそういう根拠のない自信が出てくるのだろうみたいなファンタジーなところが出てくる子がけっこういます。

友人関係で子どもたちが大事なことと信じていることは、みんなと同じようにすることです。みんなから外れないこと、他の友達にいい人だと思われること。他人に配慮ができること、リーダーに逆らわないこと。リーダーというのは、本当のクラス委員長とかそういうのではなくて、グループの自分たちの決めた、暗黙のリーダーです。この中でなじめればすごく気持ちよく過ごせるのですが、なかなか本当の自分を出しにくい事も多い。またとにかく仲間から外れないようにということで携帯を離せない、連絡があったらすぐ返信を返さなければと信じていますし、「入学した時にこのキャラだったので、もうこのキャラは変えられません」、「素の自分はすごくシニカルでちょっと「はすに構える」ところがあるけれども、そんなことをやるとほかの友だちに受け入れてもらえないので、もう卒業まで辛いけどこのまじめな顔でいきます。何とかバージョンでいきます」と言う子も多いです。

してはいけないと信じていることは、やっぱり目立つこと、それから対立や葛藤を表に出すこと、わがまま、自己主張。してはいけないとみんな肝に銘じていまして、とにかく仲よしでいなければいけない。表面的に仲よしでいることのストレスがかかっている。おもしろくなくても笑わないと仲間から外れてしまうので、おもしろくなくても笑いますし、ちょっと友だちが口げんかをしたりすると周りの子がストレスに耐えられなかったりしています。

そこから来る問題として、最近は言いたいことが出てくるとブログで言うのですね。直接言わない。だからとても誤解が多いです。今の子たちは、自分のブログをもっていてメル友というか、バーチャルな世界とリアルな友達がぐちゃぐちゃになっていまして、普通の友達のことをリアルと言うのですが「リアルはもう面倒くさいからつき合わない」「メル友だけが親友」と言っている子もいます。ただ、その子は、そうは言っても学校で寂しいので、本当に携帯が離せなくて、バイブが鳴っているかどうかいつも確認しているようなことになります。

問題はリアルとバーチャルの友だちがごちゃごちゃになることなのですね。メル友で、会ったことがない子だと「うざくなったら切ればいい」と

考えているけれども、そこに実際クラスで接している友だちも入って、そのブログを見たりしますので、例えばブログでうざっ、とか書くと「〇〇が△△のことをうざっと書いていたよ」と回り回って本人の耳に入ることがあって、聞いた本人が「もう頭にきたからさよなら」といってメールで返すわけですよ。でも次の日学校で顔を合わせる、ブログでは切れたつもりでも実際会っている、でまたトラブルが起こる、という状況が起こっています。

今どきの親子関係の特徴もちょっと書いてみました。親御さんが子どもさんと価値観が同じなのですね。例えば携帯を離さないようなお子さんの親御さんは、面接中何回も携帯をのぞいたり、実際かかってきたりして、実際テーブルに親子で携帯を置いているような状態があったりとか。

また親御さんが子どものもっているバーチャルな世界やメディアからの情報を知らない。実際大人は子どもの携帯の世界を把握しきれていないので、どこでどんな情報を子どもが得ているかわからないという状態が起こっています。すると親は「子どもが何考えているかわからない」となってきて、子どもも子どもで「どうせ親に言ってもわからないや」となります。実際にそれで親と子が対等になってしまう。子どもは別の世界をもっているのだけれども、昔と違ってファンタジーの世界ではなくて、やっぱりバーチャルの世界には大人が介入していて、そこにお金や消費社会や情報がかかわっていて、そこでいろんなことが起こるので、大人に対してとても早いうちに幻滅をするということが起きていて、子どもはそこでまた大人に対して信頼しにくかったり理想化しにくいという現実が起こっています。

そこから来る問題は、共倒れですね。「お友達を大切に」と言っているお母さんは我が子が「クラスでなじめない」と言うと一緒に「どうしよう、どうしよう」となって倒れてしまうことがあります。「大丈夫よ」と本当は言ってあげなければいけない、守ってあげなければいけない立場の親御さんが子どもに依存する。「あなたがいなければ私は生きていけない、あなたがいるから私は」みたいな親御さんは子どもがちょっと秘密をもって学校のことを言わないと、それですぐ不安になってしまう。子どもが具合が悪くなって「学校休みたい」と言うと自分が、母親、父親が不安なので「とにかく行きなさい」とプレッシャーを与え続ける。高い期待を与え続けるとか、支配をしてしまうとか、あるいは「もうあなたのことはわからない。あなたはあなたの世界があるでしょう」と突き放すようなことも起こってきています。

そうなると例えば「あいさつは学校で教えてくれ」とか、「学校でのトラブルはもう私にはどうしようもできないので、学校でやってください」みたいな親御さんがふえてきて、「うちの子が学校へ行かないので朝起こしてください」というお母さんがいらっしゃって、先生がモーニングコールしたり迎えに行くことも起こっています。

何かすごく悲しいというか、暗い話ばっかりをしてしまったのですが、ちょっと高校生のいいところもお話ししてみます。

大人に比べて高校生は、さっきの価値観みたいなものの思い込みを変えやすいところがあります。友達を大切に、と育てられて、それは本当にそうだなと思っていても、友達ができなくて不登校みたいになったときに「１人でもいいじゃん」みたいなことを誰かが本気で言うと、そうかもしれないと思うことがあります。これは大人に比べて変わりやすいということで、ころころ変えられるというわけではないのですが、高校生の子どもたちのそういう思い込みが変わると体の調子などもすぐ変わりやすいと。これは大人に比べてすごく早く出てくれるところでいいところだなと思っています。

それから「自分はどうしたいか」とか「対人関係はどう結びたいか」とか「家族はこうあるべきだ」みたいなピュアなところがまだまだ残っていて、理想を求めるところが残っていて、これも救いだろうなと思っています。

これでパワーポイントは終わりですが、結局大人が共倒れをしないためには、価値観みたいなところを小さく絞り込まないところが大切なのかなと思っています。例えば成績が大事、勉強が大事、でもだから学校がつらくなるときには、親御さんが「まあテストが悪くても死なないでしょう」みたいな、先生が先ほど言われたようなああいうコメントをするだけでお子さんはすごく楽になりますし、例えば「お金が大事」な子どもたち、今すごくそういうふうになっていますが、その中で「み

んなで走ると気持ちいいよね」「あいさつすると気持ちいいよね」と家庭で言ってもらえるというような、同じ価値観に縛られないところがすごく大事なのかなと思って聞いていました。

そうするとやっぱり親御さん自身のというか、大人の自尊感情だったり大人の価値観の多様性みたいなところが今後問われるのかなと思っています。以上です。

【木原】足立先生、ありがとうございました。

それでは最後に、小澤敏正先生、ご発表をお願いいたします。

【小澤】境港総合技術高校の小澤です。よろしくお願いします。

まず、境港総合技術高校について説明させていただきます。皆さん方が知っておられるのは鬼太郎のまちです。今、一生懸命ＰＲしていて、本当にすごい数の観光の方が来られます。そこにあります境港総合技術高校、立ち上がってから７年目です。前は境港工業高校、境水産高校、それからもう一つ境高校の家庭科が一緒になって誕生した学校で６科あります。海洋科、食品科、工業学科では電気電子科、機械科、そしてビジネス科、福祉科、本当に特色のある学校です。ですからいろいろな生徒がいるのは確かです。

統合前には境港工業高校にいたのですが、生徒指導をずっとやっていたので、新しい学校になっても生徒指導をやるのだろうなと思っていました。やるからには職員や学校の後押しがないとできないので、校長先生とどういう学校にするか相談をした上で、私が生徒指導を担当することになりました。大半の生徒は素直な生徒ですが、事が起きたときには重大なことが起きます。その実情をどこまで伝えられるかわかりませんが、話をさせていただいて、学校現場はこういうことをやっているのだということを聞いていただきたいなと思います。

まず、本校で特に力を入れていることの中に、指導に頭髪・服装検査があります。これはもうどこの学校にも負けないと思いながらやっています。境港工業からやっていた指導です。工業の先生は男の子には指導できるのですが、学校が統合されると女の子がたくさん入ってきたので、なかなか指導できないという状況がありました。指導の中で「無視される」「うざい」と言われる、さらにはその指導から「逃げ回る」という状況も起こりました。その当時の教頭先生が手をつかんだだけで暴力だと言われ、保護者を呼んで説明をしたこともありました。その教頭先生は工業の教頭先生でしたから、今まで女の子との接触がほとんどなかったようです。そのようなことが総合技術高校になったときに起きました。

また、挨拶運動を徹底して行いました。もう随分前になりますが徹底したのは、「あいさつは先生方からしよう」ということです。今は以前とは違うと思うのですが、10年ぐらい前は、なかなか先生方からあいさつすることが少なかったように思います。今はもう一生懸命先生方があいさつしています。そうするとあいさつしない生徒もあいさつするようになってきました。

それから学校の中では、暴言、暴力、いじめは絶対許さないと、この基本線を崩さないように職員の意思統一を図りました。「授業が成り立たないような学校には絶対しない。」そういう思いでやってきました。授業中に携帯電話が鳴ったり、教室をうろうろしたり、大声でしゃべったり、奇声を上げる、などということは絶対にない学校にしなければいけないという思いで取り組んだのが最初です。

そのためには保護者への理解を得なければいけないと考えました。保護者にどこで伝えたらよいか、最初しかないので、合格者説明会、それから入学式の後に、怒鳴るような勢いでその当時しゃべっていたように思います。「これはやらせないでください。」「学校はこうします。」全部説明し

ました。そして最後に、「聞いてなかったとは言わせません。」と言いました。そこから始まったように思います。このように最初から、保護者とのやりとりがしっかりできるようにならないと何も変わらないと思い、やってきました。

そのような中で、「その場その時の見逃さない指導」という指導方法に出会いました。その指導方が、「ゼロトレランス」という、アメリカで行われている指導であるとその当時の校長先生に教えられました。私も書物を読んだり解説書を読んだりしましたが、アメリカは自由なようで自由ではないのです。徹底して指導します。だから日本の学校で生徒が歯科健診などで並ぶとワイワイガヤガヤと騒ぐケースがありますが、米国ではひと言もしゃべらず「シーン」としている。私は見たわけではないのですが、そんな状況が書いてあったのです。それぐらい徹底してやっている「ゼロトレランス」という指導方法。その指導を徹底するには回数でした。指導回数をきちんとカウントして、何回か指導をされると厳重に処分されます。アメリカの指導も何回か同じことが繰り返されると学校には居られないのです。支援施設がきちっと整備されていますから施設に行かされます。うちは日本ですから日本風に、アメリカと同じようにはできませんので、それをどこまで追求できるかわかりませんが、一生懸命保護者に理解を得てやりました。

例えば、携帯電話の使用違反での指導で、数を重ねると預かりをします。それが何回かあった生徒に指導していくわけですが、返してほしいということで「学校をやめた」生徒がいます。学校が立ち上がった当初でしたから、６年ぐらい前にそういうこともありました。

それから化粧です。何回か指導されると本校は家庭謹慎です。茶髪もそうですし、態度が悪ければ厳重な指導です。言葉遣いが悪ければ、そういうところを教えていかなければいけません。ですからわかる生徒はわかってくれますが、何回も繰り返す生徒もいます。

そういうことを繰り返しながら指導するなかで、保護者を呼び出すときに男の子の場合、だいたい母親が出てきます。母親は電話口でまくし立ててしゃべられます。お母さんはしゃべられた後は落ちつきます。私はずっと聞いていて、私がお母さんの言うことにまず、「よくわかりました。」と答えます。その後、「いや、うちの学校はこうですからよろしくお願いします。」と言うとなぜか納得されます。

それから女の子に指導すると、父親が出てくる場合もあります。そのときの父親はすごいですよ。「やらせます、しっかりやらせます。」と２回目ぐらいまでは言われますので、「もう３回目はありませんよ。」とおさめます。しかし、３回目があったときに父親が変わるのです。「うちの子はやっていない。どこに証拠があるか。」と言ってきます。父親は豹変されて、突っ込んでこられるのに対し、「気持ちはわかりますが、もう後がないと言いましたので、こちらも徹底して指導します。」と言います。本当に後がないのですが、次をつくったりもしました。そこは日本風にということでやったわけです。

それから「母親には任せられない」と言う父親がおられます。電話口で「うちの子の茶髪は地毛だ。これは元からだ。そういうふうに言っただろう。」と。それで、「いや、それは中学校の先生、小学校の先生に聞きましたが、違うと言っておられますよ。」と言うと、「うるさい。」と言い始めて、「今からそっち行くから待ってろ。」と言って来られないのです。後でよくよく聞いたら、その人はお母さんの愛人だったとか。

それから校長先生のところへ来て、「うちの子が不登校になって出てこられないようになったらおまえの責任だ。」「おまえを自殺に追い込んでやる。」と大声で叫び、ものすごい勢いで来られました。これにはこちらもどうなるかわからないと思いました。本当に我が子のことを思って「母親にはもう任せておれない。」という思いがあるのでしょうが、そういう思いで脅迫してこられたという例はけっこうあります。保護者と十分に話をし、実際に事件が起きてはいけないという思いでさまざまな指導の工夫をしました。そして何回も家庭訪問をした結果、子どもが出てくるようになって解決はしました。

今、発達障害がある生徒たちが増えています。個人情報保護ということがあり、その情報がなかなか伝わってきません。私はこの発達障害がある生徒が集団への不適応を起こす前に何とかそれを未然に防ぎたいと思っています。そのため入学前

から配慮したいと訴え続けてきたのですが、鳥取県の条例で個人情報は出せないということになっています。配慮を要する生徒に関しては、これは個人情報というより、生徒のための情報として前もって知らせてほしいと訴えています。親と本人の了解が容易に得られないこともあり、伝わってこないのです。生徒の情報を知らないため、事件が起きてしまう例もあります。その生徒の背景にある情報を知らなかったために、事件が起きてから初めてわかるという状況になってしまいます。何とかそういうところをいろいろな機関に協力していただいて未然に防いでいこうと思っているところです。

最後になりますが、先ほどスクールカウンセラーの足立さんからも言われましたが、女の子の指導が困難です。グループ内のリーダーは、問題が起きれば表面に出てきます。逆に弱い立場の子は、携帯電話のブログとかメールなどでいじめられるということが起こり、学校に来なくなります。目に見えない、水面下で行われているのが実態です。学校に来なくなった原因は何かと聞いてもなかなか言えないし、親にも言わない状態になります。いろんな状況が起きてきて学校から離れていきます。今うちの高校でも何人もいます。

そういう状況は各学校でもあると思います。どうにかしたいと思うのですが、家庭環境が悪化し、その原因をつくっているは確かです。両親の離婚、経済的に不安定、ネグレクト、ＤＶ、祖父母に育てられる、親の蒸発、などという家庭環境の生徒が増加しています。３分の１以上、半分近くが授業料減免を受けています。何とか助けてあげたいのですが、その情報を得るため、生徒指導でありながらスクールカウンセラー、相談員の方のカウンセリングのような形で聞き取りをしています。その上で指導をしていかなければと思っています。

最後になりますが、最終的にいろんなことが学校で起きてもしっかりと前向きに生活している生徒はやはり「目標」をもった生徒です。目標をもった生徒は「ぶれない」です。「動じない」ということです。女の子同士の、グループ内でもめごとがあってもそんなことは関係ない、そういう気持ちで日々過し、目標に向かっています。ですからぜひご家庭の方でもそういう「目的」「目標づくり」そして「自分づくり」のアドバイスをしてほしいという気持ちでいっぱいです。

現在の社会情勢を考えると、どんどん難しい現状になりますが、本校ではこのような状況で取り組んできました。

どうもありがとうございました。

【木原】小澤先生、どうもありがとうございました。

すっかり４人のシンポジストの方のお話に聞き入っておりまして、会場の皆さんと意見交流をと思っていたのですが、恐らく１つか２つのご質問をお受けするぐらいの時間しかありませんが、会場の皆様からシンポジストの方に対してご質問あるいはご意見をお一人かお二人お受けしたいと思います。

ご質問あるいはご意見の際には、学校名とお名前をお願いいたします。

それでは、ご質問あるいはご意見ございましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

【会場発言】愛媛県立南宇和高等学校ＰＴＡ会長の木村です。よろしくお願いします。

せっかくこういう場ですので、子育てのところで会長さん、副会長さんに聞きたいのですが、ただ今の発表で母親がえらくがんばっておられたなと思ったのですが、男の子のときにそのときおやじは何をされていたかなというのをちょっと聞いてみたいと思って、よろしくお願いします。

【木原】それでは、お答えをよろしくお願いいたします。

【遠藤】先ほどの話の中でお話ししなかったのですが、実は私、母子家庭でして、申しわけありません。長男が小学校２年生のときから母子家庭ですので、実質私が父親役と母親役と両方やっているような形で進んでおります。

ただ、いつも子どもたちに言うのは、子どもに

とって父親は父親ですので、離婚はしたのですが、あなたたちにとって父親には変わりはないので、いつでも話に行っていいし、悩みがあったら父親に話をしてもいいよということは言っていますが、私の性格が元来男に近い性格をしているので、けっこう相談も父親よりは私の方にしてきてくれているようではあります。お答えになっていたでしょうか。

【木原】ありがとうございます。

では、辻谷さん。

【辻谷】話の中で見送ってもらえない夫の話をしました。４年ぐらい前まで、子どもが小さいときは主人がすごく忙しくて、子どもが寝てからでないと帰らなかったので、中学校ぐらいまでは本当に子どもとの接点はあまりなかったと思います。ですが、米子東高は主人の母校なので、子どもが母校に入ったということで突然教育パパになって、懇談にも突然「僕が行く」といって出かけました。また、娘は主人と同じ仕事を目指したので、いろんなアドバイスを娘にはしてくれました。

息子の進路については、主人は自分の仕事のことしかよくわからないので、アドバイスはしてやりたいけれども、進路については僕はあまりよくわからないなと言っていました。でも、すごくいろんなことを知っている人で、すごく穏やかに子どもたちにも話す人なので、子どもたちもいざというときにはこのちゃらんぽらんなお母さんよりお父さんの方が頼りになると思っていると思います。

【木原】ありがとうございます。

では、あとお一方ご質問あるいはご意見がございましたらお受けしたいと思います。

【会場発言】米子南高等学校の新宮と申します。

遠藤会長と辻谷副会長は友人でございまして、きょうかなり緊張していて、いつも話していらっしゃることがなかなか言葉の中に出てこなかったので、あえて私の方から友人として聞きたいと思います。今日のシンポジウムのテーマにあることを念頭に置いて、今この時代のＰＴＡのあり方について、どういうあり方が望まれるかについて少しだけ答えていただけませんでしょうか。お願いいたします。

【木原】よろしくお願いいたします。

【遠藤】ありがとうございます。新宮さんからこんな難しい質問が来るとは思いもよりませんで、大変困っておりますが、高校に子どもを入学させたときに一番最初に思ったことなのですが、皆さん、高校生になったら難しくなるから学校に行くのも面倒くさいし、なるべくかかわらないようにして高校３年間終わってくれたらいいのではないのという保護者の方が圧倒的に多いのではないかなと思っています。私は高校生の３年間が一番大事なときだと思いますので、そういう方たちを一人でも多く、入学時からＰＴＡの大切さを分かってもらう努力をやっていくのが高校のＰＴＡではないかなと思っておりまして、私自身も２人の子どもが工業高校にお世話になって、５年間ＰＴＡ活動をしてきたのですが、その中で１年では変われませんでしたが、地道な声かけをしたり、いろんな行事に出てきてもらって、学校にとにかく来てもらうこと、そういうことを含めて高校生の親としてどの高校も学校側がすごく一生懸命がんばっておられますことを理解し、保護者としての意識をもうちょっと改革して、開会式で教育委員会の局長さんからも話がありましたが、家庭と地域と学校と三位一体でいかないと本当の子どもの指導はできないのではないかなと思っております。

【木原】ありがとうございます。

辻谷副会長さん、いかがでしょうか。

【辻谷】新宮さん、ありがとうございます。本当に難しい質問です。

私の子どもの中学校は、２つの小学校から一つの中学校に来ます。役員をさせてもらったのですが、卒業するまでに名前さえ知らない方がすごくたくさんおられました。小学校まではＰＴＡ活動を通じて親同士もつながるチャンスがすごくあったのですが、中学校は子どもが学校に来るなという年ごろだということもあって、つながらなくなりました。ましてや高校は、保護者は知らない人だらけですが、ＰＴＡ活動をしてみて、学年とか超えていろんな方と知り合うことができ私はすごく楽しいし、いろいろ助けていただいたりする仲間が出来るので、もっと多くの方に参加していただきたいなという思いはあります。校区もとても広くなりますし、高校のＰＴＡ活動にどんどん参加者が増えればいいですが、なかなかそういうことになっていない現状はやっぱり憂うべきことだなと思います。これからいろんな知恵を出し合っ

て盛り上げていきたいと思いますので、一緒にがんばりましょう。答えにはならないと思いますが、お許しください。

【木原】どうもありがとうございました。

それでは、まだご質問もあるかと思いますが、時間になりましたので、最後に一言だけ、僭越ではございますが、まとめさせていただきます。

本日、保護者のお立場、学校の先生のお立場、教育相談員の方のお立場とさまざまなお立場から貴重なお話を伺いました。そしてその中で共通していたことですが、今子どもたちは人間的なつながりが切れかけた社会の中で、つまり大人のセーフティーネットが穴だらけの環境の中で危なっかしく生きているような気がします。つらそうにしている子はもちろんのことですが、表面は明るく元気に振る舞っている子も実は先ほどの足立先生のお言葉ではないのですが、さまざまな悩みを抱えてもがいています。社会が便利になればなるほど人と人とのつながり、それから助け合う必要がなくなってきます。今後も社会はさらに便利になると思いますが、こういう時代だからこそ私たち一人一人が、多分ボーッとしていたらつながらないと思うのです。先ほども言われたように、意識してさまざまな角度から子どもたちの周りに人と人とのつながりをつくっていくことが必要だということを今日のシンポジストの方から学んだように感じました。

そして本日のシンポジウムが人と人とのつながりの輪を広げるきっかけになればシンポジスト一同これ以上の幸せはないと考えております。

長時間のご清聴本当にありがとうございました。以上でシンポジウムを終了いたします。

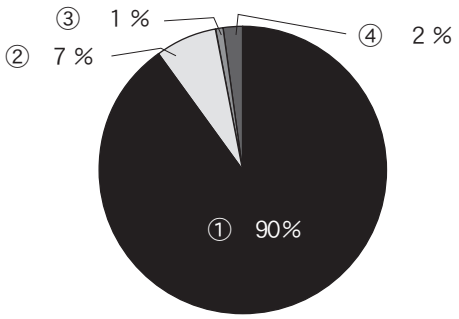
6　全国５地区開催　子育てシンポジウム参加者アンケート集計結果

＊開催地区…北海道・東京・静岡・兵庫・鳥取　＊参加者…1,166　＊アンケート回収数…594

1　「子どもの心、その背景」についてヒントが得られましたか

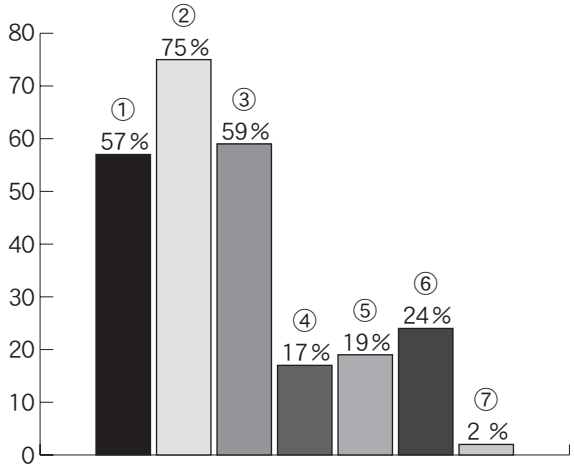
①　得られた	520	90%
②　どちらとも言えない	39	7
③　得られなかった	6	1
④　その他	11	2

（「得られた」の記述内容は次ページ）



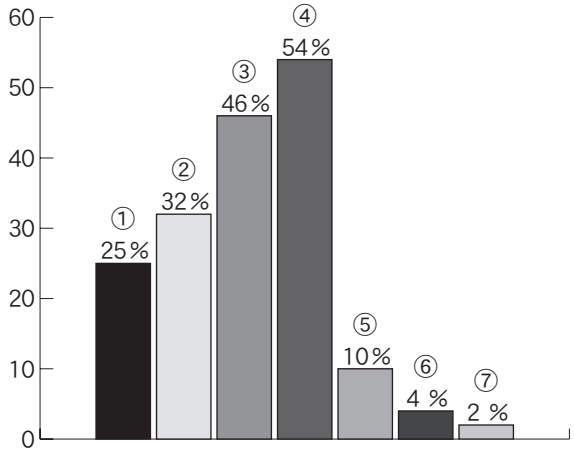
2　参加して、今後どのように役立つと思われましたか（複数回答）

①　子どものためになる	338	57%
②　自分のためになる	444	75
③　親たちのためになる	351	59
④　学校のためになる	99	17
⑤　教師のためになる	114	19
⑥　社会のためになる	142	24
⑦　その他	13	2



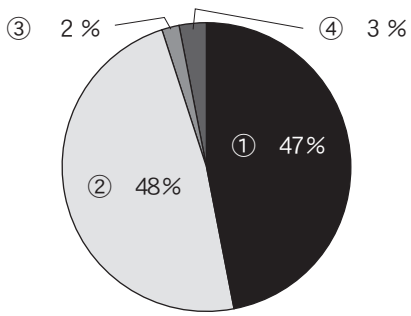
3　参加して良かったと思われることは何でしたか（複数回答）

①　シンポジウムの企画運営等	147	25%
②　アンケート調査結果等	191	32
③　高校生の人間関係について	273	46
④　講師の意見・講評について	323	54
⑤　参加者の意見・講評について	58	10
⑥　高Ｐ連の活動活動について	26	4
⑦　その他	12	2



4　シンポジウムや全国のアンケート調査など、今後の活動について

①　もっと活発にやるべきだ	255	47%
②　現状を維持すべき	265	48
③　やらなくてもよい	9	2
④　その他	19	3



シンポジウム終了後のアンケートに記入された代表的な意見・感想

（多くの自由記述をいただきましたが、主な意見・感想として次のようにまとめました。）

1　シンポジウム参加で得られた「子どもたちの心とその背景」のヒント

・あらためて、今の子どもが抱えている問題や大人が果たすべき役割を考えさせられた。
・子どもたちの本当の心の中を、心の叫びを聞いてみたいと思った。
・保護者・子ども共に自己肯定感、自尊感情をもつことが大切である。
・ぼんやりと感じていたことが、科学的データの裏づけでよくわかって再確認できた。
・自らの子育てを肯定・反省し、自分から変わって明るく生活したい。
・今まで以上に子どもに本気で向き合おうと思った。
・大人の都合や押しつけで子どもの成長をつぶしてはいけないと思った。
・保護者と子どもの信頼関係がいかに大切かをあらためて自覚した。

2　講師、コーディネーター、パネリストの方々への意見

（今年度は、５地区会場の基調講演の講師は全て木原雅子准教授であった。）

・講話がわかりやすくて、心にしみた。もっと話しを聞きたかった。
・講話は感動的であった。もっと多くの人々に聞かせたかった。
・まじめに本気で子どもに向き合うことの大切さを教えられた。
・日頃の会話の一言ひとことの大切さをあらためて認識した。
・ＷＹＳＨ教育はすばらしい。大勢に知らせたい。
・講演から、「命を守ること」「生きること」をあらためて考えさせられた。
・パネリストそれぞれに子育ての大変さ、重さを分かって話しをしていて共感をもった。
・パネリストの方々のご意見はたいへん参考になった。

3　高等学校ＰＴＡ活動に対するご意見

・ＰＴＡ活動をもっと大勢に周知すべきであり、多くの人に参加してほしい。
・ＰＴＡ活動・シンポジウムなどにもっと男性を参加させたい。
・生徒たちとの交流の場、生徒の声を聞ける企画をもってほしい。
・今後ともこのような企画を実施してほしい。
・小・中学校と連携することも大切ではないか。
・ＷＹＳＨ教育を学校の先生たちの研修に取り入れてもらうようにしてほしい。

あ　と　が　き

㈳全国高等学校ＰＴＡ連合会
健全育成委員会委員長　深　澤　資　弘

本年度全高Ｐ連は過去３カ年にわたる調査研究を踏まえ、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」をまとめてまいりました。

今回は全国7,200名の生徒を対象にアンケート調査を行うとともに５地区においてシンポジウムを開催し、現代の高校生がかかえている問題、高校生にかかってきている問題をどう解決していくのか研究・討議しました。

近年子どもたちの置かれている環境は調査によっても明白になっておりますし、ますます悪化していることは否めません。まず問題視しなければならないことは、「人間的つながりの希薄化」だと感じられます。しかし、我々が研究したことによりそこから抜け出す糸口を見いだすことができたなら、そこに成果をみることができるのでしょう。

この報告書がそれぞれの立場で足踏みをしている各位にとって、一歩踏み出すことができる材料になることと確信しております。調査結果や考察・現状をしっかり把握して、悩み苦しんでいる子どもたちの助けになるよう本書がさまざまな場面で活用されることを願っております。

本年度の調査研究にあたり、文部科学省から事業委託していただき、また京都大学大学院准教授木原雅子医学博士を中心としたスタッフが活躍されたことで、一層の深みを増すことができたことを感謝いたします。

最後に、協力者委員会の皆さま、健全育成委員会の皆さまのご協力により今年度もすばらしい研究調査ができましたことにあらためて御礼を申し上げます。

平成22年３月

文部科学省委託事業
平成 21 年度
子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業報告書

社団法人　全国高等学校ＰＴＡ連合会
〒 101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 2 - 1（奥田ビル）
TEL：03 - 5835 - 5711　FAX：03 - 5835 - 5757
http://www.zenkoupren.org/
e-mail:info@zenkoupren.org
印刷／製本　㈲福本印刷所